はしがき

一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会は、「土木施工管理技士の技術力及び社会的地位の向上を図る」ことを目的として、平成４年の設立以来各県等土木施工管理技士会とともに建設技術者の技術力の向上のための諸活動を行ってまいりました。

一方、昨今の土木施工管理技士を取り巻く環境は、国の法制度の改正をはじめ公共事業費の削減等により技術的にも経営的にも大きく様変わりしていることから、連合会・技士会の活動にも新たな対応が必要と考えられます。このため連合会では、技士会会員の皆様が技術者として日頃感じていることをアンケート形式で定期的に調査収集させて頂くことに至りました。

アンケート調査につきましては、これまで３年ごとに５回（平成１５年度・１８年度・２１年度・２４年度・２７年度）実施してまいりました。

前回から３年を経過した今年度（平成３０年度)、６回目の調査を実施いたしました。

今回の調査もこれまで同様、技士会会員を対象者として会員数の１／３０を目途に３，０７０名を抽出し、依頼文を発送しました。前回同様今回もインターネットを通しての回答という方法で行った結果、回答者数１，６３６名から回答を得ました。また技士会会員以外のＣＰＤＳ加入者にも同じアンケート調査を行った結果４９８名から回答を得ました。

この結果、合計回答者数は２，１３４名となりました。

「平成３０年度土木施工管理技士に関するアンケート結果」は、このアンケート結果を現場技術者の声として取り纏めたものです。

今後、土木施工管理技士会の活動を検討する基礎資料として活用するとともに、各方面で現場技術者の状況についてご理解を賜るために活用されることを願っております。

また、この調査を行うに当たりご協力を頂きました各県等土木施工管理技士会、事業主及び調査対象者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成３０年１０月

一般社団法人　全国土木施工管理技士会連合会

目　次

１．アンケートの進め方 ……1

２．アンケート設問一覧 ……2

３．アンケート結果 ……17

３．１　凡例 ……17

３．２　回答者の属性に関して ……18
（問　１）年齢 ……18
（問　２）性別 ……19
（問　３）学歴 ……20
（問　４）技士の取得級 ……21
（問　５）資格者証の取得 ……22
（問　６）他の資格 ……23
（問　７）経験年数 ……25
（問　８）社内の立場 ……26
（問　９）会社の資本金 ……27
（問１０）会社の許可種別 ……28
（問１１）会社の許可業種 ……29
（問１２）業務の内容 ……30
（問１３）休日数 ……31
（問１４）仕事の満足度 ……32
（問１５）業務の隘路 ……33

３．３　技士会連合会活動に関して ……34
（問１６）自己啓発活動 ……34
（問１７）講習会の出席回数 ……35
（問１８）希望する講習会テーマ ……36
（問１９）マンスリーレポートの利用状況 ……37
（問２０）ホームページの利用状況 ……38
（問２１）希望する技士会活動 ……39

３．４　発注に関して ……41
（問２２）提出書類の簡素化 ……41
（問２２－１　１年前と比較して） ……44
（問２２－２　何に使う書類か） ……45
（問２２－３　提出依頼者） ……47
（問２２－４　改善策） ……49
（問２２－５　１年前と比較して） ……52
（問２２－６　ブロック別） ……53
（問２３）工事成績評定について ……56
（問２３－１　評定の疑問点） ……57
（問２３－２　評定の疑問点） ……58
（問２４）発注者側の不備 ……60
（問２４－１　国・政令市） ……61
（問２４－２　市町村、その他） ……62
（問２４　その他の回答） ……63
（問２４－１－１　何の説明不足か） ……65
（問２４－１－１　その他の回答） ……66

（問２４－１－２　説明不足による工事の遅れ）……67
（問２４－２－１　不明確な設計基準）……68
（問２４－３－１　不明確な積算基準）……69
（問２４－３－１　その他の回答）……70
（問２４－４－１　指示の不備）……71
（問２４－５－１　設計変更の原因）……72
（問２４－５－１　その他の回答）……73
（問２４－５－２　具体的な不具合）……74
（問２４－５－２　その他の回答）……75
（問２４－５－３　改善策）……76
（問２４－５－３　その他の回答）……77
（問２４－６－１　発注者に希望すること）……78
（問２４－６－１　その他の回答）……79
（問２４－７－１　ブロック別）……80
（問２５）設計変更ガイドラインの活用……83
（問２５－１　活用してみてどう思ったか）……84
（問２５－２　誰を対象に周知するか）……85
（問２５－３　その他の回答）……86
（問２６）情報共有システム（ASP）の電子処理化……87
（問２６－１　共有システムを利用して）……88
（問２６－２　共有システムの改善点）……89
（問２６－３　その他の回答）……90
（問２７）設計変更審査会……91
（問２７－１　会議の頻度）……92
（問２７－２　資料作成者）……93
（問２７－３　実施してみて）……94
（問２７－３　その他の回答）……95
（問２８）土木技術者として役に立っているか……97
（問２８－１　誇りを感じているか）……98
（問２８－２　誇りを感じた背景は）……99
（問２８－２　その他の回答）……102
（問２８－３　誇りを感じない理由）……103
（問２８－３　その他の回答）……106
（問２９）土木技術者として働く上で何が重要か……107
（問３０）i－Construtionの推進について……120
（問３０－１　生産性向上に役立っているか）……121
（問３０－２　生産性向上させる対策項目）……122
（問３０－３　i－Construtionについて）……126
（問３０－３　その他の回答）……129
（問３１）建設業を辞めようと思ったことがあるか……131
（問３１－１　辞めようと思った理由）……132
（問３１－１　その他の回答）……133
（問３２）建設業に従事している理由……135
（問３２－１　その他の回答）……136

３．５　まとめ……137

１．アンケートの進め方

1.1　調査の目的等

この調査は、土木施工管理技士の技術力の維持・向上及び社会的地位の向上を図るため、技士会会員が技術者として日頃感じている課題・意向・要望等を収集、把握し、技士会活動の基礎資料とする他、関係機関に対する意見、提案等に活用することを目的として実施するものです。

1.2　調査対象者

技士会会員数約10.6万人のうち、1/30を対象に約3,500人を目標とする。

ただし、地域間の片寄りが出ないよう各県等技士会の抽出人数が1/30で90人以上の場合は上限を90人とし、同様に1/30で50人未満の場合は50人とする。

なお、技士会会員以外のCPDS加入者にも技士会連合会のホームページで調査を依頼する。

1.3　調査方法

（１）アンケート依頼書の配布及び回収方法

イ　各県等技士会には、抽出された技士会別の「平成30年度アンケート対象者一覧表」の各人（又は各会社）あてに「平成30年度土木施工管理技士に関するアンケート依頼書」を作成し『ログインＩＤ』及び『パスワード』とともに、平成30年5月31日までに送付し、協力の依頼を行って貰う。

ロ　回収の方法は、アンケート対象者が技士会連合会のホームページを開き、アンケートの画面に記入し、平成30年8月15日までに送信して貰う。

1.4　アンケート主要項目

（１）回答者の属性に関するもの

（２）技士会連合会活動に関するもの

（３）発注者に関するもの

1.5　アンケートの集計・分析・公表等

（１）集計・分析作業

イ　原則として技士会連合会が行う。

ロ　集計・分析方法（技士会別・地域別・年齢区分別・・・単純集計を基本とし、必要に応じクロス集計を行う。）

（２）集計した結果等

結果を報告書にまとめ、各県等技士会に送付するとともに、技士会連合会の企画運営委員会等に報告する他、国土交通省に対する意見、提案等に活用する。

（３）公　表

時期をみて、ホームページ等で結果を掲載する。

1.6　その他

このアンケートは、技士会活動の基礎資料収集であることから、各県等技士会には、アンケート調査に係る技士会支援金として、事務費相当額を支払う。

2. アンケート設問一覧

問　1－17は、回答者の属性に関するものです。
問18－21は、技士会連合会活動に関するものです。
問22－32は、発注者に関するものです。

問1. 貴方の年齢について伺います
問2. 貴方の性別について伺います
問3. 貴方の最終学歴について伺います
問4. 貴方の取得している土木施工管理技士の級について伺います
問5. 貴方は監理技術者資格者証を習得していますか
問6. 貴方が土木施工管理技士の他に取得している、建設業に関係する国家資格（1・2級、士・士補を含む）の取得状況をお尋ねします（複数回答可）
問7. 貴方の建設業における実務経験通算年数についてお伺いします
問8. 貴方の勤めている会社で現在の立場は、下記のいずれに該当しますか
問9. 貴方の勤めている会社の資本金はどれほどですか
問10. 貴方の会社の建設業法上の許可種別は、下記のいずれですか
問11. 貴方の会社が許可を受けている業種は、下記のいずれですか（複数回答可）
問12. 昨年の主な業務の内容は、下記のいずれですか（2つ以内を選択）
問13. 貴方の休日（土・日・祝日を含む）は月平均何日くらいですか
問14. 貴方の仕事の満足度は如何ですか
問15. 貴方は、社内の通常業務を遂行する上で、業務上の隘路（障害・難点）は、どこに感じていますか（2つ以内を選択）
問16. 貴方は、技術的な自己啓発を行う場合、どのような形の活動を行いましたか（主要なものから2つ以内を選択）
問17. 貴方の研修・講習会等に出席する回数は年何回程度ですか

問18. CPDSの講習会での教科目として、どのようなものを受講したいですか（3つ以内を選択）
問19. 連合会からの情報発信物としての「マンスリーレポート」の利用状況について
問20. 連合会からの情報発信物としての「ホームページ」の利用状況について
問21. 技士会連合会もしくは各県等技士会の今後盛んにすべき活動内容について希望することは何ですか（主要な項目から2つ以内を選択してください）

問22. 発注者側の要求する工事関係提出書類等の簡素化、省力化について（1－1～1－6のうち1つを選択してください。）

1-1 見直しされてなくムダが非常に多い

1-2 近年簡素化が進んできたがまだ沢山ある

1-3 同一発注機関でも発注者監督員により質・量に差がある

1-4 発注者側での見直しも進み、この程度は仕方ない

1-5 今のままで良い

1-6 わからない

追加質問

● 「1-1 見直しされてなくムダが非常に多い」とお答の方は以下の質問にお答えください

22.1.1 回答される基になった主要な工事について

22.1.1.1 施工地の県名

22.1.1.2 発注主体

22.1.2 1年前と比較して（1年前の工事発注者が、上記で選択された発注主体と同一である方だけ1～3を選択してください。それ以外の方は4を選択してください。）

1. 1年前と比較して提示・提出書類が増えた
2. 1年前と比較して提示・提出書類が減った
3. 1年前と比較して提示・提出書類は変わらない
4. 1年前に同一発注者の工事に携わっていない

22.1.3 何に使う書類がもっとも多いですか。（2つ以内を選択）

1. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されている書類
2. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う、仕様書に規定されている書類
3. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されている書類
4. 施工管理に使う、仕様書に規定されている書類
5. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
6. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
7. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
8. 施工管理に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
9. 発注者が関与しない、工事成績評定などを考えて自分の考えで作成する書類
10. その他（　　）

22.1.4 その書類は主に誰に提出を依頼されましたか。

1. 監督官
2. 監督補助員（発注者から委託を受けた会社の社員）
3. 監督官以外の発注者担当者
4. 自らもしくは会社の意志による

5. その他（　　）

22.1.5 改善策として妥当と思うものを選択してください。

1. 仕様書に照査の範囲を明確にして範囲以外の資料を提出しないようにする
2. 仕様書に定める書類の提出・提出以外は、発注者は対価を支払うようにする
3. IT を活用して現場の計測値をそのまま保存して提示書類に替える
4. 工事箇所毎に提出書類の総枚数を記録し、検査時等に明示する
5. その他（　　）

● 「1-2 近年簡素化が進んできたがまだ沢山ある」とお答の方は以下の質問にお答えください

22.2.1 回答される基になった主要な工事について

22.2.1.1 施工地の県名

22.2.1.2 発注主体

22.2.2 1年前と比較して（1年前の工事発注者が、上記で選択された発注主体と同一である方だけ1～3を選択してください。それ以外の方は4を選択してください。）

1. 1年前と比較して提示・提出書類が増えた
2. 1年前と比較して提示・提出書類が減った
3. 1年前と比較して提示・提出書類は変わらない
4. 1年前に同一発注者の工事に携わっていない

22.2.3 何に使う書類がもっとも多いですか。（2つ以内を選択）

1. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されている書類
2. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う、仕様書に規定されている書類
3. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されている書類
4. 施工管理に使う、仕様書に規定されている書類
5. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
6. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
7. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
8. 施工管理に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
9. 発注者が関与しない、工事成績評定などを考えて自分の考えで作成する書類
10. その他（　　）

22.2.4 その書類は主に誰に提出を依頼されましたか。

1. 監督官
2. 監督補助員（発注者から委託を受けた会社の社員）
3. 監督官以外の発注者担当者
4. 自らもしくは会社の意志による
4. その他（　　）

22.2.5 改善策として妥当と思うものを選択してください。

1. 仕様書に照査の範囲を明確にして範囲以外の資料を提出しないようにする
2. 仕様書に定める書類の提出・提出以外は、発注者は対価を支払うようにする
3. IT を活用して現場の計測値をそのまま保存して提示書類に替える
4. 工事箇所毎に提出書類の総枚数を記録し、検査時等に明示する
5. その他（　　）

● 「1-3 同一発注機関でも発注者監督員により質・量に差がある」とお答の方は以下の質問にお答えください

22.3.1 回答される基になった主要な工事について

22.3.1.1 施工地の県名

22.3.1.2 発注主体

22.3.2 1年前と比較して（1年前の工事発注者が、上記で選択された発注主体と同一である方だけ1～3を選択してください。それ以外の方は4を選択してください。）

1. 1年前と比較して提示・提出書類が増えた
2. 1年前と比較して提示・提出書類が減った
3. 1年前と比較して提示・提出書類は変わらない
4. 1年前に同一発注者の工事に携わっていない

22.3.3 何に使う書類がもっとも多いですか。（2つ以内を選択）

1. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されている書類
2. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う、仕様書に規定されている書類
3. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されている書類
4. 施工管理に使う、仕様書に規定されている書類
5. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
6. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
7. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
8. 施工管理に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
9. 発注者が関与しない、工事成績評定などを考えて自分の考えで作成する書類
10. その他（　　）

22.3.4 その書類は主に誰に提出を依頼されましたか。

1. 監督官
2. 監督補助員（発注者から委託を受けた会社の社員）
3. 監督官以外の発注者担当者
4. 自らもしくは会社の意志による
4. その他（　　）

22.3.5 改善策として妥当と思うものを選択してください。

1. 仕様書に照査の範囲を明確にして範囲以外の資料を提出しないようにする

2. 仕様書に定める書類の提出・提出以外は、発注者は対価を支払うようにする
3. IT を活用して現場の計測値をそのまま保存して提示書類に替える
4. 工事箇所毎に提出書類の総枚数を記録し、検査時等に明示する
5. その他（　　）

● 「1-4　発注者側での見直しも進み、この程度は仕方ない」とお答の方は以下の質問にお答えください

22.4.1　回答される基になった主要な工事について

22.4.1.1　施工地の県名

22.4.1.2　発注主体

22.4.2　1年前と比較して（1年前の工事発注者が、上記で選択された発注主体と同一である方だけ1～3を選択してください。それ以外の方は4を選択してください。）

1. 1年前と比較して提示・提出書類が増えた
2. 1年前と比較して提示・提出書類が減った
3. 1年前と比較して提示・提出書類は変わらない
4. 1年前に同一発注者の工事に携わっていない

22.4.3　何に使う書類がもっとも多いですか。（2つ以内を選択）

1. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されている書類
2. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う、仕様書に規定されている書類
3. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されている書類
4. 施工管理に使う、仕様書に規定されている書類
5. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
6. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
7. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
8. 施工管理に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）
9. 発注者が関与しない、工事成績評定などを考えて自分の考えで作成する書類
10. その他（　　）

22.4.4　その書類は主に誰に提出を依頼されましたか。

1. 監督官
2. 監督補助員（発注者から委託を受けた会社の社員）
3. 監督官以外の発注者担当者
4. 自らもしくは会社の意志による
4. その他（　　）

22.4.5　改善策として妥当と思うものを選択してください。

1. 仕様書に照査の範囲を明確にして範囲以外の資料を提出しないようにする
2. 仕様書に定める書類の提出・提出以外は、発注者は対価を支払うようにする
3. IT を活用して現場の計測値をそのまま保存して提示書類に替える

4. 工事箇所毎に提出書類の総枚数を記録し、検査時等に明示する

5. その他（　　）

● 「1-5 今のままで良い」とお答の方は以下の質問にお答えください

22.5.1 回答される基になった主要な工事について

22.51.1 施工地の県名

22.5.1.2 発注主体

22.5.2 1年前と比較して（1年前の工事発注者が、上記で選択された発注主体と同一である方だけ1～3を選択してください。それ以外の方は4を選択してください。）

1. 1年前と比較して提示・提出書類が増えた

2. 1年前と比較して提示・提出書類が減った

3. 1年前と比較して提示・提出書類は変わらない

4. 1年前に同一発注者の工事に携わっていない

22.5.3 何に使う書類がもっとも多いですか。（2つ以内を選択）

1. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されている書類

2. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う、仕様書に規定されている書類

3. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されている書類

4. 施工管理に使う、仕様書に規定されている書類

5. 完成（中間）検査に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）

6. 工事打ち合わせ・協議（設計変更協議）に使う仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）

7. 工事打ち合わせ・協議（設計変更以外の協議）に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）

8. 施工管理に使う、仕様書に規定されていない書類（手持ち資料など）

9. 発注者が関与しない、工事成績評定などを考えて自分の考えで作成する書類

10. その他（　　）

22.5.4 その書類は主に誰に提出を依頼されましたか。

1. 監督官

2. 監督補助員（発注者から委託を受けた会社の社員）

3. 監督官以外の発注者担当者

4. 自らもしくは会社の意志による

4. その他（　　）

22.5.5 改善策として妥当と思うものを選択してください。

1. 仕様書に照査の範囲を明確にして範囲以外の資料を提出しないようにする

2. 仕様書に定める書類の提出・提出以外は、発注者は対価を支払うようにする

3. IT を活用して現場の計測値をそのまま保存して提示書類に替える

4. 工事箇所毎に提出書類の総枚数を記録し、検査時等に明示する

5. その他（　　）

問23. 貴方の担当した工事で、完成時に発注者側で行っている工事成績評定は、どうでしたか

1. 適正評価
2. 概ね適正評価であった
3. やや疑問
4. 疑問
5. わからない

● 「1 適正評価」とお答の方は以下の質問にお答えください

回答される基になった主要な工事について

23.1.1 施工地の県名

23.1.2 発注主体

● 「2 概ね適正評価」とお答の方は以下の質問にお答えください

回答される基になった主要な工事について

23.2.1 施工地の県名

23.2.2 発注主体

● 「3 やや疑問」とお答の方は以下の質問にお答えください

回答される基になった主要な工事について

23.3.1 施工地の県名

23.3.2 発注主体

23.3.3 疑問なのはどこですか

1. 個人差があるもしくは恣意的に付ける監督官がいる
2. 評価ウエイトが検査官が大きすぎる
3. 評価ウエイトが監督官が大きすぎる
4. 評価ウエイトが検査官が小さすぎる
5. 評価ウエイトが監督官が小さすぎる
6. 評価理由が知らされない
7. その他（ ）

● 「4. 疑問」とお答の方は以下の質問にお答えください

回答される基になった主要な工事について

23.4.1 施工地の県名

23.4.2 発注主体

23.4.3 疑問なのはどこですか

1. 個人差があるもしくは恣意的に付ける監督官がいる
2. 評価ウエイトが検査官が大きすぎる
3. 評価ウエイトが監督官が大きすぎる
4. 評価ウエイトが検査官が小さすぎる
5. 評価ウエイトが監督官が小さすぎる

6. 評価理由が知らされない

7. その他（　　）

問24. 最近の工事施工の中で、発注者側の不備等が感じられ、今後、早期に改善・努力等して頂きたいものはありますか（2つ以内を選択）

1. 工事の事前地元説明・折衝不足

2. 設計図書での管理基準等の明確化

3. 工事費積算根拠開示

4. 監督職員の明確な指示等

5. 現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施

6. 発注者側監督員の技術力向上への努力

7. 改善要望等は当面無い

8. その他（　　）

● 「1. 工事の事前地元説明・折衝不足」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

24.1.1 施工地の県名

24.1.2 発注主体

24.1.3 何の説明の不足ですか

1. 地元住民への説明

2. 説明不足による用地未買収

3. 支障物協議（NTT電気・自治体など）の不足

4. その他（　　）

24.1.4 説明不足により工事の遅れはどの程度でしたか（契約してから現場着手がどのくらい期間がすぎたかなどをいいます）

1. 遅れなかった

2. 1週間　程度

3. 2週間　程度

4. 1ヶ月　程度

5. 2～3ヶ月　程度

6. 3ヶ月以上

● 「2. 設計図書での管理基準等の明確化」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

24.2.1 施工地の県名

24.2.2 発注主体

24.2.3 どの設計基準が不明確ですか

1.個別の条件明示

2. その他（　　）

● 「3. 工事費積算根拠開示」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

24.3.1 施工地の県名

24.3.2 発注主体

24.3.3 どの積算基準が不明確ですか

1. 仮設の積算内要が不明
2. 交通整理員の積算人数が実際と異なる
3. その他（ ）

● 「4. 監督職員の明確な指示等」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

24.4.1 施工地の県名

24.4.2 発注主体

24.4.3 具体的に何が不都合ですか

1. 指示が不明瞭である
2. 指示が遅い
3. 指示を文書でくれない
4. 指示が後で覆される
5. その他（ ）

● 「5. 現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

24.5.1 施工地の県名

24.5.2 発注主体

24.5.3 設計変更のよくある原因はなんですか（2 個選択可）

1. 図面と仕様書と現場説明と質問回答書のいずれかが整合しない
2. 設計図書に誤謬がある
3. 設計図書の条件明示が明確でない
4. 設計図書と実際の現場が一致しない
5. 施工条件にない予期しない状態が発生した
6. その他（ ）

24.5.4 具体的にどんな不具合が困りましたか（2個選択可）

1. 設計変更で長くなる工事期間の現場維持費等の経済負担を施工会社が負う
2. 設計照査の範囲が不明確で設計変更の図面作成などの経済負担を施工会社が負う
3. 変更指示が遅いので工期が守れなくなる その結果工期を守るために指示前に工事を進めざるを得ない場合がある
4. 設計変更の指示はあるが金額が明示されない 最終的に支払われない場合がある
5. 設計変更指示が後で覆される

6. その他（　　）

24.5.5 改善策として妥当と思うもの（2個選択可）

1. 工事監理を本格的に発注者からコンサルタントに委託し専門家による工事監理を行う
2. 発注者監督員（監督補助員）の工事監理研修を増やす
3. 監督官と監督補助員の権減を明確にする
4. 変更図面を、内容に詳しく責任もある当該工事の詳細設計コンサッルタントが作成する
5. 変更図面を、施工会社で作成し発注者はその対価を支払う
6. 設計変更で長くなる工事期間の現場維持費等の経済負担を原因等により発注者等が負う
7. 設計変更の図面作成などの経済負担を原因等により発注者が負う
8. その他（　　）

● 「6. 発注者側監督員の技術力向上への努力」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

24.6.1 施工地の県名

24.6.2 発注主体

24.6.3 具体的に何を希望しますか

1. 施工管理技士1級の資格を取る
2. 施工管理技士2級の資格を取る
3. 技術士の資格を取る
4. その他（　　）

● 「7. 改善要望等は当面無い。」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

24.7.1 施工地の県名

24.7.2 発注主体

問25. 国は 2006～2008 年にかけて「設計変更ガイドライン」などを作成し活用しています。ただ、現状はすべての発注機関でこうしたガイドラインが整備されているとはかぎりません。そこで「設計変更ガイドライン」を知っていますか、また活用していますか（1つを選択）

1.「設計変更ガイドライン」を知っていて活用している
2.「設計変更ガイドライン」を知っているが活用したことがない
3. 知らない

● 「1. 知っていて活用したことがある」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

25.1.1 施工地の県名

25.1.2 発注主体

25.1.3 ガイドラインを活用してみてどう思いましたか（1個選択）

1. 内容が良く、周知されているので、改訂も周知も必要ない
2. 内容が不十分なので改訂するとともに、周知が必要である

3. 周知されているが、内容が不十分なので、改訂すべきである

4. 内容が良く改訂の必要はないが、受・発注者にもっと周知すべきである

5. ガイドラインそのものが必要ない

6. わからない

25.1.3.1 「2 と 3.内容が不十分なので、改訂すべきである」とお答の方は、改訂するとしたら ,どこを何故改訂するのか 下記に記述してください

改訂箇所と理由;＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

25.1.3.2 「2 と 4.周知が不十分なので、周知すべきである」とお答の方は、誰を対象に周知すべきか、下記より選択してください

1. 発注者で係長以下若手職員

2. 発注者で課長以上の職員

3. 受注者で現場技術職員

4. その他 （自由記入 ）

25.1.5.3 「5.ガイドラインそのものが必要ない」とお答の方は、どういう理由で必要ないと思われるのですか 下記に記述してください （自由記入 ）

問26. 情報共有システム（ASP：受発注者ともにインターネットを利用して同じデータを見ることにより、書類の提出、決裁等の処理を迅速に行うことが可能）の活用による工事書類の電子処理化が実施されていますが、貴方は知っていますか

1. 知っていて、活用している

2. 知っているが、活用したことがない

3. 知らない

● 「1. 知っていて、活用している」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

26.1.1 施工地の県名

26.1.2 発注主体

26.1.3 実施してみてどう思いましたか

1. とても良い

2. よくわからない

3. 改善すべき点がある

4. 負担が増え必要と思わない

26.1.3.1 「3. 改善すべき点がある」と答えた方はその理由をお答えください（複数選択可）

1. システムの操作性や電子化の手間

2. 紙での提出も求められる

3. 決裁、承認が遅いので持参する方が早い

4. その他 （自由記入）

26.1.3.2 「4. 負担が増え必要と思わない」答えた方はその理由をお答えください（複数選択可）

1. システムの操作性や電子化の手間
2. 紙での提出も求められる
3. 決裁、承認が遅いので持参する方が早い
4. その他 （自由記入）

問27. 公共工事で設計変更を行うとき設計変更審査会（設計変更協議を受けた場合に受発注者で話し合う会議、名称が異なる場合がある）を行います。この制度を貴方は知っていますか

1. 知っていて、活用している
2. 知っているが、活用したことがない
3. 知らない

● 「1. 知っていて、活用している」とお答の方は以下の追加質問にお答えください。

回答される基になった主要な工事について

27.1.1 施工地の県名

27.1.2 発注主体

27.1.3 状況で異なると思いますが、平均すると何回ぐらい設計変更審査会を開きましたか。

1. 1 工事当たり 1-2 回
2. 1 工事当たり 3-4 回
3. 1 工事当たり 5 回以上
4. 月 1 回程度定期的に
5. 週 1 回程度定期的に
6. その他

27.1.4 審査会に提出する変更図面・資料は通常誰が作成しますか。

1. 施工会社
2. 詳細設計をしたコンサルタント
3. 発注者支援コンサルタント
4. ②, ③以外のコンサルタント
5. 発注者自身

27.1.5 実施してみてどう思いましたか

1. とても良い
2. よくわからない
3. 改善すべき点がある
4. 負担が増え必要と思わない

27.1.7.1 「3.改善すべき点がある」と答えた方、何を何故改善するのか 下記に記述してください

（ 自由記入 ）

27.1.7.2 「4.負担が増え必要と思わない」と答えた方、何故そう思うのですか 下記に記述してください

（ 自由記入 ）

問28. 貴方は土木技術者として自分の仕事が役に立っていると感じていますか、次の中から1つ選択してください。

1. 役に立っている
2. 少しは役に立っている
3. あまり役に立っていない

● 「1. 役に立っている」、と「2. 少しは役に立っている」を選んだ方にお聞きします。その仕事に誇りを感じていますか。

1. 強く感じる
2. 少し感じる
3. あまり感じない

● 「1. 強く感じる」、と「 2. 少し感じる」を選んだ方にお聞きします。誇りを感じた背景と思われるものを選んで下さい。(2 つ以内を選択)

1. 造ったものが残る(地図に残るなど)
2. 多くの人に利用されている(感謝の有無に関係なく)
3. 利用者に喜んで貰っている
4. 自分の技術が活かされた
5. 家族や知人等に自慢できる
6. 発注者から高い評価を受ける(高評点、表彰等)
7. 新聞やテレビでニュースになる
8. その他(具体的に記載する)

● 「3. あまり役に立っていない」、と「 3. あまり感じない」を選んだ方にお聞きします。
なぜそう思いますか？次の中から選んで下さい。(2 つ以内を選択)

1. 仕事だからやっているだけ
2. 利用者があまり喜んでいない
3. 自分の技術が活かされていない
4. 社会から評価されていない(悪く言われることもある)
5. 家族や知人に評価されていない
6. 発注者からの低い評価
7. 無駄なものを造っていると思う時がある
8. その他(具体的に記載する)

問29. 貴方は土木技術者として働く上で、何が重要だと思いますか、次の中から重要度の高い順に 3 つ選んでください。

1. やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)
2. 適正な賃金
3. 休暇の取りやすさ(週休 2 日にはこだわらない)
4. 残業時間の低減

5. 週休 2 日制の実施

6. 職場での人間関係（対発注者）

7. 職場での人間関係（対発注者以外）

8. 職場環境（安全対策、清潔な職場など）の改善

9. 新たな技術や知識の習得

10. キャリアアップシステム（将来設計）の構築

11. 仕事に対する家族の理解

12. その他（具体的に記載する　）

問30. 貴方はi－Construction の推進等を通じた生産性向上に関係した仕事をやったことがありますか。

1. やったことがある

2. やったことはないが知っている

3. i－Construction のことがよくわからない

● 「1. やったことがある」を選んだ方にお聞きします。建設現場の生産性向上に役立っていると思いますか。

1. 大いに役立っている

2. 少しは役立っている

3. あまり役立っていない

● 「1. やったことがある」、と「2. やったことはないが知っている」を選んだ方にお聞きします。

建設現場の生産性を向上させる対策項目として、次の中から選んで下さい。（3 つ以内を選択）

1. 各種基準類の整備

2. 技術の習得の機会

3. 機材価格の低減（外注費を含め）

4. インセンティブの付与（入札、評価点等）

5. 生産性向上（i－Construction）の効果の発信

6. 各プロセスでの IC 化の展開

7. その他（具体的に記載する　）

● 「2. やったことはないが知っている」、と「 3. i－Construction のことがよくわからない」

また「3. あまり役立っていない」を選んだ方にお聞きします。

i－Construction についてどう思いますか。次の中から1つ選んで下さい。

1. 今後必要になってくると思うので経験してみたい

2. 今後必要になってくると思うが経験したいとは思わない

3. 従来の方法の方が効率的である

4. 必要性は解るが技術の習得に時間がかかり余分な負担である

5. 費用が高く利益が出ない

6. その他（具体的に記載する　）

問31. 貴方は今までこの建設業（会社ではなく）を辞めようと思ったことがありますか。

1. ある

2. ない

● 「1. ある」を選んだ方にお聞きします。

辞めようと思った最も大きな理由を、次の中から１つ選んで下さい。

1. 勤務時間（休暇、残業等）

2. 賃金

3. 職場での人間関係（対発注者）

4. 職場での人間関係（対発注者以外）

5. 転勤

6. 家族から言われた

7. その他（具体的に記載する　）

問32. 現在、貴方が建設業に従事している最も大きな理由を次の中から1つ選んでください。

1. この仕事が好きだから（やりがい）

2. この仕事以外できる自信がなかった

3. 次の仕事を見つけたりそこでの処遇への不安があった

4. 家族や職場に説得された

5. その他（具体的に記載する　）

3. アンケート結果

3.1凡例

3.1.1　技士会会員と非会員

今回の調査は、技士会会員の回答者数１，６３６名、非会員の回答者数４９８名から回答を得ました。結果の集計は原則として会員・非会員の区別はしていません。いずれの回答者も原則土木施工管理技士の資格を有している。

3.1.2　グラフの見方

(1)質問項目毎に、はじめに回答者数の表を、次にそのグラフを、その次に自由記入等を記載している。

(2)問22－27の設問及び問28－32の設問では、各質問に回答する選択肢毎に詳細な追加質問をしている。元の質問の回答は棒グラフで表示し、詳細質問の回答は発注者毎に、折れ線グラフで表示している。

問22－27の折れ線グラフの数値（%）は、発注者毎に質問項目の当該選択肢の回答数が分子、その発注者のその質問項目の回答合計数が分母である比率となっている。

折れ線グラフは各発注者の特徴を示すが、項目毎の比率の大小でその項目の発注者の比較を論ずることはできません。なぜなら、対象地域の事業量に対するアンケート回答割合が発注者間で異なるからです。

(3)一部結果をブロック別に示しているが、各ブロックは下表に示す。

＜表　ブロック別都道府県一覧　＞

	ブロック	都道府県名								
1	北海道	北海道								
2	東北	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県			
3	関東	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県
4	北陸	新潟県	富山県	石川県	福井県					
5	中部	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県					
6	近畿	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県			
7	中国	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県				
8	四国	徳島県	香川県	愛媛県	高知県					
9	九州	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県		
10	沖縄	沖縄県								

3.1.3　自由記入欄の見方

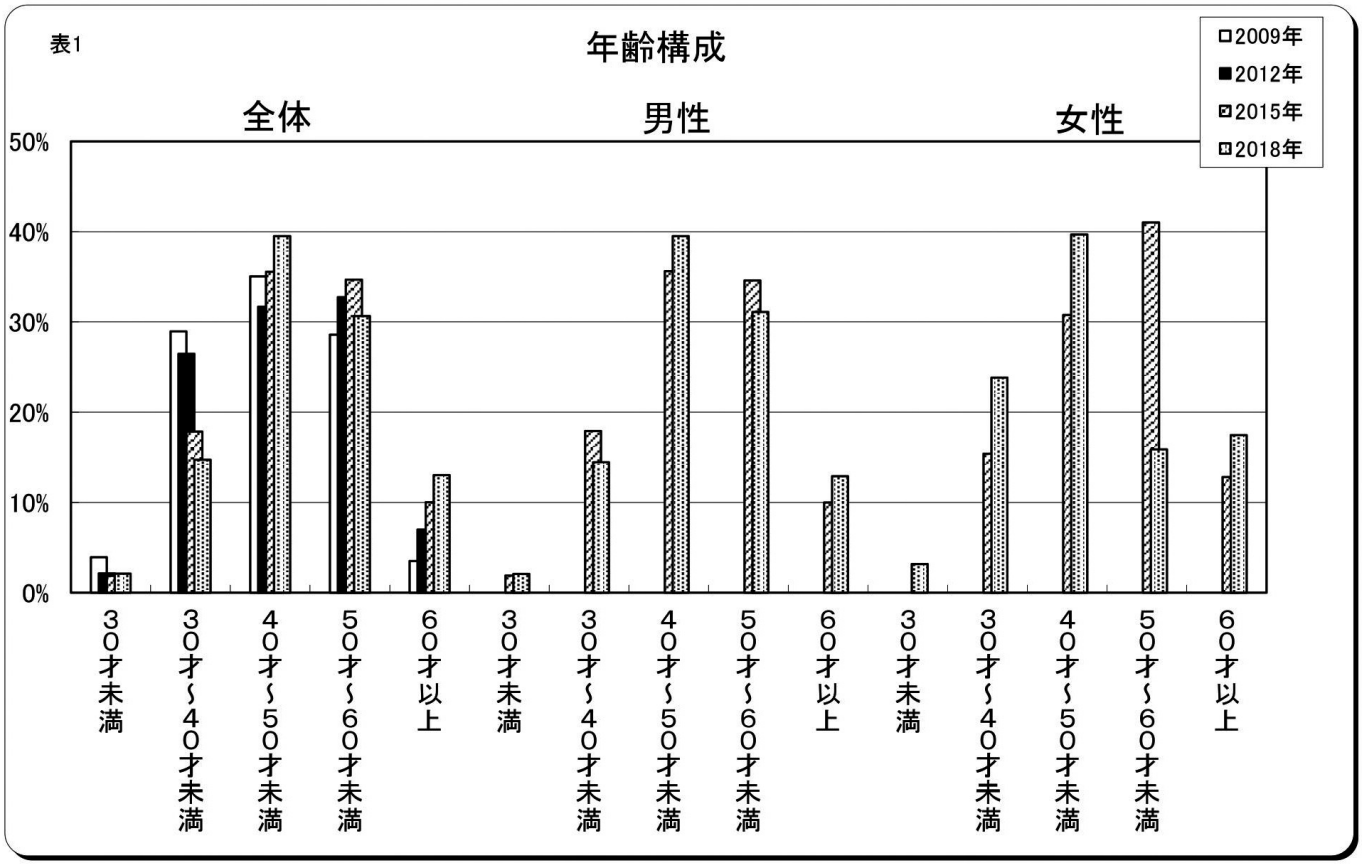
(1)自由記入の回答の末尾の数字は、同じ趣旨の記述の回答数を示す。

(2)自由記入の回答で、具体的機関名のある記述、意味不明な記述等を削除しました。

３．２ 回答者の属性に関して

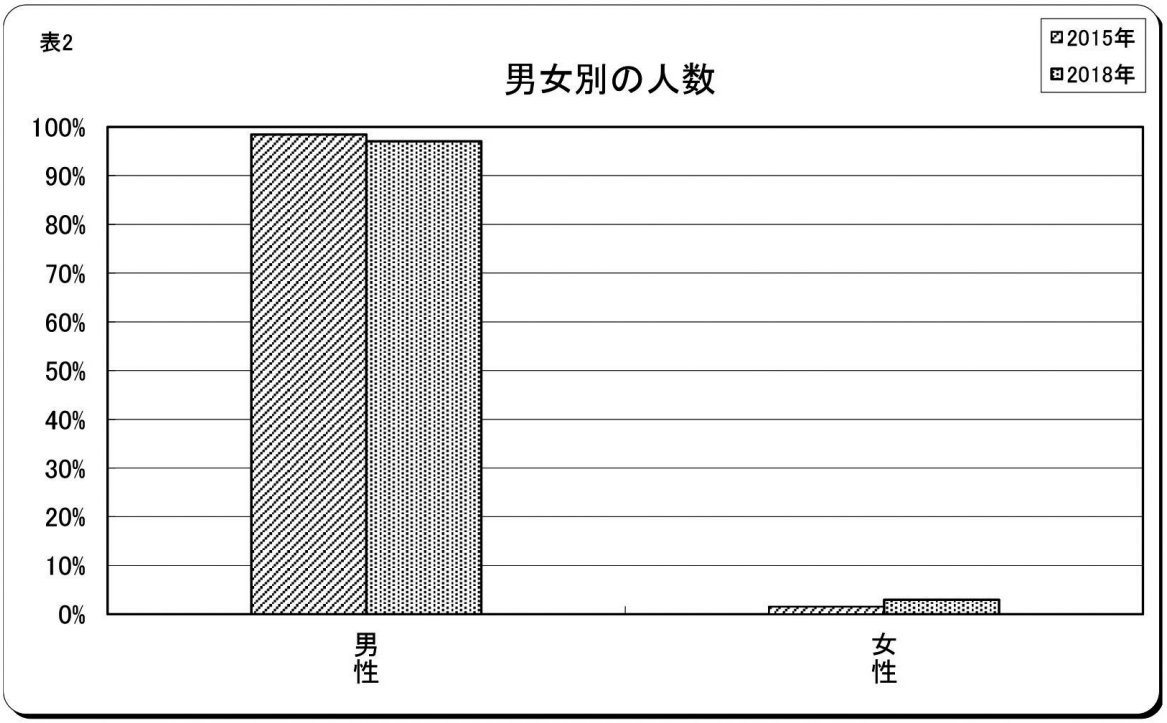
問1. 貴方の年齢について伺います

年齢構成		2009年		2012年		2015年		2018年	
全体	30才未満	75	3.9%	77	2.1%	47	1.9%	45	2.1%
	30才～40才未満	554	28.9%	952	26.5%	447	17.9%	314	14.7%
	40才～50才未満	671	35.1%	1139	31.7%	890	35.6%	843	39.5%
	50才～60才未満	547	28.6%	1177	32.7%	868	34.7%	654	30.6%
	60才以上	67	3.5%	251	7.0%	251	10.0%	278	13.0%
	合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**
男性	30才未満	—	—	—	—	47	1.9%	43	2.1%
	30才～40才未満	—	—	—	—	441	17.9%	299	14.4%
	40才～50才未満	—	—	—	—	878	35.6%	818	39.5%
	50才～60才未満	—	—	—	—	852	34.6%	644	31.1%
	60才以上	—	—	—	—	246	10.0%	267	12.9%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**2464**	**100.0%**	**2071**	**100.0%**
女性	30才未満	—	—	—	—	0	0.0%	2	3.2%
	30才～40才未満	—	—	—	—	6	15.4%	15	23.8%
	40才～50才未満	—	—	—	—	12	30.8%	25	39.7%
	50才～60才未満	—	—	—	—	16	41.0%	10	15.9%
	60才以上	—	—	—	—	5	12.8%	11	17.5%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**39**	**100.0%**	**63**	**100.0%**



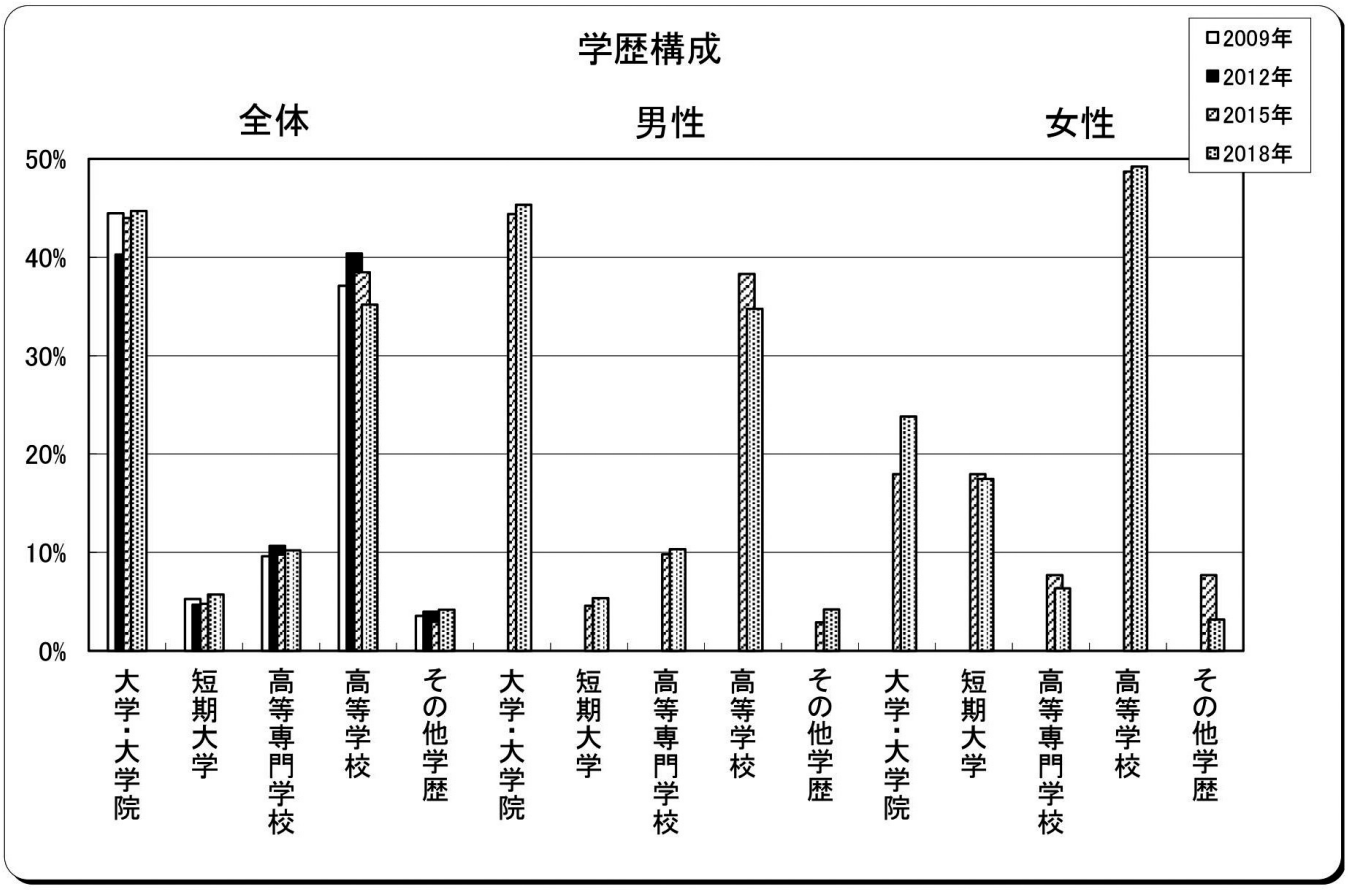
問2. 貴方の性別について伺います

男女構成	2009年		2012年		2015年		2018年	
男性	—	—	—	—	2464	98.4%	2071	97.0%
女性	—	—	—	—	39	1.6%	63	3.0%
合計	—	—	—	—	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



問3. 貴方の最終学歴について伺います

学歴構成		2009年		2012年		2015年		2018年	
全体	大学・大学院	851	44.5%	1448	40.3%	1101	44.0%	954	44.7%
	短期大学	101	5.3%	169	4.7%	120	4.8%	122	5.7%
	高等専門学校	184	9.6%	384	10.7%	245	9.8%	218	10.2%
	高等学校	710	37.1%	1452	40.4%	963	38.5%	751	35.2%
	その他学歴	68	3.6%	143	4.0%	74	3.0%	89	4.2%
	合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**
男性	大学・大学院	—	—	—	—	1094	44.4%	939	45.3%
	短期大学	—	—	—	—	113	4.6%	111	5.4%
	高等専門学校	—	—	—	—	242	9.8%	214	10.3%
	高等学校	—	—	—	—	944	38.3%	720	34.8%
	その他学歴	—	—	—	—	71	2.9%	87	4.2%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**2464**	**100.0%**	**2071**	**100.0%**
女性	大学・大学院	—	—	—	—	7	17.9%	15	23.8%
	短期大学	—	—	—	—	7	17.9%	11	17.5%
	高等専門学校	—	—	—	—	3	7.7%	4	6.3%
	高等学校	—	—	—	—	19	48.7%	31	49.2%
	その他学歴	—	—	—	—	3	7.7%	2	3.2%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**39**	**100.0%**	**63**	**100.0%**



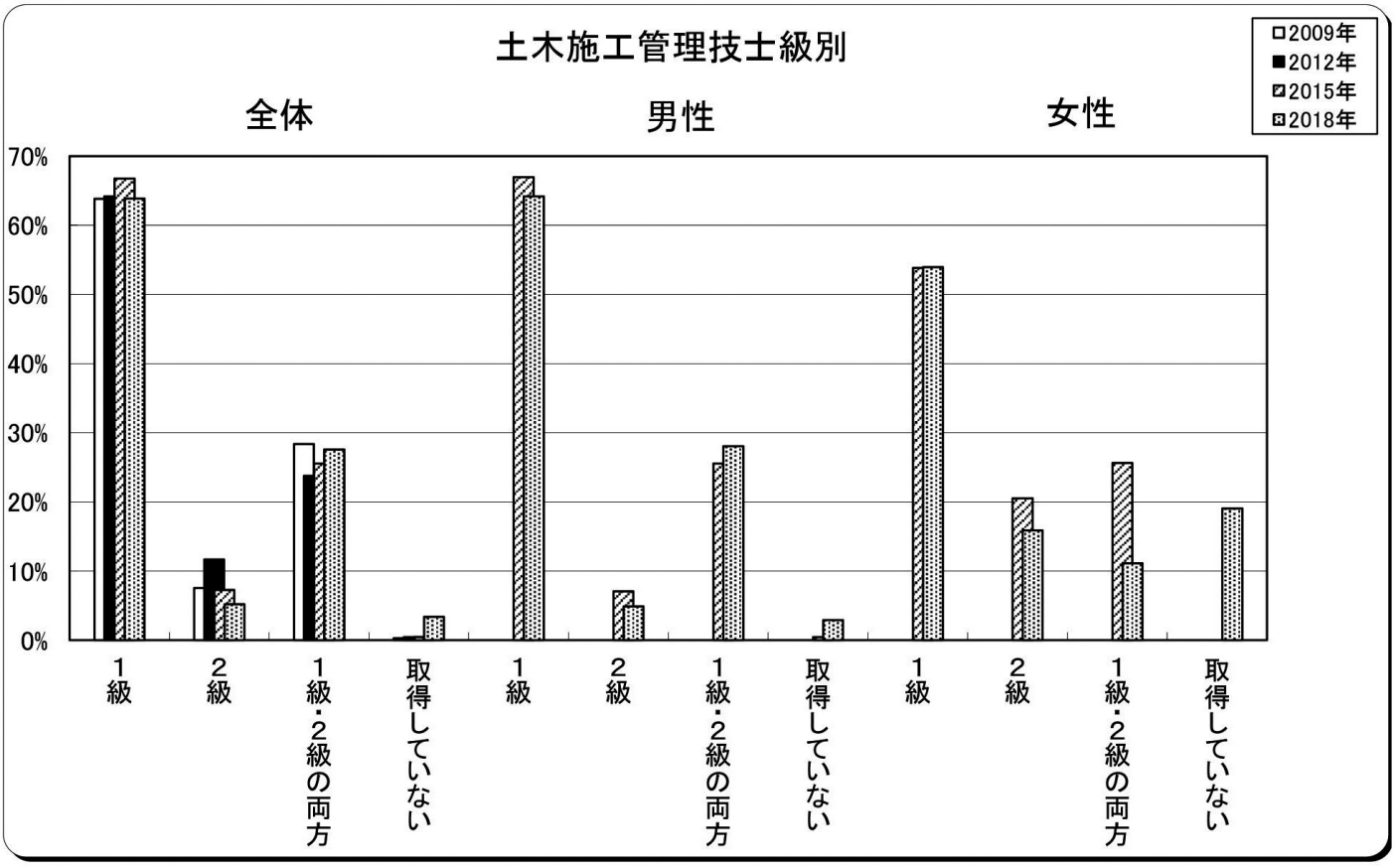
問3 その他の回答

5. その他学歴を選択された方の回答

・ 中学校	46
・ 専門学校	41
・ 大学中退	2

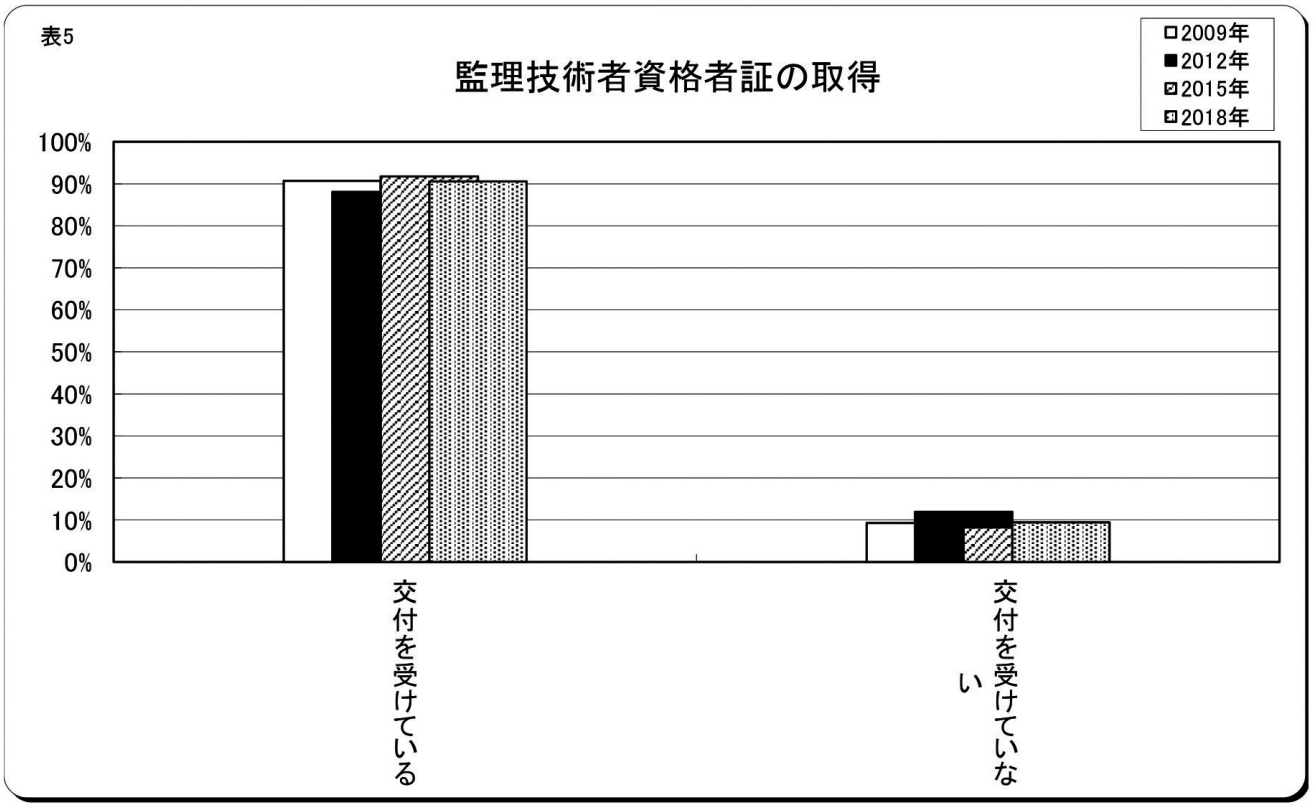
問4. 貴方の取得している土木施工管理技士の級について伺います

土木施工管理技士級別		2009年		2012年		2015年		2018年	
全体	1級	1222	63.8%	2308	64.2%	1671	66.8%	1363	63.9%
	2級	144	7.5%	419	11.7%	182	7.3%	111	5.2%
	1級・2級の両方	543	28.4%	854	23.7%	639	25.5%	588	27.6%
	取得していない	5	0.3%	15	0.4%	11	0.4%	72	3.4%
	合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**
男性	1級	—	—	—	—	1650	67.0%	1329	64.2%
	2級	—	—	—	—	174	7.1%	101	4.9%
	1級・2級の両方	—	—	—	—	629	25.5%	581	28.1%
	取得していない	—	—	—	—	11	0.4%	60	2.9%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**2464**	**100.0%**	**2071**	**100.0%**
女性	1級	—	—	—	—	21	53.8%	34	54.0%
	2級	—	—	—	—	8	20.5%	10	15.9%
	1級・2級の両方	—	—	—	—	10	25.6%	7	11.1%
	取得していない	—	—	—	—	0	0.0%	12	19.0%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**39**	**100.0%**	**63**	**100.0%**



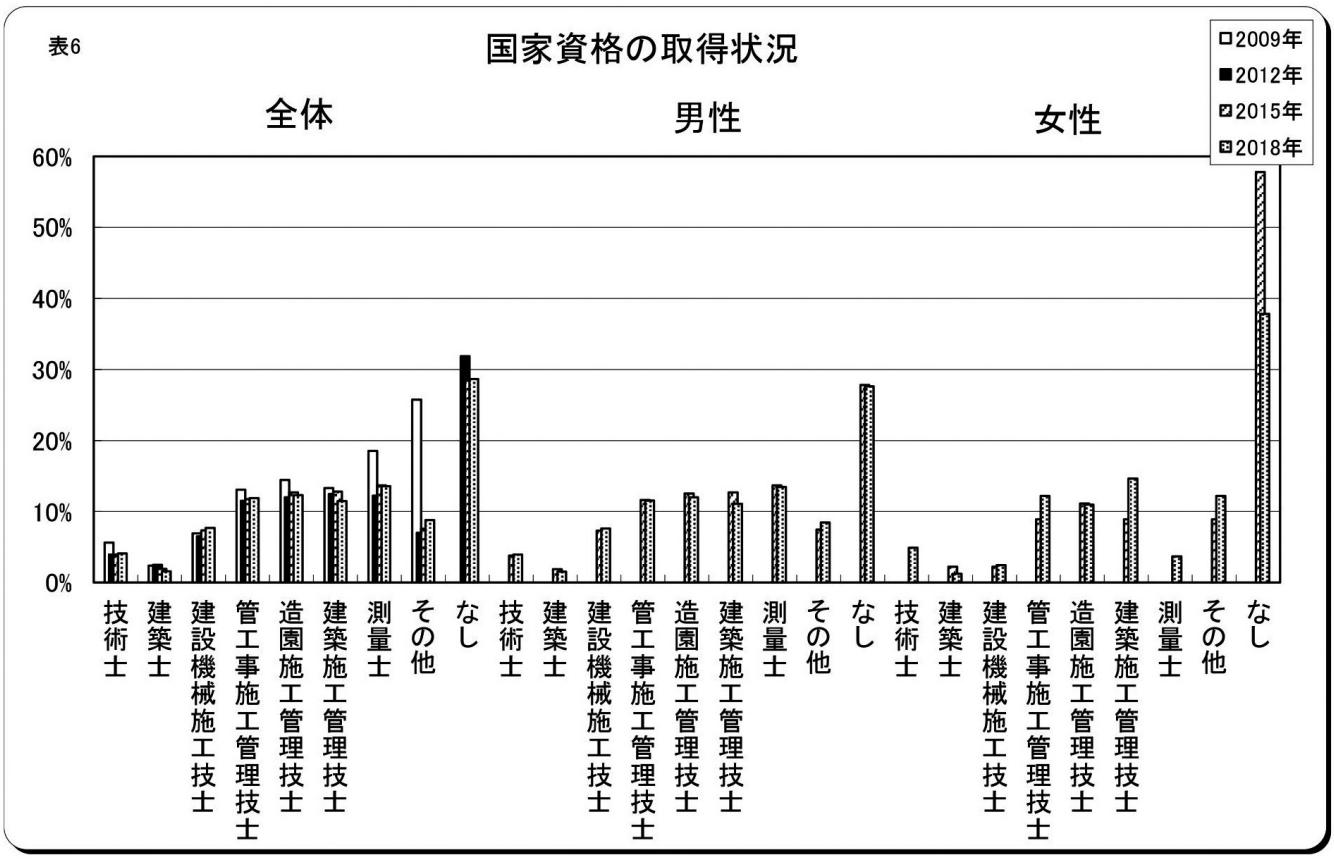
問5. 貴方は監理技術者資格者証を取得していますか

監理技術者資格者証の取得	2009年		2012年		2015年		2018年	
交付を受けている	1736	90.7%	3166	88.0%	2297	91.8%	1933	90.6%
交付を受けていない	178	9.3%	430	12.0%	206	8.2%	201	9.4%
合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



問6. 貴方が土木施工管理技士の他に取得している、建設業に関係する国家資格（1・2級、士・士補を含む）の取得状況をお尋ねします（複数回答可）

国家資格の取得状況		2009年		2012年		2015年		2018年	
全体	技術士	156	5.6%	193	3.9%	134	3.8%	121	4.1%
	建築士	66	2.4%	122	2.5%	68	1.9%	47	1.6%
	建設機械施工技士	192	6.9%	319	6.5%	259	7.3%	228	7.7%
	管工事施工管理技士	362	13.1%	564	11.5%	415	11.7%	353	11.9%
	造園施工管理技士	400	14.4%	589	12.0%	448	12.7%	365	12.3%
	建築施工管理技士	368	13.3%	610	12.4%	452	12.8%	341	11.5%
	測量士	513	18.5%	600	12.2%	484	13.7%	403	13.6%
	その他	713	25.7%	343	7.0%	267	7.6%	261	8.8%
	なし	—	—	1562	31.9%	1009	28.5%	851	28.7%
	合計	**2770**	**100.0%**	**4902**	**100.0%**	**3536**	**100.0%**	**2970**	**100.0%**
男性	技術士	—	—	—	—	134	3.8%	117	3.9%
	建築士	—	—	—	—	67	1.9%	46	1.5%
	建設機械施工技士	—	—	—	—	258	7.3%	226	7.6%
	管工事施工管理技士	—	—	—	—	411	11.6%	343	11.5%
	造園施工管理技士	—	—	—	—	443	12.5%	356	12.0%
	建築施工管理技士	—	—	—	—	448	12.7%	329	11.1%
	測量士	—	—	—	—	484	13.7%	400	13.5%
	その他	—	—	—	—	263	7.4%	251	8.5%
	なし	—	—	—	—	983	27.8%	820	27.6%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**3491**	**100.0%**	**2888**	**100.0%**
女性	技術士	—	—	—	—	0	0.0%	4	4.9%
	建築士	—	—	—	—	1	2.2%	1	1.2%
	建設機械施工技士	—	—	—	—	1	2.2%	2	2.4%
	管工事施工管理技士	—	—	—	—	4	8.9%	10	12.2%
	造園施工管理技士	—	—	—	—	5	11.1%	9	11.0%
	建築施工管理技士	—	—	—	—	4	8.9%	12	14.6%
	測量士	—	—	—	—	0	0.0%	3	3.7%
	その他	—	—	—	—	4	8.9%	10	12.2%
	なし	—	—	—	—	26	57.8%	31	37.8%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	**45**	**100.0%**	**82**	**100.0%**



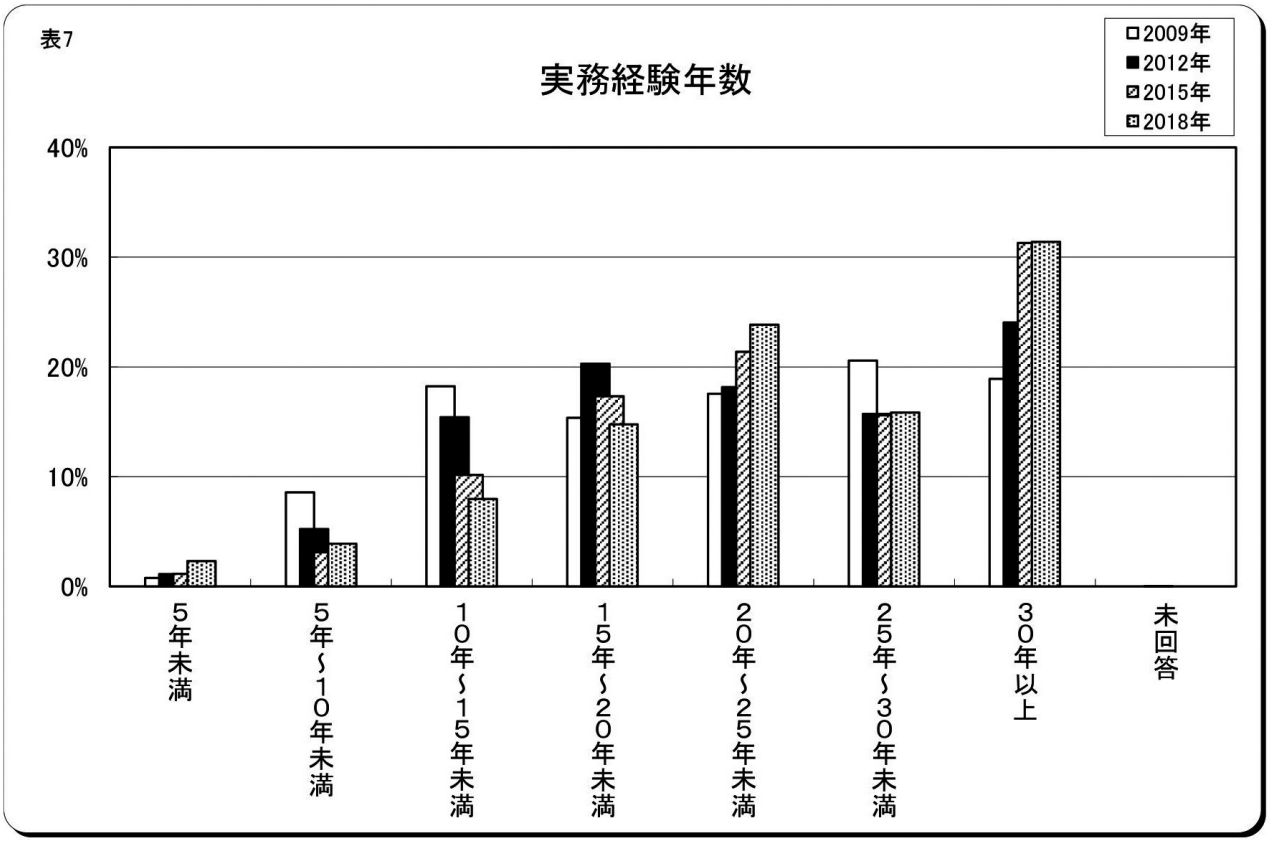
問6 その他の回答

８．その他を選択された方の回答

・ 舗装施工管理技術者	33
・ 1級舗装施工管理技術者	31
・ ｺﾝｸﾘｰﾄ技士	31
・ PC技士	17
・ 火薬類取扱保安責任者	16
・ 電気工事施工管理技士	15
・ 給水装置工事	14
・ 2級舗装施工管理技術者	12
・ 建設業経理士2級	7
・ 推進工事技士	7
・ フレシネー技士	6
・ 技術士補	6
・ 水産工学士	6
・ 火薬類取扱保安責任者	6
・ 下水道2種	5
・ RCCM	4
・ コンクリート診断士	4
・ 解体工事施工技士	4
・ 建設業経理士	4
・ 浄化槽設備士	4
・ 宅地建造物取扱主任者	4
・ 解体工事施工管理技士	3
・ 労働安全コンサルタント	3
・ 建築施工管理技士	2
・ 施工管理技士	2
・ 地質調査技士	2
・ 地すべり防止工事士	2
・ 舗装診断士	2
・ 乙種第4類	2
・ ２級建築施工管理技士	1
・ とび１級技能士	1
・ 一級建築施工管理技士	1
・ 砕石業務管理者	1
・ 下水道技術検定 第2種技術検定	1
・ 危険物取扱責任者	1
・ 管工事施工管理技士	1
・ 基幹技能士（土工）	1
・ 浄化槽設備士	1
・ 建設業経理士1級	1
・ 造園	1
・ 自然再生士補	1
・ 足場・地山掘削・型枠支保工・酸欠作業主任者	1
・ 電気工事施工管理技士	1
・ 土地家屋調査士	1
・ 畑かん技士	1
・ 林業技士、森林情報士	1
・ 路面標示施工技能士	1

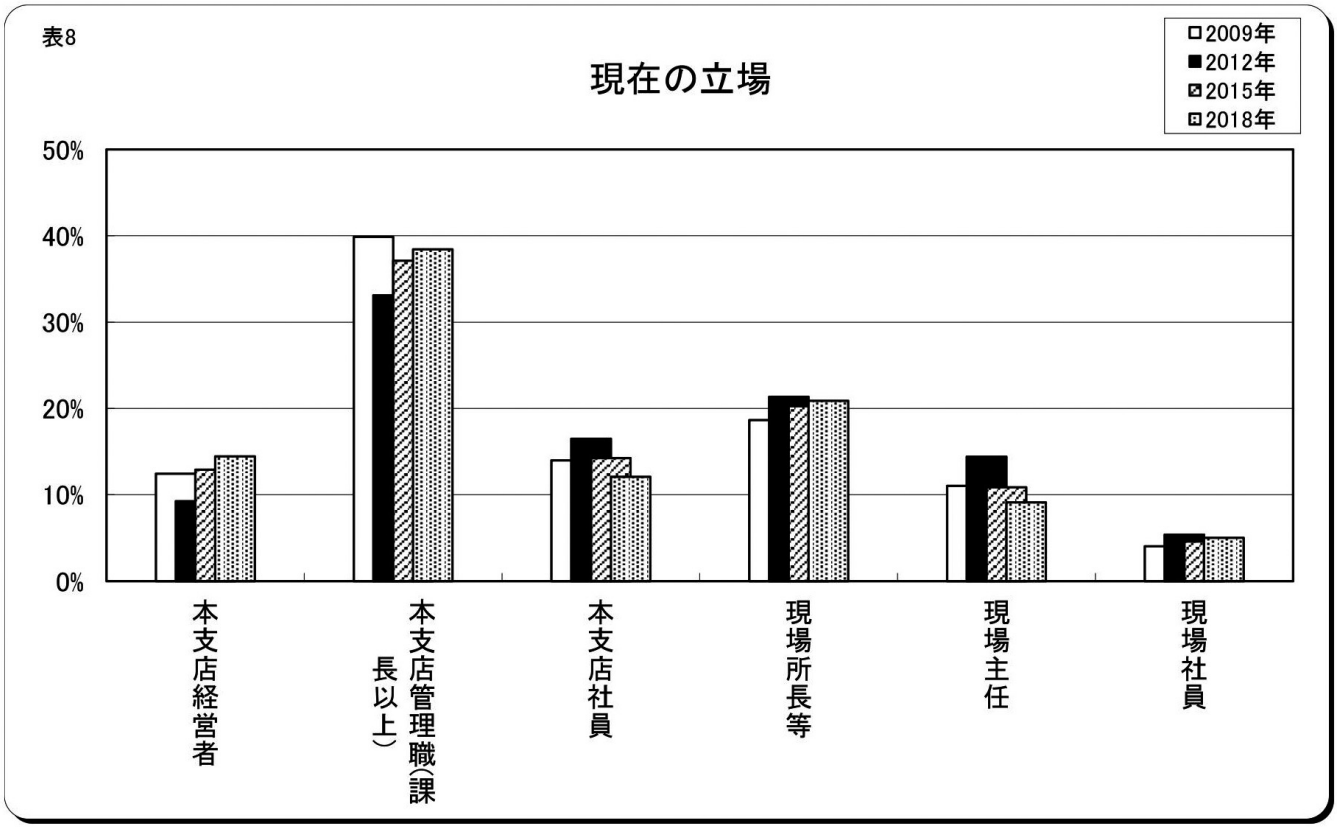
問7. 貴方の建設業における実務経験通算年数についてお伺いします

実務経験年数	2009年		2012年		2015年		2018年	
5年未満	15	0.8%	40	1.1%	29	1.2%	49	2.3%
5年～10年未満	164	8.6%	188	5.2%	78	3.1%	83	3.9%
10年～15年未満	349	18.2%	554	15.4%	254	10.1%	170	8.0%
15年～20年未満	294	15.4%	730	20.3%	434	17.3%	315	14.8%
20年～25年未満	336	17.6%	653	18.2%	535	21.4%	509	23.9%
25年～30年未満	394	20.6%	565	15.7%	390	15.6%	338	15.8%
30年以上	362	18.9%	865	24.1%	783	31.3%	670	31.4%
未回答	—	—	1	0.0%	—	—	—	—
合計	1914	100.0%	3596	100.0%	2503	100.0%	2134	100.0%



問8. 貴方の勤めている会社で現在の立場は、下記のいずれに該当しますか

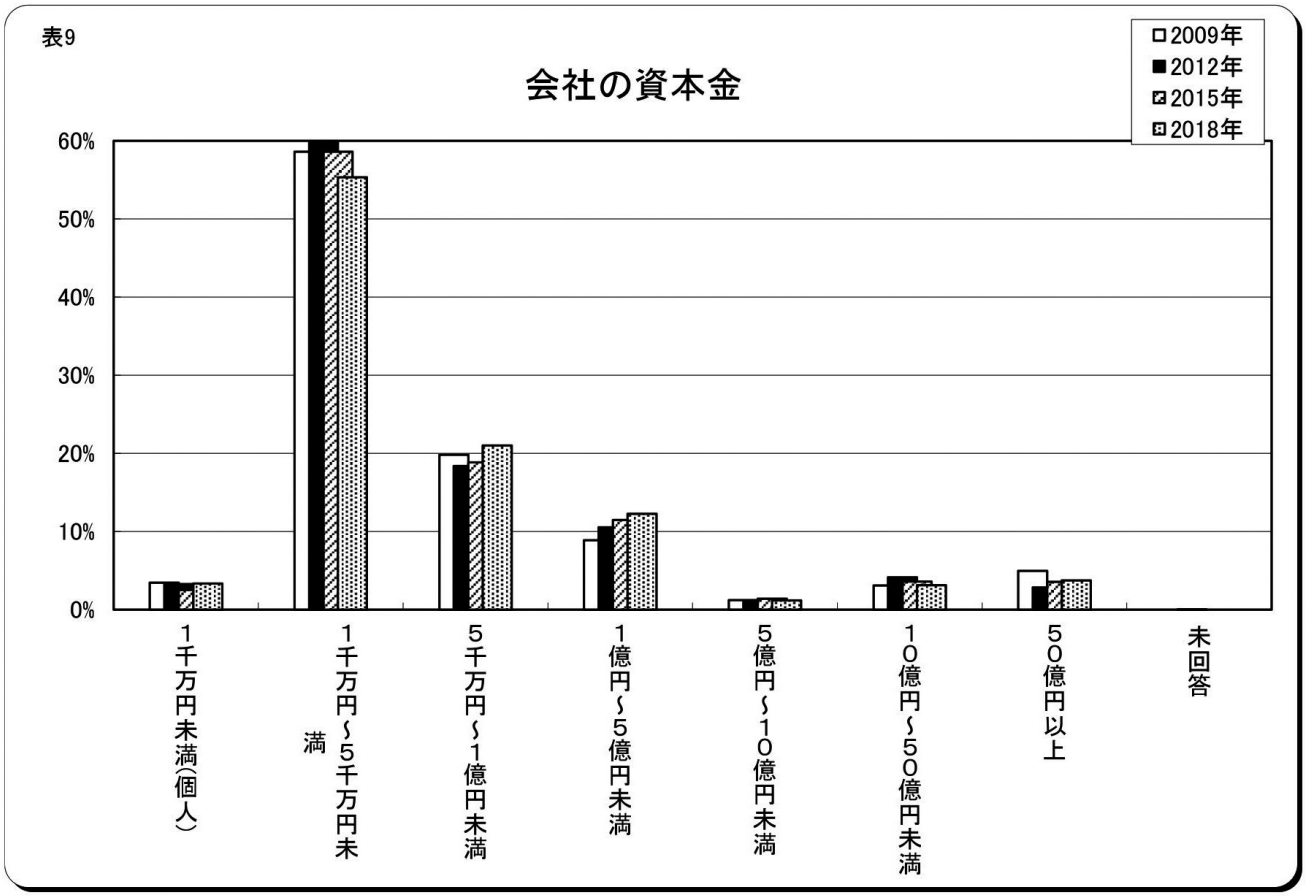
現在の立場	2009年		2012年		2015年		2018年	
本支店経営者	238	12.4%	333	9.3%	323	12.9%	308	14.4%
本支店管理職(課長以上)	763	39.9%	1191	33.1%	929	37.1%	820	38.4%
本支店社員	268	14.0%	593	16.5%	357	14.3%	258	12.1%
現場所長等	357	18.7%	768	21.4%	507	20.3%	446	20.9%
現場主任	211	11.0%	518	14.4%	272	10.9%	195	9.1%
現場社員	77	4.0%	193	5.4%	115	4.6%	107	5.0%
合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



注] 現在の立場と業務の内容とは、必ずしも一致するものではない。
関連する主な業務の内容については、問12(P. 30)を参照のこと。

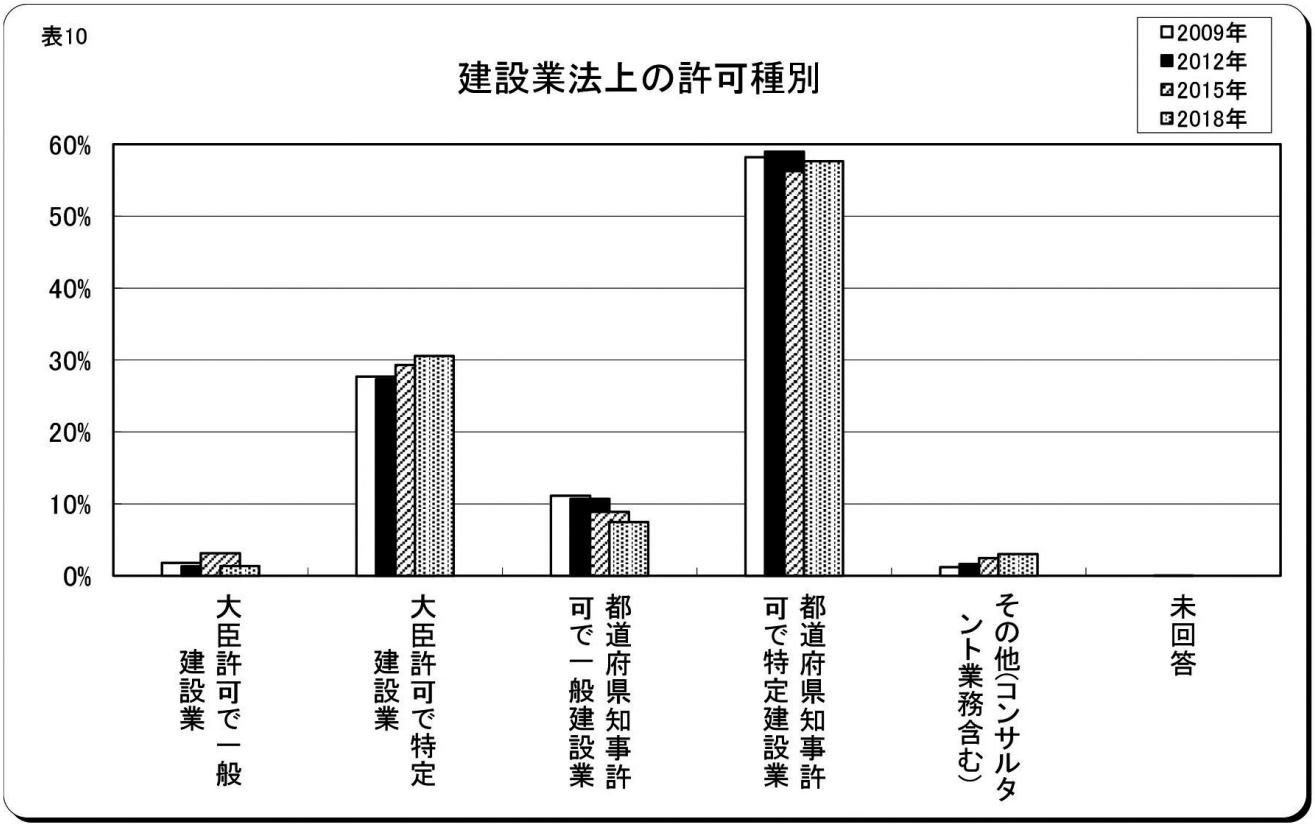
問9. 貴方の勤めている会社の資本金はどれほどですか

会社の資本金	2009年		2012年		2015年		2018年	
1千万円未満(個人)	66	3.4%	118	3.3%	63	2.5%	71	3.3%
1千万円～5千万円未満	1122	58.6%	2152	59.8%	1467	58.6%	1181	55.3%
5千万円～1億円未満	379	19.8%	661	18.4%	472	18.9%	448	21.0%
1億円～5億円未満	170	8.9%	379	10.5%	287	11.5%	262	12.3%
5億円～10億円未満	23	1.2%	35	1.0%	35	1.4%	25	1.2%
10億円～50億円未満	59	3.1%	148	4.1%	90	3.6%	67	3.1%
50億円以上	95	5.0%	102	2.8%	89	3.6%	80	3.7%
未回答	—	—	1	0.0%	—	—	—	—
合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



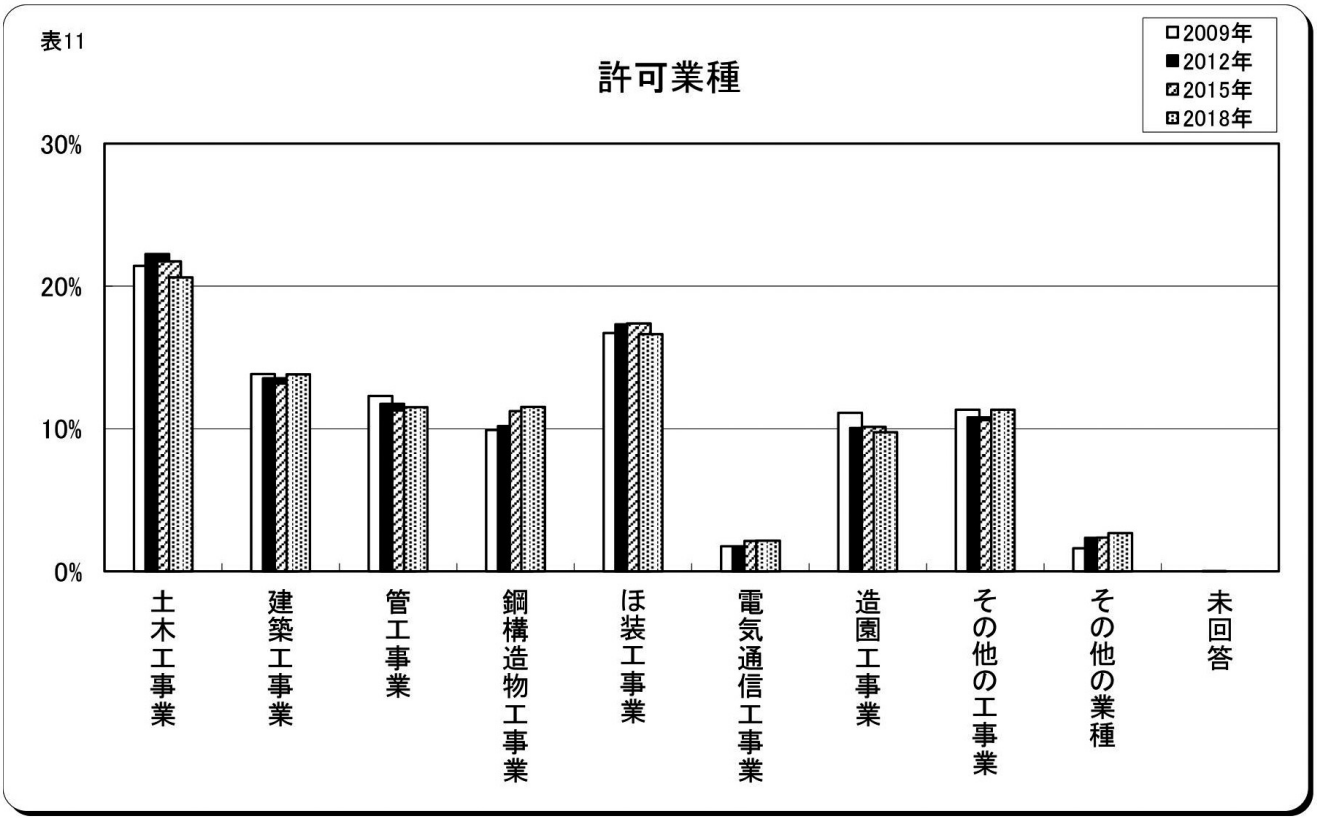
問10. 貴方の会社の建設業法上の許可種別等は、下記のいずれですか

建設業法上の許可種別	2009年		2012年		2015年		2018年	
大臣許可で一般建設業	34	1.8%	47	1.3%	78	3.1%	29	1.4%
大臣許可で特定建設業	530	27.7%	983	27.3%	733	29.3%	652	30.6%
都道府県知事許可で一般建設業	213	11.1%	385	10.7%	222	8.9%	159	7.5%
都道府県知事許可で特定建設業	1114	58.2%	2121	59.0%	1408	56.3%	1230	57.6%
その他(コンサルタント業務含む)	23	1.2%	59	1.6%	62	2.5%	64	3.0%
未回答	—	—	1	0.0%	—	—	—	—
合計	1914	100.0%	3596	100.0%	2503	100.0%	2134	100.0%



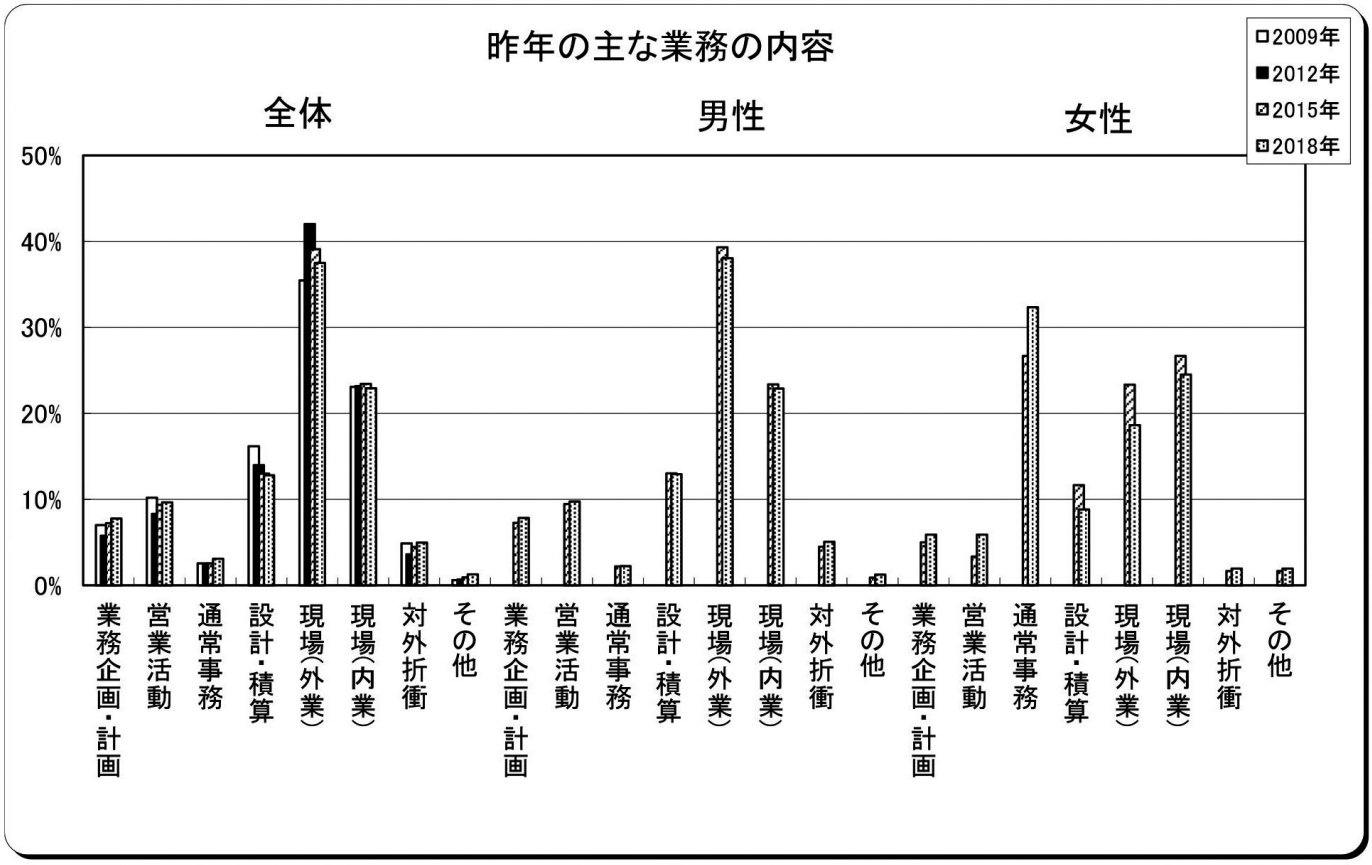
問11. 貴方の会社が許可を受けている業種は、下記のいずれですか（複数回答可）

許可業種	2009年		2012年		2015年		2018年	
土木工事業	1864	21.4%	3483	22.2%	2419	21.7%	2021	20.6%
建築工事業	1204	13.8%	2120	13.5%	1465	13.2%	1355	13.8%
管工事業	1070	12.3%	1839	11.7%	1255	11.3%	1128	11.5%
鋼構造物工事業	862	9.9%	1596	10.2%	1250	11.2%	1130	11.5%
ほ装工事業	1454	16.7%	2712	17.3%	1934	17.4%	1630	16.6%
電気通信工事業	152	1.7%	272	1.7%	236	2.1%	211	2.2%
造園工事業	967	11.1%	1574	10.1%	1126	10.1%	956	9.8%
その他の工事業	986	11.3%	1690	10.8%	1179	10.6%	1111	11.3%
その他の業種	140	1.6%	367	2.3%	262	2.4%	262	2.7%
未回答	—	—	1	0.0%	—	—	—	—
合計	8699	100.0%	15654	100.0%	11126	100.0%	9804	100.0%



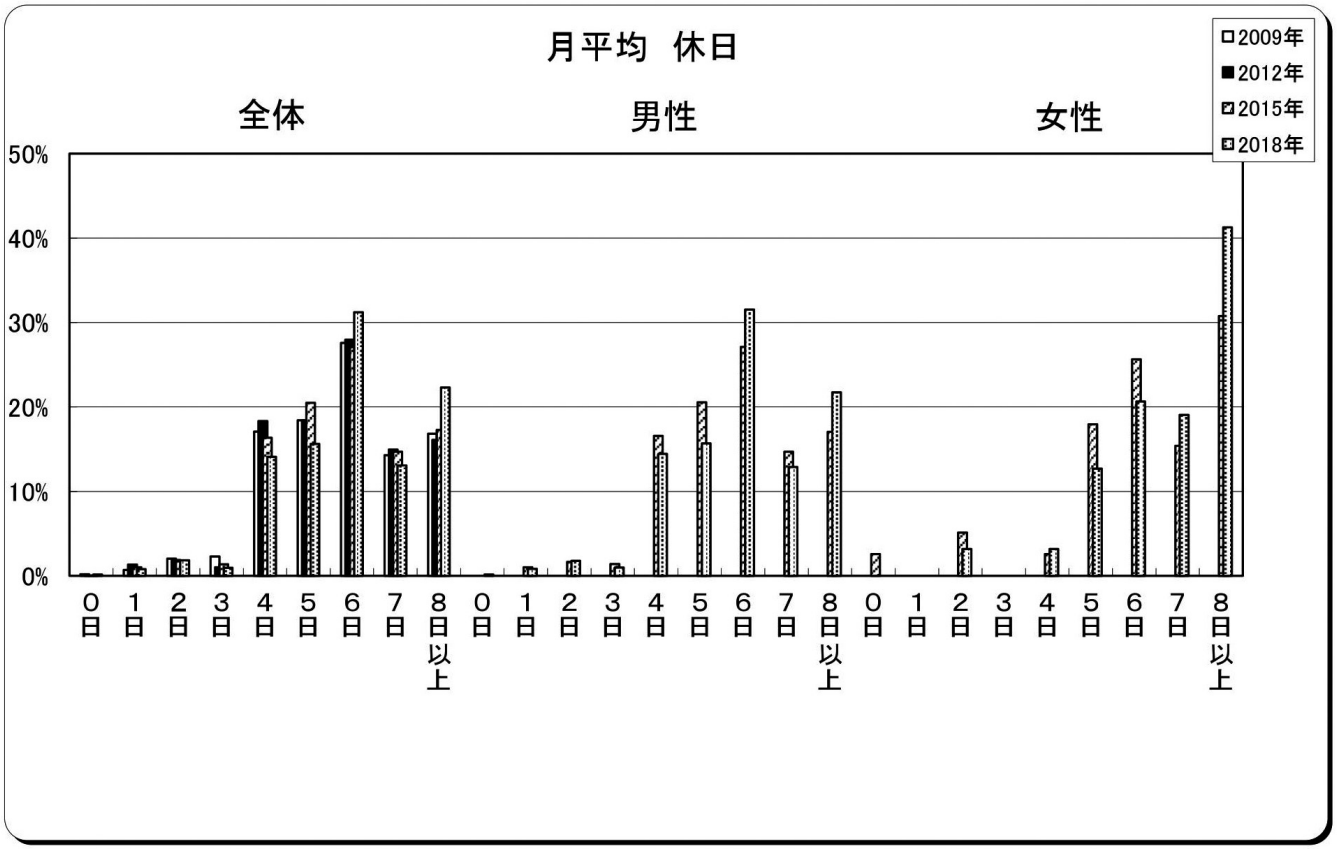
問12. 昨年の主な業務の内容は、下記のいずれですか（2つ以内を選択）

昨年の主な業務の内容		2009年		2012年		2015年		2018年	
全体	業務企画・計画	231	7.0%	337	5.8%	298	7.2%	279	7.8%
	営業活動	336	10.2%	485	8.3%	386	9.4%	346	9.7%
	通常事務	84	2.6%	145	2.5%	105	2.5%	111	3.1%
	設計・積算	532	16.2%	816	14.0%	536	13.0%	459	12.8%
	現場(外業)	1168	35.5%	2454	42.0%	1612	39.1%	1344	37.5%
	現場(内業)	760	23.1%	1353	23.2%	966	23.4%	822	22.9%
	対外折衝	161	4.9%	210	3.6%	184	4.5%	178	5.0%
	その他	20	0.6%	40	0.7%	38	0.9%	46	1.3%
	合計	**3292**	**100.0%**	**5840**	**100.0%**	**4125**	**100.0%**	**3585**	**100.0%**
男性	業務企画・計画	—	—	—	—	295	7.3%	273	7.8%
	営業活動	—	—	—	—	384	9.4%	340	9.8%
	通常事務	—	—	—	—	89	2.2%	78	2.2%
	設計・積算	—	—	—	—	529	13.0%	450	12.9%
	現場(外業)	—	—	—	—	1598	39.3%	1325	38.0%
	現場(内業)	—	—	—	—	950	23.4%	797	22.9%
	対外折衝	—	—	—	—	183	4.5%	176	5.1%
	その他	—	—	—	—	37	0.9%	44	1.3%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	4065	**100.0%**	3483	**100.0%**
女性	業務企画・計画	—	—	—	—	3	5.0%	6	5.9%
	営業活動	—	—	—	—	2	3.3%	6	5.9%
	通常事務	—	—	—	—	16	26.7%	33	32.4%
	設計・積算	—	—	—	—	7	11.7%	9	8.8%
	現場(外業)	—	—	—	—	14	23.3%	19	18.6%
	現場(内業)	—	—	—	—	16	26.7%	25	24.5%
	対外折衝	—	—	—	—	1	1.7%	2	2.0%
	その他	—	—	—	—	1	1.7%	2	2.0%
	合計	**—**	**—**	**—**	**—**	60	**100.0%**	102	**100.0%**



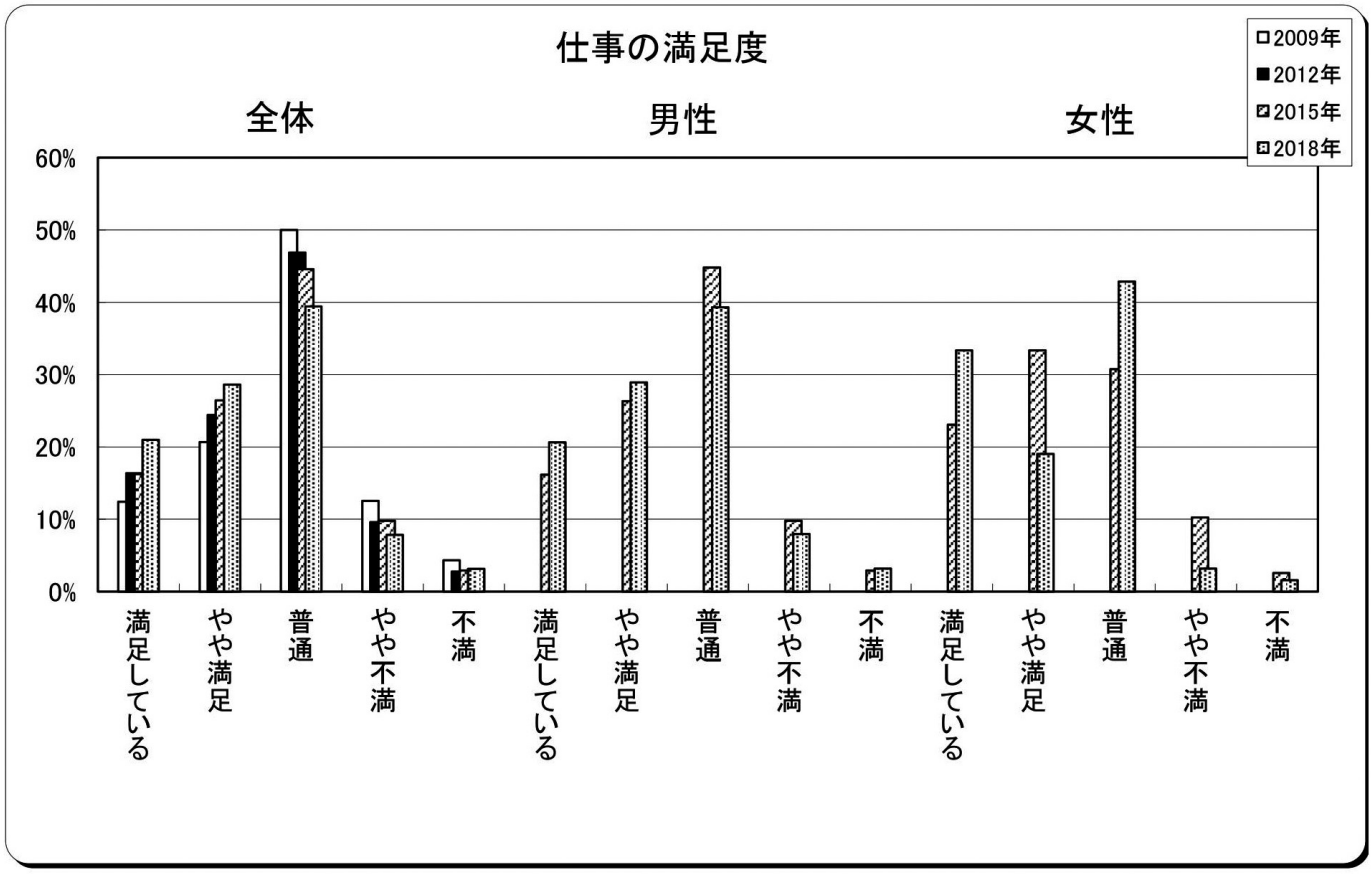
問13. 貴方の休日（土・日・祝日を含む）は月平均何日くらいですか

月平均 休日		2009年		2012年		2015年		2018年	
全体	0日	2	0.2%	1	0.0%	1	0.0%	3	0.1%
	1日	20	0.7%	48	1.3%	25	1.0%	17	0.8%
	2日	25	2.0%	67	1.9%	43	1.7%	39	1.8%
	3日	18	2.3%	37	1.0%	34	1.4%	20	0.9%
	4日	347	17.1%	659	18.3%	409	16.3%	301	14.1%
	5日	369	18.4%	661	18.4%	513	20.5%	333	15.6%
	6日	580	27.6%	1005	28.0%	678	27.1%	666	31.2%
	7日	248	14.3%	538	15.0%	368	14.7%	279	13.1%
	8日以上	305	16.8%	579	16.1%	432	17.3%	476	22.3%
	平均		5.75		5.75		5.80		5.99
	合計	**1914**	**100.0%**	**3595**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**
男性	0日	—	—	—	—	0	0.0%	3	0.1%
	1日	—	—	—	—	25	1.0%	17	0.8%
	2日	—	—	—	—	41	1.7%	37	1.8%
	3日	—	—	—	—	34	1.4%	20	1.0%
	4日	—	—	—	—	408	16.6%	299	14.4%
	5日	—	—	—	—	506	20.5%	325	15.7%
	6日	—	—	—	—	668	27.1%	653	31.5%
	7日	—	—	—	—	362	14.7%	267	12.9%
	8日以上	—	—	—	—	420	17.0%	450	21.7%
	平均						5.79		5.97
	合計	—	—	—	—	2464	**100.0%**	2071	**100.0%**
女性	0日	—	—	—	—	1	2.6%	0	0.0%
	1日	—	—	—	—	0	0.0%	0	0.0%
	2日	—	—	—	—	2	5.1%	2	3.2%
	3日	—	—	—	—	0	0.0%	0	0.0%
	4日	—	—	—	—	1	2.6%	2	3.2%
	5日	—	—	—	—	7	17.9%	8	12.7%
	6日	—	—	—	—	10	25.6%	13	20.6%
	7日	—	—	—	—	6	15.4%	12	19.0%
	8日以上	—	—	—	—	12	30.8%	26	41.3%
	平均						6.18		6.70
	合計	—	—	—	—	39	**100.0%**	63	**100.0%**



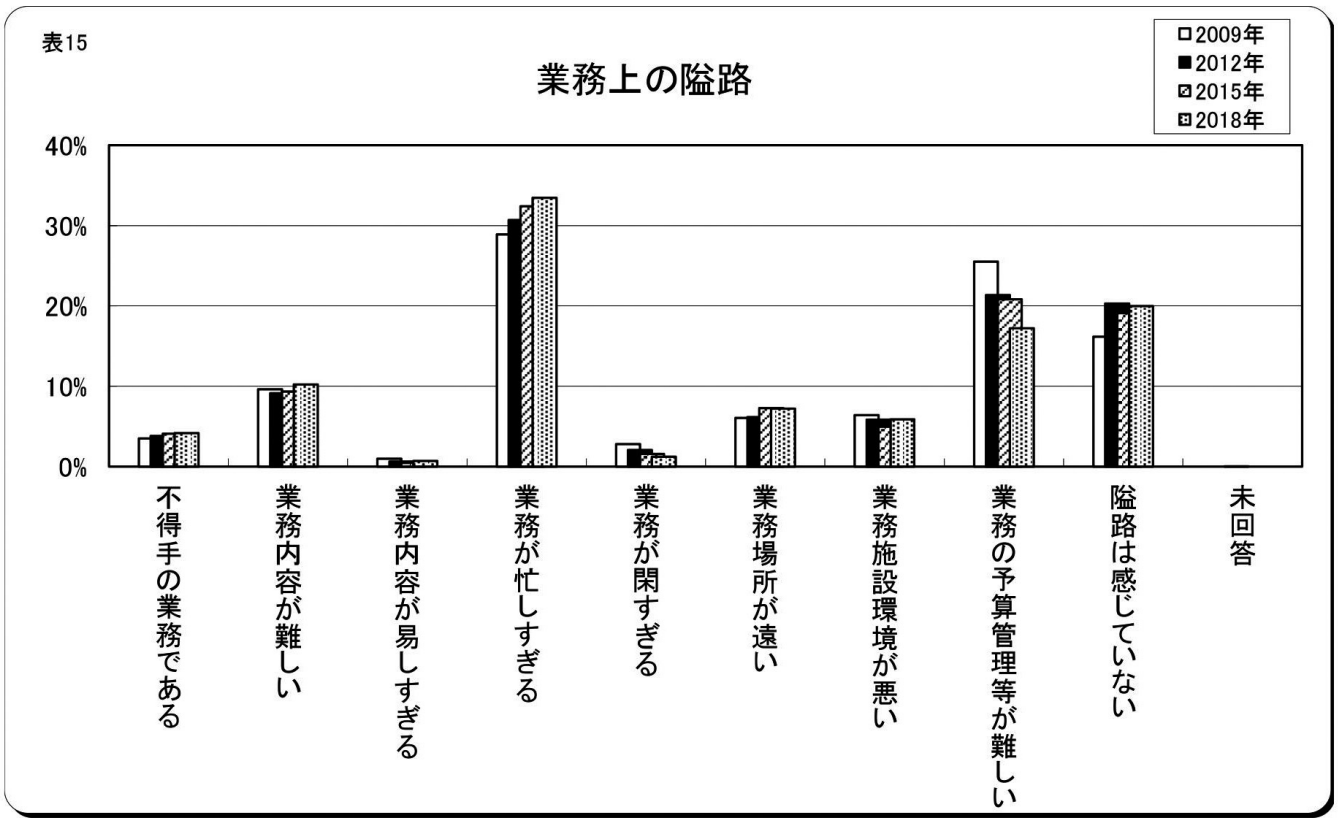
問14. 貴方の仕事の満足度は如何ですか

仕事の満足度		2009年		2012年		2015年		2018年	
全体	満足している	238	12.4%	588	16.4%	407	16.3%	448	21.0%
	やや満足	396	20.7%	878	24.4%	662	26.4%	611	28.6%
	普通	957	50.0%	1685	46.9%	1116	44.6%	841	39.4%
	やや不満	240	12.5%	345	9.6%	245	9.8%	167	7.8%
	不満	83	4.3%	99	2.8%	73	2.9%	67	3.1%
	未回答	—	—	1	0.0%	—	—	—	—
	合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**
男性	満足している	—	—	—	—	398	16.2%	427	20.6%
	やや満足	—	—	—	—	649	26.3%	599	28.9%
	普通	—	—	—	—	1104	44.8%	814	39.3%
	やや不満	—	—	—	—	241	9.8%	165	8.0%
	不満	—	—	—	—	72	2.9%	66	3.2%
	合計	—	—	—	—	2464	**100.0%**	2071	**100.0%**
女性	満足している	—	—	—	—	9	23.1%	21	33.3%
	やや満足	—	—	—	—	13	33.3%	12	19.0%
	普通	—	—	—	—	12	30.8%	27	42.9%
	やや不満	—	—	—	—	4	10.3%	2	3.2%
	不満	—	—	—	—	1	2.6%	1	1.6%
	合計	—	—	—	—	39	**100.0%**	63	**100.0%**



問15. 貴方は、社内の通常業務を遂行する上で、業務上の隘路（障害・難点）は、どこに感じていますか（2つ以内を選択）

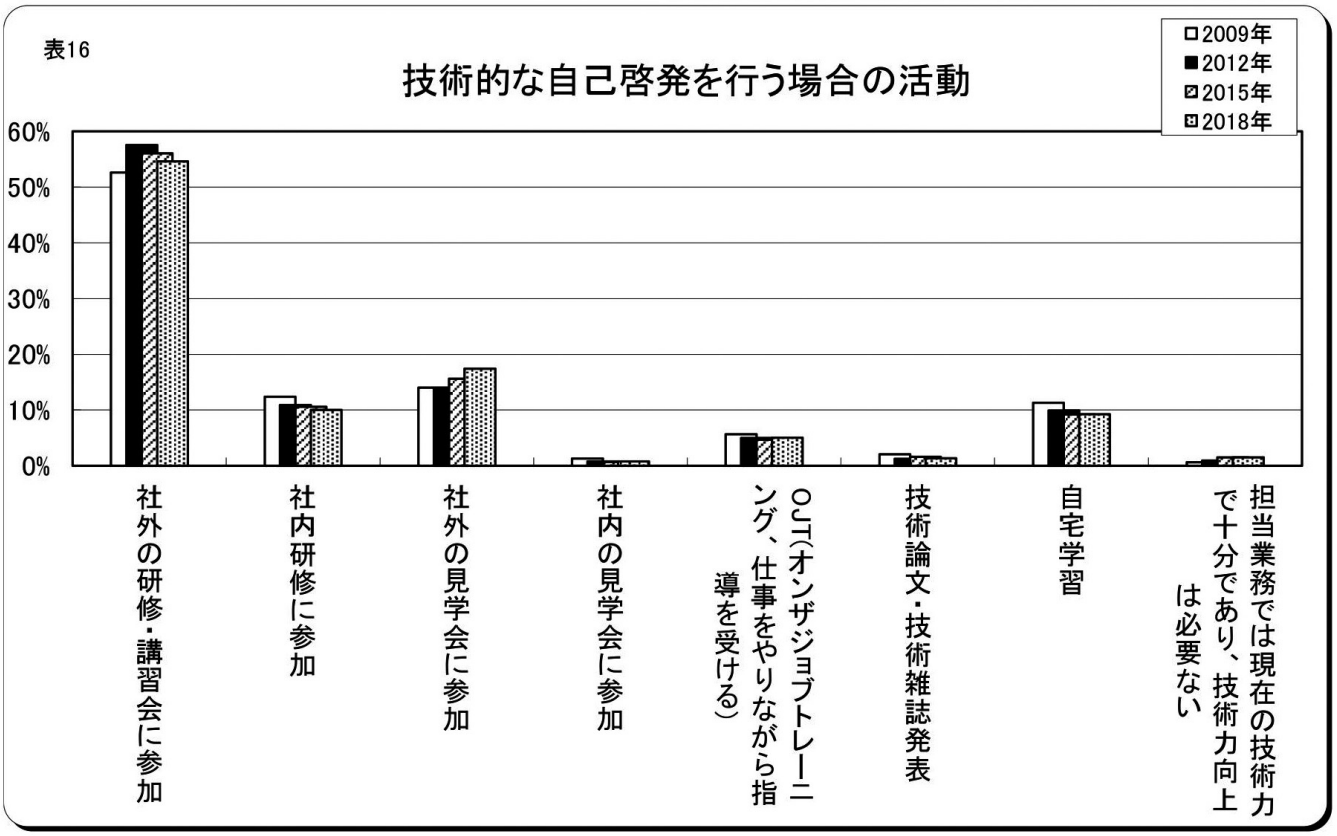
業務上の隘路	2009年		2012年		2015年		2018年	
不得手の業務である	96	3.5%	182	3.8%	138	4.1%	121	4.1%
業務内容が難しい	264	9.6%	437	9.1%	315	9.3%	298	10.2%
業務内容が易しすぎる	27	1.0%	30	0.6%	15	0.4%	20	0.7%
業務が忙しすぎる	792	28.9%	1466	30.7%	1092	32.4%	975	33.4%
業務が閑すぎる	77	2.8%	98	2.1%	53	1.6%	36	1.2%
業務場所が遠い	166	6.1%	295	6.2%	246	7.3%	210	7.2%
業務施設環境が悪い	175	6.4%	279	5.8%	167	5.0%	171	5.9%
業務の予算管理等が難しい	699	25.5%	1020	21.3%	702	20.8%	502	17.2%
隘路は感じていない	443	16.2%	970	20.3%	644	19.1%	583	20.0%
未回答	—	—	1	0.0%	—	—	—	—
合計	2739	100.0%	4778	100.0%	3372	100.0%	2916	100.0%



3．3　技士会連合会活動に関して

問16. 貴方は、技術的な自己啓発を行う場合、どのような形の活動を行いましたか（主要なものから2つ以内を選択）

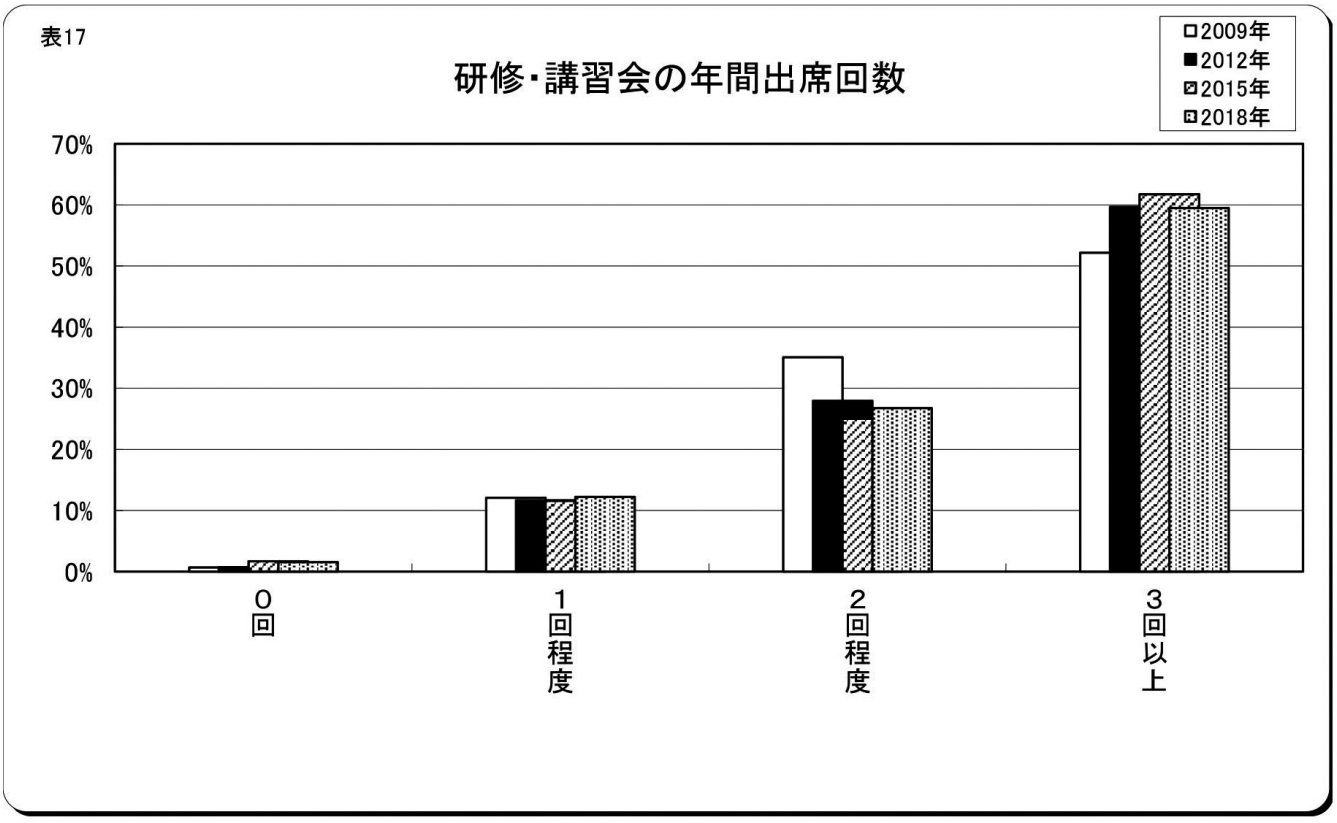
技術的な自己啓発を行う場合の活動	2009年		2012年		2015年		2018年	
社外の研修・講習会に参加	1687	52.6%	3239	57.5%	2169	56.0%	1858	54.6%
社内研修に参加	397	12.4%	612	10.9%	409	10.6%	341	10.0%
社外の見学会に参加	449	14.0%	771	13.7%	605	15.6%	593	17.4%
社内の見学会に参加	41	1.3%	44	0.8%	26	0.7%	27	0.8%
OJT(オンザジョブトレーニング、仕事をやりながら指導を受ける)	182	5.7%	280	5.0%	182	4.7%	171	5.0%
技術論文・技術雑誌発表	67	2.1%	71	1.3%	63	1.6%	46	1.4%
自宅学習	362	11.3%	559	9.9%	357	9.2%	315	9.3%
担当業務では現在の技術力で十分であり、技術力向上は必要ない	21	0.7%	54	1.0%	59	1.5%	51	1.5%
合計	3206	100.0%	5630	100.0%	3870	100.0%	3402	100.0%



問17. 貴方の研修・講習会等に出席する回数は年何回程度ですか

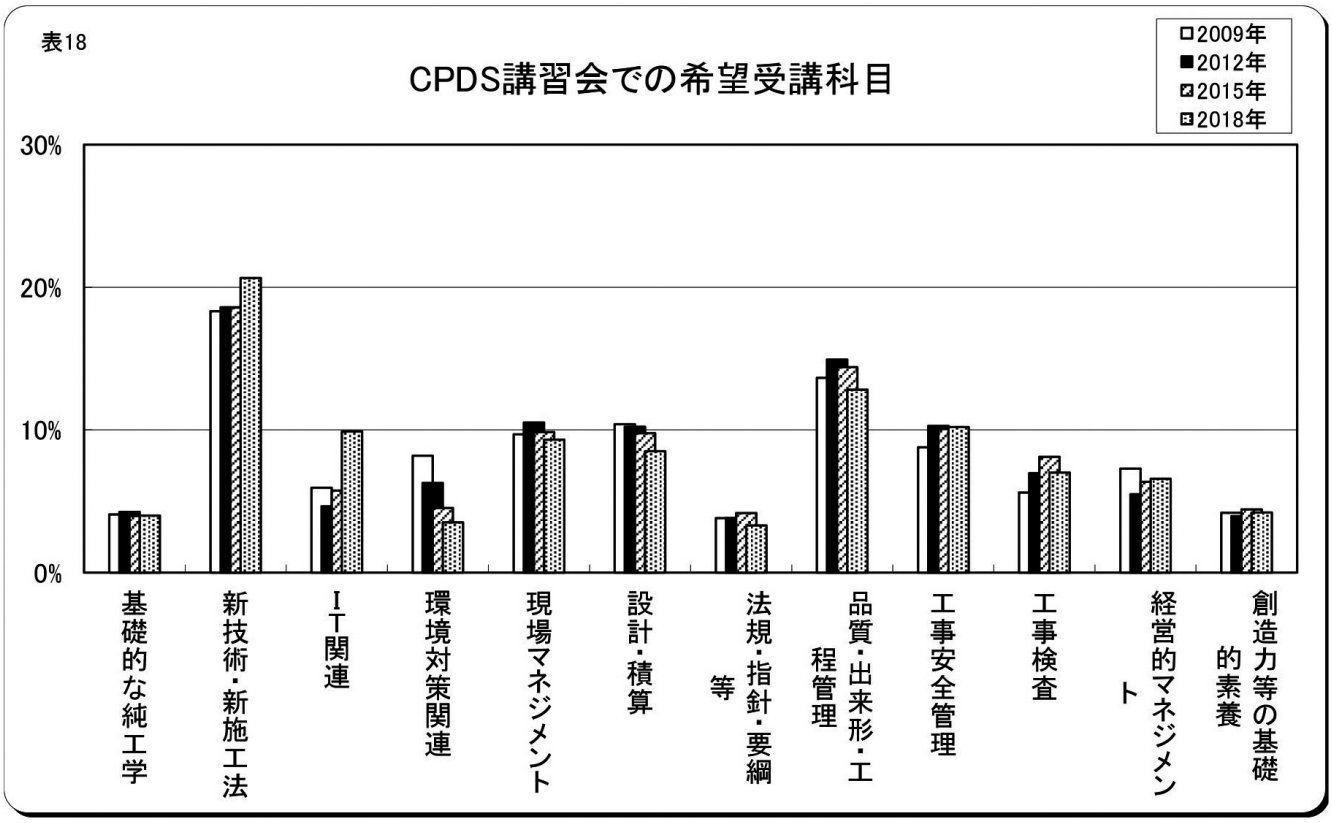
研修・講習会の年間出席回数	2009年		2012年		2015年		2018年	
0回	13	0.7%	26	0.7%	42	1.7%	33	1.5%
1回程度	231	12.1%	420	11.7%	290	11.6%	261	12.2%
2回程度	671	35.1%	1004	27.9%	626	25.0%	571	26.8%
3回以上	999	52.2%	2146	59.7%	1545	61.7%	1269	59.5%
合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**

表17



問18. CPDSの講習会での教科目として、どのようなものを受講したいですか（3つ以内を選択）

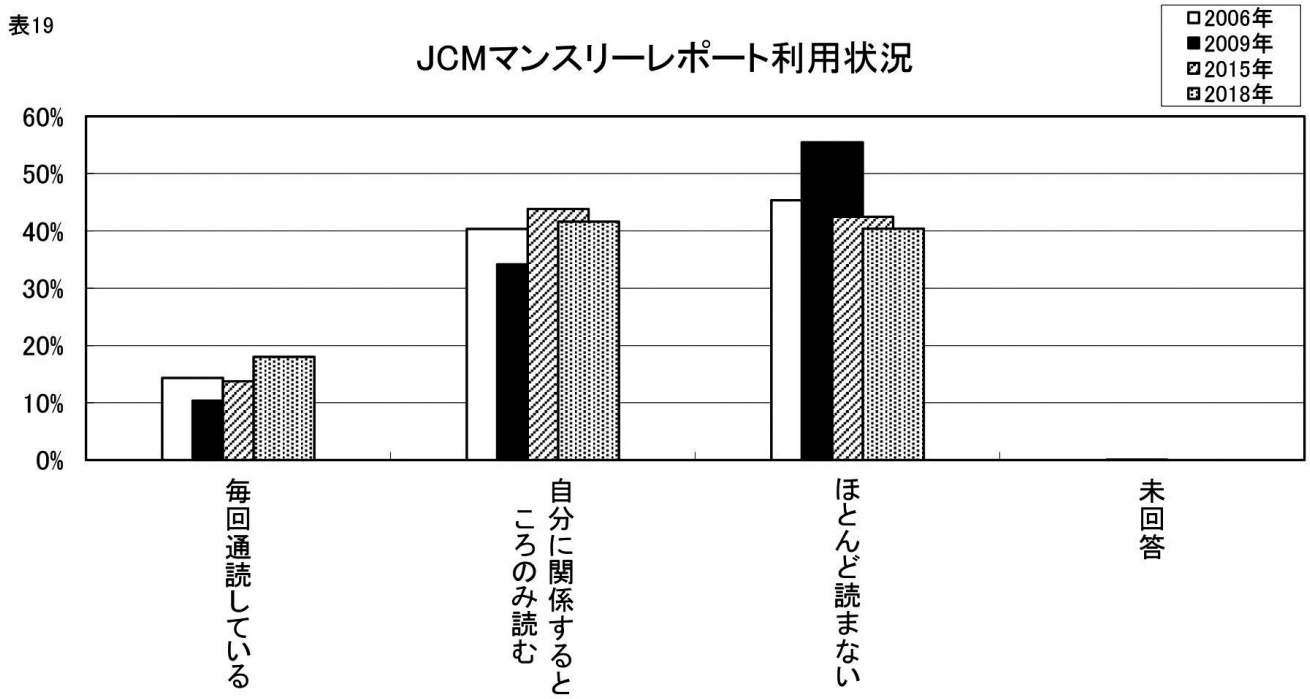
CPDS講習会での希望受講科目	2009年		2012年		2015年		2018年	
基礎的な純工学	213	4.1%	393	4.3%	256	4.0%	226	4.0%
新技術・新施工法	960	18.3%	1717	18.6%	1194	18.6%	1169	20.7%
IT関連	312	6.0%	429	4.6%	369	5.7%	560	9.9%
環境対策関連	429	8.2%	580	6.3%	291	4.5%	199	3.5%
現場マネジメント	508	9.7%	971	10.5%	633	9.9%	527	9.3%
設計・積算	545	10.4%	943	10.2%	628	9.8%	481	8.5%
法規・指針・要綱等	200	3.8%	353	3.8%	268	4.2%	187	3.3%
品質・出来形・工程管理	715	13.7%	1378	14.9%	925	14.4%	726	12.8%
工事安全管理	460	8.8%	950	10.3%	646	10.1%	577	10.2%
工事検査	294	5.6%	644	7.0%	521	8.1%	397	7.0%
経営的マネジメント	382	7.3%	508	5.5%	408	6.4%	372	6.6%
創造力等の基礎的素養	220	4.2%	365	4.0%	285	4.4%	238	4.2%
合計	5238	100.0%	9231	100.0%	6424	100.0%	5659	100.0%



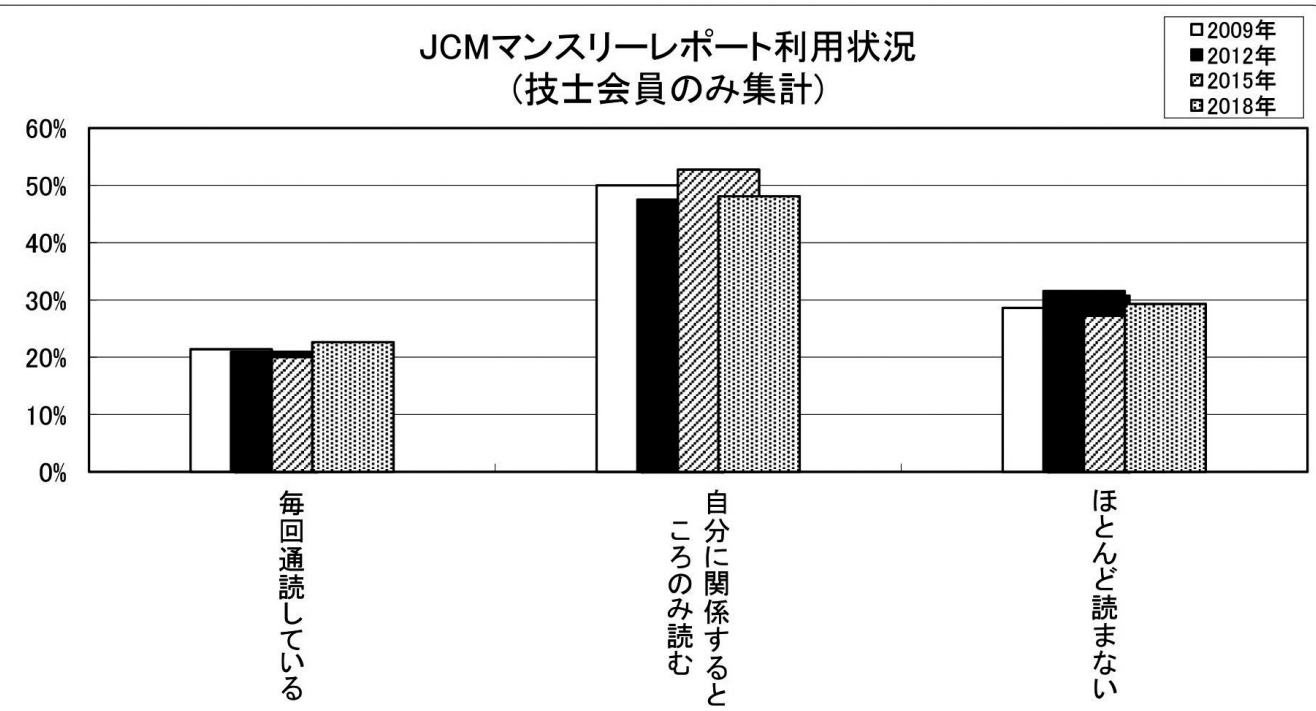
問19. 連合会からの情報発信物としての「マンスリーレポート」の利用状況について

JCMマンスリーレポート利用状況	2009年		2012年		2015年		2018年	
毎回通読している	274	14.3%	372	10.3%	344	13.7%	384	18.0%
自分に関係するところのみ読む	772	40.3%	1228	34.1%	1097	43.8%	888	41.6%
ほとんど読まない	868	45.4%	1994	55.5%	1062	42.4%	862	40.4%
未回答	—	—	2	0.1%	—	—	—	—
合計	1914	100.0%	3596	100.0%	2503	100.0%	2134	100.0%

表19



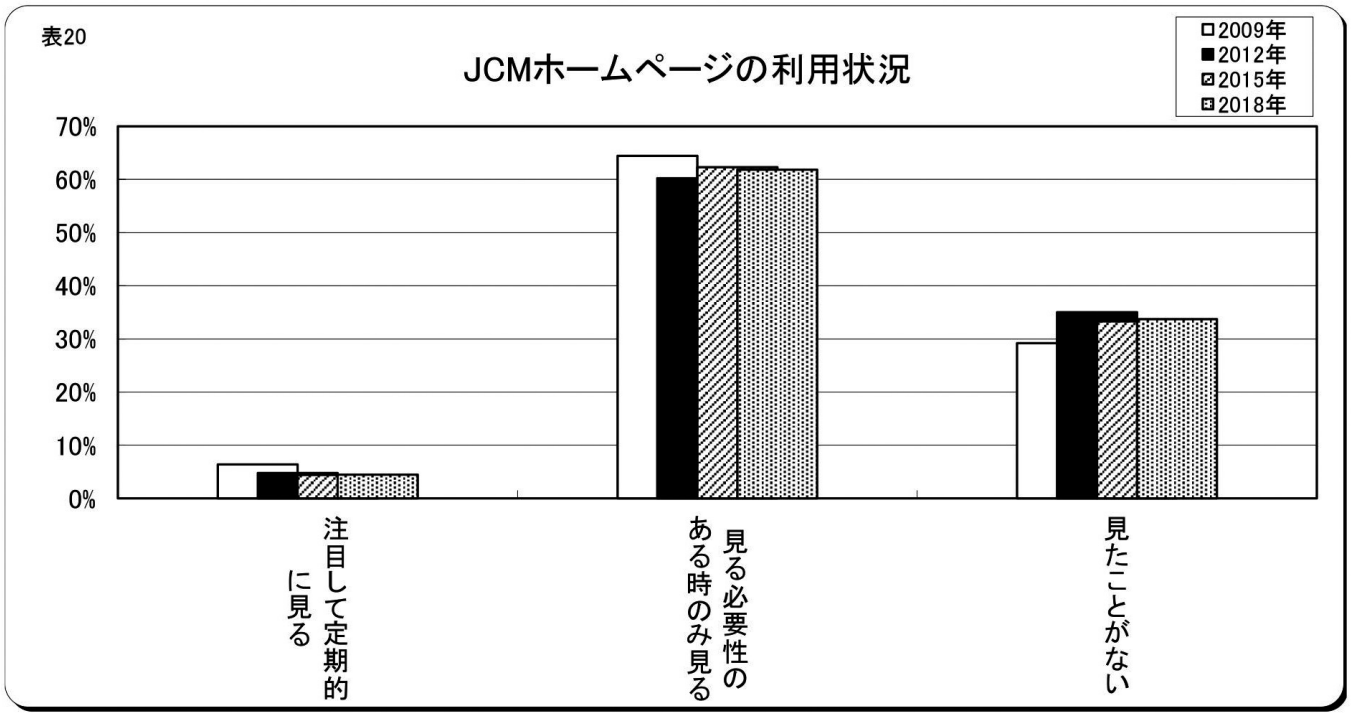
JCMマンスリーレポート利用状況	2009年		2012年		2015年		2018年	
毎回通読している	244	21.4%	302	20.9%	318	20.0%	370	22.6%
自分に関係するところのみ読む	570	50.0%	685	47.5%	839	52.8%	787	48.1%
ほとんど読まない	326	28.6%	455	31.6%	433	27.2%	479	29.3%
合計	1140	100.0%	1442	100.0%	1590	100.0%	1636	100.0%



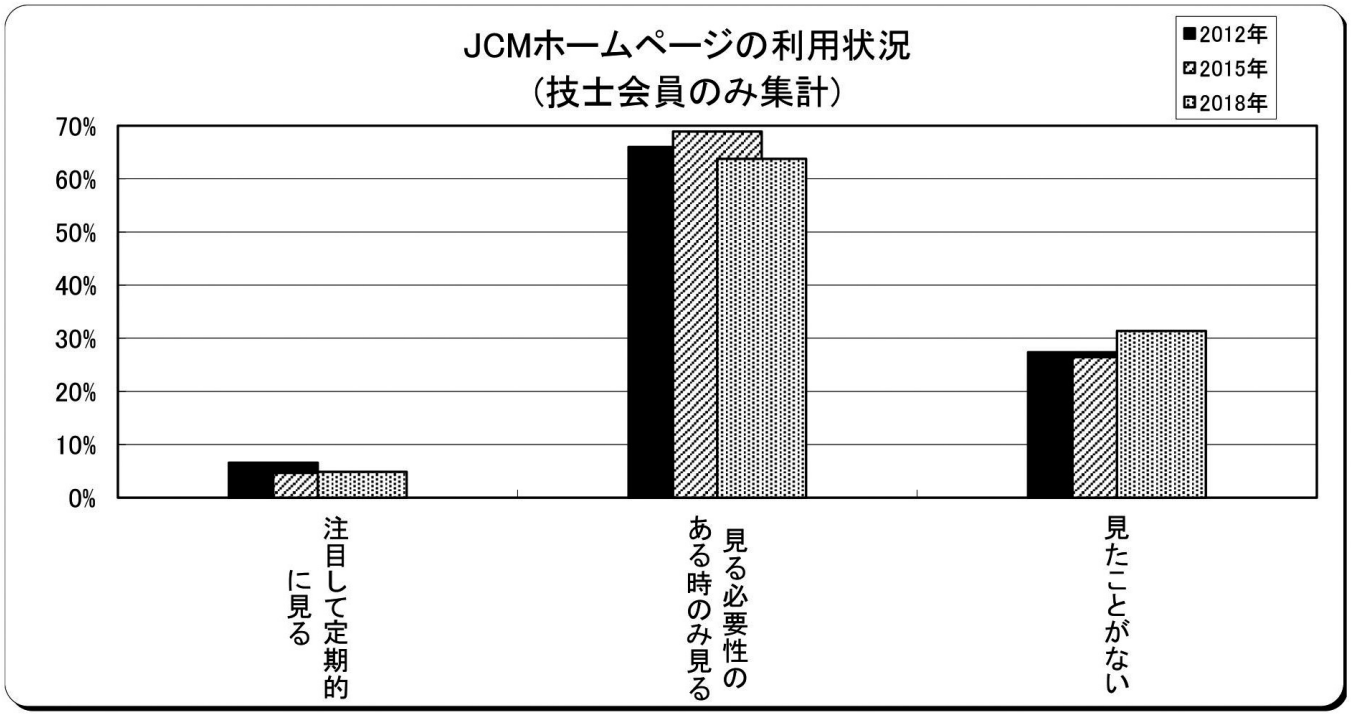
問20. 連合会からの情報発信物としての「ホームページ」の利用状況について

JCMホームページの利用状況	2009年		2012年		2015年		2018年	
注目して定期的に見る	122	6.4%	171	4.8%	110	4.4%	95	4.5%
見る必要性のある時のみ見る	1233	64.4%	2165	60.2%	1559	62.3%	1320	61.9%
見たことがない	559	29.2%	1260	35.0%	834	33.3%	719	33.7%
合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**

表20



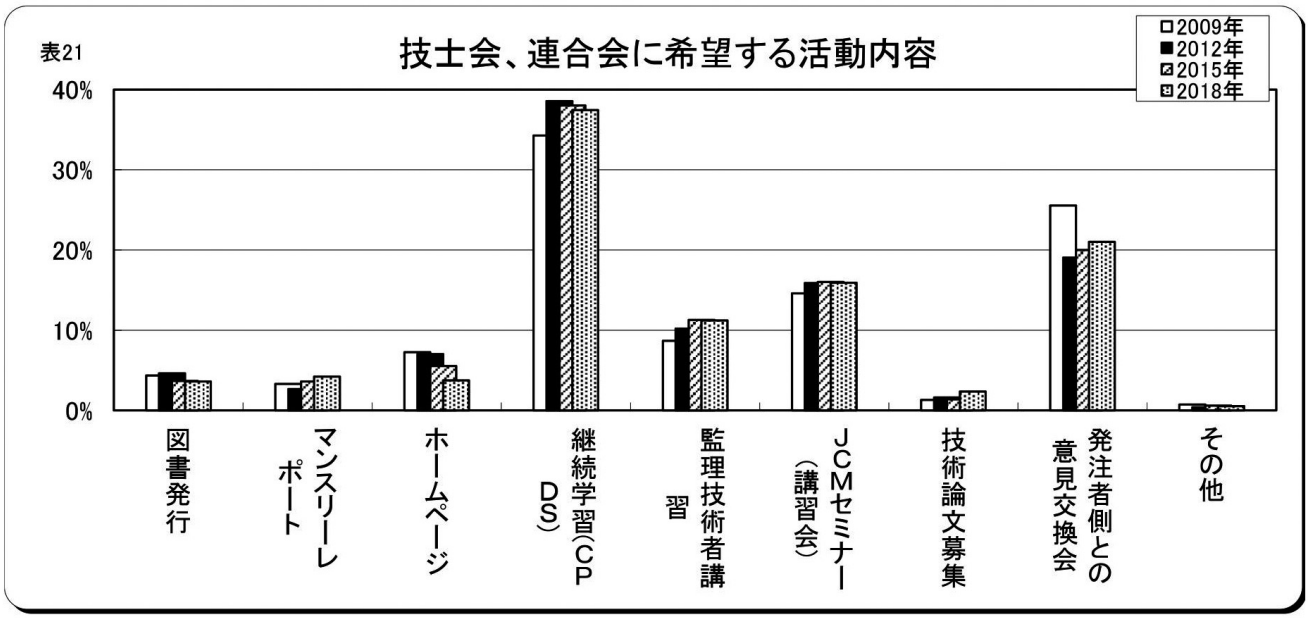
JCMホームページの利用状況	2009年		2012年		2015年		2018年	
注目して定期的に見る	—	—	95	6.6%	74	4.7%	80	4.9%
見る必要性のある時のみ見る	—	—	952	66.0%	1096	68.9%	1043	63.8%
見たことがない	—	—	395	27.4%	420	26.4%	513	31.4%
合計	**—**	**—**	**1442**	**100.0%**	**1590**	**100.0%**	**1636**	**100.0%**



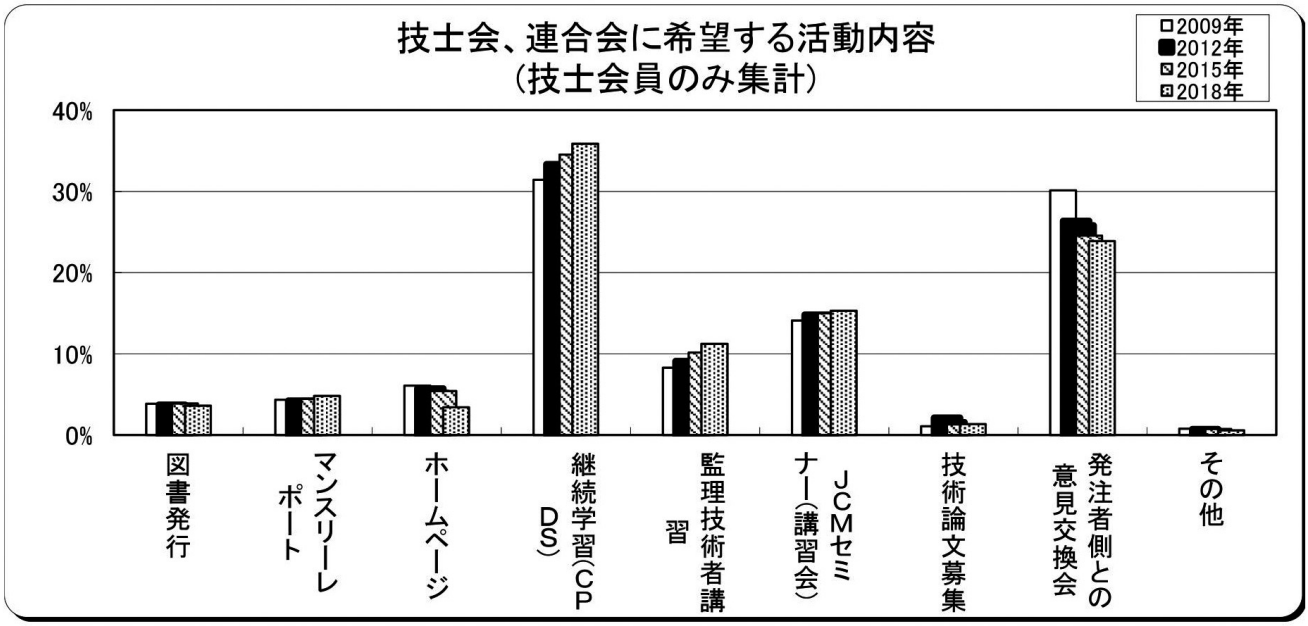
問21. 技士会連合会もしくは各県等技士会の今後盛んにすべき活動内容について希望することは何ですか（主要な項目から2つ以内を選択してください）

技士会、連合会に希望する活動内容	2009年		2012年		2015年		2018年	
図書発行	147	4.3%	276	4.6%	154	3.7%	133	3.6%
マンスリーレポート	112	3.3%	158	2.7%	151	3.6%	156	4.2%
ホームページ	245	7.2%	418	7.0%	232	5.5%	138	3.7%
継続学習(CPDS)	1159	34.3%	2299	38.6%	1599	38.0%	1387	37.5%
監理技術者講習	293	8.7%	607	10.2%	475	11.3%	415	11.2%
JCMセミナー(講習会)	494	14.6%	946	15.9%	673	16.0%	589	15.9%
技術論文募集	44	1.3%	96	1.6%	57	1.4%	87	2.4%
発注者側との意見交換会	864	25.5%	1136	19.1%	841	20.0%	778	21.0%
その他	24	0.7%	24	0.4%	25	0.6%	19	0.5%
合計	3382	100.0%	5960	100.0%	4207	100.0%	3702	100.0%

表21



技士会、連合会に希望する活動内容	2009年		2012年		2015年		2018年	
図書発行	79	3.8%	95	3.7%	109	3.9%	104	3.6%
マンスリーレポート	89	4.3%	108	4.2%	125	4.4%	139	4.8%
ホームページ	125	6.1%	146	5.7%	153	5.4%	98	3.4%
継続学習(CPDS)	645	31.4%	852	33.3%	973	34.5%	1035	35.9%
監理技術者講習	170	8.3%	232	9.1%	286	10.1%	324	11.2%
JCMセミナー(講習会)	289	14.1%	378	14.8%	423	15.0%	442	15.3%
技術論文募集	22	1.1%	54	2.1%	37	1.3%	39	1.4%
発注者側との意見交換会	618	30.1%	674	26.4%	692	24.5%	689	23.9%
その他	16	0.8%	18	0.7%	21	0.7%	17	0.6%
合計	2053	100.0%	2557	100.0%	2819	100.0%	2887	100.0%



問21 その他の回答

9. その他を選択された方の回答

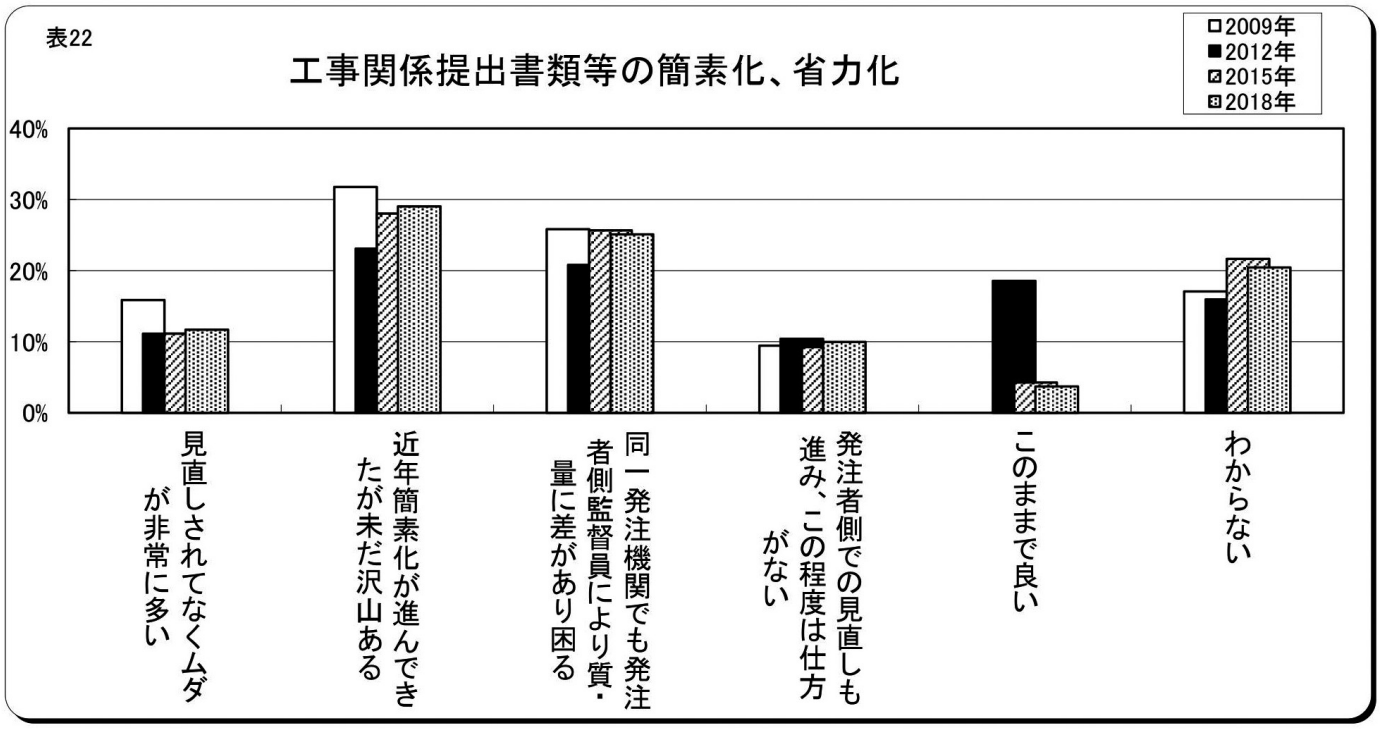
・ ＡＩ、ＩＯＴ技術の研究、早期実用	1
・ いつでも相談出来る各技士の困りごと相談とその対策及びその事例集の発行	1
・ マネージメント(社内・現場・顧客において・人とのかかわり方(コミュニケーション)、課題の表現・伝える方法、コストの把握　等）	1
・ 環境対策関連の講習又は研修の開催	1
・ 技士が持つ責任と権限のスリム化を図っていただきたい。	1
・ 技士としての社会的価値の向上及び創出	1
・ 近隣現場の研修会	1
・ 県外技士会との意見交換	1
・ 現場見学	1
・ 今後の建設業に携わる技師の在り方につて	1
・ 総合的な情報発信ならびに情報の提供	1
・ 地域貢献活動（ボランティア）	1
・ 発注者支援業務の業務効率化について	1
・ 標準設計以外の設計が設計者によって異なるため、技士会が発注者と設計内容についてもっと意見ができる活動をしてもらいたい	1

3．4　発注に関して

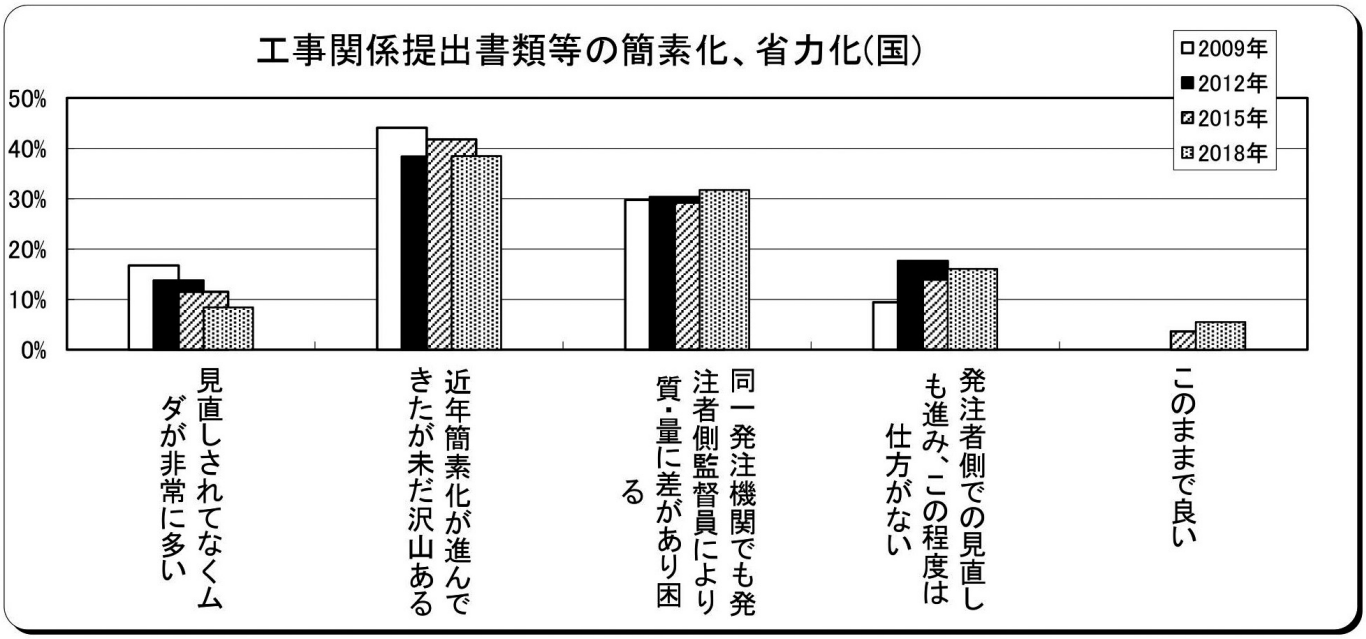
問22. 発注者側の要求する工事関係提示・提出書類等の簡素化、省力化について、1－1～1－6のうち1つを選択してください。

提出書類の簡素化	2009年		2012年		2015年		2018年	
見直しされてなくムダが非常に多い	304	15.9%	401	11.2%	279	11.1%	250	11.7%
近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある	608	31.8%	831	23.1%	702	28.0%	620	29.1%
同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る	494	25.8%	749	20.8%	642	25.6%	536	25.1%
発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない	181	9.5%	374	10.4%	231	9.2%	213	10.0%
このままで良い	—	—	668	18.6%	107	4.3%	79	3.7%
わからない	327	17.1%	573	15.9%	542	21.7%	436	20.4%
合計	1914	100.0%	3596	100.0%	2503	100.0%	2134	100.0%

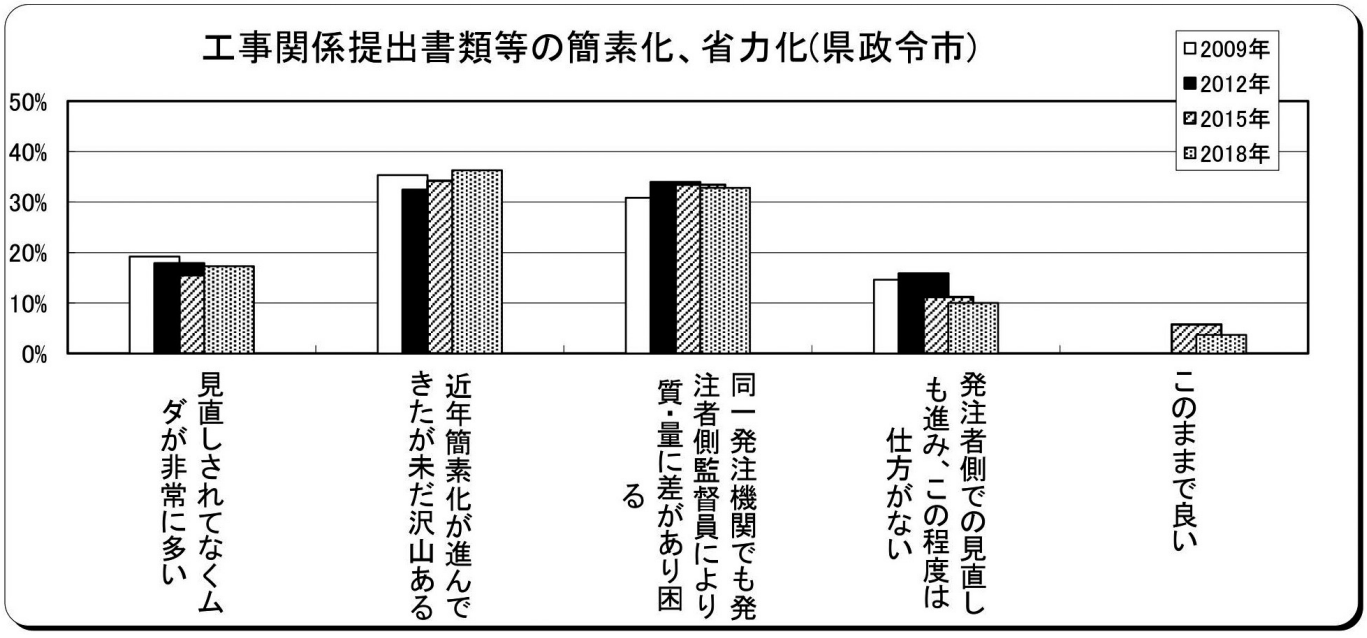
表22



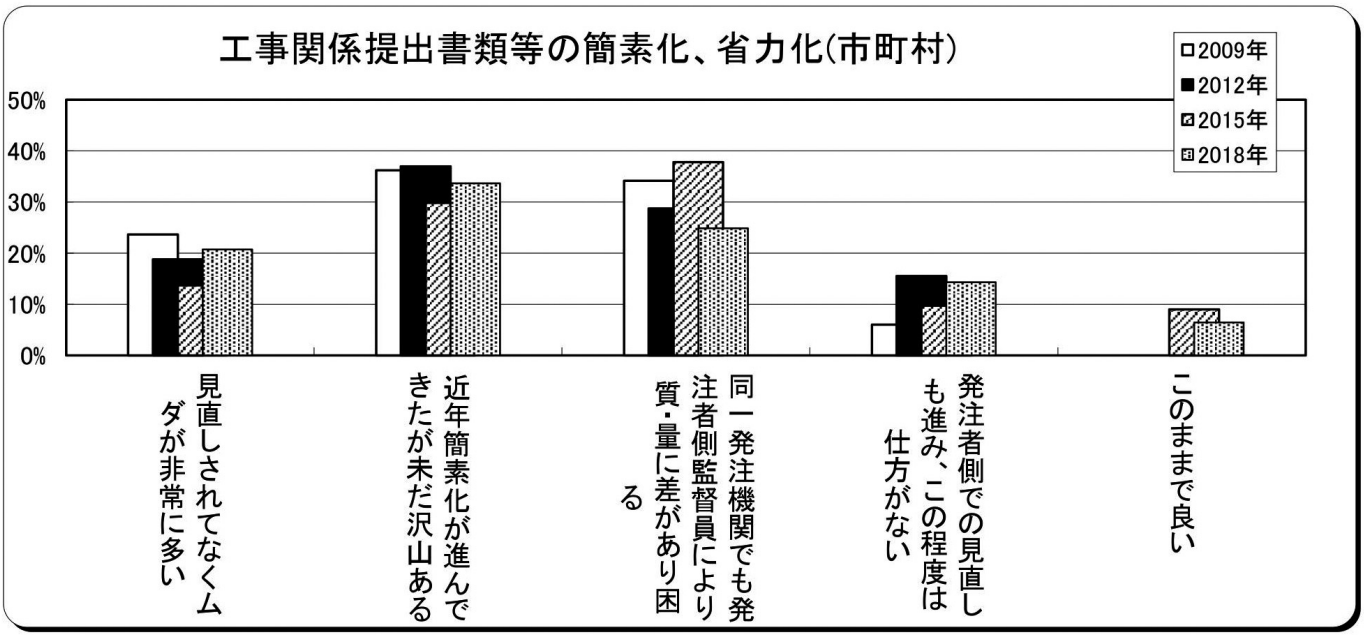
提出書類の簡素化	2009年		2012年		2015年		2018年	
見直しされてなくムダが非常に多い	92	17%	96	14%	70	11.5%	46	8.4%
近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある	243	44%	268	38%	255	41.8%	211	38.4%
同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る	164	30%	212	30%	178	29.2%	174	31.7%
発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない	52	9%	123	18%	85	13.9%	88	16.0%
このままで良い	—	—	—	—	22	3.6%	30	5.5%
合計	551	100.0%	699	100.0%	610	100.0%	549	100.0%



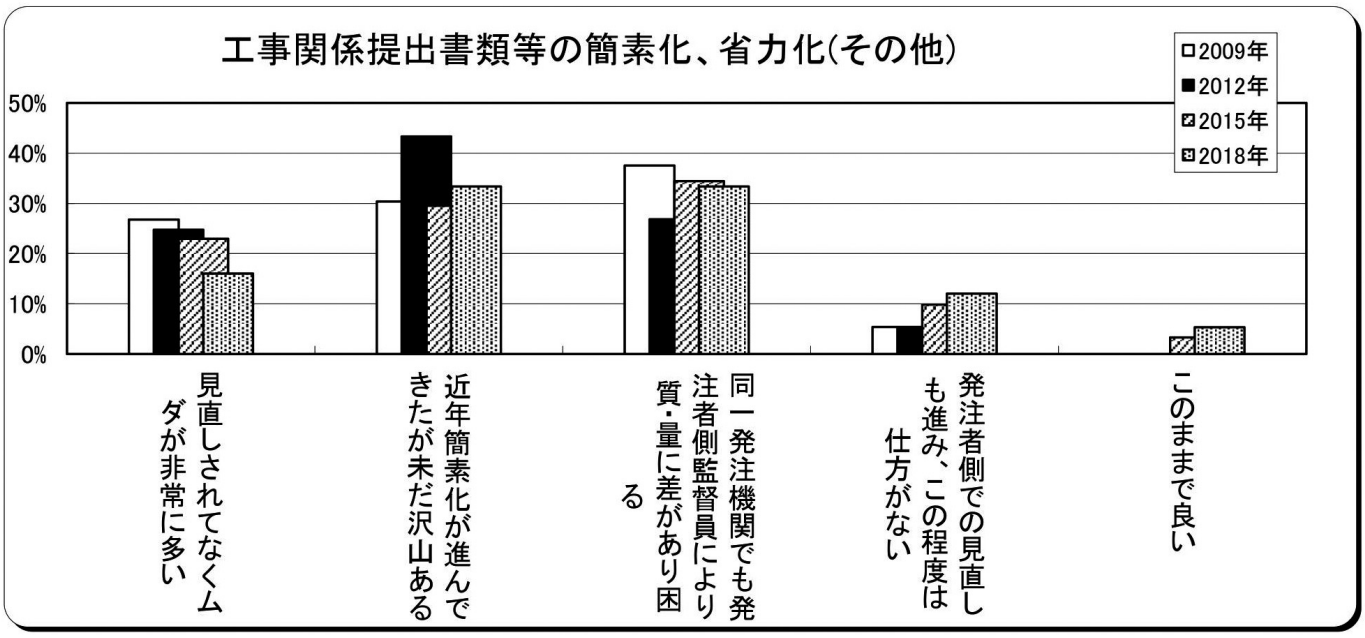
提出書類の簡素化	2009年		2012年		2015年		2018年	
見直しされてなくムダが非常に多い	150	19%	217	18%	157	15.5%	147	17.3%
近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある	276	35%	395	32%	346	34.2%	309	36.3%
同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る	241	31%	413	34%	338	33.4%	279	32.8%
発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない	114	15%	193	16%	113	11.2%	85	10.0%
このままで良い	—	—	—	—	58	5.7%	31	3.6%
合計	781	100.0%	1218	100.0%	1012	100.0%	851	100.0%



提出書類の簡素化	2009年		2012年		2015年		2018年	
見直しされてなくムダが非常に多い	47	24%	64	19%	38	13.7%	45	20.7%
近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある	72	36%	126	37%	83	29.9%	73	33.6%
同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る	68	34%	98	29%	105	37.8%	54	24.9%
発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない	12	6%	53	16%	27	9.7%	31	14.3%
このままで良い	—	—	—	—	25	9.0%	14	6.5%
合計	199	100.0%	341	100.0%	278	100.0%	217	100.0%



提出書類の簡素化	2009年		2012年		2015年		2018年	
見直しされてなくムダが非常に多い	15	27%	24	25%	14	23.0%	12	16.0%
近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある	17	30%	42	43%	18	29.5%	25	33.3%
同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る	21	38%	26	27%	21	34.4%	25	33.3%
発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない	3	5%	5	5%	6	9.8%	9	12.0%
このままで良い	—	—	—	—	2	3.3%	4	5.3%
合計	56	100.0%	97	100.0%	61	100.0%	75	100.0%

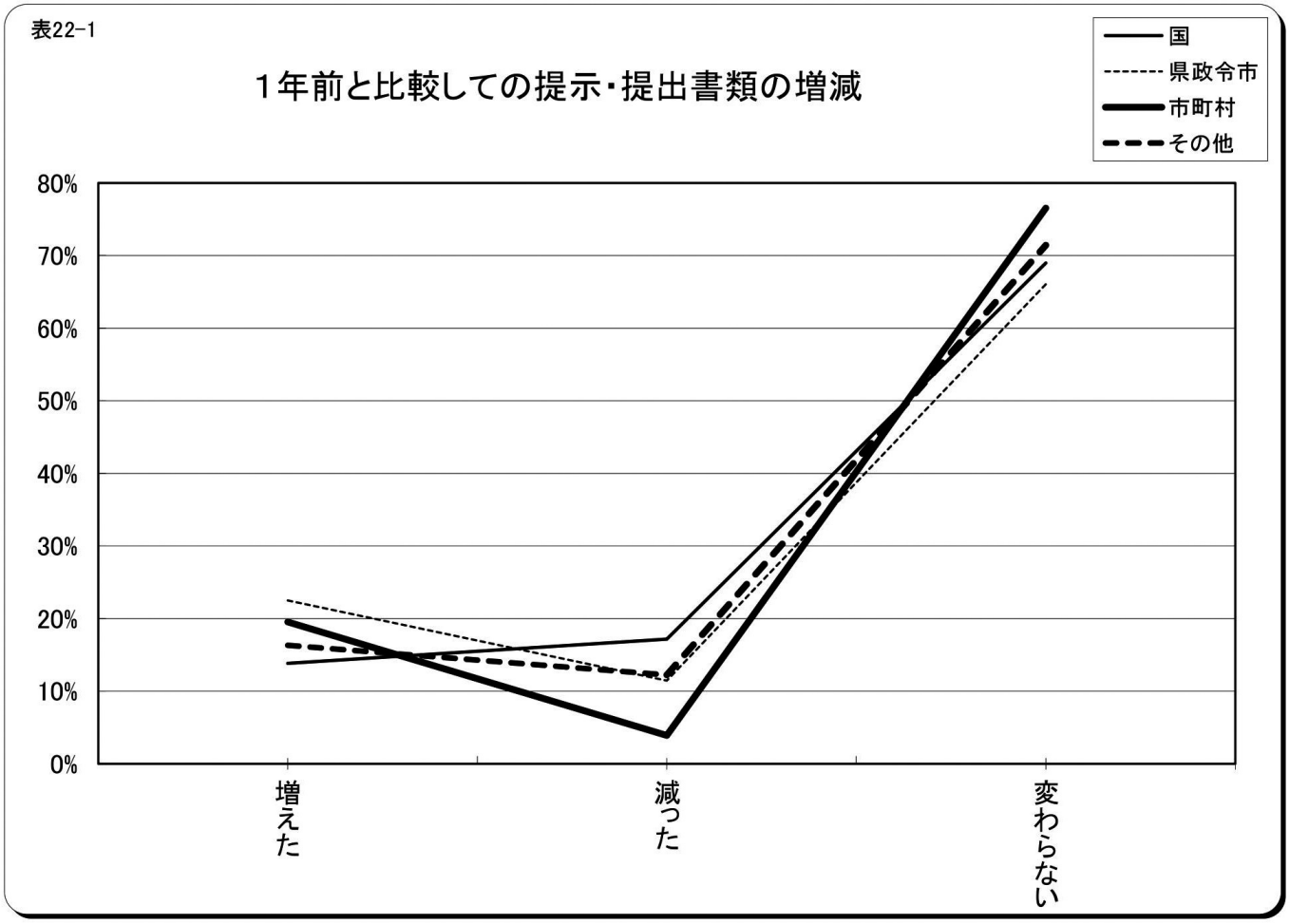


問22で以下に回答された方の「提出書類増減」に関する発注主体別統計

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多い
1-2. 近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある
1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る
1-4. 発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない
1-5. 今のままで良い

提出書類の増減	国		県政令市		市町村		その他	
増えた	62	13.8%	159	22.5%	35	19.6%	8	16.3%
減った	77	17.2%	81	11.5%	7	3.9%	6	12.2%
変わらない	309	69.0%	467	66.1%	137	76.5%	35	71.4%
合計	448	100.0%	707	100.0%	179	100.0%	49	100.0%

表22-1

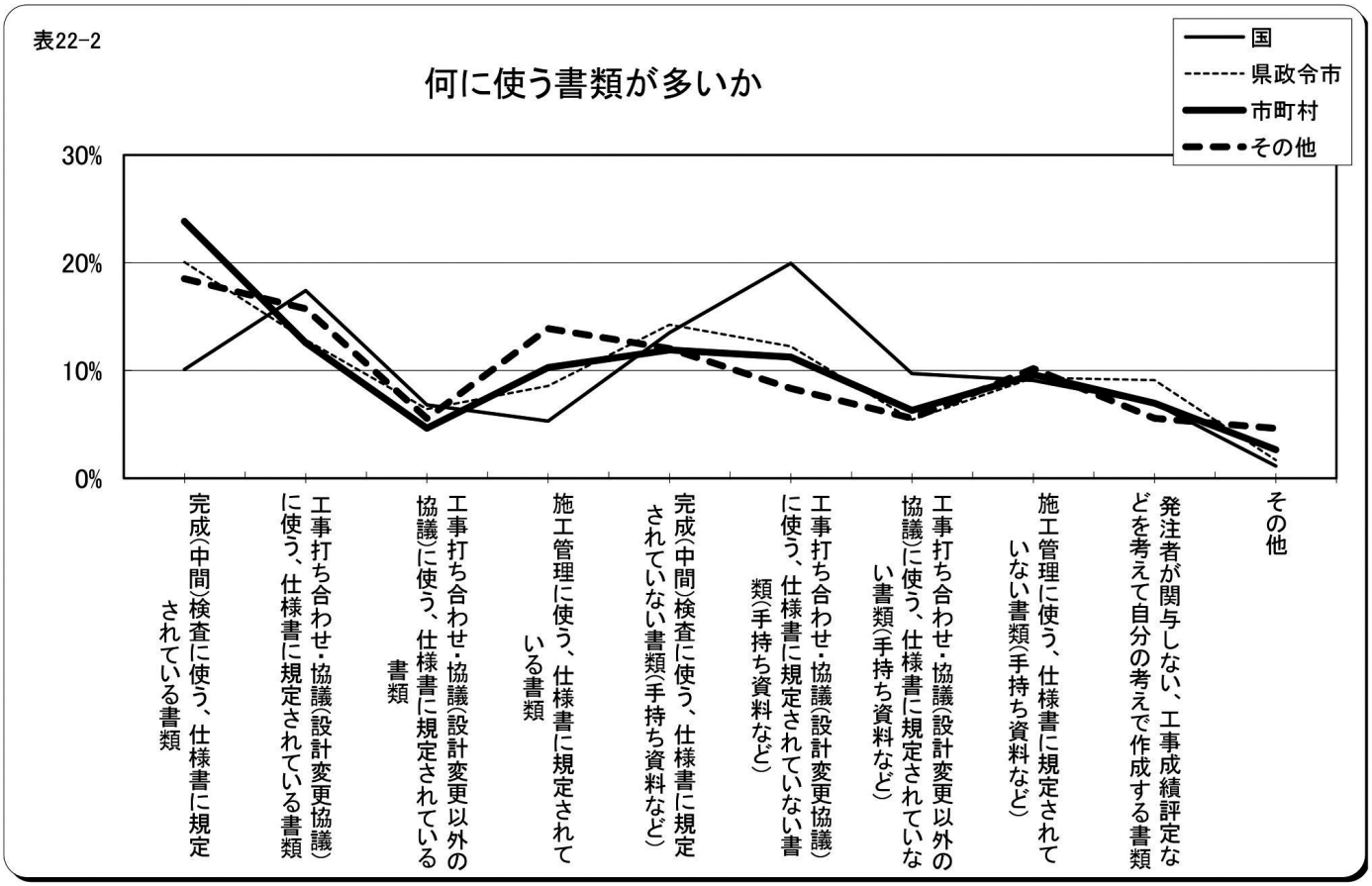


問22で以下に回答された方の「何に使う書類が多いか」に関する発注主体別統計

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多い
1-2. 近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある
1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る

何に使う書類が多いか	国		県政令市		市町村		その他	
完成(中間)検査に使う、仕様書に規定されている書類	80	10.1%	262	20.1%	72	23.8%	20	18.5%
工事打ち合わせ・協議(設計変更協議)に使う、仕様書に規定されている書類	138	17.4%	168	12.9%	38	12.6%	17	15.7%
工事打ち合わせ・協議(設計変更以外の協議)に使う、仕様書に規定されている書類	54	6.8%	84	6.4%	14	4.6%	6	5.6%
施工管理に使う、仕様書に規定されている書類	42	5.3%	112	8.6%	31	10.3%	15	13.9%
完成(中間)検査に使う、仕様書に規定されていない書類(手持ち資料など)	107	13.5%	186	14.2%	36	11.9%	13	12.0%
工事打ち合わせ・協議(設計変更協議)に使う、仕様書に規定されていない書類(手持ち資料など)	158	19.9%	160	12.3%	34	11.3%	9	8.3%
工事打ち合わせ・協議(設計変更以外の協議)に使う、仕様書に規定されていない書類(手持ち資料など)	77	9.7%	71	5.4%	19	6.3%	6	5.6%
施工管理に使う、仕様書に規定されていない書類(手持ち資料など)	72	9.1%	122	9.3%	29	9.6%	11	10.2%
発注者が関与しない、工事成績評定などを考えて自分の考えで作成する書類	55	6.9%	119	9.1%	21	7.0%	6	5.6%
その他	9	1.1%	22	1.7%	8	2.6%	5	4.6%
合計	792	100.0%	1306	100.0%	302	100.0%	108	100.0%

表22-2



問22-2 その他の回答

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多いを選択された方の回答

■県政令市	・安全関係の書類	1
	・下請確認関係書類	1
	・県独自の下請け承認、施工体制とは別に提出させている	1
	・出来形管理基準に定めのない工種の測定表	1
	・設計変更に要する書類	1
	・担当者が上司に説明する資料や担当者が他部署に提出する書類	1
	・不必要と思われる施工要領書	1
■市町村	・下請関係	1
	・建設廃棄物処理に関する書類	1
	・今まで無かった書類	1
	・設計図書と現地の相違による変更書類	1
	・市独自の検査項目	1
■その他	・外注計画書、再生資源など	1

1-2. 近年簡素化が進んできたがまだ沢山あるを選択された方の回答

■国	・安全管理書類	1
■県政令市	・ﾏﾆﾌｪｽﾄ伝票の写し	1
	・安全管理関係の書類	1
	・下請け会社の各種保険の写しの提出など	1
	・下請負（施工体制）に関する書類	1
	・考査項目に反映させるため、打ち合わせ簿、写真、立会、安全書類が年々増えている。	1
	・施工体制	1
	・施工体制台帳に関する書類	1
	・数量関係の書類	1
	・点数獲得のため、過剰に書類を作成する。	1
	・当初設計書が不備で当社が一から設計書の作り直し(図面含む)に多くの費用がかかったが当社負担	1
	・納品伝票の整理及び入荷材料集計表	1
	・発注者が他の行政機関との協議に使用する資料	1
■市町村	・産業廃棄物の関係書類	1
	・着工前の書類	1
■その他	・提出書類の期限が早い	1
	・発注者以外の関係各所への協議資料	1

1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があるを選択された方の回答

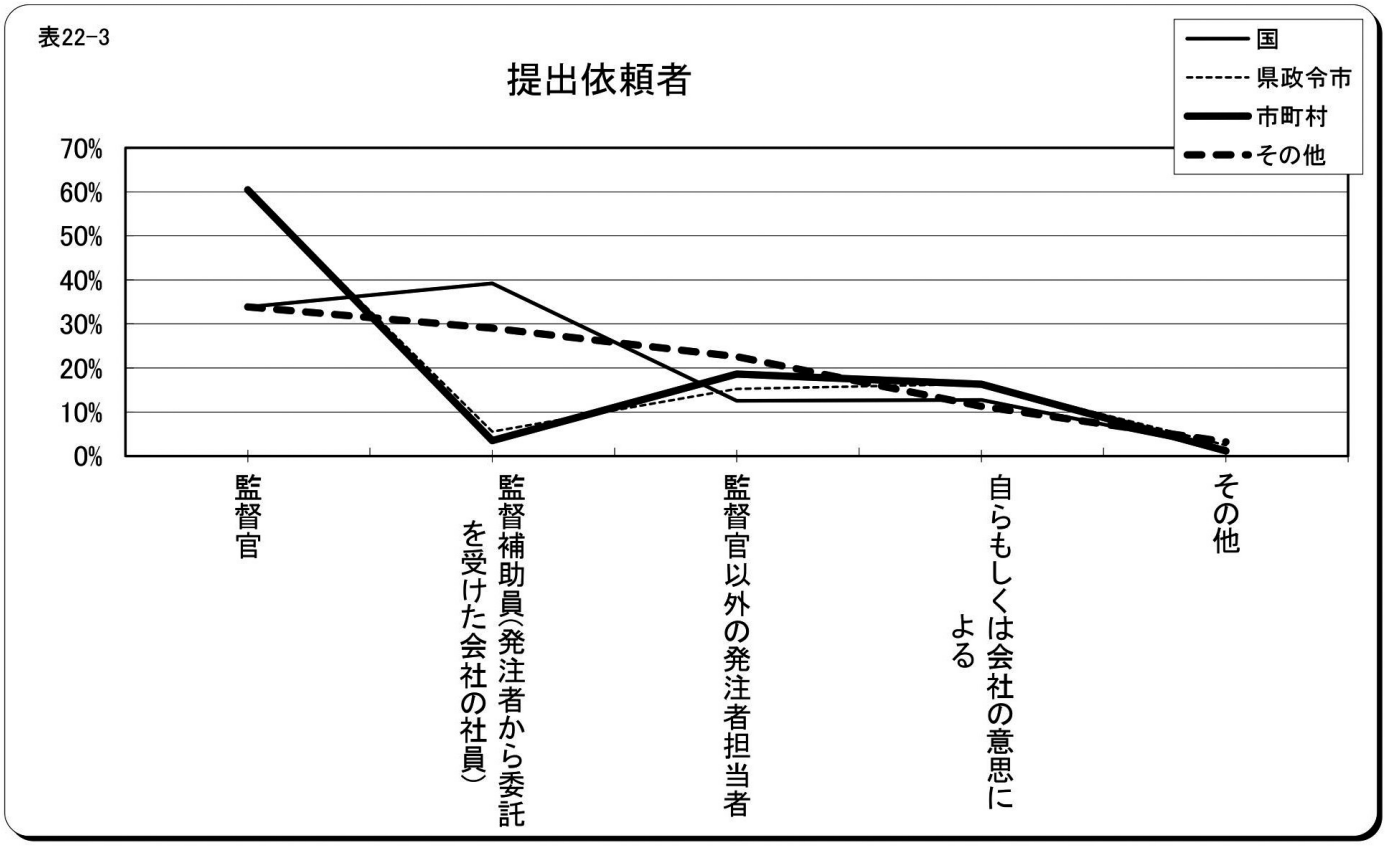
■国	・いわゆる調査物と呼ばれる整備局からの調査依頼をまとめる資料作成	1
	・安全管理書類	1
	・安全書類等の手持ち資料	1
	・完成検査後の納品書類のデータと紙媒体書類との重複	1
	・施工体制台帳に関するバックデータ	1
	・設計不備に対する協議書類	1
	・発注者監督官が工務課長、副所長に報告する資料	1
	・安全書類	1
■県政令市	・検査官独自の持論により不必要な書類を、発注担当者が仕方なく要求してくる書類	1
	・工事写真（印刷をしてアルバム形式で提出してほしいなど）	1
	・工事中の請負者の責によらない被災後の処理について	1
■市町村	・電子納品と工事写真帳の両方を提出	1
■その他	・書類以前に、計画書等への記載事項について当人の偏った知識で修正指示される。	1
	・同じ書類で電子と紙の2通りの提出書類が必要	1

問22で以下に回答された方の「提出依頼者」に関する発注主体別統計

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多い
1-2. 近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある
1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る

提出依頼者	国		県政令市		市町村		その他	
監督官	146	33.9%	443	60.4%	104	60.5%	21	33.9%
監督補助員(発注者から委託を受けた会社の社員)	169	39.2%	41	5.6%	6	3.5%	18	29.0%
監督官以外の発注者担当者	54	12.5%	112	15.3%	32	18.6%	14	22.6%
自らもしくは会社の意思による	55	12.8%	120	16.3%	28	16.3%	7	11.3%
その他	7	1.6%	18	2.5%	2	1.2%	2	3.2%
合計	**431**	**100.0%**	**734**	**100.0%**	**172**	**100.0%**	**62**	**100.0%**

表22-3



問22-3 その他の回答

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多いを選択された方の回答

■国	・検査官が見るので用意せざるを得ない	1
■県政令市	・協議書を提出したが回答が無く全数管理した	1
	・検査員	1
	・検査担当者	1
	・工事成績を上げるための個人努力	1
	・設計図書、共通仕様書で決まっいる	1
	・発注者 検査課 検査員	1

1-2. 近年簡素化が進んできたがまだ沢山あるを選択された方の回答

■国	・建設業法で定められている施工体制台帳	1
	・発注者による施工プロセスチェックというチェックがあり、その際に手持ち資料等の必ずしも検査に必要のない書類を準備する必要がある為。	1
■県政令市	・工事検査官	1
	・工事検査専門員	1
	・今までの指導等の積み重ねであり、誰に依頼されたというものではない。	1
	・仕様書	1
	・誰にではなく提出書類であるが、記録として発注者側、受注者側双方の思惑で残したい書類や写真	1
	・提出を依頼されたわけではなく、検査で提出・提示を求められるため。	1
■市町村	・現在提出する事になっている	1
■その他	・検査官	1

1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があるを選択された方の回答

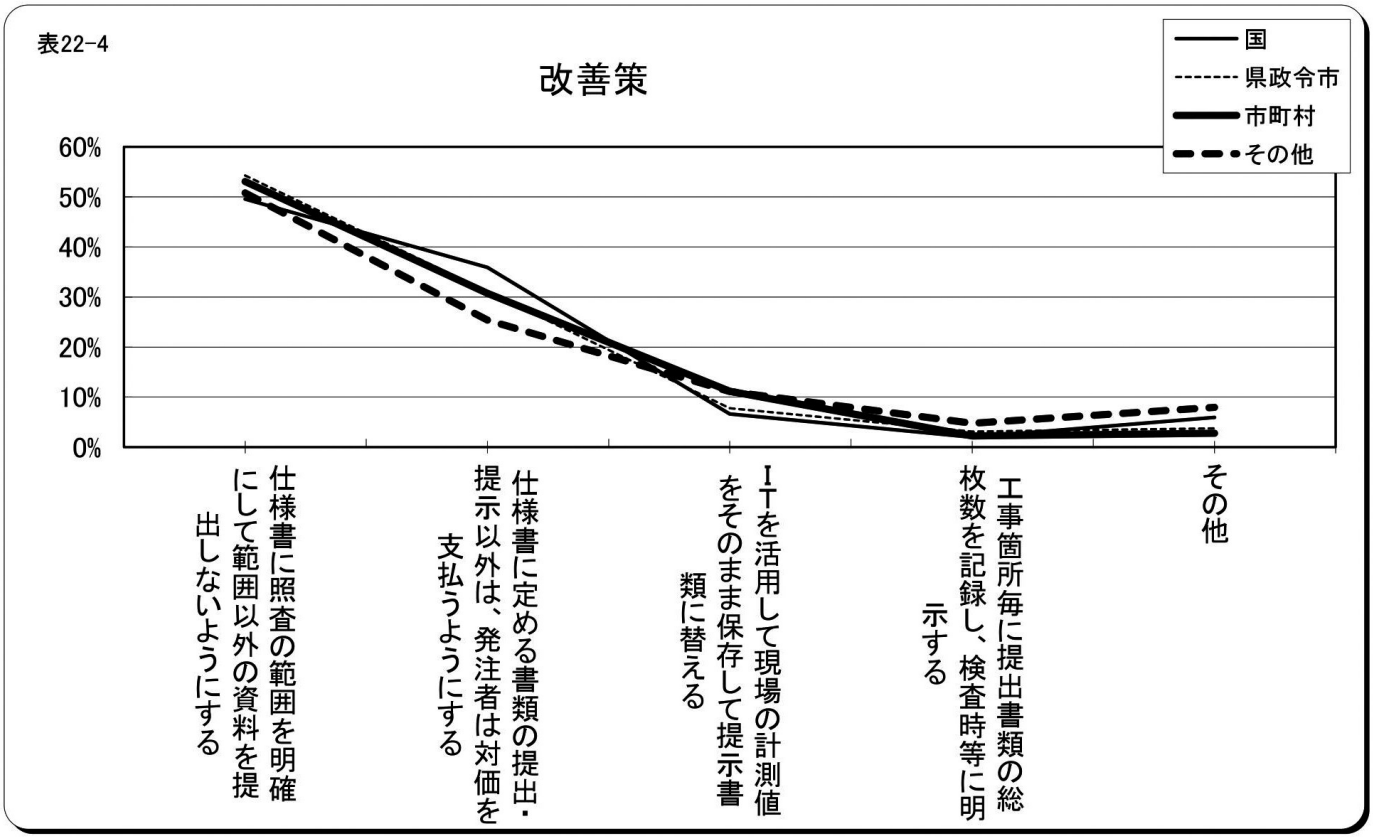
■国	・監督員及び発注担当者	1
	・検査官	1
■県政令市	・検査員	1
	・状況により様々	1
■市町村	・検査官	1
■その他	・検査員	1

問22で以下に回答された方が望む「改善策」に関する発注主体別統計

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多い
1-2. 近年簡素化が進んできたが未だ沢山ある
1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があり困る

改善策	国		県政令市		市町村		その他	
仕様書に照査の範囲を明確にして範囲以外の資料を提出しないようにする	225	49.6%	419	54.3%	95	53.1%	32	50.8%
仕様書に定める書類の提出・提示以外は、発注者は対価を支払うようにする	163	35.9%	240	31.1%	55	30.7%	16	25.4%
ITを活用して現場の計測値をそのまま保存して提示書類に替える	30	6.6%	60	7.8%	20	11.2%	7	11.1%
工事箇所毎に提出書類の総枚数を記録し、検査時等に明示する	9	2.0%	24	3.1%	4	2.2%	3	4.8%
その他	27	5.9%	29	3.8%	5	2.8%	5	7.9%
合計	454	100.0%	772	100.0%	179	100.0%	63	100.0%

表22-4



問22-4 その他の回答

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多いを選択された方の回答

■国	・検査時には、作成した検査書類をパソコンにいちいちスキャナーするのは時間の無駄、検査も紙ベースでした方が早いし見易いと思います。	1
	・検査官や発注事務所毎に提出する書類が異なるため、統一してほしい。	1
	・工事成績評定を上げたいため	1
■県政令市	・会計検査対策資料の様な、国交省で必要とされない資料(日報、伝票等)を削減してもらいたい。	1
	・監督官の知識向上	1
	・設計業務をコンサル等に委託する場合、測量等で相違が多すぎるため、無駄な図面作成が増える。	1
	・中間検査回数が異常に多いので、検査回数を減らしてほしい	1
	・提出する書類や添付書類を制限させると共に、提出期日も「その都度」ではなく、余裕を持たせる。	1
	・提出不要だと、国でも出していない	1
	・発注者の工事管理部門と維持管理部門の調整	1
	・発注者の人員不足と経験及び能力不足を解決することが一番の早道だと考える。	1
	・発注前に予期できる支障物件の移設や地権者の要望事項については対応済にしてから発注して頂きたい。	1
	・利用用途の明確化（何がしたいかわからない）	1
■市町村	・共通仕様書に基づく書類提出のみにする	1
■その他	・発注者が自分のしごとをすること	1

1-2. 近年簡素化が進んできたがまだ沢山あるを選択された方の回答

■国	・まず、手持ち資料や工事成績評定を高く評価をしてもらう為の書類を受注者が独自に作成（他業者との差別化を図る為など）する風潮が背景にあります。改善策のひとつとして書類作成マニュアル等を作成して、必要な書類をピックアップする、発注者はマニュアルに記載された書類以外の不要書類（手持ち資料等）は要求しない（業者が独自に作成しても評価対象としない）、又、受注者は作成しない事を徹底する環境整備を行う。?変更に関わる協議書類作成にかなり手間が掛かるので作成内容をマニュアル化する（発注者担当によりで過度な要求が高い時と標準な時の差がある）	1
	・建設業法で施工体制台帳の提出について定められている	1
	・検査項目として、残っている場合は、簡素化出来ない。また、提示としてのこっている場合、提出と同様の書類を作成しないといけない為、簡素化とならない。	1
	・仕様書に適宜と記載→　毎回など…	1
	・設計段階で現場との相違を減じ、協議等資料を減じる	1
	・創意工夫を簡素化する	1
	・電子データでの提出及び確認	1
	・工事特性や社会性に関する書類は施工中に確認できる事項だと思う。	1
■県政令市	・ASP	1
	・依頼する担当者の方からの納得のいく説明を納得するまでお願いしたい。	1
	・各現場の書類共有を行う。	1
	・検査で提出、提示する資料が少なくなると良い。	1
	・工事成績評定を少しでも上げるための書類なので、仕方が無い気持ちもある	1
	・工事成績評定を入札に反映するのをやめればいいと思う(技術者の負担が多い)	1
	・点数制度をなくし、合格・不合格の判断にすればよい。提出書類を明確にする。	1
	・入札制度改革（工事成績のｳｴｰﾄが高すぎる）	1
	・発注者の意向であり仕方ないと思います。	1
	・発注者の検査チェックリストの簡素化	1
	・保険未加入業者へは建設業許可を発行しない措置を行政で行えば良い。	1
■市町村	・現場確認で済ませる。 使用資材の品質について、確認が多いので検討してほしい。	1
	・点数に頼らない評価	1
■その他	・内容を簡素化する	1
	・発注者側が、発注段階での設計図書の精度を高め、変更や協議を少なくする。	1

1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差があるを選択された方の回答

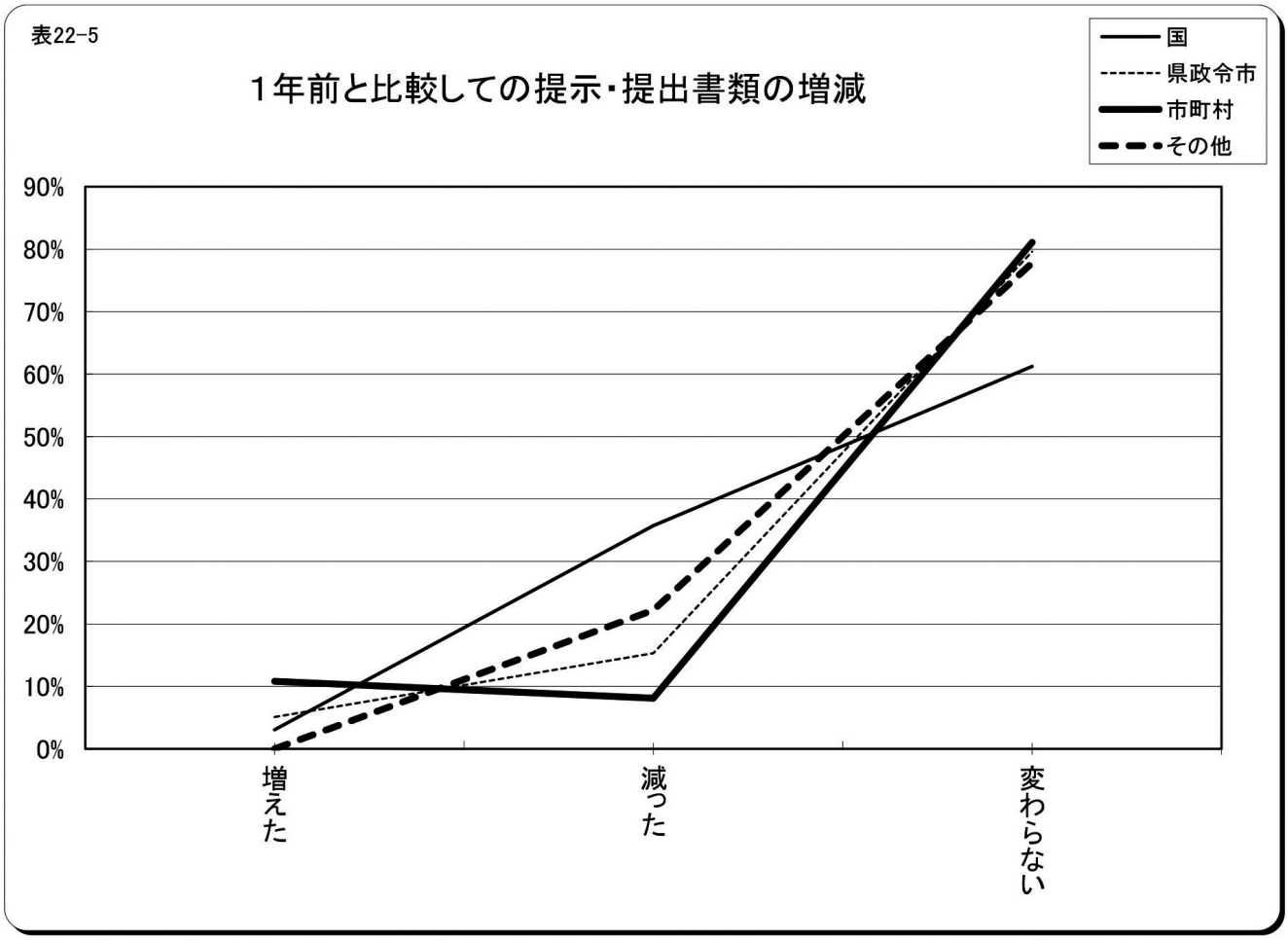
■国	・コンサル設計の不備をなくす	1
	・バックデータが必要無いようにする	1
	・安全にかかわる書類は自分の身を守る意味で必要であるが多すぎる	1
	・検査で求めない。	1
	・工事内容により必要度が変わるので発注者との打合せが重要と思われる。	1
	・工事毎に完成（中間）検査、設計変更資料の内容を明確にして、必要の無いものは作成しないようにする。	1
	・整備局、事務所の調査依頼を少なくするようにするしかないと思います。	1
	・提出書類簡素化	1
	・同一工種を含む隣接工事の場合、書類の様式や内容、協議内容を統一させられた	1

	・発注時の設計不備に伴う協議(受注者が行う照査項目)が多くならないように、発注者が設計成果品を照査し整合させて発注する。	1
	・発注者が現場に足を運ぶ頻度を多くして、ワンデーレスポンスを推進する。	1
	・発注者に課題を理解してもらうための資料であるから、監督員の理解度により異なるのは当たり前と思う。改善策としては、発注者が自ら理解度を高めてもらうしかない。	1
	・発注者の技術力や理解力の向上を図り，担当者による違いがないようにする。	1
	・発注者監督員の知識向上	1
	・発注者側の技術員が、内容を把握し作成する	1
	・プロセスチェックを行っている。安全書類等を工事検査時に持参しないように通達願いたい。	1
■県政令市	・監督員への細かな監督マニュアル作成及び公開	1
	・記載例以外の要求を取止める	1
	・協議事項が多すぎる。発注後の変更が多い。	1
	・国の補助工事の場合、協議事項を上役にうまく説明できないために多量の資料を請求される。現場状況にあった施工にするため現場把握していない上役にリアルタイムでネット通信で現場立会することにより早く対応してもらう。	1
	・最初にどの写真を使用するのかの打合せが不十分だったのではないか。	1
	・発注者として、現場がスムーズに着手または、進む様に対処して欲しい。	1
	・不要な打ち合わせをなくす。期日の短い打合せ時に大量な資料を要求しない（当日夜に打ち合わせを行い、翌日朝の打ち合わせで使う大量の資料の作成を要求するなど）。	1
	・無い　検査官により検査の仕方に違いがあり削ることができない	1
■市町村	・協議書等でとりあえずの書類が多い（必要でないかもしれないが一応提出して）	1
	・電子納品のみとする	1
■その他	・施工管理に対する資質も確認すべきと考える。	1
	・電子（IT）の活用を辞めて、昔のように紙のみを提出書類とする。	1

問22で以下に回答された方の「提出書類増減」に関する発注主体別統計
1-4. 発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない
1-5. 今のままで良い

提出書類の増減	国		県政令市		市町村		その他	
増えた	3	3.1%	5	5.1%	4	10.8%	0	0.0%
減った	35	35.7%	15	15.3%	3	8.1%	2	22.2%
変わらない	60	61.2%	78	79.6%	30	81.1%	7	77.8%
合計	**98**	**100.0%**	**98**	**100.0%**	**37**	**100.0%**	**9**	**100.0%**

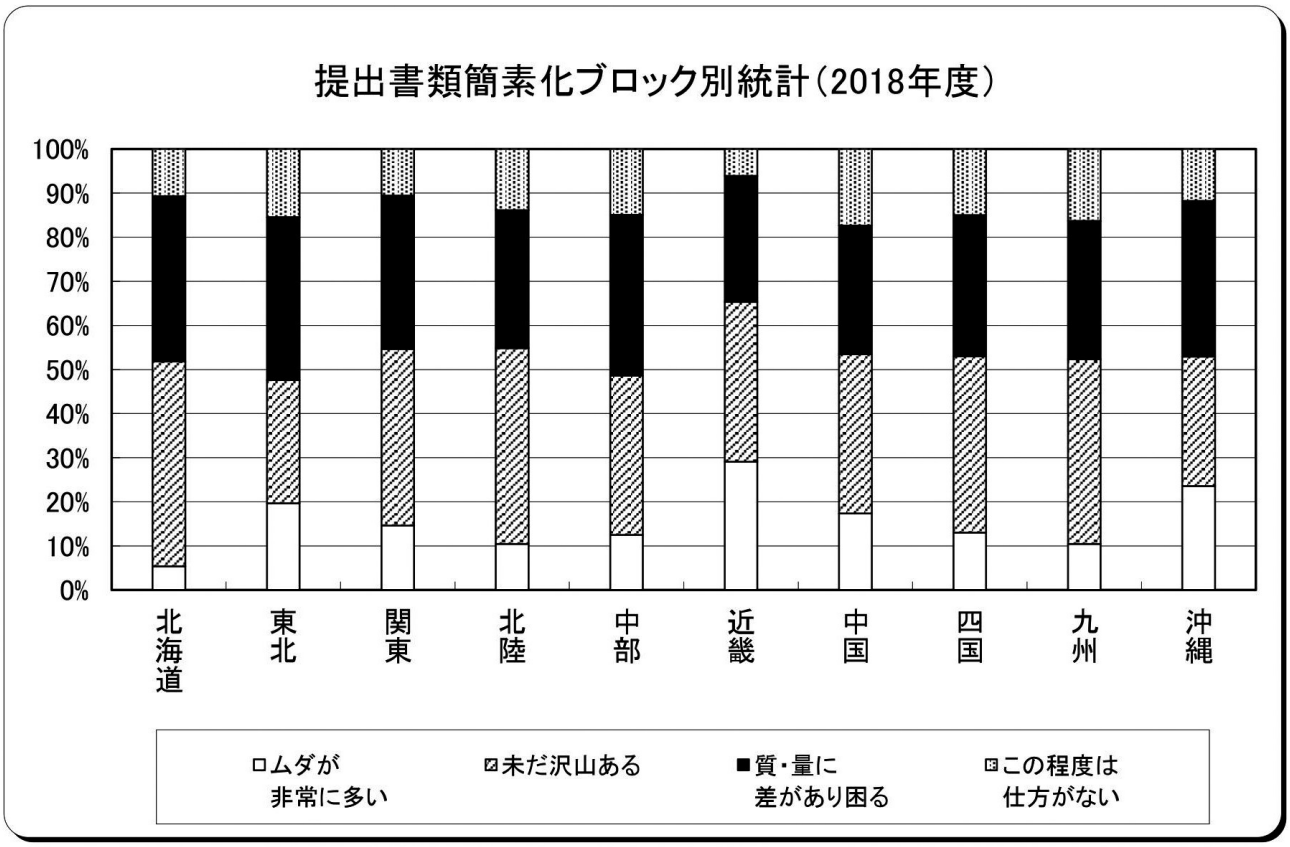
表22-5



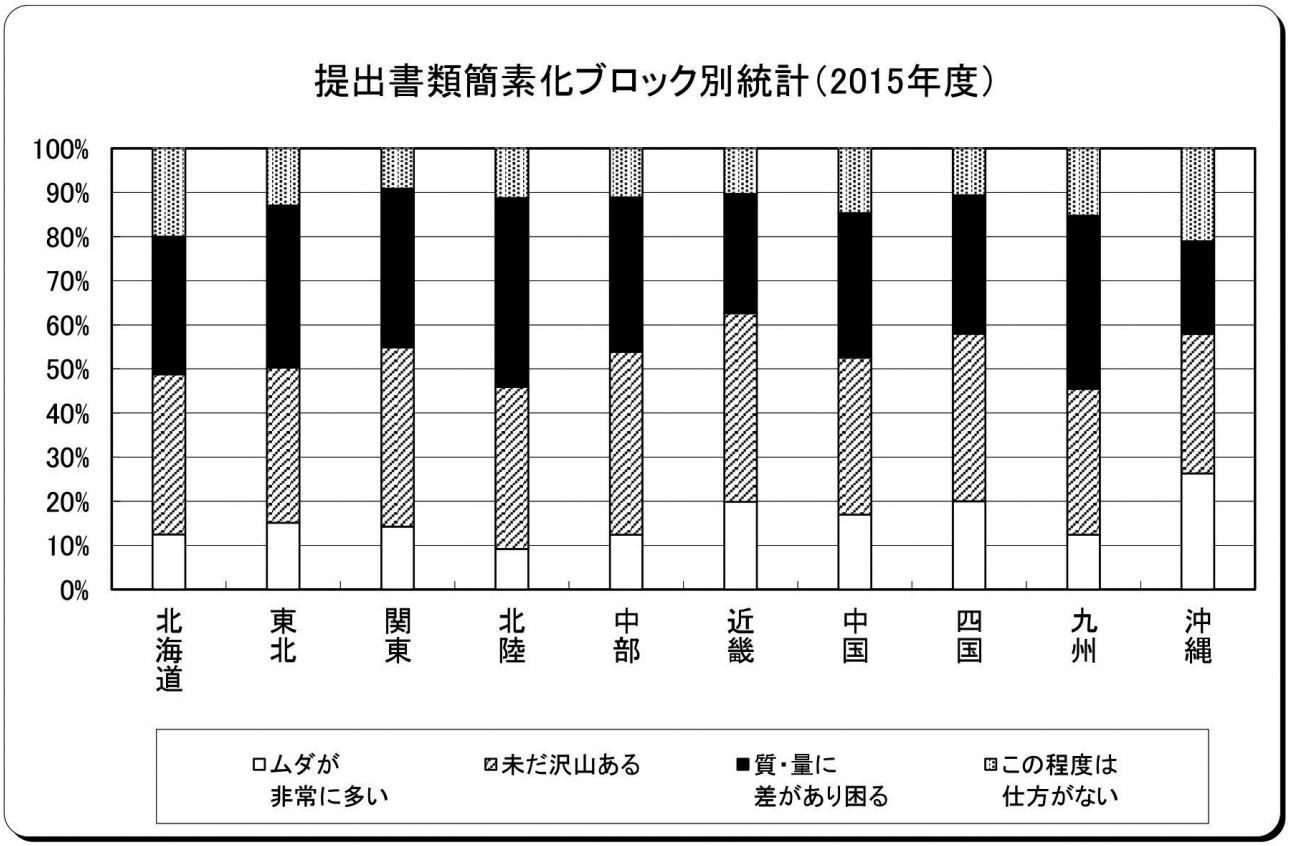
問22で以下に回答された方の「提出書類簡素化」に関するブロック別統計

1-1. 見直しされてなくムダが非常に多い
1-2. 近年簡素化が進んできたがまだ沢山ある
1-3. 同一発注機関でも発注者側監督員により質・量に差がある
1-4. 発注者側での見直しも進み、この程度は仕方がない

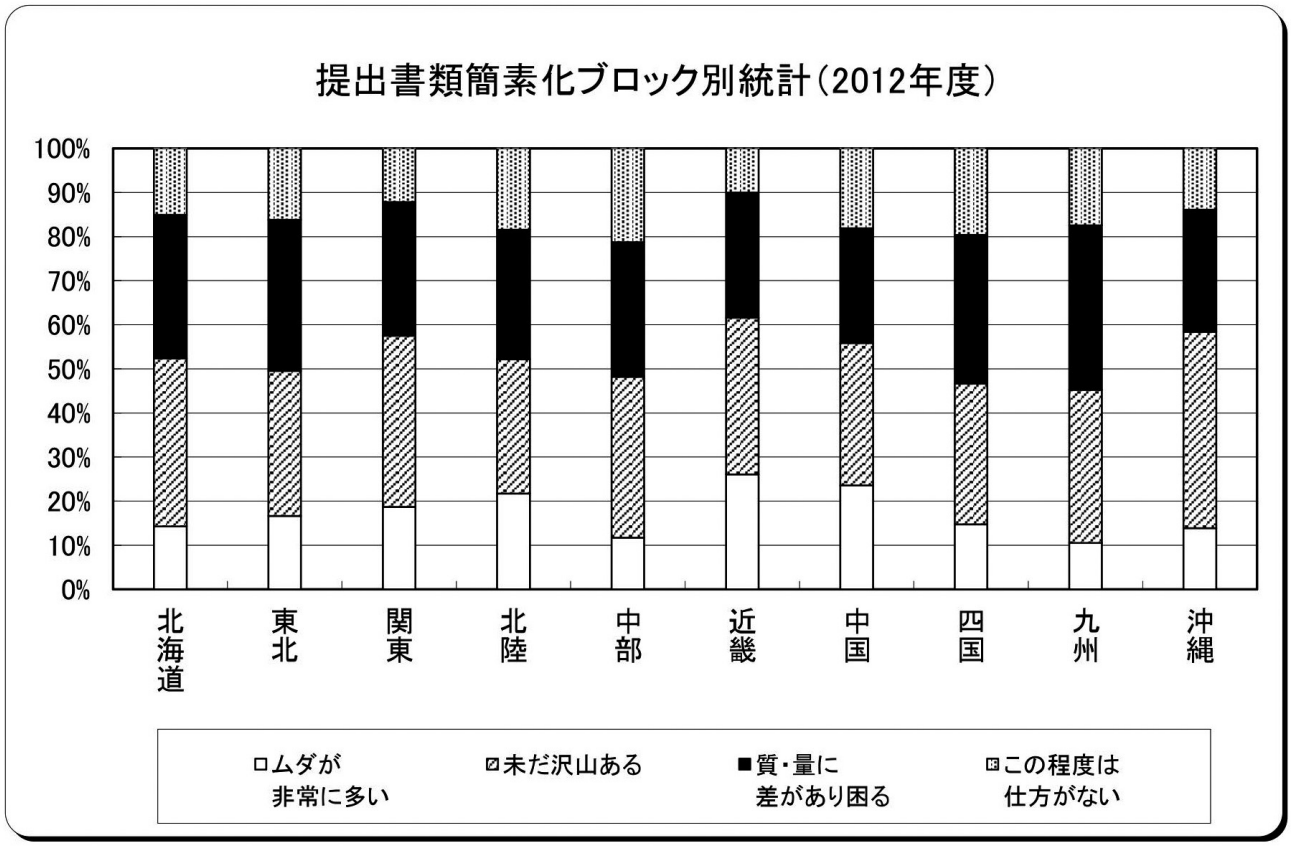
提出書類等の簡素化	2018年度								
	ムダが非常に多い		未だ沢山ある		質・量に差があり困る		この程度は仕方がない		合計
北海道	3	5.4%	26	46.4%	21	37.5%	6	10.7%	**56**
東北	33	19.6%	47	28.0%	62	36.9%	26	15.5%	**168**
関東	47	14.6%	129	40.1%	112	34.8%	34	10.6%	**322**
北陸	15	10.4%	64	44.4%	45	31.3%	20	13.9%	**144**
中部	26	12.5%	75	36.1%	76	36.5%	31	14.9%	**208**
近畿	57	29.1%	71	36.2%	56	28.6%	12	6.1%	**196**
中国	25	17.4%	52	36.1%	42	29.2%	25	17.4%	**144**
四国	13	13.0%	40	40.0%	32	32.0%	15	15.0%	**100**
九州	27	10.5%	108	41.9%	81	31.4%	42	16.3%	**258**
沖縄	4	23.5%	5	29.4%	6	35.3%	2	11.8%	**17**



提出書類等の簡素化	2015年度								
	ムダが非常に多い		未だ沢山ある		質・量に差があり困る		この程度は仕方がない		合計
北海道	10	12.5%	29	36.3%	25	31.3%	16	20.0%	80
東北	28	15.1%	65	35.1%	68	36.8%	24	13.0%	185
関東	42	14.2%	120	40.7%	106	35.9%	27	9.2%	295
北陸	9	9.2%	36	36.7%	42	42.9%	11	11.2%	98
中部	29	12.4%	97	41.5%	82	35.0%	26	11.1%	234
近畿	52	19.8%	112	42.7%	71	27.1%	27	10.3%	262
中国	30	16.9%	63	35.6%	58	32.8%	26	14.7%	177
四国	30	20.0%	57	38.0%	47	31.3%	16	10.7%	150
九州	44	12.4%	117	33.1%	139	39.3%	54	15.3%	354
沖縄	5	26.3%	6	31.6%	4	21.1%	4	21.1%	19



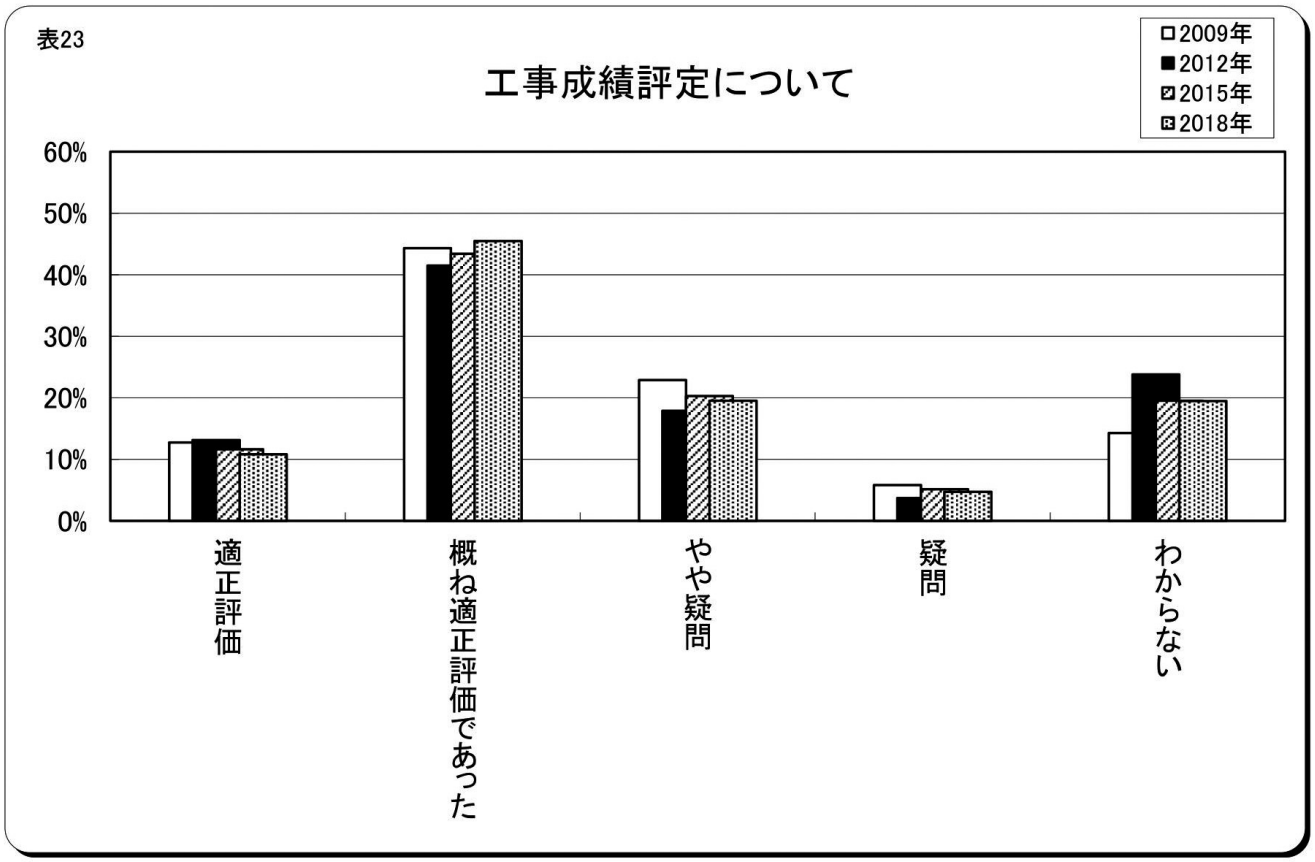
提出書類等の簡素化	2012年度								
	ムダが非常に多い		未だ沢山ある		質・量に差があり困る		この程度は仕方がない		合計
北海道	18	14.3%	48	38.1%	41	32.5%	19	15.1%	**126**
東北	34	16.7%	67	32.8%	70	34.3%	33	16.2%	**204**
関東	66	18.7%	137	38.8%	107	30.3%	43	12.2%	**353**
北陸	20	21.7%	28	30.4%	27	29.3%	17	18.5%	**92**
中部	33	11.7%	103	36.5%	86	30.5%	60	21.3%	**282**
近畿	99	26.1%	135	35.5%	108	28.4%	38	10.0%	**380**
中国	48	23.5%	66	32.4%	53	26.0%	37	18.1%	**204**
四国	24	14.7%	52	31.9%	55	33.7%	32	19.6%	**163**
九州	54	10.5%	179	34.8%	192	37.3%	90	17.5%	**515**
沖縄	5	13.9%	16	44.4%	10	27.8%	5	13.9%	**36**



問23. 貴方の担当した工事で、完成時に発注者側で行っている工事成績評定は、どうでしたか。

工事成績評定について	2009年		2012年		2015年		2018年	
適正評価	244	12.7%	472	13.1%	291	11.6%	231	10.8%
概ね適正評価であった	848	44.3%	1492	41.5%	1086	43.4%	970	45.5%
やや疑問	438	22.9%	643	17.9%	508	20.3%	417	19.5%
疑問	111	5.8%	133	3.7%	129	5.2%	101	4.7%
わからない	273	14.3%	856	23.8%	489	19.5%	415	19.4%
合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**

表23

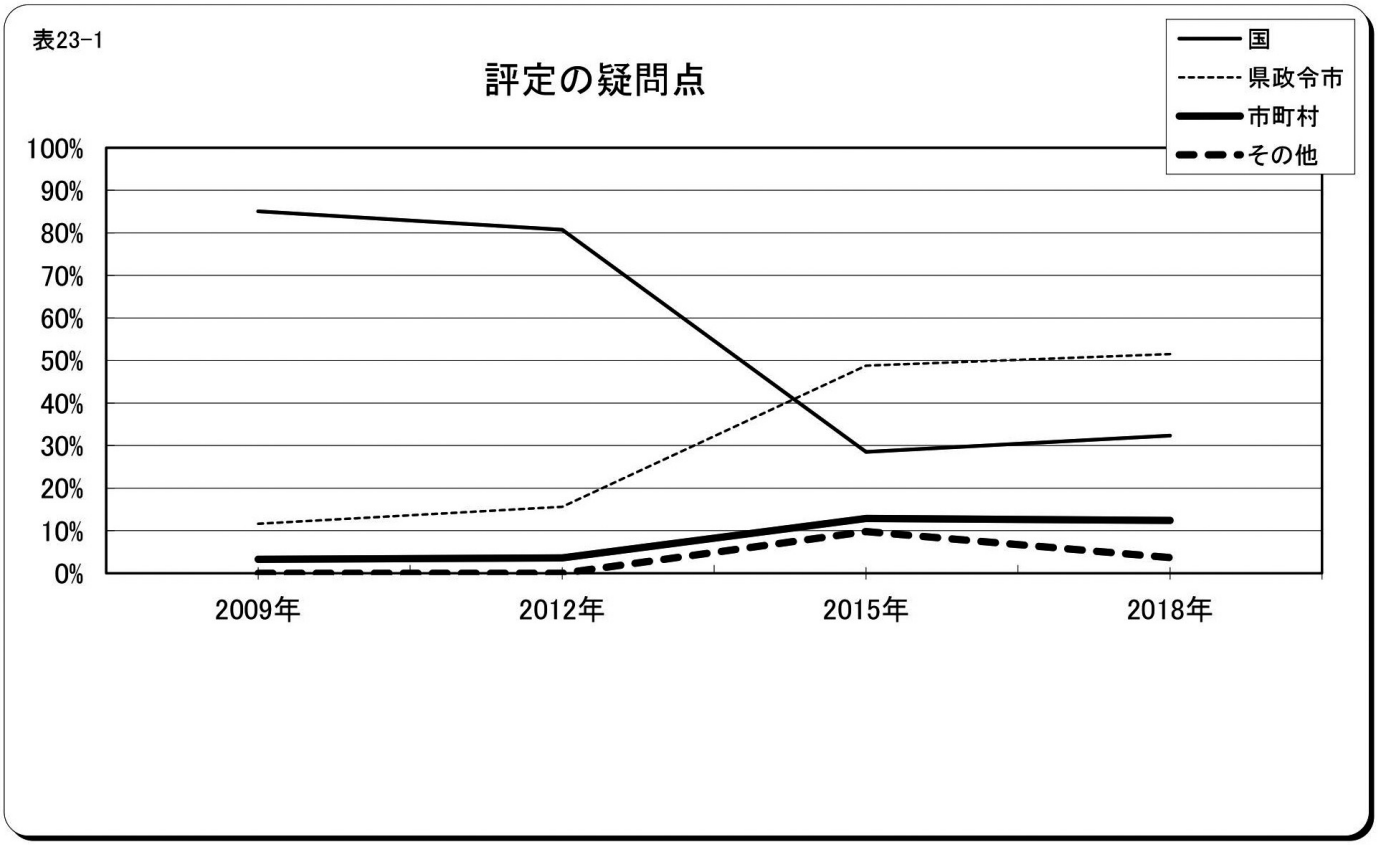


問23で以下に回答された方の「評定の疑問点」に関する発注主体別の経年変化

1. 適正評価
2. 概ね適正評価であった
3. やや疑問
4. 疑問

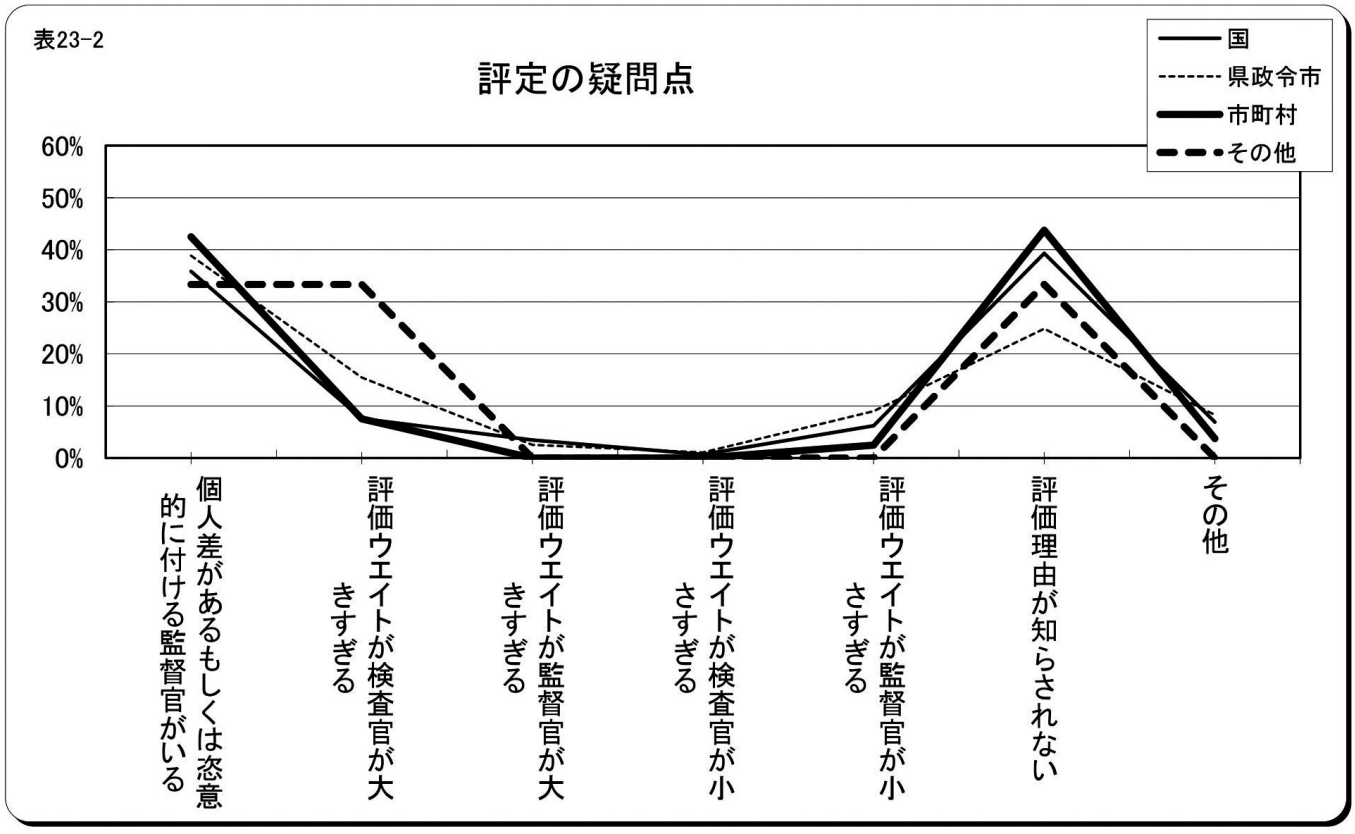
発注主体別	2009年		2012年		2015年		2018年	
国	1396	85.1%	2212	80.7%	620	28.5%	555	32.4%
県政令市	191	11.6%	428	15.6%	1060	48.8%	883	51.5%
市町村	54	3.3%	100	3.6%	280	12.9%	213	12.4%
その他	0	0.0%	0	0.0%	213	9.8%	63	3.7%
合計	**1641**	**100.0%**	**2740**	**100.0%**	**2173**	**100.0%**	**1714**	**100.0%**

表23-1



問23で以下に回答された方の「評定の疑問点」に関する発注主体別統計
3. やや疑問
4. 疑問

評定の疑問点	国		県政令市		市町村		その他	
個人差があるもしくは恣意的に付ける監督官がいる	52	35.9%	108	38.8%	34	42.5%	4	33.3%
評価ウエイトが検査官が大きすぎる	11	7.6%	43	15.5%	6	7.5%	4	33.3%
評価ウエイトが監督官が大きすぎる	5	3.4%	7	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
評価ウエイトが検査官が小さすぎる	1	0.7%	3	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
評価ウエイトが監督官が小さすぎる	9	6.2%	25	9.0%	2	2.5%	0	0.0%
評価理由が知らされない	57	39.3%	69	24.8%	35	43.8%	4	33.3%
その他	10	6.9%	23	8.3%	3	3.8%	0	0.0%
合計	145	100.0%	278	100.0%	80	100.0%	12	100.0%



問23-2 その他の回答

3．やや疑問を選択された方の回答

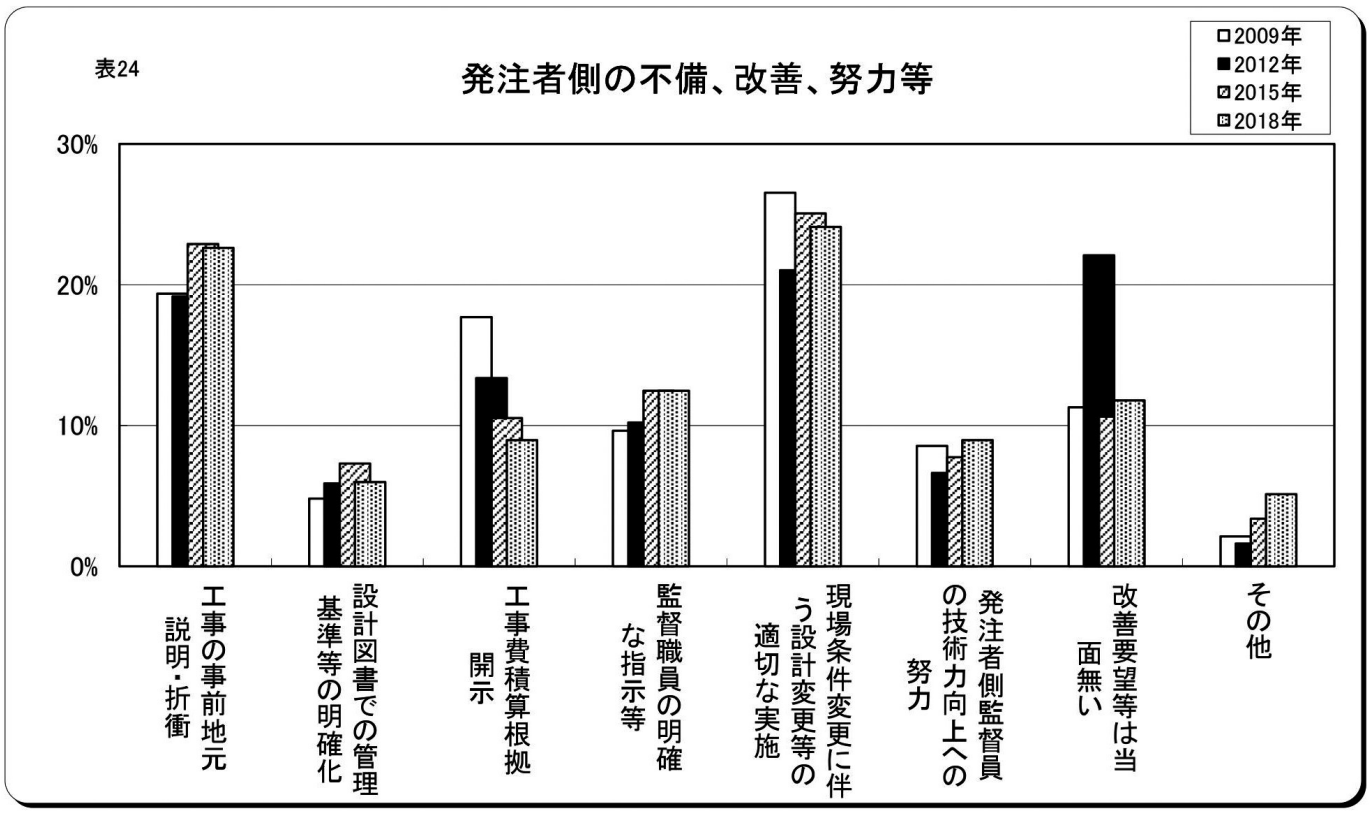
■国	・異動に伴い監督官が代わり評価してもらえなくなる	1
	・工事中に監督官の異動により、新任監督官への引継が十分ではなかったため。	1
	・年度変わりで主任監督官、監督官が異動となり、後任監督官への引き継ぎがなされてない	1
	・主任監督の点数が上に挙げた時減点され、81以下に抑えられそれからの調整が行われる。	1
	・週休二日制の配点について、通常の工事評定点（１００点）と別にプラス２点付くと思い苦労して週休二日制を行ったが評定欄がいつの間にか無くなった。発注者に問い合わせるとH29年度5月以降の契約から工程管理と創意工夫に分配されていると回答された。100点満点と102点満点では評価点に大きな差が出た。	1
	・全体的に調整されているように感じる。	1
■県政令市	・監督員の書類確認が不十分な為、適正な評価がされなかった。	1
	・監督官が立派だと現場もスムーズ、点数も良く、利益も出る。監督官が足を引っ張る人だと点数が悪く、現場もうまく進まず、利益も出ない。	1
	・検査官が監督員総括監督員の評価点を変更する	1
	・検査指導幹の主観が入っている場合がある。	1
	・工期の延長や障害物の対応等での苦労の割にむくわれない	1
	・施工計画書にて明示し、受理された規格値が検査時に反映されなかった。	1
	・請負金額が少額の場合、評価が低い。（検査実施前に検査官に忠告された）我々は、金額の大小にかかわらず、誠実に施工している。	1
	・全体点数ありきであり、各評価項目については逆算出しているように感じる	1
	・年々技術管理課の評価の仕方が変わっている。実際に監督員から調整していると言われた。	1
	・表彰を受ける点数ギリギリ未満で配点を調整される。	1
	・品質管理のまったく無い工事の評定	1
	・目標とする点数をとれた現場を見本にして（書類も含めて）、うまく施工出来たと思ったが、2点足らなかった。今後の対策が立てられない。	1
	・役所側の設計ミスでの 中止、設計変更に伴う評価が疑問である。	1
■市町村	・査定した結果より、少なかった。	1

4．疑問を選択された方の回答

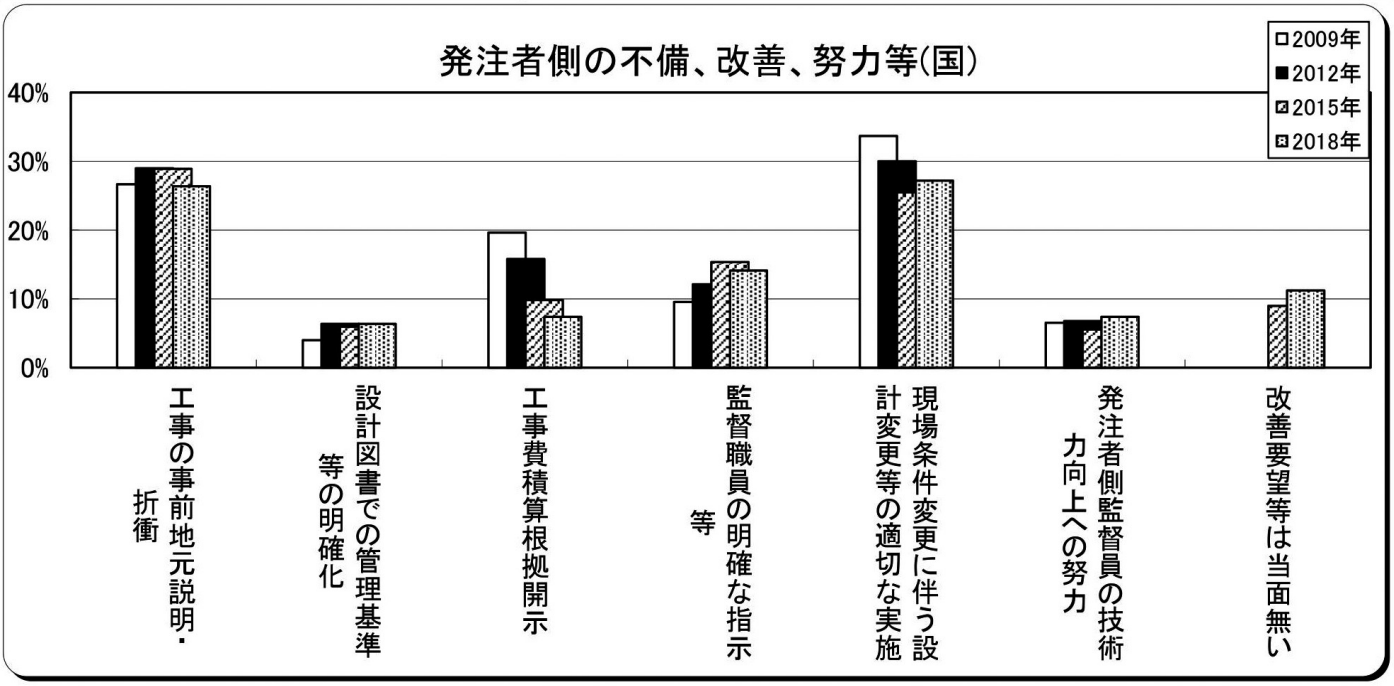
■国	・事故を起こした工事が表彰されている	1
	・絶対評価が基本であるのに、相対評価にて行っている。	1
	・同じ年度内で工事内容も似ている現場で８０点以上は同一企業からは連続して出ない。	1
	・評定前に決まっている	1
■県政令市	・検査官が業者や県の担当事務所の好き嫌いで点数を付けているようだ	1
	・現場より書類の検査になっている。	1
	・現場施工条件や難易度の割に工事特性、創意工夫、社会性等についての評定点が低い。	1
	・工事完了後に監督官の移動で次の監督官に変更後の検査であったので、どのように評価したのかがわからない。	1
	・自主評定点との差が大きすぎる	1
	・発注者調整不足で工期延伸、周辺クレーム等の不備を保身の為施工者の問題にすり替える。	1
	・表彰対象になるのがいやな監督員だから	1
	・評価する力量があるのか疑問	1
	・評価点は90点を超えていたが、県外業者はMAX89点と言われて、実際89点だった	1
	・優良技術者表彰の評価の一端に工事評点があるが、事務所毎の平均点が大きく違い、一定の事務所に表彰が偏ってしまう。	1
■市町村	・監督官が一度つけた点数を、検査官が訂正させている。（悪い方へ）	1
	・評価の基準が、曖昧で、なんとなく平均値くらいに収めた所が。	1

問24. 最近の工事施工の中で、発注者側の不備等が感じられ、今後、早期に改善・努力等して頂きたいものはありますか（2つ以内を選択）

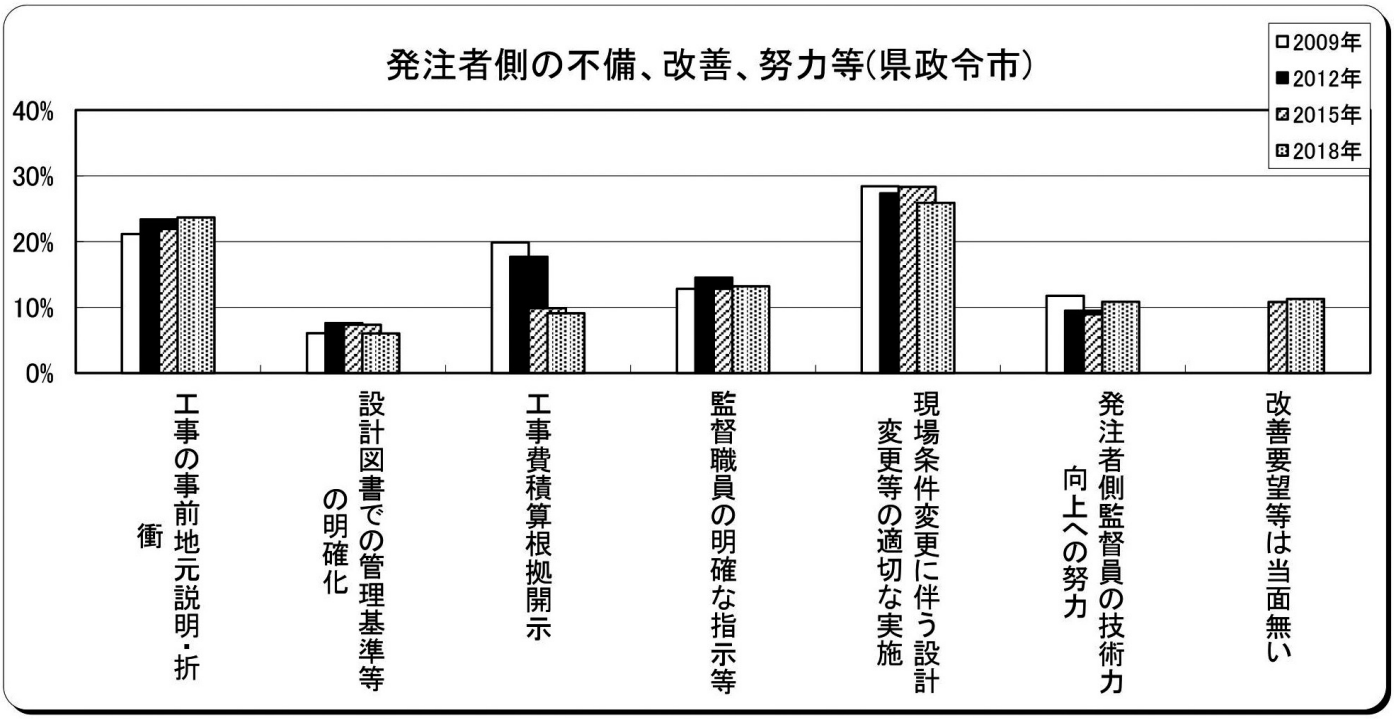
発注者側の不備、改善、努力等	2009年		2012年		2015年		2018年	
工事の事前地元説明・折衝	573	19.4%	952	19.2%	815	22.9%	689	22.6%
設計図書での管理基準等の明確化	142	4.8%	292	5.9%	260	7.3%	182	6.0%
工事費積算根拠開示	524	17.7%	664	13.4%	375	10.5%	273	9.0%
監督職員の明確な指示等	285	9.6%	507	10.2%	444	12.5%	380	12.5%
現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施	785	26.5%	1044	21.0%	892	25.1%	734	24.1%
発注者側監督員の技術力向上への努力	253	8.6%	329	6.6%	276	7.8%	273	9.0%
改善要望等は当面無い	334	11.3%	1097	22.1%	378	10.6%	359	11.8%
その他	63	2.1%	80	1.6%	120	3.4%	156	5.1%
合計	2959	100.0%	4965	100.0%	3560	100.0%	3046	100.0%



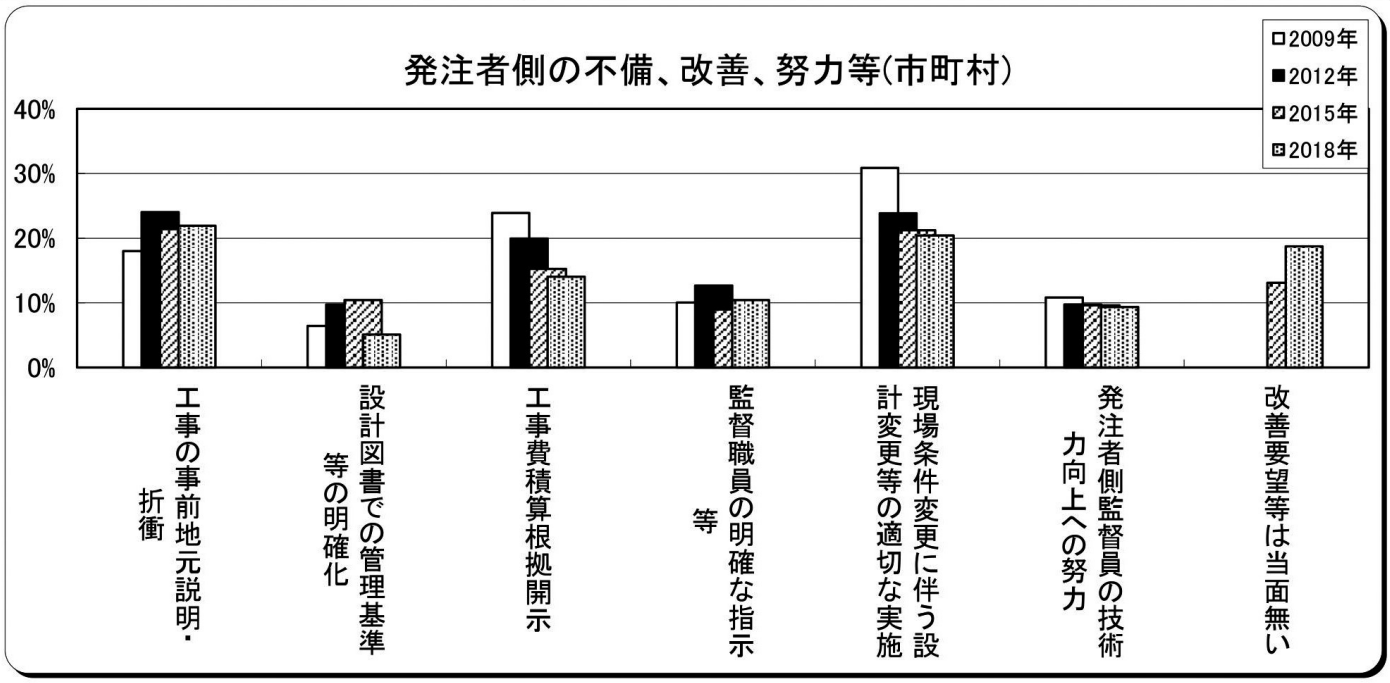
発注者側の不備、改善、努力等	2009年		2012年		2015年		2018年	
工事の事前地元説明・折衝	220	27%	292	29%	277	28.9%	228	26.4%
設計図書での管理基準等の明確化	33	4%	64	6%	57	5.9%	55	6.4%
工事費積算根拠開示	162	20%	159	16%	94	9.8%	64	7.4%
監督職員の明確な指示等	79	10%	122	12%	147	15.3%	122	14.1%
現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施	278	34%	302	30%	244	25.5%	235	27.2%
発注者側監督員の技術力向上への努力	54	7%	68	7%	53	5.5%	64	7.4%
改善要望等は当面無い	—	—	—	—	86	9.0%	97	11.2%
合計	826	100%	1007	100%	958	100.0%	865	100.0%



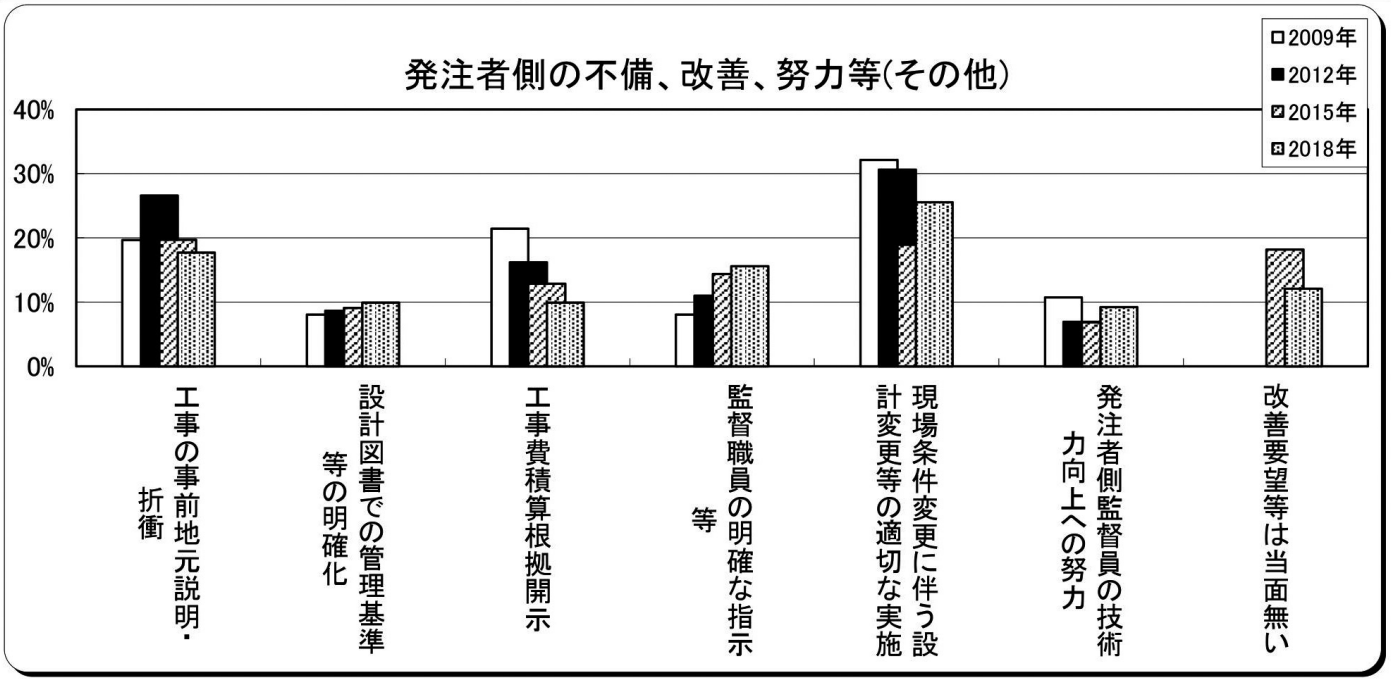
発注者側の不備、改善、努力等	2009年		2012年		2015年		2018年	
工事の事前地元説明・折衝	261	21%	449	23%	383	21.9%	330	23.7%
設計図書での管理基準等の明確化	75	6%	146	8%	128	7.3%	84	6.0%
工事費積算根拠開示	245	20%	340	18%	172	9.8%	127	9.1%
監督職員の明確な指示等	158	13%	279	15%	224	12.8%	184	13.2%
現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施	351	28%	525	27%	495	28.3%	361	25.9%
発注者側監督員の技術力向上への努力	145	12%	182	9%	156	8.9%	151	10.8%
改善要望等は当面無い	—	—	—	—	189	10.8%	157	11.3%
合計	1235	100%	1921	100%	1747	100.0%	1394	100.0%



発注者側の不備、改善、努力等	2009年		2012年		2015年		2018年	
工事の事前地元説明・折衝	70	18%	165	24%	129	21.4%	103	21.9%
設計図書での管理基準等の明確化	25	6%	67	10%	63	10.4%	24	5.1%
工事費積算根拠開示	93	24%	137	20%	92	15.3%	66	14.0%
監督職員の明確な指示等	39	10%	87	13%	54	9.0%	49	10.4%
現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施	120	31%	164	24%	128	21.2%	96	20.4%
発注者側監督員の技術力向上への努力	42	11%	67	10%	58	9.6%	44	9.4%
改善要望等は当面無い	—	—	—	—	79	13.1%	88	18.7%
合計	389	100%	687	100%	603	100.0%	470	100.0%



発注者側の不備、改善、努力等	2009年		2012年		2015年		2018年	
工事の事前地元説明・折衝	22	20%	46	27%	26	19.7%	25	17.7%
設計図書での管理基準等の明確化	9	8%	15	9%	12	9.1%	14	9.9%
工事費積算根拠開示	24	21%	28	16%	17	12.9%	14	9.9%
監督職員の明確な指示等	9	8%	19	11%	19	14.4%	22	15.6%
現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施	36	32%	53	31%	25	18.9%	36	25.5%
発注者側監督員の技術力向上への努力	12	11%	12	7%	9	6.8%	13	9.2%
改善要望等は当面無い	—	—	—	—	24	18.2%	17	12.1%
合計	112	100%	173	100%	132	100.0%	141	100.0%



問24 その他の回答

8. その他を選択された方の回答

・ 設計照査を行うと、当初設計の不備が多く見受けられる。設計ができた段階での発注者側の照査確認が必要と思います。	9
・ 設計図書の内容（工法・施工範囲・歩掛り等）が実際の現場条件にそぐわない点が多く、施工前に協議変更が必要な項目が多すぎる。設計図書の精度を向上させてほしい。	5
・ 他官庁との協議（用地・伐採）が完了してから工事発注しない物件があるので改善を願う。	3
・ コンサル成果を、発注前にもう少し細部まで照査してほしい。	2
・ ダミー発注が多く、受注してからの調査や測量及び設計と数量計算などに時間を取られ、工事着手が遅れる。	2
・ 概数発注が多く設計数量等がすぐ提示されなく、資料の中から自分で探さなければならない。	2
・ 監督員によって指示が異なる	2
・ 設計詳細が不明瞭であったり、コンサルの計画に無理がある場合がどの発注者でも見受けられる。“設計図書の照査”の一言で済まされてしまうが、施工会社へ時間・費用の負担や責任について重く感じている。	1
・ スムーズに現場に入りたい	1
・ 正確な設計書の作成。コンサル会社から提出された書類を確認する必要がある。	1
・ 意見等を言っても改善されない。	1
・ 下請け契約日や下請契約工期の設定期日については、営業担当が動いた時点で賃金が発生するので、発注者資料提出する前に契約・着手日が設定されることを理解していただきたいと思います。	1
・ 下請工事が多く発注者と直接折衝する機会がない	1
・ 仮設工の設計不備、特に水替工や敷鉄板などの必ずなければならないものに対して、あまりにもズサンな設計や数量の計上方法であり、改善していただきたい。また、担当者と協議しても仮設工という事で、工事費の計上を嫌がる。	1
・ 概算設計図書による発注で、その後の正規設計図書の遅れ、及び設計者からの照査回答の遅れ	1
・ 完全に発注者側の対応不足による着手できない状況であったが、状況説明や今後の対応説明なども不足、また打合せの場で、横柄な態度もあった。	1
・ 現場の状況が設計図書と異なることにより工事製作物への影響が大きく、そのままでは工事が始められないこと。発注をかけるときにはそのような問題はほぼほぼ無いようにしてほしい。（絶対なことはないので、突発的なものは仕方なし）	1
・ 現場条件変更時等の早急な対応	1
・ 公告時すでに工期が厳しい	1
・ 工期延期に伴う費用増加に対する変更	1
・ 工事の内容を理解しておらず、無駄な書類作成を要求される。	1
・ 工事箇所により他官庁の許可申請が必要な工事において、認可が遅く、契約後、数か月着手出来ずに技術者が拘束され、他工事の入札に参加出来ないことがありました。発注予定等は理解しておりますが、やはり改善をしていただきたいと思います。	1
・ 工事開始に必要な許可申請が完了していないことが施工の直前になって発覚し、開始が数か月遅れることになった。	1
・ 工事受注後に大幅な設計変更があり、着手が２ヶ月遅れています。また、他現場では、工事受注後、２万m3の盛土が１万m3の数量減となり、工事受注を後悔しています。	1
・ 工事成績評定点における創意工夫の加点要素の公開	1
・ 工事担当者の力量不足と、設計変更時現場を見ない上司に言われたままの回答。又積算ミスを指摘し認めているが、設計担当をかばい、最終的に認めてくれない。	1
・ 工事発注後地元関係者との打合せ・説明会・折衝など努力して頂いています。また現場条件変更に伴う設計変更についても適切に実施されています。	1
・ 工事発注時の設計及び計画	1
・ 材料立会を自主検収にしてほしい	1

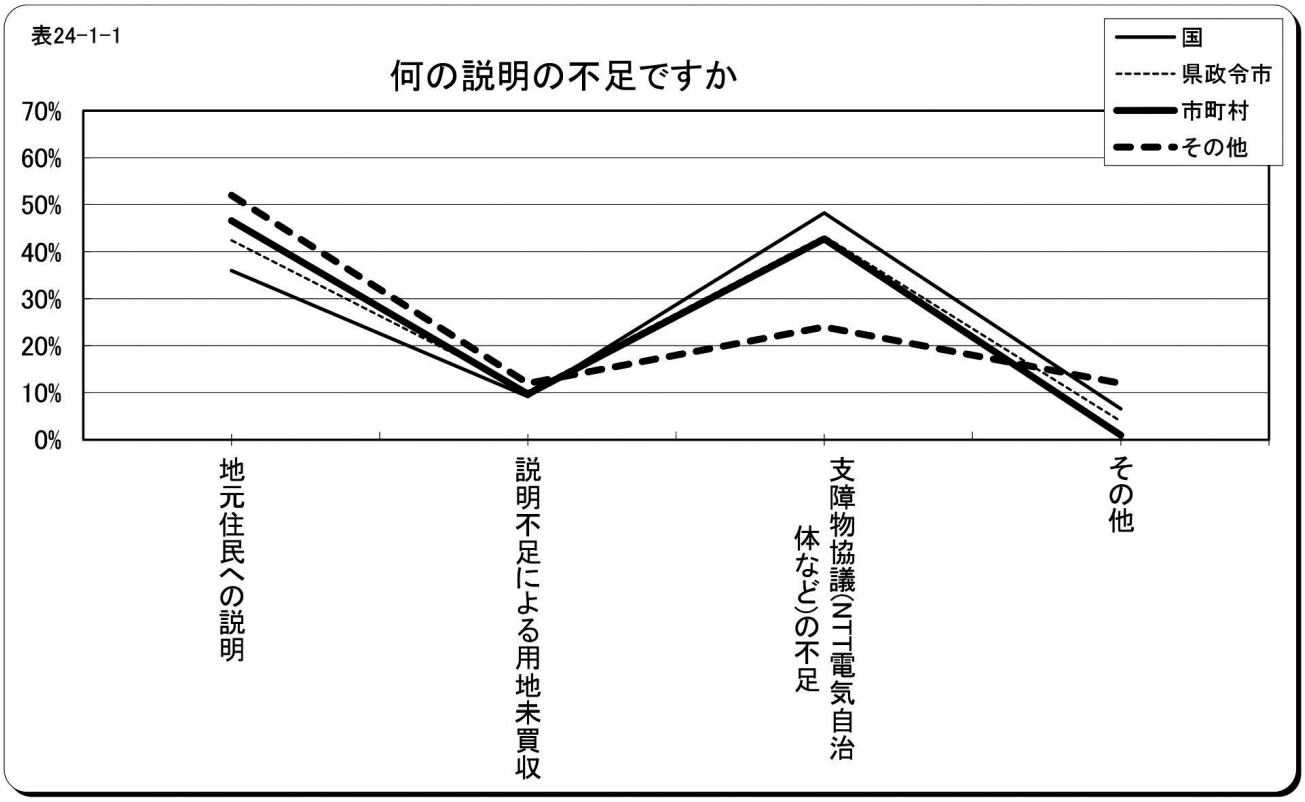
・ 事業全体の各工事の工程の調整が未熟なための、工程の遅れや付随する問題が生じたこと。要するに、マスタープランの考え方が、発注者側にないことが、最大の問題で、その問題点を理解できてない受注者側にも問題がある。双方の知識や経験が未成熟。	1
・ 事務所(機関)によって多少ではありますが、作成する書類が異なるため、請負当初は修正等に時間がかかってしまう。	1
・ 受注してもすぐに現場に着工できない場合がある。	1
・ 職員の人間性。わがまま、見下し等、酷い職員がいる。	1
・ 水道施設既設改修	1
・ 設計がコンサル任せで、監督員が理解できていない。	1
・ 設計が不十分で施工者による設計協議をせざるを得なかった。	1
・ 設計者が設計内容（図面の不備等）に対し瑕疵責任を負うようにしていないため、無責任な設計が最近増えている。　明らかな図面の間違いや構造上の不備については設計を行ったコンサルに瑕疵責任として修正図面の作成及び構造計算のやり直しを義務とするべき。	1
・ 設計内容と現場との相違。設計内容が実際現場状況では不可能な内容にて設計されている事が多いためその改善策の検討等による受注業者の負担が大きい。	1
・ 設計不備による手直しを施工した。費用について、かかった費用の半分程度しか見てくれなかった。	1
・ 設計変更とすべき項目を、施工者側の技術提案として処理される状況を感じます。提案を行った施工者側の落度ではありますが、そうせざるを得ない状況もあると感じます。そのあたりの適正な見直しを望みます。	1
・ 設計変更の都度、積算書の構成が全体的に変わり、最終的な数量の根拠明示も無く、最終数量のチェックや確認に非常に苦労した。	1
・ 担当官は法律(上司あるいはその上の者)の要求事項に従って職務を果たしているので、不満を述べても仕方がない。	1
・ 電柱、Ｎｔｔ移設　地元改良区からの圧力	1
・ 年度変わりの異動時に引継ぎが不十分　監督員が病欠で長期離脱による引継ぎの不備　上役が工事を把握できていない	1
・ 年度末の駆け込み工事	1
・ 発注者側から提示、発行される文書が遅い。こちらの書類作成、現場着工が遅れる。	1
・ 発注者側による工期の延期	1
・ 発注者側の指示が不明確。現場への理解に欠ける。	1
・ 発注者側の事情により工期延長になる場合でも中止命令等の処置を早急に出してもらえない。	1
・ 発注者側の組織間での連絡の不備	1
・ 発注図面精度が低い事が多々ある（特に支障物物件が図面に明記なし、且つ、数量に記載されていない事が多く、現場調査の段階で受注者側が発見し、それに対して所有者調査・打ち合わせをしたり支障物の図面作成、数量調書作成等の作成に時間を要する）	1
・ 表彰等に関し、大手企業及び常連会社が持ち回りみたいに受賞し一般企業やたまに受注する業者は対象にならない。	1
・ 分離発注が多く、監督員側でまとめきれていない。	1
・ 変更・協議等への早期の回答	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方の「説明不足の内容」に関する発注主体別統計

1. 工事の事前地元説明・折衝

説明不足	国		県政令市		市町村		その他	
地元住民への説明	82	36.0%	140	42.4%	48	46.6%	13	52.0%
説明不足による用地未買収	21	9.2%	34	10.3%	10	9.7%	3	12.0%
支障物協議(NTT電気自治体など)の不足	110	48.2%	143	43.3%	44	42.7%	6	24.0%
その他	15	6.6%	13	3.9%	1	1.0%	3	12.0%
合計	228	100.0%	330	100.0%	103	100.0%	25	100.0%

表24-1-1



問24-1-1 その他の回答

1．工事の事前地元説明・折衝不足を選択された方の回答

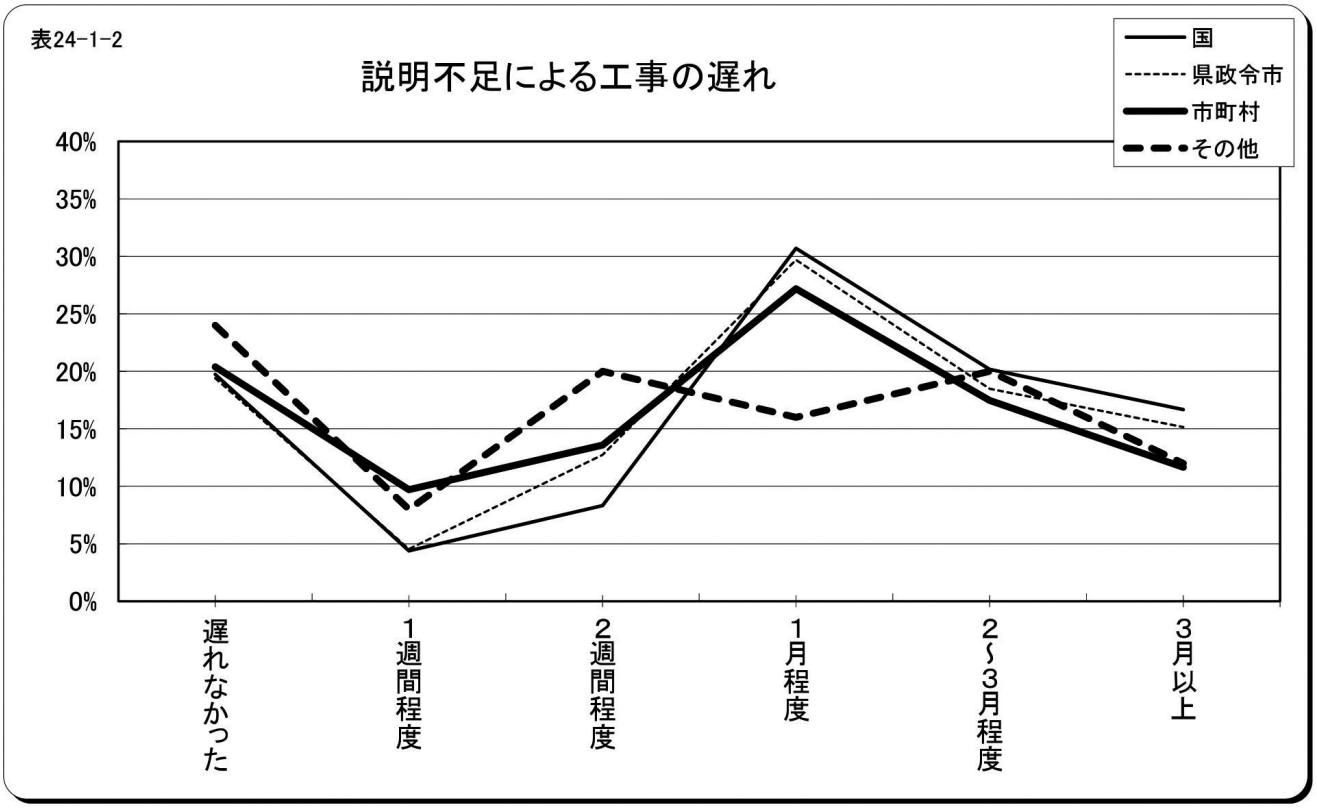
■国	・河川協議、占用物件の移設、地元協議	1
	・関係団体（岸壁使用者、漁業組合）	1
	・漁協関係者の言いなりになりすぎ	1
	・契約後、すぐに現場の着工が出来ないまま発注されることが多い。	1
	・暫定発注による受注後の設計照査	1
	・施工手法の確立	1
	・地元説明会を実施しないと現場着手できないため、工事工程・現場経費等の負担あり	1
	・役所間協議	1
	・用地未買収なのに特記仕様書は問題ないと書いている。当初図面・数量も変更なし。本工事では未施工になった。	1
	・河川協議等の未実施、地元住民への未説明	1
	・工事用地の協議	1
	・他工事との調整	1
	・土捨場	1
	・米軍との折衝がタイムリーでない	1
■県政令市	・コンサル（設計事務所）との折衝、またはコンサルが下請けへ丸投げ	1
	・河川協議	1
	・工事を発注してから、支障木等の入札を行っており、発注の順番が逆。おかげで、２～３ケ月着手できなかった。	1
	・工事受注後に設計の大幅変更、他工区との工程の調整について	1
	・仕様書にない規格について、施工途中での設計の考え方の変更(隔壁のサイズ修正)	1
	・事前家屋調査	1
	・出水期間を含んだ発注工事の工期の設定	1
	・設計変更予定の指示	1
	・設備の停止可否・関連他工事との事前調整	1
	・鉄道事業者との協議	1
	・道路占用に関する折衝不足	1
	・別の役所への書類の未提出	1
	・養浜場所についての協議	1
■市町村	・林道工事におけるルート変更	1
■その他	・関係省庁への説明不足	1
	・占用者及び管理者との協議	1
	・道路管理者	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方の「説明不足による工事の遅れ」に関する発注主体別統計

1. 工事の事前地元説明・折衝

工事の遅れ	国		県政令市		市町村		その他	
遅れなかった	45	19.7%	64	19.4%	21	20.4%	6	24.0%
1週間程度	10	4.4%	15	4.5%	10	9.7%	2	8.0%
2週間程度	19	8.3%	42	12.7%	14	13.6%	5	20.0%
1月程度	70	30.7%	98	29.7%	28	27.2%	4	16.0%
2～3月程度	46	20.2%	61	18.5%	18	17.5%	5	20.0%
3月以上	38	16.7%	50	15.2%	12	11.7%	3	12.0%
合計	228	100.0%	330	100.0%	103	100.0%	25	100.0%

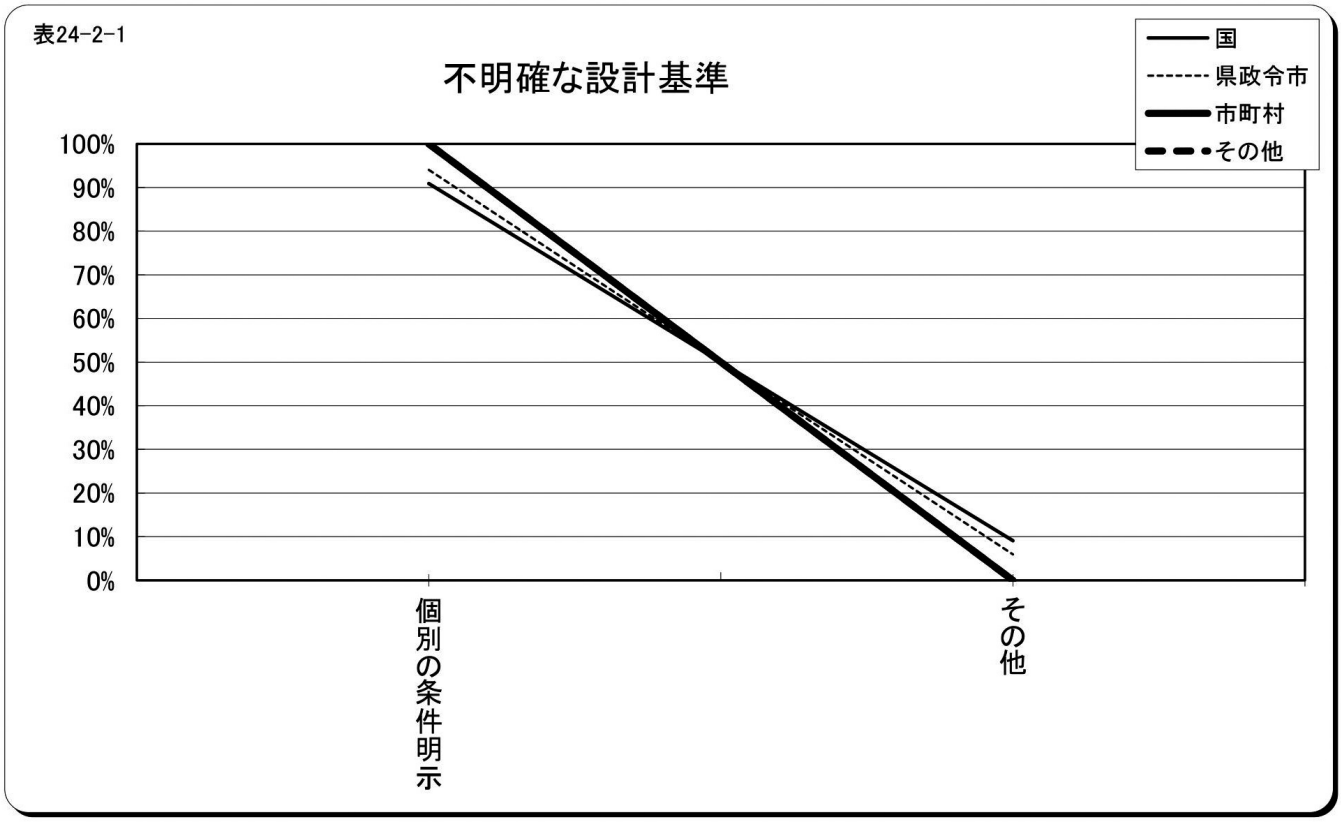
表24-1-2



問24で以下の発注者の不備を感じた方の「不明確な設計基準」に関する発注主体別統計
2. 設計図書での管理基準等の明確化

不明確な設計基準	国		県政令市		市町村		その他	
個別の条件明示	50	90.9%	79	94.0%	24	100.0%	14	100.0%
その他	5	9.1%	5	6.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	55	100.0%	84	100.0%	24	100.0%	14	100.0%

表24-2-1



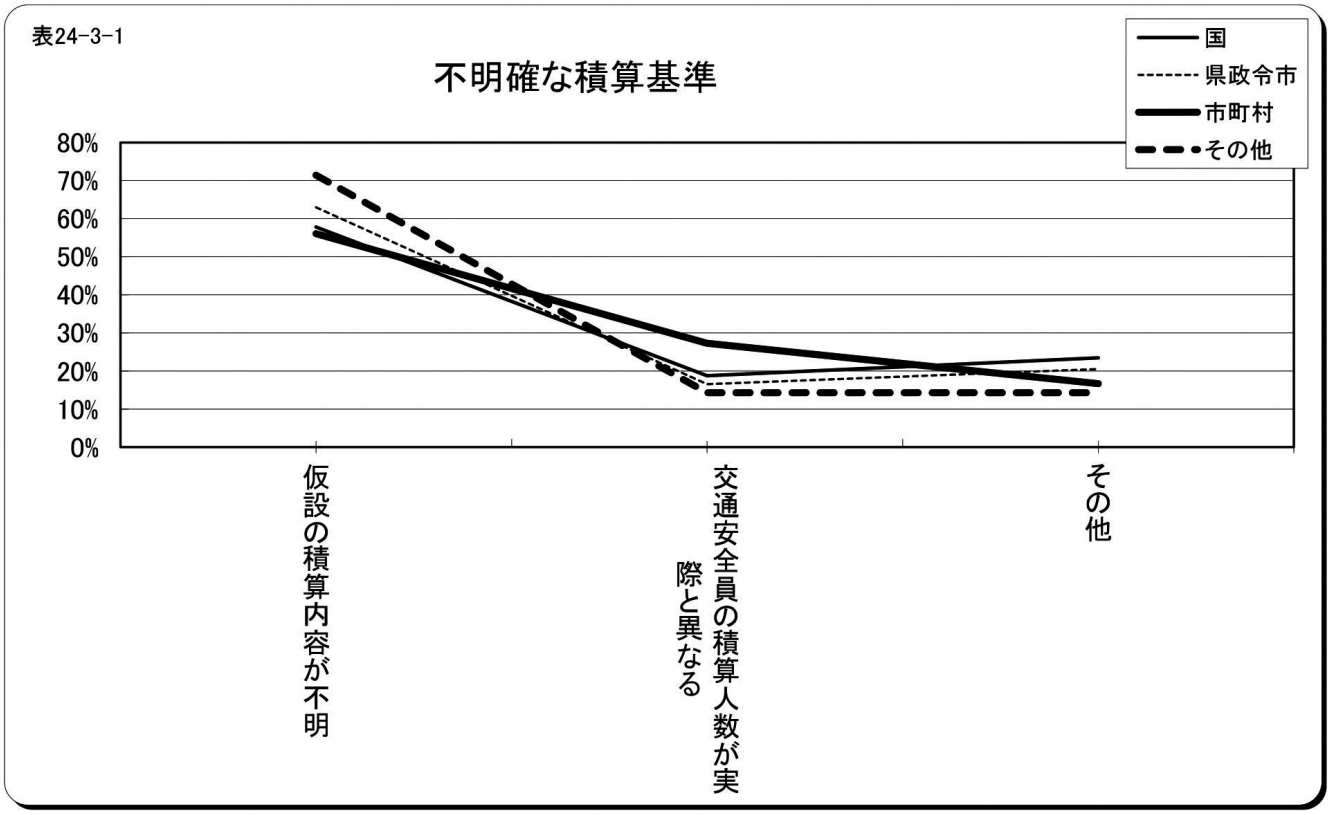
問24-2-1 その他の回答
2. 設計図書での管理基準等の明確化を選択された方の回答

■国	・ICT土工等のバラツキ判断基準(80%,50%)の明確な基準数値	1
	・基準点が正確で無くどれを使うのか決定するのに時間を要した	1
	・現地と設計の相違が非常に大きい	1
	・工期設定	1
	・設計図面、計算書等の不備・間違いが多い	1
■県政令市	・ダスト舗装工の施工仕様及び管理基準	1
	・図面関係	1
	・耐震補強工事に伴う出来形・品質管理基準	1
	・地盤改良強度	1
	・必須管理項目を明確に特記仕様書に明記してもらいたい。	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方の「不明確な積載基準」に関する発注主体別統計
3. 工事費積算根拠開示

工種	国		県政令市		市町村		その他	
仮設の積算内容が不明	37	57.8%	80	63.0%	37	56.1%	10	71.4%
交通安全員の積算人数が実際と異なる	12	18.8%	21	16.5%	18	27.3%	2	14.3%
その他	15	23.4%	26	20.5%	11	16.7%	2	14.3%
合計	**64**	**100.0%**	**127**	**100.0%**	**66**	**100.0%**	**14**	**100.0%**

表24-3-1



問24-3-1 その他の回答

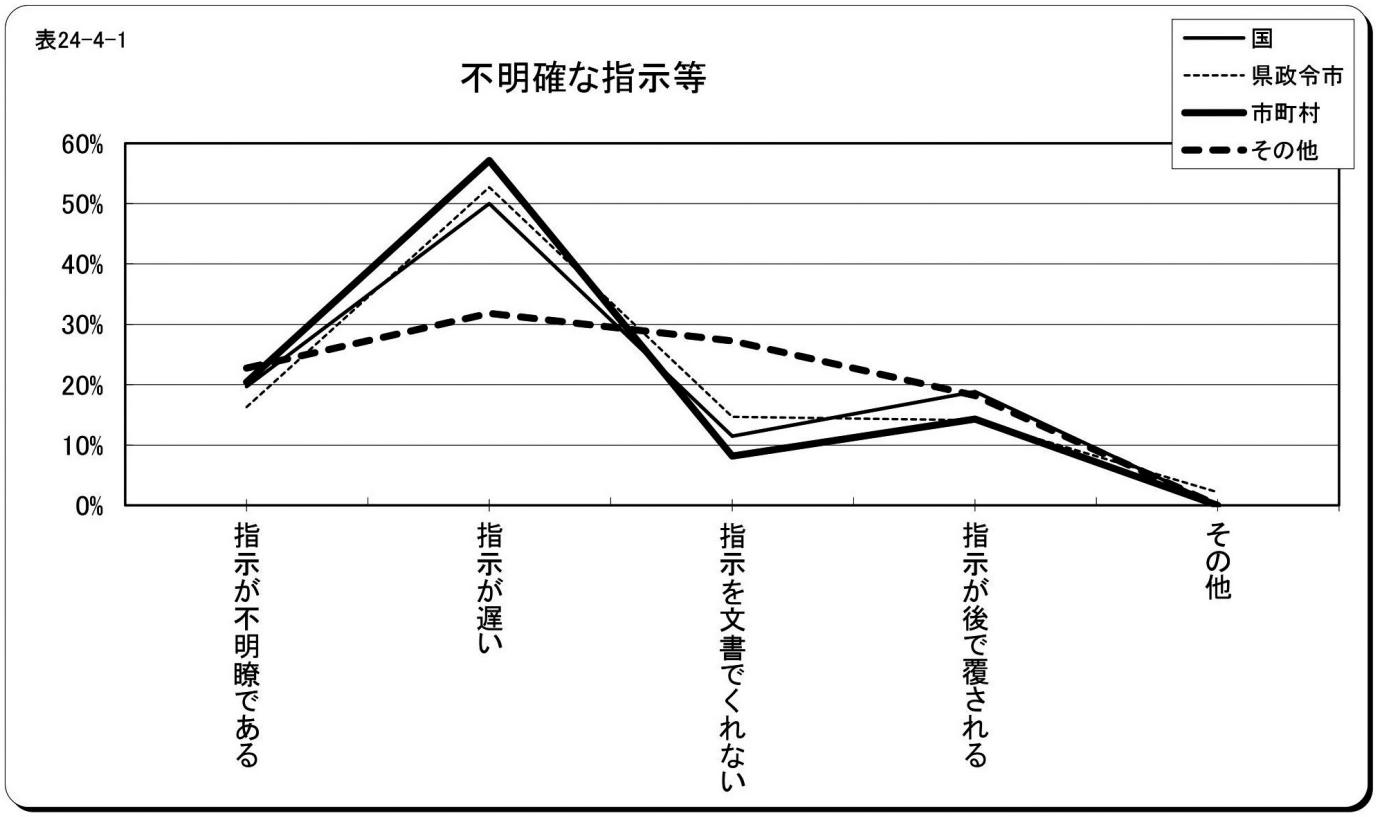
3. 工事費積算根拠開示を選択された方の回答

■国	・概算数量発注となっており、当初設計時の数量算出根拠が不明	1
	・見積等で採用したと思われる材料単価が不透明	1
	・公表されていない施工単価	1
	・鋼管矢板工	1
	・材料単価等の根拠が分からないものがある	1
	・積算基準から外れた急速施工の積算根拠	1
	・特殊な材料費等	1
	・標準歩掛に無い工種を増工した場合、変更契約まで下請け契約が妥当であるか解らない	1
	・標準歩掛以外の見積歩掛採用と、市場単価以外の見積単価採用の開示	1
	・包括で契約したときのレベル2以上の設計変更時の落札率の掛け方が不明。	1
	・防水工	1
	・労務、機械、材料の積上げで積算する場合において、機械賃貸料金に合わせて消費燃料費が発生するが、機械賃貸料金しか積算で計上してくれない。	1
	・資材単価	1
	・土木工事	1
■県政令市	・ｽﾘｯﾌﾟﾊﾞｰの設計単価がおかしい	1
	・すべてにおいて、明確にしてほしい。	1
	・遠隔地での資材価格について「特別調査価格」の名称において公示されていなかった	1
	・仮設の考えが甘く、現場と合わない	1
	・現場状況に応じた設計積算	1
	・港湾工事のジャケット製作が1式だった	1
	・鋼矢板の圧入で、油圧圧入機の解体据付歩掛のみラフテレーンクレーンの規格を変更する場合がある。	1
	・材料	1
	・仕様書の設計が現場を反映していない	1
	・資材数量が、施工パッケージになっていてわかりずらい。	1
	・浄水場施設	1
	・数量・図面が実態と合っていなくても設計変更対象にならない場合が多い。仮設も不明瞭。	1
	・積算項目と特記の整合性が無かった	1
	・積算根拠が不明瞭であり、同様の別工事においてそれぞれ別々な積算がされているため違算になっている。	1
	・設計価格を見積もり算出とした工種について質問書の一切をを受け付けない旨が明示されていた。部材寸法も不明であったため通常の積算を行えない内容であった。	1
	・設計書の明記の仕方が標準積算の書き方と違う。	1
	・設計通りに施工する場合、現地の掘削・埋戻しが発生するが変更として認められなかった（当初未計上）	1
	・代価表・特記仕様書などに詳細条件が記されていない	1
	・単価が異なる	1
	・電気工事材料について、設計照査となる項目でも当初より一式計上となり、設計内容に不備があったとしても発注額の増減はしないとの方針であった。	1
	・道路標示　矢羽を平米単価で積算	1
	・特殊工事（後打ちアンカー等）	1
	・特調の材料単価の公表	1
	・入札前の質問に明確に答えてくれた。	1
	・廃棄物の場内処分費	1
	・歩掛りがないもの（見積徴収のもの）見積りにて単価採用したものは開示してほしい。	1
■市町村	・機器単価、工数	1
	・経験不足の監督員によるすべての設計。意味不明の数量。独断での歩掛の使用。	1
	・合算経費　考え方	1
	・材料の見積価格	1
	・資材単価の見積もり、製品名・製造業者名が不明。	1
	・積算にない一式表示された工種の詳細項目内容	1
	・積算価格に開きがあった場合の確認の手段がないため	1
	・設計数量の根拠資料	1
	・追加変更を認めたがらず、施工承諾にされる	1
	・二次製品やｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞの材料費	1
	・歩掛の根拠	1
■その他	・土配図の提供なし	1
	・歩掛り根拠が不明	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方の「指示の不備の内容」に関する発注主体別統計
4. 監督職員の明確な指示等

不明確な指示等	国		県政令市		市町村		その他	
指示が不明瞭である	24	19.7%	30	16.3%	10	20.4%	5	22.7%
指示が遅い	61	50.0%	97	52.7%	28	57.1%	7	31.8%
指示を文書でくれない	14	11.5%	27	14.7%	4	8.2%	6	27.3%
指示が後で覆される	23	18.9%	26	14.1%	7	14.3%	4	18.2%
その他	0	0.0%	4	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
合計	122	100.0%	184	100.0%	49	100.0%	22	100.0%

表24-4-1



問24-4-1 その他の回答
4. 監督職員の明確な指示等を選択された方の回答

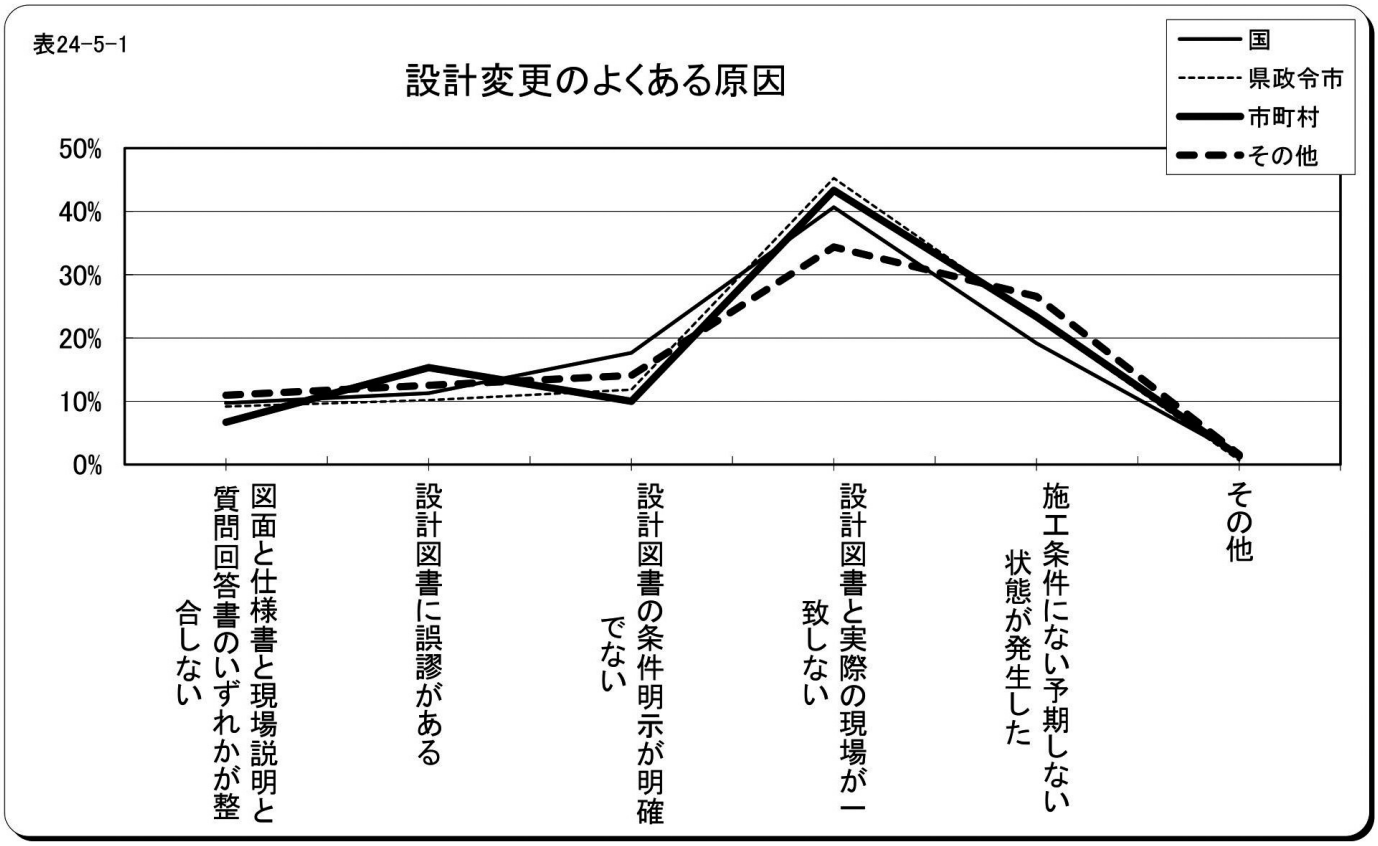
■県政令市	・監督員が個々にそれぞれ指示が異なる	1
	・監督員レベルに達していない人、部、課、がある	1
	・指示が曖昧で遅い上に文書でくれない。	1
	・情報が足りていなかった。	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方の「設計変更の原因」に関する発注主体別統計

5. 現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施

設計変更の原因	国		県政令市		市町村		その他	
図面と仕様書と現場説明と質問回答書のいずれかが整合しない	38	9.7%	55	9.2%	10	6.7%	7	10.9%
設計図書に誤謬がある	44	11.3%	61	10.1%	23	15.3%	8	12.5%
設計図書の条件明示が明確でない	69	17.6%	71	11.8%	15	10.0%	9	14.1%
設計図書と実際の現場が一致しない	159	40.7%	272	45.3%	65	43.3%	22	34.4%
施工条件にない予期しない状態が発生した	75	19.2%	138	23.0%	35	23.3%	17	26.6%
その他	6	1.5%	4	0.7%	2	1.3%	1	1.6%
合計	**391**	**100.0%**	**601**	**100.0%**	**150**	**100.0%**	**64**	**100.0%**

表24-5-1



問24-5-1 その他の回答

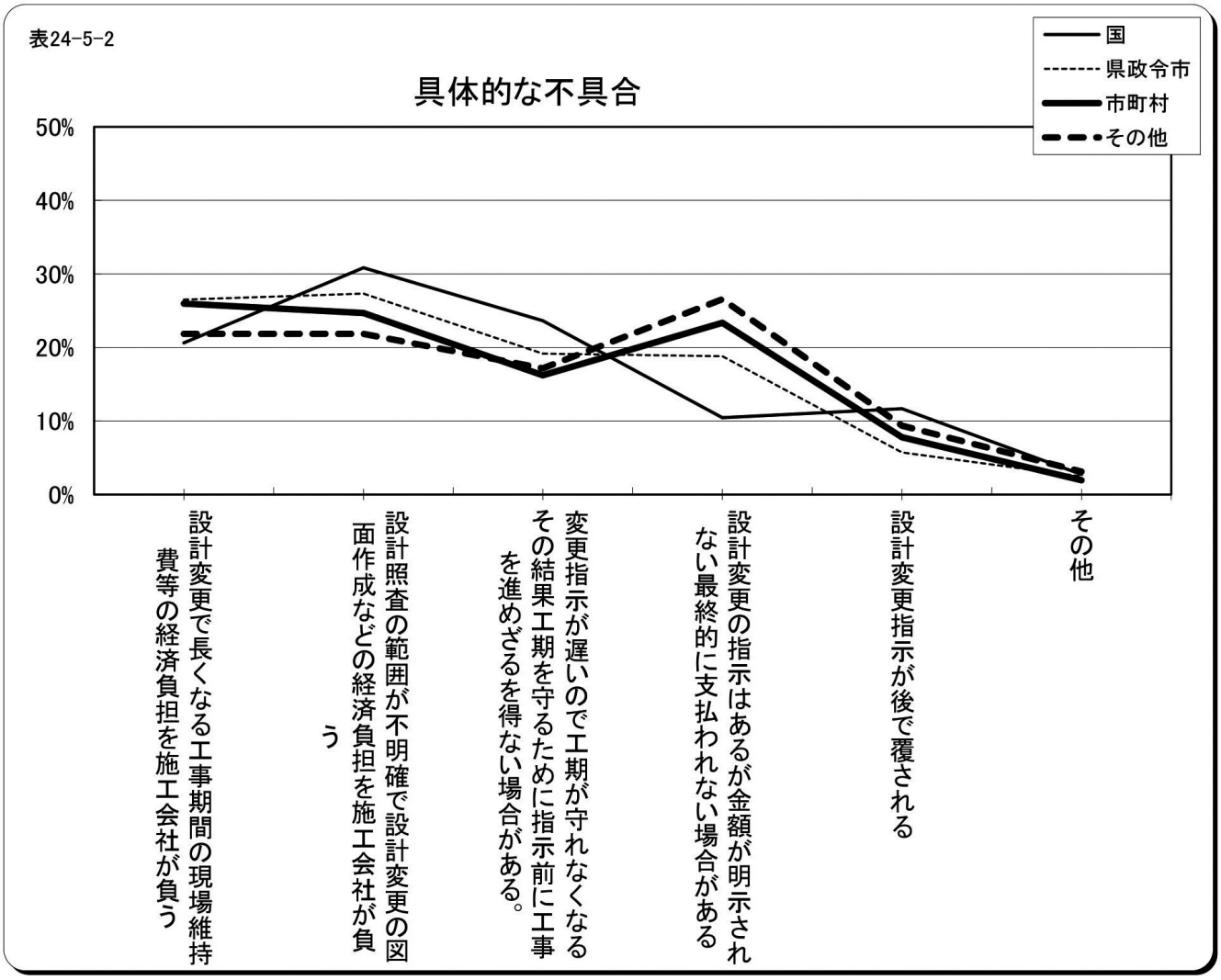
5．現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施を選択された方の回答

■国	・外一連工事という工事名だから	1
	・概算標準断面発注。照査資料として、コンサル詳細設計報告書を貸し出している。	1
	・暫定図面での発注　追加工事	1
	・支障物件の移設時期や隣接工事の遅延等、考慮されず工事が発注される。	1
	・詳細な計画がなされていない。	1
	・変更ありきでの発注(特に続工事では1期において変更が見込まれているにも関わらず積算に反映されていない)	1
■県政令市	・コンサルが専門業社へ丸投げして理解していない	1
	・現場条件とあまりに違い過ぎる仮設の設計	1
	・施工方法・形態が変わった	1
	・設計されていた構造物が設置できる地盤ではなかった。	1
■市町村	・交通誘導員が少ない　舗装面積ではなく条件で違う。全止め、片側通行。	1
	・地元・近隣住民の要望	1
■その他	・１，２，５も多い。	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方の「具体的な不具合」に関する発注主体別統計
5. 現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施

具体的な不具合	国		県政令市		市町村		その他	
設計変更で長くなる工事期間の現場維持費等の経済負担を施工会社が負う	83	20.6%	162	26.5%	40	26.0%	14	21.9%
設計照査の範囲が不明確で設計変更の図面作成などの経済負担を施工会社が負う	124	30.8%	167	27.3%	38	24.7%	14	21.9%
変更指示が遅いので工期が守れなくなるその結果工期を守るために指示前に工事を進めざるを得ない場合がある。	95	23.6%	117	19.1%	25	16.2%	11	17.2%
設計変更の指示はあるが金額が明示されない最終的に支払われない場合がある	42	10.4%	115	18.8%	36	23.4%	17	26.6%
設計変更指示が後で覆される	47	11.7%	35	5.7%	12	7.8%	6	9.4%
その他	11	2.7%	15	2.5%	3	1.9%	2	3.1%
合計	402	100.0%	611	100.0%	154	100.0%	64	100.0%

表24-5-2



問24-5-2 その他の回答

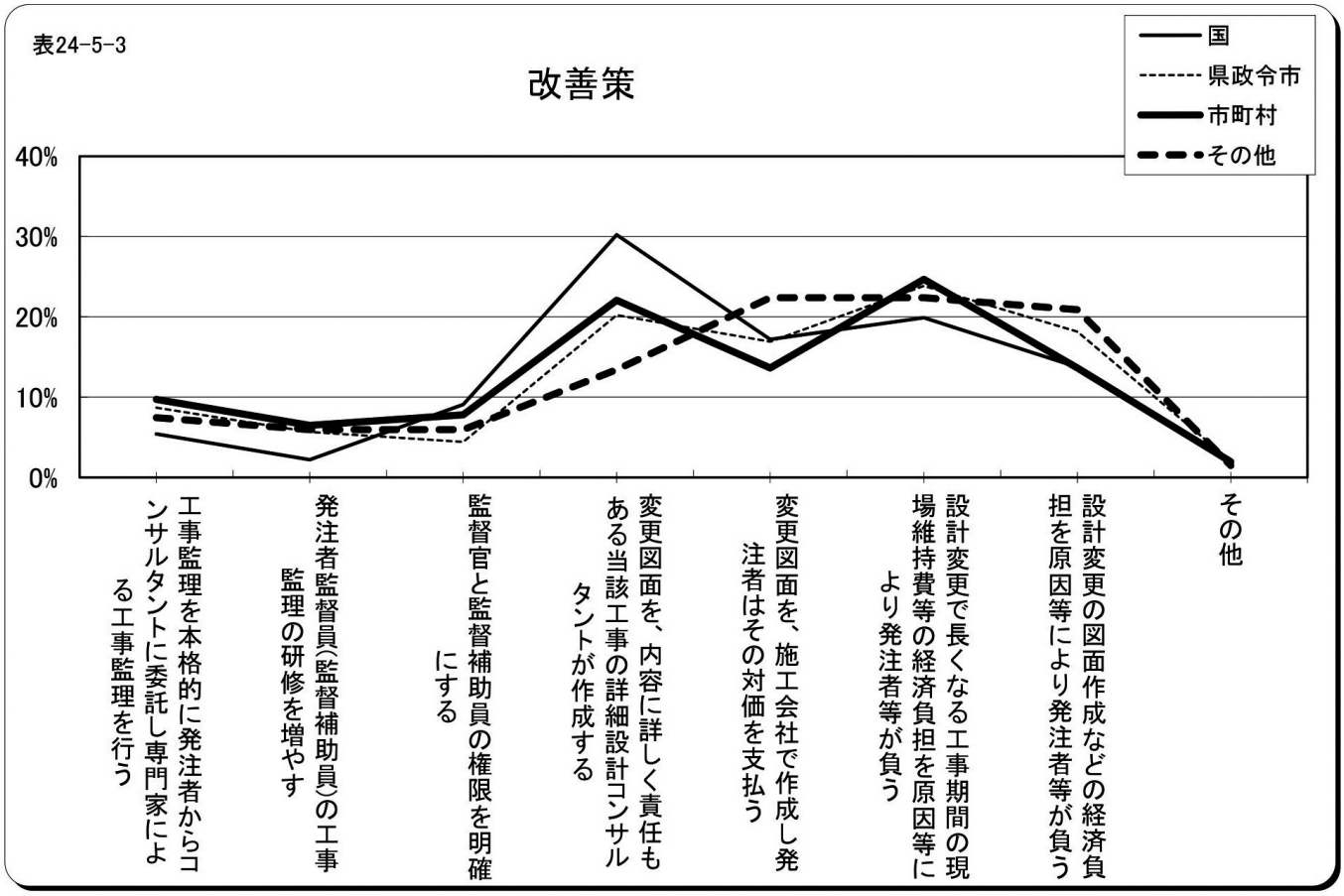
5. 現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施を選択された方の回答

■国	・委託コンサルが監督官への説明をしぶるもしくは、出来ない。	1
	・雨天、増水等により工期が厳しいものとなった	1
	・仮設の捉え方が現場と合わず、費用が持ち出しになる。	1
	・施工条件と設計内容が大きく異なり、大幅な変更協議に多大なる時間を要した。	1
	・条件の詳細が不足	1
	・積算と実行予算の差	1
	・設計見直しを行った際、期限通りに図面等を頂けない	1
	・設計見直しを発注者が行ったが、期日になっても図面等が頂けない	1
	・通常なら設計変更となるものも，理解力不足や考え方の違いから協議が進まず，施工承諾にせざる負えない。	1
	・土砂運搬先等の変更（当初30Kmが2Kmなど）・保安林が解除されていなく着手できない	1
	・当初設計での計画書など無駄な書類作成が増える	1
■県政令市	・1～5まで全部	1
	・現場にあった施工機械の選定協議が受理されない。積算基準書に該当項目は受理されない。	1
	・現場の条件があまりにも違うのに設計変更をしてくれない	1
	・現場条件を考慮して設計がされていない	1
	・施工承諾にされる	1
	・受注しても先発業者が施工中で乗り込めず、2ヶ月後からのスタートになった。	1
	・設計通りにできることのほうが少ないので、特に困ったことはない。	1
	・設計標準、設計基準の解釈に誤謬があり、必要数量が大幅に抜落ちている。	1
	・設計変更されず企業努力となる	1
	・設計変更に伴う指示に時間がかかり、中止期間が長くなった、経費は見ていただいたが、雑費でマイナスになる。	1
	・設計変更の協議に議会説明がからんでいるので工程に支障をきたすシステムになっている	1
	・設計変更の根拠の折り合いがつかない	1
	・設計変更指示はあるが金額が明示されなく、最終的に支払い金額より少ない。	1
	・当初設計のままでは施工不良となる場合でも変更対象としない為、任意で施工する工種があった。	1
	・変更歩掛かりの内容が納得できるもので無い。	1
■市町村	・県や市の場合、国庫補助の工事に関して、設計変更手続きが面倒なため変更を認めて頂けない場合がある。	1
	・工期自体が短い	1
	・追加工種が発生したが、通常の積算での変更になった(現場条件に合わない)	1
■その他	・1，3，4も多い。	1
	・指示書の発行が遅い	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方が望む「改善策」に関する発注主体別統計

5. 現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施

良い改善案	国		県政令市		市町村		その他	
工事監理を本格的に発注者からコンサルタントに委託し専門家による工事監理を行う	22	5.4%	55	8.7%	15	9.7%	5	7.5%
発注者監督員(監督補助員)の工事監理の研修を増やす	9	2.2%	36	5.7%	10	6.5%	4	6.0%
監督官と監督補助員の権限を明確にする	37	9.1%	28	4.4%	12	7.8%	4	6.0%
変更図面を、内容に詳しく責任もある当該工事の詳細設計コンサルタントが作成する	123	30.2%	128	20.2%	34	22.1%	9	13.4%
変更図面を、施工会社で作成し発注者はその対価を支払う	70	17.2%	107	16.9%	21	13.6%	15	22.4%
設計変更で長くなる工事期間の現場維持費等の経済負担を原因等により発注者等が負う	81	19.9%	151	23.9%	38	24.7%	15	22.4%
設計変更の図面作成などの経済負担を原因等により発注者等が負う	56	13.8%	115	18.2%	21	13.6%	14	20.9%
その他	9	2.2%	13	2.1%	3	1.9%	1	1.5%
合計	407	100.0%	633	100.0%	154	100.0%	67	100.0%



問24-5-3 その他の回答

5．現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施を選択された方の回答

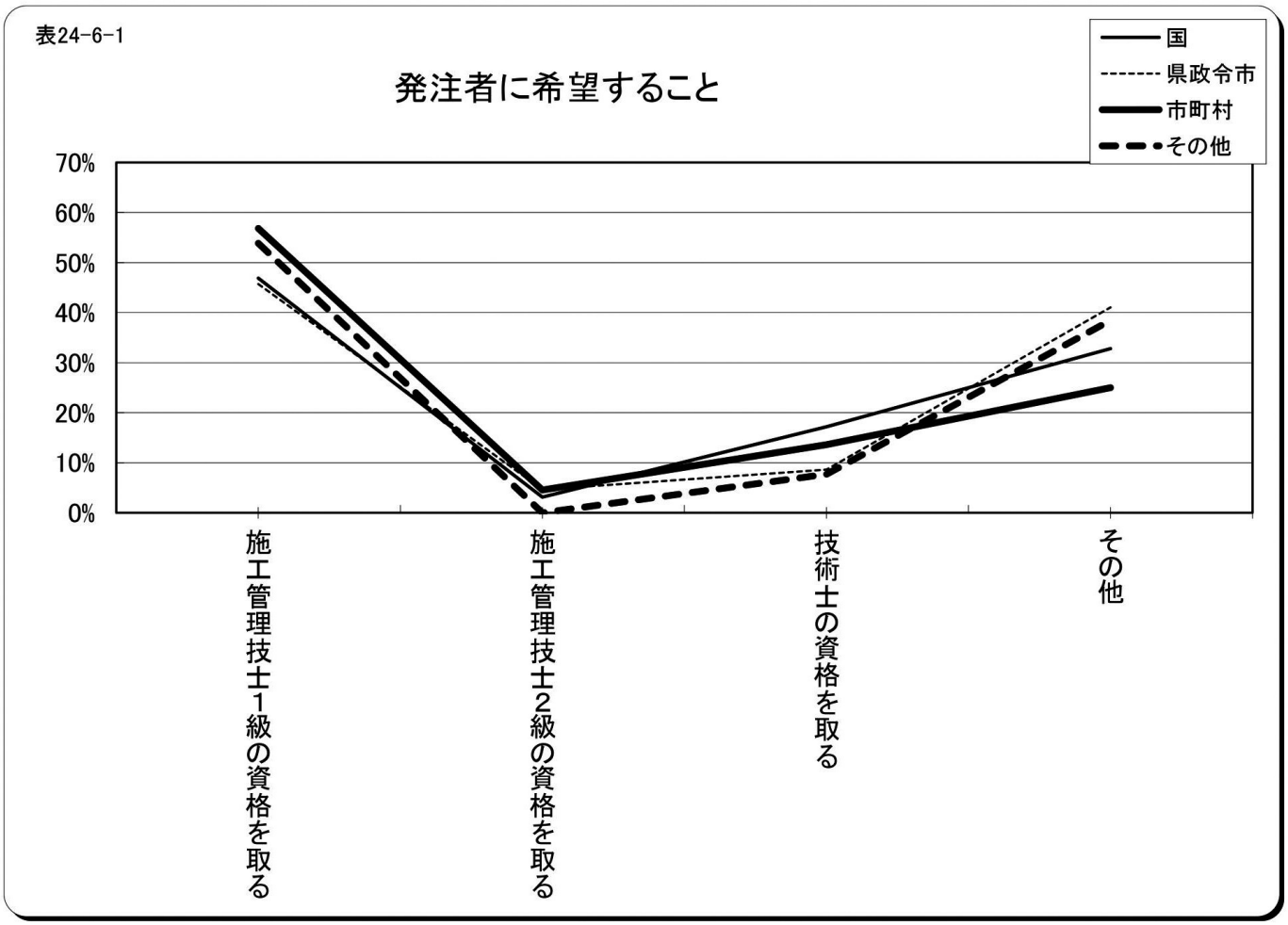
■国	・コンサルからの詳細設計資料の提出を早くしてもらう。	1
	・実不稼働日への柔軟な工期延長	1
	・精度の高い設計図書での工事発注を行って頂く（設計図書に不備が無ければ余計な作業が省ける）	1
	・精度の高い設計図書の作成	1
	・設計図書の精度を向上させる。	1
	・設計変更に携わる関係者がマニュアル・ガイドライン等の内容を共通認識すること	1
	・設計変更時は、見積もり合わせではなく、発注者側から金額を提示して頂き、承認する形が良いと思う	1
	・発注者側の担当者が人事異動により交代する場合には、前任者と施工会社の協議内容をしっかり引き継ぐ	1
	・現場を加味した設計で発注してほしい。	1
■県政令市	・コンサルタント社員が不適当と思われる人材がいる。（専門の業者でない為、図面が不正確。）	1
	・コンサルタント選定をしっかりやってもらいたい。そもそも当初の設計図書及び図面が現況とまったく合致しないなどありえない。	1
	・現場がスムーズに運営できるシステムにかえる	1
	・工事一時中止ガイドラインを制度化して頂き、発注者が気兼ねなく使用できるようにして頂きたい。	1
	・今のところ改善することはない。	1
	・根本的に若い監督員が現場を理解していない。	1
	・事後清算を取り入れる	1
	・上限限度金額を理由に支払われないことがある	1
	・正確な発注図面の作成	1
	・設計時に、現場に持込可能及び現場見合った施工機械を選定し積算する。	1
	・発注者職員の教育	1
	・変更する妥当な根拠がある場合は変更設計で計上する。	1
	・変更図面は発注者が作成し、文書で指示する	1
■市町村	・工事の早期発注4月以降、見切り発注をしない、3月末の工期にしない。	1
	・国庫補助の工事に関して、設計変更手続の簡略化。（行政間手続き）	1
	・設計コンサルタントの設計の不備をなくす	1
■その他	・コンサルタントの能力不足を補うシステム構築。	1

問24で以下の発注者の不備を感じた方の「発注者に希望すること」に関する発注主体別統計

6. 発注者側監督員の技術力向上への努力

具体的な希望	国		県政令市		市町村		その他	
施工管理技士1級の資格を取る	30	46.9%	69	45.7%	25	56.8%	7	53.8%
施工管理技士2級の資格を取る	2	3.1%	7	4.6%	2	4.5%	0	0.0%
技術士の資格を取る	11	17.2%	13	8.6%	6	13.6%	1	7.7%
その他	21	32.8%	62	41.1%	11	25.0%	5	38.5%
合計	64	100.0%	151	100.0%	44	100.0%	13	100.0%

表24-6-1



問24-6-1 その他の回答

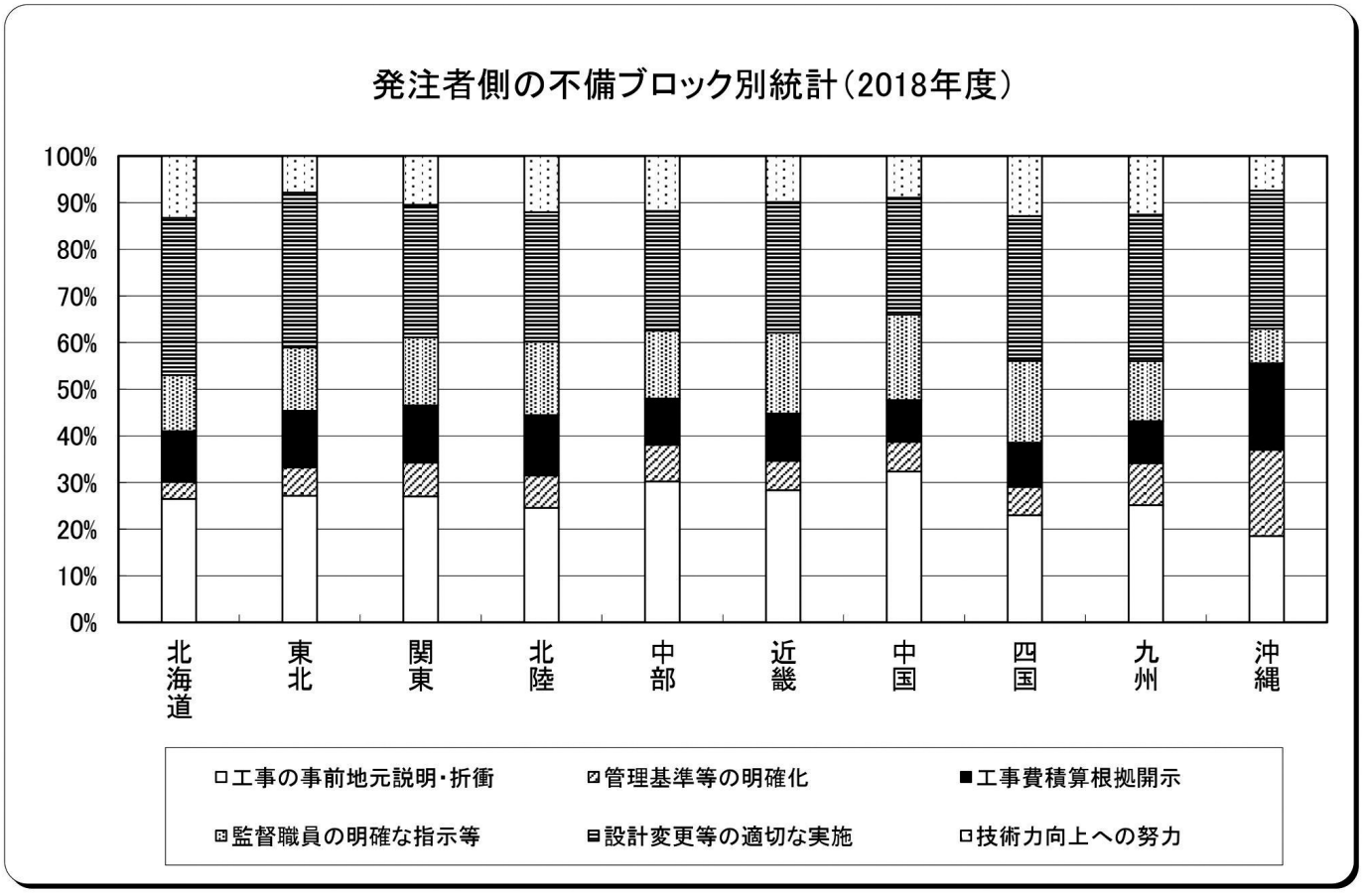
6. 発注者側監督員の技術力向上への努力を選択された方の回答

■国	・現場経験不足？現場を知らず机上でしか話できない。	2
	・公共工事を監督する立場、責任。建設技術、施工技術への理解。基本的な知識	2
	・現場の施工に関してもう少し関わりを持っていただきたい。	1
	・現場に来い。それから打合せしてください。話が進みません。	1
	・まかせてほしい	1
	・監督員として、指示・指導・提案できるスキルの確保	1
	・基準書などの理解・把握（設計コンサルの言われるがままとなっている）	1
	・机上論ではなく，実際の現場の流れや内容を理解し協力してもらいたい。	1
	・具体的に工事の内容及び流れ、何が重要かを把握すべき	1
	・工程や作業順序、作業条件など実践的な現場を理解、分析できる技術力	1
	・現状の差異・変化に伴う工法等の変更について、発注者からも工法の案を提示してほしい	1
	・施工管理全般	1
	・施工方針を速やかに決定してほしい	1
	・資格ではなく、現場に来て経験を積んでほしい。基本的な技術力。	1
	・条件変更に伴う適切な対応力およびスピード	1
	・図面を読む能力と現場を見る能力	1
	・歩掛通りだけではないよ	1
	・橋梁補修工事の技術向上	1
■県政令市	・現場管理の経験が少ないものには、経験を積ませてから現場担当をしてほしい。	6
	・資格を取っても意味がない。現場に足を運び勉強し、個々の知識や能力を上げるべき。	6
	・ワンデイレスポンスを確実に実施できる判断力の向上	4
	・実際に現場に来て、机上ではなく、現場を覚えてもらいたい。	4
	・もっとキャリアを積んでもらいたい。もっと現場に足を運び、経験を積む	3
	・教科書通りの知識ではなく、現場に応じた知識を身に着けていただきたい。	2
	・現場施工への理解度不足 「なぜ出来ない」の発言がある。	2
	・2，3年程度で異動してしまう。 監督員が若手ばかりで経験が少ない	2
	・資格取得ではなく、工法や施工方法等の具体的な手順の知識習得をしてほしい。（教科書	2
	・施工管理技士の勉強は必要ですが、社会人らしさを希望します。人としての成長。	2
	・設計図書と現場との相違が多い	2
	・標準仕様書の読破と現場の大小に対する臨機応変な指示	2
	・実際施工するために必要な仮設工の技術力の向上	1
	・現場への適応力・書面上だけでなく	1
	・現場ファーストの意識をもって取り組んでもらいたい。	1
	・若い監督員が経験を積まないうちに現場を持たされ対応しきれていないので2、3年は補	1
	・工事を円滑にするためにすべき事（現場重視）を上司がもっと指導教育すべきと思います	1
	・今は昔と違い担当する現場が少ないので監督員の経験値がなかなか上がらないと思う。	1
	・資格を取らなくてよいが、異動を減らして専門分野の職員を育成してほしい	1
	・間に合わない役人は、現場ではなく事務にでも回してほしい。現場を担当させないでほし	1
	・CAD図面等の作成能力	1
	・お金のこと以外の現場の内容を理解する	1
	・コンサル任せではなく、設計前に現場に足を運んで検討して欲しい。	1
	・監査に対する防御だけでなく、真摯に現場に向き合って頂きたい	1
	・監督員自身の意識の改善	1
	・技術的質疑に対しての適切な対応	1
	・現場にあった工法が選択されていない。	1
	・現場に携わり、作業条件経費問題を受注者側サイドの立場に立ち理解する事。	1
	・受注者との意見交換等	1
	・創意工夫	1
	・地元との調整能力	1
	・発注した工事に関する技術的判断が出来るだけの技術力	1
	・発注課の職員によって、共通仕様書通りで施工管理をしても解釈の違いがあり、思いが通	1
	・発注者の人員不足の解消が一番の早道だと思われる。	1
	・変更協議事等の臨機応変な対応	1
	・民間建設会社に出向	1
	・役所の中で情報を共有し、一つにまとめ、確たる資料を提示する	1
■市町村	・現場へ来る時間がなく経験不足。実務経験を積む（現場に出向く）。現場研修の実施。	3
	・ペーパー監督員は不必要。現場経験が少ない担当者が多いので、実務経験が必要	2
	・技術系は大学よりの新規採用より民間企業を経験された方の方が仕事はできる。	1
	・国、県からの指導	1
	・施工業者による、監督員（発注者）の評定	1
	・担当監督員異動時の引継ぎをきちんと行うべき。受注業者に任せっきりの場合が多い。	1
	・民間企業に出向させる	1
■その他	・担当業務の知識習熟。知ったかぶりはやめてほしい。	2
	・マネージメント力の向上	1
	・現場の施工について専門技術を理解して欲しい	1
	・発注者内でも書類の簡素化をする	1

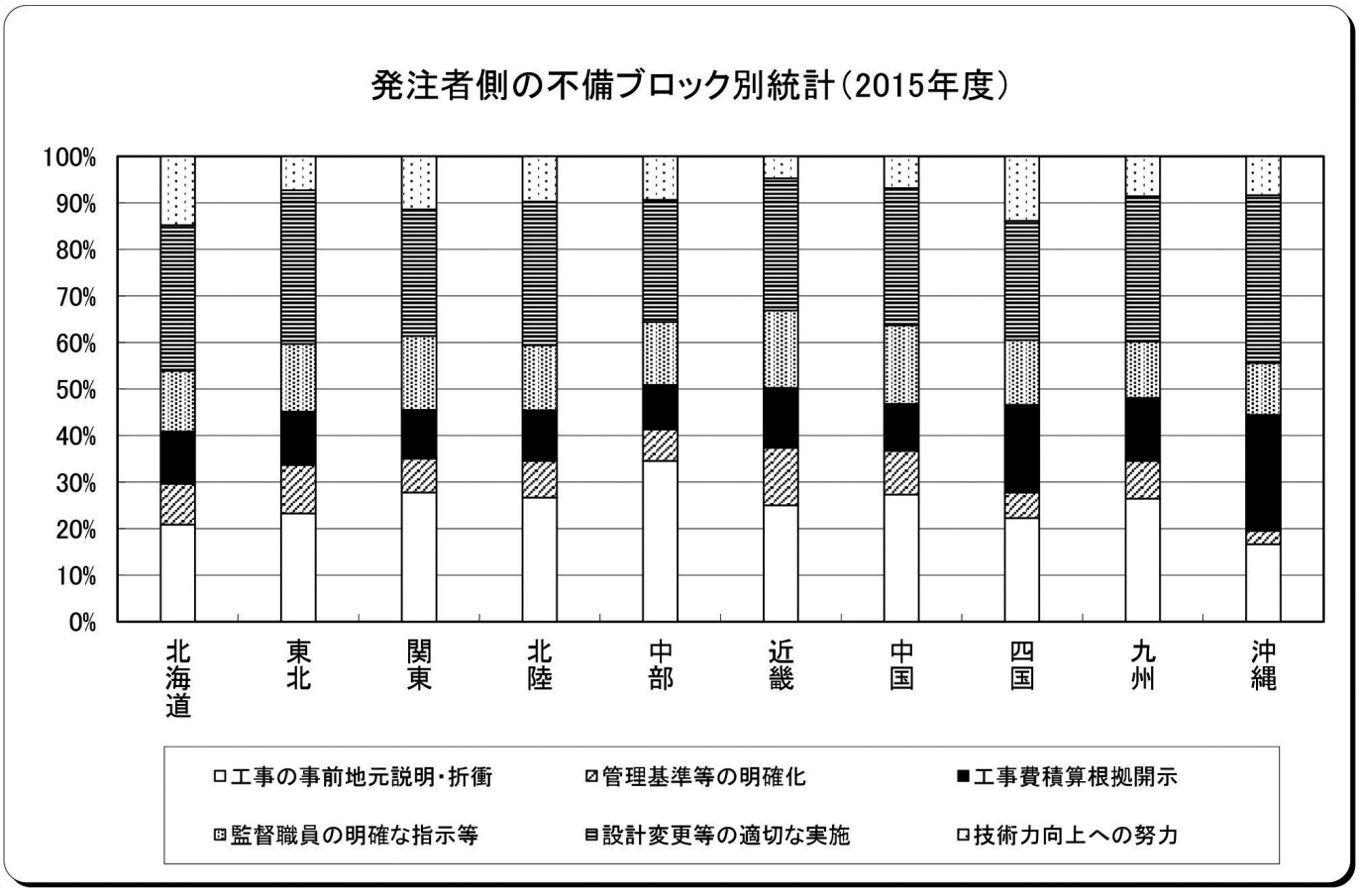
問24で以下の発注者の不備を感じた方の「発注者側の不備」に関するブロック別統計

1. 工事の事前地元説明・折衝
2. 設計図書での管理基準等の明確化
3. 工事費積算根拠開示
4. 監督職員の明確な指示等
5. 現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施
6. 発注者側監督員の技術力向上への努力

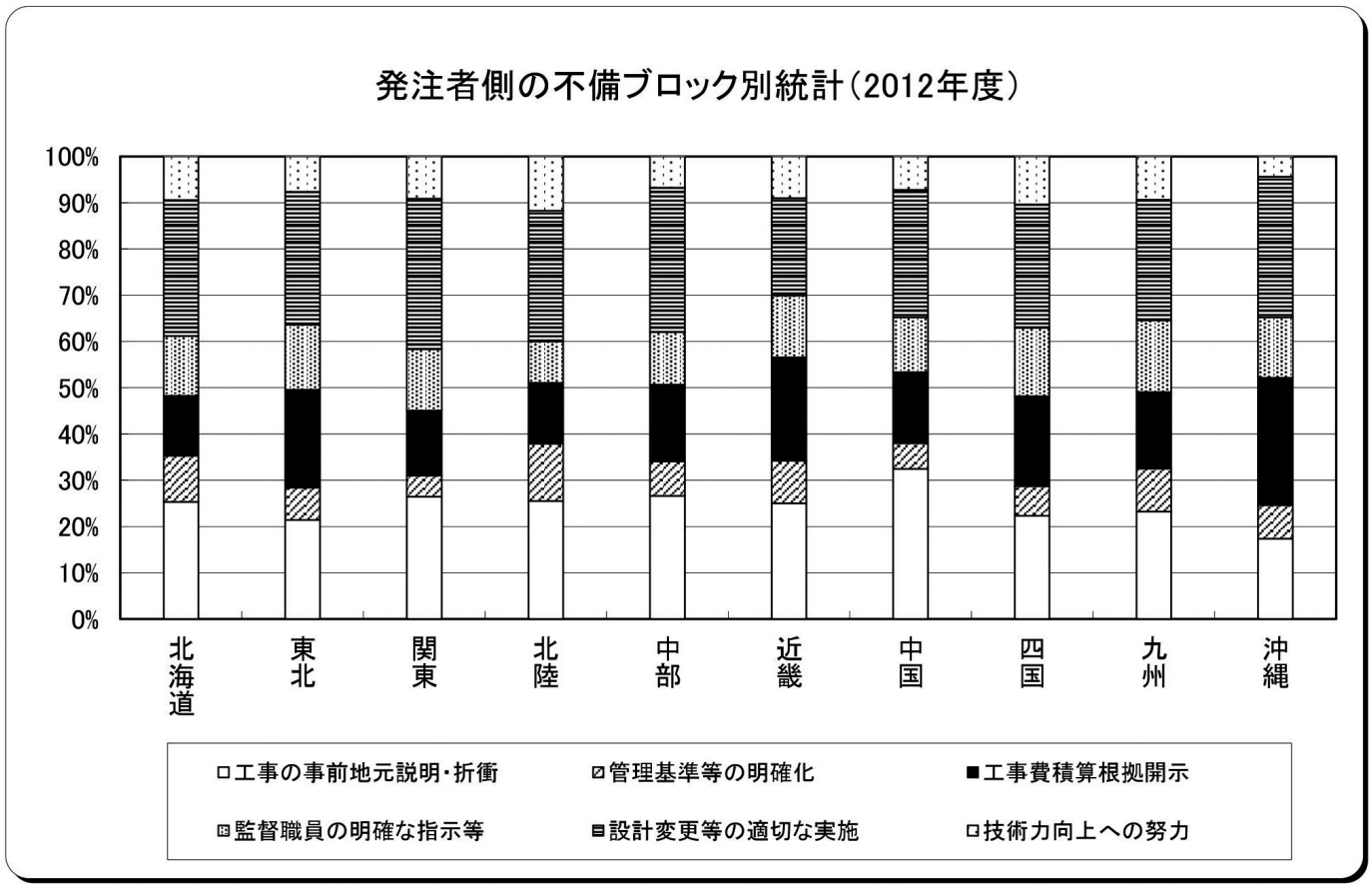
発注者側の不備等	2018年度												
	工事の事前地元説明・折衝		設計図書での管理基準等の明確化		工事費積算根拠開示		監督職員の明確な指示等		現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施		発注者側監督員の技術力向上への努力		合計
北海道	22	26.5%	3	3.6%	9	10.8%	10	12.0%	28	33.7%	11	13.3%	**83**
東北	76	27.1%	17	6.1%	34	12.1%	38	13.6%	93	33.2%	22	7.9%	**280**
関東	134	27.0%	36	7.3%	61	12.3%	72	14.5%	141	28.4%	52	10.5%	**496**
北陸	53	24.5%	15	6.9%	28	13.0%	34	15.7%	60	27.8%	26	12.0%	**216**
中部	100	30.2%	26	7.9%	33	10.0%	48	14.5%	85	25.7%	39	11.8%	**331**
近畿	95	28.4%	21	6.3%	34	10.1%	58	17.3%	94	28.1%	33	9.9%	**335**
中国	76	32.3%	15	6.4%	21	8.9%	43	18.3%	59	25.1%	21	8.9%	**235**
四国	34	23.0%	9	6.1%	14	9.5%	26	17.6%	46	31.1%	19	12.8%	**148**
九州	92	25.1%	33	9.0%	33	9.0%	47	12.8%	115	31.4%	46	12.6%	**366**
沖縄	5	18.5%	5	18.5%	5	18.5%	2	7.4%	8	29.6%	2	7.4%	**27**



発注者側の不備等	2015年度												
	工事の事前地元説明・折衝		設計図書での管理基準等の明確化		工事費積算根拠開示		監督職員の明確な指示等		現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施		発注者側監督員の技術力向上への努力		合計
北海道	24	20.9%	10	8.7%	13	11.3%	15	13.0%	36	31.3%	17	14.8%	115
東北	67	23.3%	30	10.4%	33	11.5%	42	14.6%	95	33.0%	21	7.3%	288
関東	141	27.8%	37	7.3%	53	10.4%	81	15.9%	138	27.2%	58	11.4%	508
北陸	44	26.7%	13	7.9%	18	10.9%	23	13.9%	51	30.9%	16	9.7%	165
中部	133	34.5%	26	6.8%	37	9.6%	52	13.5%	101	26.2%	36	9.4%	385
近畿	111	25.0%	55	12.4%	57	12.8%	74	16.7%	126	28.4%	21	4.7%	444
中国	76	27.3%	26	9.4%	28	10.1%	47	16.9%	82	29.5%	19	6.8%	278
四国	53	22.3%	13	5.5%	45	18.9%	33	13.9%	61	25.6%	33	13.9%	238
九州	160	26.4%	49	8.1%	82	13.6%	73	12.1%	189	31.2%	52	8.6%	605
沖縄	6	16.7%	1	2.8%	9	25.0%	4	11.1%	13	36.1%	3	8.3%	36

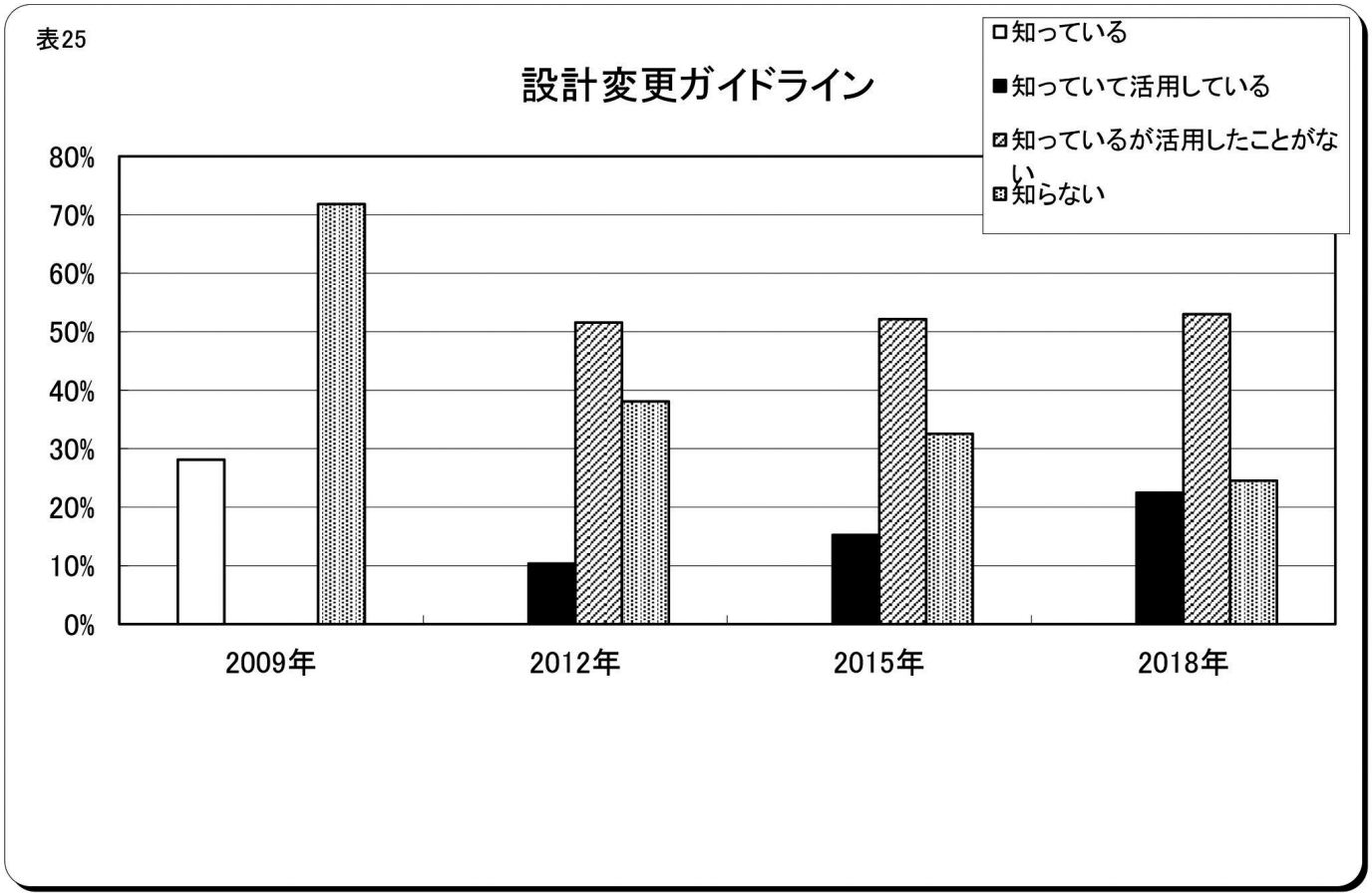


発注者側の不備等	2012年度												
	工事の事前地元説明・折衝		設計図書での管理基準等の明確化		工事費積算根拠開示		監督職員の明確な指示等		現場条件変更に伴う設計変更等の適切な実施		発注者側監督員の技術力向上への努力		合計
北海道	43	25.3%	17	10.0%	22	12.9%	22	12.9%	50	29.4%	16	9.4%	**170**
東北	70	21.4%	23	7.0%	69	21.1%	46	14.1%	94	28.7%	25	7.6%	**327**
関東	151	26.4%	26	4.6%	80	14.0%	76	13.3%	186	32.6%	52	9.1%	**571**
北陸	37	25.5%	18	12.4%	19	13.1%	13	9.0%	41	28.3%	17	11.7%	**145**
中部	122	26.6%	34	7.4%	76	16.6%	52	11.4%	143	31.2%	31	6.8%	**458**
近畿	158	25.0%	58	9.2%	141	22.3%	84	13.3%	133	21.1%	57	9.0%	**631**
中国	112	32.5%	19	5.5%	53	15.4%	41	11.9%	95	27.5%	25	7.2%	**345**
四国	56	22.3%	16	6.4%	49	19.5%	37	14.7%	67	26.7%	26	10.4%	**251**
九州	191	23.3%	76	9.3%	136	16.6%	127	15.5%	214	26.1%	77	9.4%	**821**
沖縄	12	17.4%	5	7.2%	19	27.5%	9	13.0%	21	30.4%	3	4.3%	**69**



問25. 国は2006～2008年にかけて「設計変更のガイドライン」などを作成し活用しています。ただし現状はすべての発注機関でこうしたガイドラインがすべて整備されているとは限りません。
そこで「設計変更ガイドライン」を知っていますか、また活用していますか

設計変更ガイドライン	2009年		2012年		2015年		2018年	
知っている	538	28.1%	—	—	—	—	—	—
知っていて活用している	—	—	372	10.3%	382	15.3%	479	22.5%
知っているが活用したことがない	—	—	1854	51.6%	1306	52.2%	1131	53.0%
知らない	1375	71.8%	1370	38.1%	815	32.6%	523	24.5%
未回答	1	0.1%	—	—	—	—	—	—
合計	**1914**	**100.0%**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2133**	**100.0%**

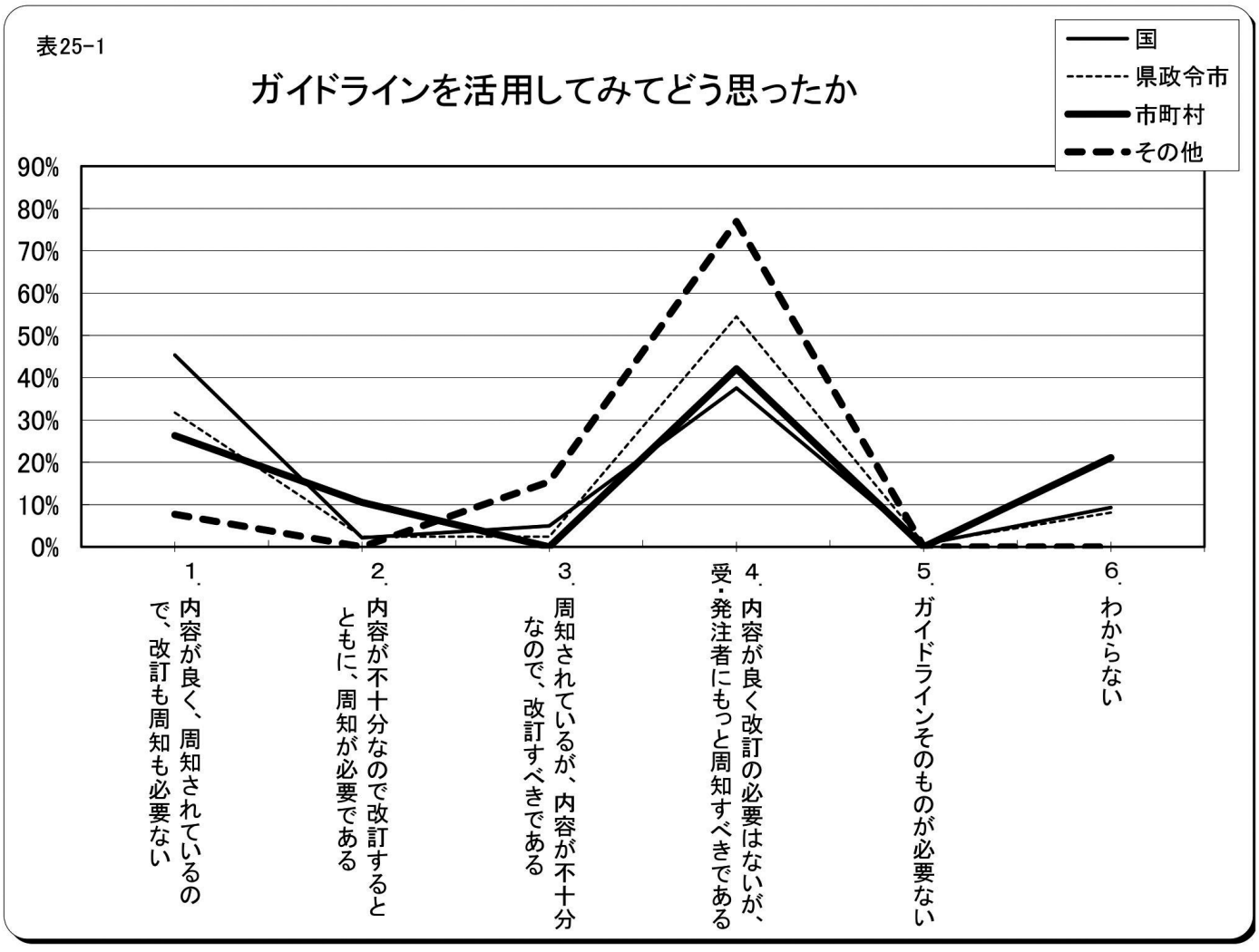


問25で以下に回答された方の「ガイドラインを活用してみてどう思ったか」に関する発注主体別統計

1.「設計変更ガイドライン」を知っていて活用している

ガイドラインの感想	国		県政令市		市町村		その他	
1. 内容が良く、周知されているので、改訂も周知も必要ない	146	45.3%	39	31.7%	5	26.3%	1	7.7%
2. 内容が不十分なので改訂するとともに、周知が必要である	7	2.2%	3	2.4%	2	10.5%	0	0.0%
3. 周知されているが、内容が不十分なので、改訂すべきである	16	5.0%	3	2.4%	0	0.0%	2	15.4%
4. 内容が良く改訂の必要はないが、受・発注者にもっと周知すべきである	121	37.6%	67	54.5%	8	42.1%	10	76.9%
5. ガイドラインそのものが必要ない	2	0.6%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
6. わからない	30	9.3%	10	8.1%	4	21.1%	0	0.0%
合計	**322**	**100.0%**	**123**	**100.0%**	**19**	**100.0%**	**13**	**100.0%**

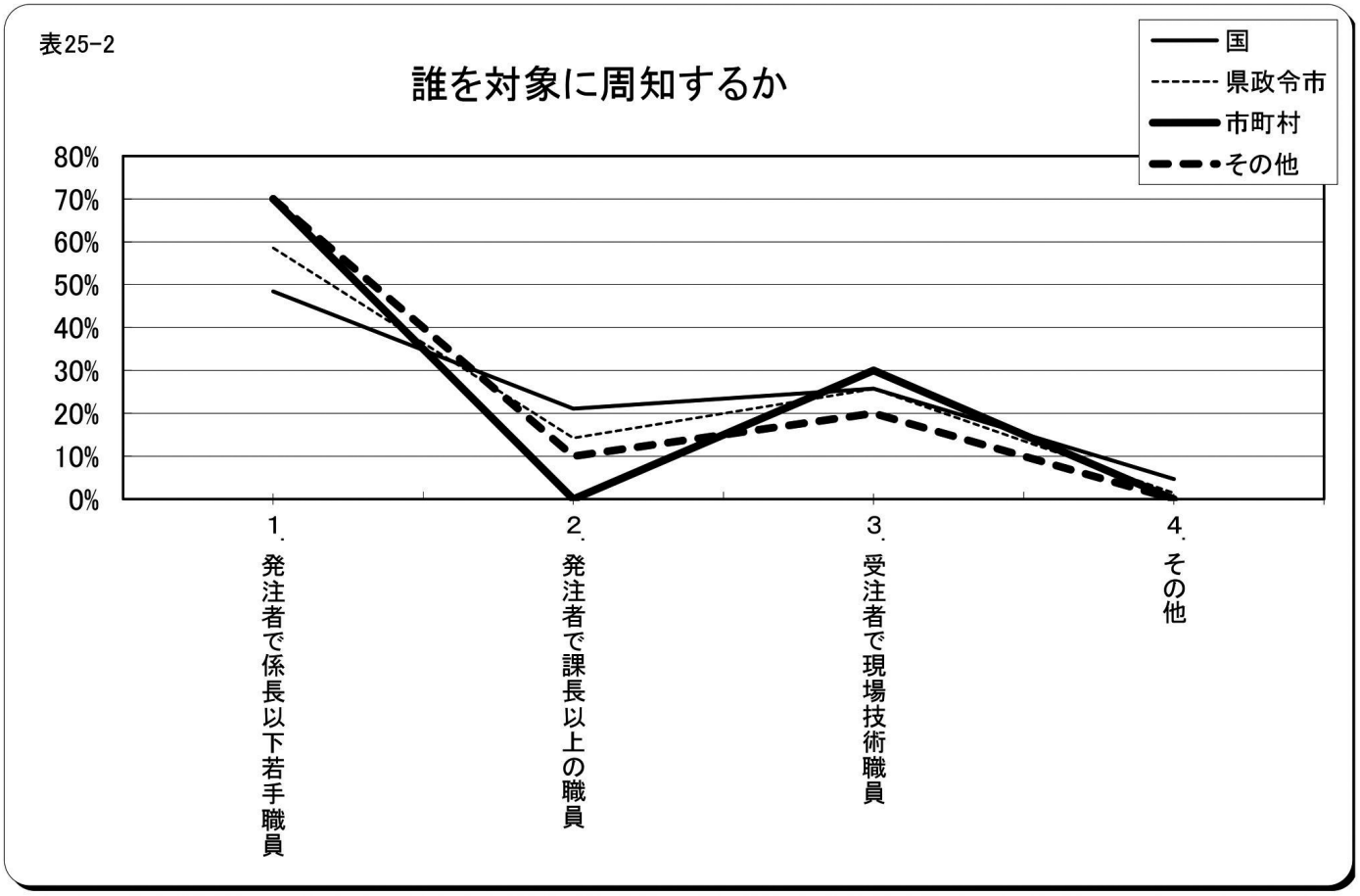
表25-1



問25-1-5で以下に回答された方の「誰を対象に周知するか」に関する発注主体別統計
2. 内容が不十分なので改訂するとともに、周知が必要である
4. 内容が良く改訂の必要はないが、受・発注者にもっと周知すべきである

誰を対象に周知するか	国		県政令市		市町村		その他	
1. 発注者で係長以下若手職員	62	48.4%	41	58.6%	7	70.0%	7	70.0%
2. 発注者で課長以上の職員	27	21.1%	10	14.3%	0	0.0%	1	10.0%
3. 受注者で現場技術職員	33	25.8%	18	25.7%	3	30.0%	2	20.0%
4. その他	6	4.7%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
合計	128	100.0%	70	100.0%	10	100.0%	10	100.0%

表25-2



問25-2 その他の回答
4. 内容が良く改訂の必要はないが、受・発注者にもっと周知すべきであるを選択された方の回答

■国	・監督補助員	1
	・工事受注者	1
	・受発注者全体への周知不足もあるが、実際に活用されていないことが多	1
	・全ての職員	1
	・全員。最初は周知されるが徐々に元に戻った	1
	・発注者現場補助員	1
■県政令市	・情報が末端の担当者に届いていないと思うので事業所の所長以下全員に周知してほしい。	1

問25-3 その他の回答

2. 内容が不十分なので改訂するとともに、周知が必要であるを選択された方の回答

■国	・受注者側が読んだ場合、設計図書の変更は発注者が行うと記載されているので、受注者は何もしなくても良いと勘違いしている方がいる。協議資料が出揃った上での話だと強調してほしい。	1
	・設計変更のルールが複雑。	1
	・ガイドラインにある照査項目を工種ごと今以上に詳細にする。照査項目が大雑把すぎる。	1
	・協議内容について積算を行い、費用を記載することになり、書類を作る時間が多くなっている。また、発注側の指示に対する補助書類を作成させられる場合がある。	1
	・書類の提出は無いが、提示といわれると以前と変わらず資料を作成しなくてはいけないので、作業量の簡素化にはなっていない。監督員は了解するが、監督補助員がガイドラインの内容を知らない。	1
	・設計に反映されない項目が多々ある。また、設計歩掛で施工できない工種もある。	1
■県政令市	・作業船の回航に関する項目がない、発注者は片道しか費用を見てくれないので、復路は請負業者負担になっている。	1
	・周知が十分ではない。	1
	・設計変更時には、発注者が変更設計図書を作成するなどの、受注者の負担軽減	1
■その他	・ガイドラインにより協議を進めていくと、発注者職員の調査不足、技術力不足による”ミス”を認めると、上司、組織から怒られるので自己保身のため協議がなかなか進まなかった。変更協議は、工事では、当然であると改訂すべきである。変更を足切りすることは、建設業全体の所得向上にならない。若者が今の状況に将来の不安を感じる。	1
	・役所側が会計検査を重視し過ぎて変更してもらえない。	1

3. 周知されているが、内容が不十分なので、改訂すべきであるを選択された方の回答

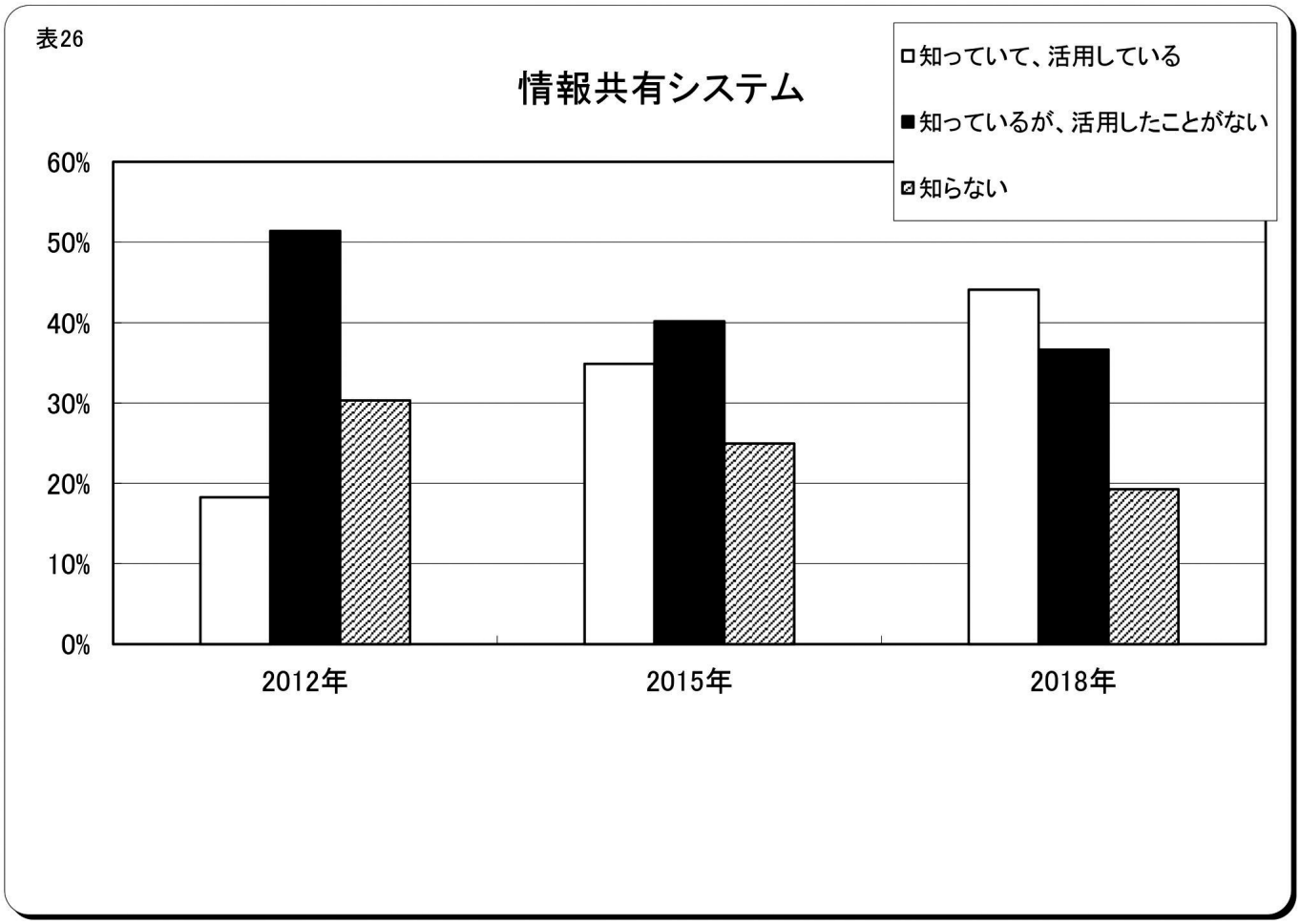
■国	・外的要因が無いと、変更対象となりづらい傾向に感じられ、ガイドラインが活用しづらい。	1
	・概算額の要否は協議事項にしたい。	1
	・各工種に具体例をもっと挙げて分かりやすくしてほしい。	1
	・協議の回答を得てからしか変更対象としないと明文化するのは工期の遅れ等の原因となるため、必要性・方針を互いに確認し、同時進行で進められると工事の進捗を阻害しないと思う。資料の追加添付や修正等で時間がとられ、最終承認が遅れるケースが多いため。	1
	・具体的な事例等を挙げ、必要書類、図面等の提出方法のマニュアル化した副読本みたいなものがあれば、分かりやすいのではないでしょうか。	1
	・現場条件に合わない場合があるため（改定箇所は明示不可）	1
	・現場条件の相違については無条件で変更としていただきたい。他、そのために必要な比較検討・費用の算出まで受注者にさせないでいただきたい。	1
	・詳細まで網羅された内容	1
	・設計図書の訂正または変更について、18条関係に伴う設計図書の変更はすべて「発注者が行う」となっていますが、構造変更等は別として、軽微な変更等は施工業者が図面等を作成して協議しています。書面的には受注者からの協議→発注者指示でよいのではないでしょうか。	1
	・全工種に対応していない。	1
	・全体にもう少し、詳細にして頂きたい。	1
	・添付書類として、請求書や給与明細の写し等の提出をなくし、受注者から提出される見積書のみにしてほしい。	1
	・内容は、十分であると考えるが、発注者側の認識(運用)不足。(発注者側の役割である事項を施工会社に押しつける。)	1
	・標準積算基準にとらわれすぎで、現地にあわない。	1
	・文言がはっきりしていない。〇をつければ良いのか？×をつければ良いのか？分らない時が度々ある。	1
	・変更可否判断、書類提出内容・時期については記載されているが、書類提出の決め事のみ意識している状況。金額は最終段階で確定するが施工に際しては認識する必要があるので、概算金額設定まで記載して欲しい。	1
■県政令市	・ガイドラインがもう少し、明確になると良いと思います。	1
	・具体的事例が乏しい	1
	・発注前に確認すべきことが記載されている。	1
■その他	・発注者の監督員が理解していない。	1
	・変更に関する事例を増やす。	1

5. ガイドラインそのものが必要ないを選択された方の回答

■国	・「設計図書の照査」を超える範囲と考えられる事例でも、設計変更の対象とならない場合が多いので、意味がない。	1
	・あまり意味が無い、発注者がガイドラインに従っていない。	1
■県政令市	・フローに基づき、変更したこともないし、後で覆される事もあるので意味がない。	1

問26. 情報共有システム（ASP：受発注者ともにインターネットを利用して同じデータを見ることにより、書類の提出、決済等の処理を迅速に行うことが可能）の活用による工事書類の電子処理化が実施されていますが、貴方は知っていますか

情報共有システム	2009年		2012年		2015年		2018年	
知っていて、活用している	—	—	657	18.3%	873	34.9%	941	44.1%
知っているが、活用したことがない	—	—	1849	51.4%	1005	40.2%	782	36.6%
知らない	—	—	1090	30.3%	625	25.0%	411	19.3%
合計	**—**	**—**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



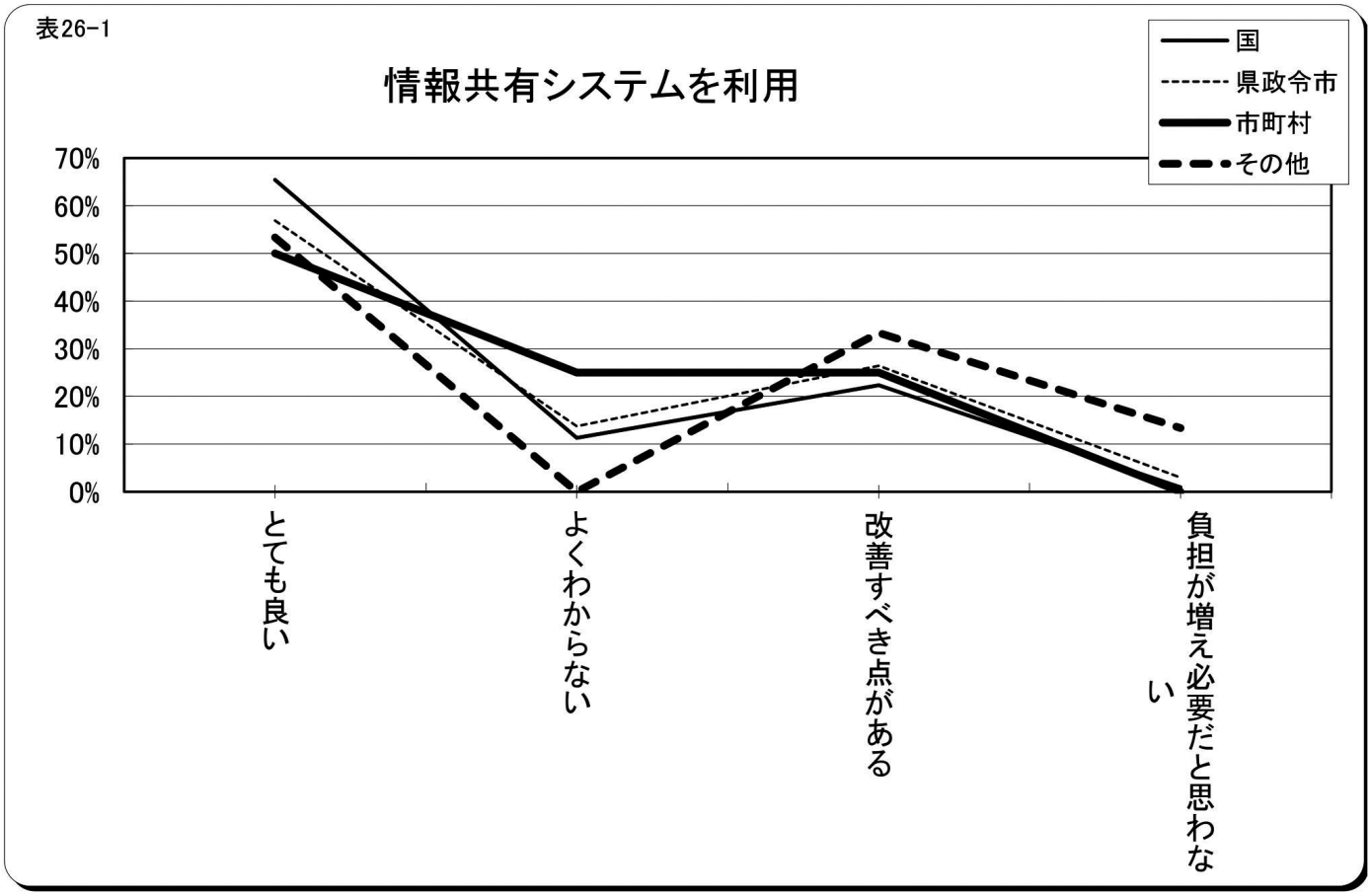
問26 情報システム
（参考資料）
活用しているうちの国の割合を以下に示す。

活用しているうちの国の割合	2012年	2015年	2018年
知っていて、活用している	657	873	941
そのうち国の工事	387	614	619
国の割合	58.90%	70.30%	65.78%

問26で以下に回答された方の「情報共有システムを活用してみてどう思ったか」に関する発注主体別統計

1．知っていて、活用している

情報共有システムを利用	国		県政令市		市町村		その他	
とても良い	422	65.4%	153	56.9%	4	50.0%	8	53.3%
よくわからない	73	11.3%	37	13.8%	2	25.0%	0	0.0%
改善すべき点がある	144	22.3%	71	26.4%	2	25.0%	5	33.3%
負担が増え必要だと思わない	6	0.9%	8	3.0%	0	0.0%	2	13.3%
合計	**645**	**100.0%**	**269**	**100.0%**	**8**	**100.0%**	**15**	**100.0%**

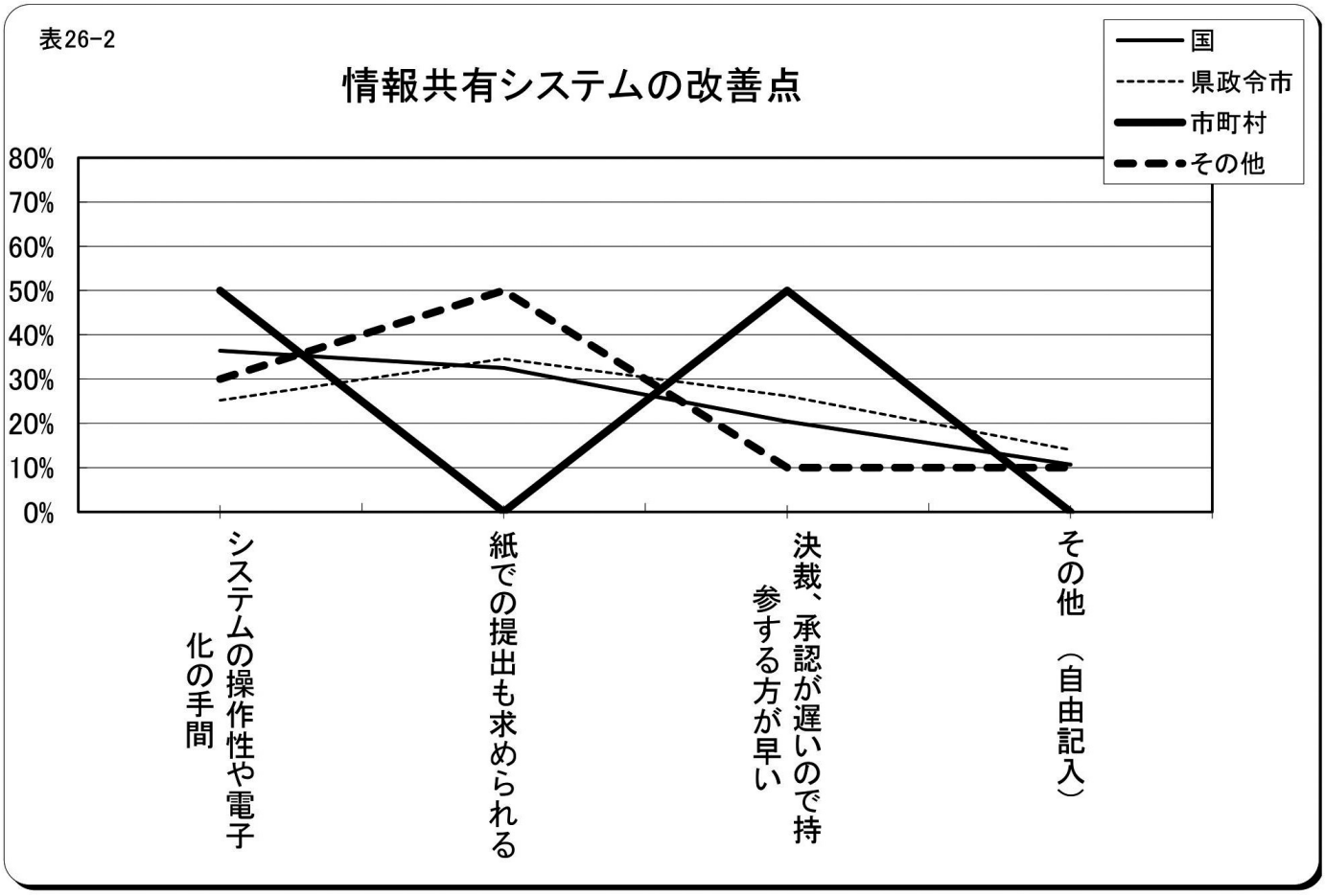


問26で以下に回答された方の「情報共有システムを活用してみてどう思ったか」に関する発注主体別統計

3. 改善すべき点がある
4. 負担が増え必要だと思わない

情報共有システムの改善点	国		県政令市		市町村		その他	
システムの操作性や電子化の手間	75	36.4%	27	25.2%	1	50.0%	3	30.0%
紙での提出も求められる	67	32.5%	37	34.6%	0	0.0%	5	50.0%
決裁、承認が遅いので持参する方が早い	42	20.4%	28	26.2%	1	50.0%	1	10.0%
その他 （自由記入）	22	10.7%	15	14.0%	0	0.0%	1	10.0%
合計	**206**	**100.0%**	**107**	**100.0%**	**2**	**100.0%**	**10**	**100.0%**

表26-2



問26-2 その他の回答

3. 改善すべき点があるを選択された方の回答

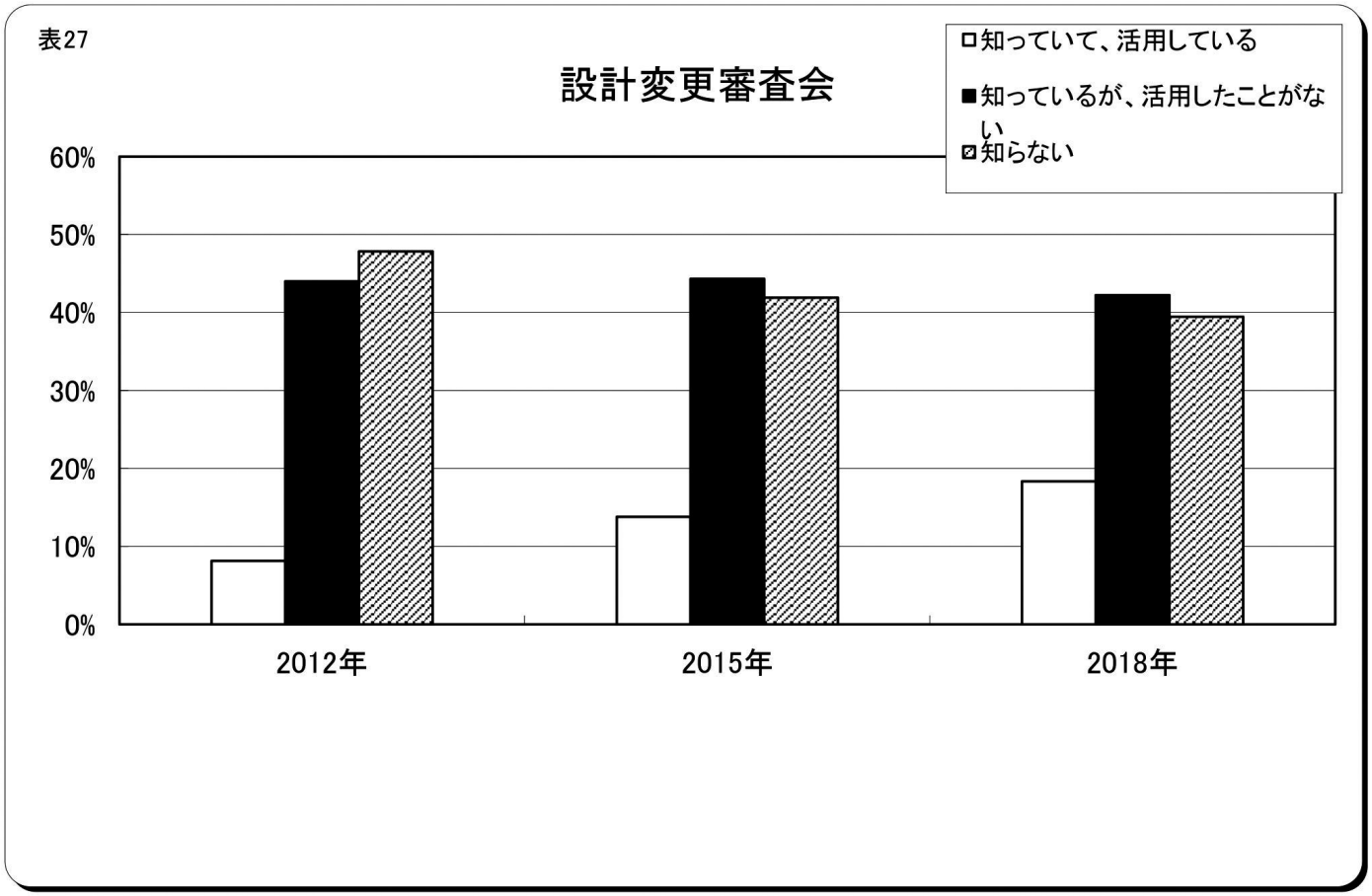
■国	・電子納品のデータ。工事写真、調書の検索方法が困難で不備ある。	1
	・1，書類内容を発注者が理解出来なくて臨場での説明を求められる。　※省力化になっていない。2，ASPに乗せる前に今まで通りのプロセスを求められる。　※省力化になっていない。	1
	・システムにあげるまでに、紙での打ち合わせを求められ、2度手間になっている。	1
	・データ容量の増　混雑時の通信速度低下の改善	1
	・各ベンダー（ソフトメーカー）により操作仕様や画面がまちまちで統一性を持たせたほうが良いと思います。	1
	・確認に時間を要する。	1
	・協議案件は、資料説明してからASPに上げるため2度手間になる。	1
	・軽微な修正を行う場合でも再決済が必要	1
	・決済、承認がただ遅い。	1
	・決済後の書類の訂正及び差し替えができない。また最初から提出し直すことになる。	1
	・現在使用しているソフトでは、書類を否認する際に添付書類へコメント直接記載することができないため（コメント欄はあります）、否認操作後にメールで詳細な内容を伝達しているため、二度手間である。	1
	・工事打合せ簿（特に協議簿）では、図面等の説明資料（紙資料）を持参して打合せすることが多く、それらをまとめたものをPDF化してASPに登録しており、結果として二度手間となっている。	1
	・施工体制台帳等はPDFでは見にくいので、印刷しての確認となってしまう。	1
	・紙での事前説明を求められる	1
	・紙の書類の方が確認しやすい。	1
	・提出書類の差し戻しがあった場合に作業が煩雑になる。なかなか承認をしてもらえず、期間おいて差し戻しされる。	1
	・電子のみでは協議等の資料説明が多く結局紙ベースで打ち合わせて再度ASPにアップした。（紙ベースのものを電子納品する際に最終はすべて電子化するため）	1
	・発注者事務所によって、使用するASPが違う場合がありお互いに複数使用できる必要がある。統一できないものか	1
	・様式の書き方がその時の監督員によって、様々である。	1
	・閲覧㊞の箇所が増やせるため、回覧人員5名は多すぎて、時間と手戻り時間が多すぎる。　特に協議・指示関連は、滞りがちになる。	1
■県政令市	・添付データの容量に制限がある。	1
	・キャドデータのやり取りができない。	1
	・以前は活用していたが、現在は全県的に使用されていない。	1
	・監督員に説明しないとわからない	1
	・基本的に共有システムを使用した書類については紙の必要性は求めていないはずであるが、事前協議したにもかかわらず、検査に於いては紙の方がいいから、とか電子は苦手だからという理由で紙を提示するように求められたことがあったので、発注者側も対応できるようにしていただきたい。でないと、書類をパソコンで作成し電子化しているのに、紙で出すと2重で手間がかかる。	1
	・協議は、紙ベースで一度提出するよう、発注者から言われている。受注者側のレベル向上も必要なようである。	1
	・施工計画等、施工体制関係は紙ベースで提出したい。	1
	・承認が遅くなり、急ぎの場合現場の段取り等に影響がでる。	1
	・担当が説明できないので、出向き説明を行ったことが何度かあった。これでは、ASPの意味が無いし事前の打ち合わせの意味が無い。	1
	・担当監督員によってシステムの理解度が異なり、発注者サイドでも検討が必要だと思う。	1
	・添付ファイルの容量が小さい	1
	・発注者によるシステム指定のため、選択肢がないので使いずらいが改良もなされない。	1
	・発注者側がシステムを使いこなせないので何の意味もなかった。ただお金がかかっただけ。	1
■その他	・やむを得ず変更になった場合の修正が手間な場合がある。	1

4. 負担が増え必要だと思わないを選択された方の回答

■国	・協議、承諾等は紙で残しておいた方が、工事完成後の過年度の調査物で探しやすい。	1
	・品質証明の記録についての提出は、検査時の提出でも問題ないと思う。帳票システムにより提出する際、現場作業の負担が大きすぎる。	1
■県政令市	・お互いが顔を合わせて協議をする事も大事	1
	・金銭面	1

問27.
公共工事で設計変更を行うとき設計変更審査会（設計変更協議を受けた場合に受発注者で話し合う会議、名称が異なる場合がある）を行います。この制度を貴方は知っていますか

設計変更審議会	2009年		2012年		2015年		2018年	
知っていて、活用している	—	—	293	8.1%	345	13.8%	391	18.3%
知っているが、活用したことがない	—	—	1583	44.0%	1109	44.3%	901	42.2%
知らない	—	—	1720	47.8%	1049	41.9%	842	39.5%
合計	**—**	**—**	**3596**	**100.0%**	**2503**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



問27 設計変更審査会
（参考資料）
活用しているうちの国の割合を以下に示す。

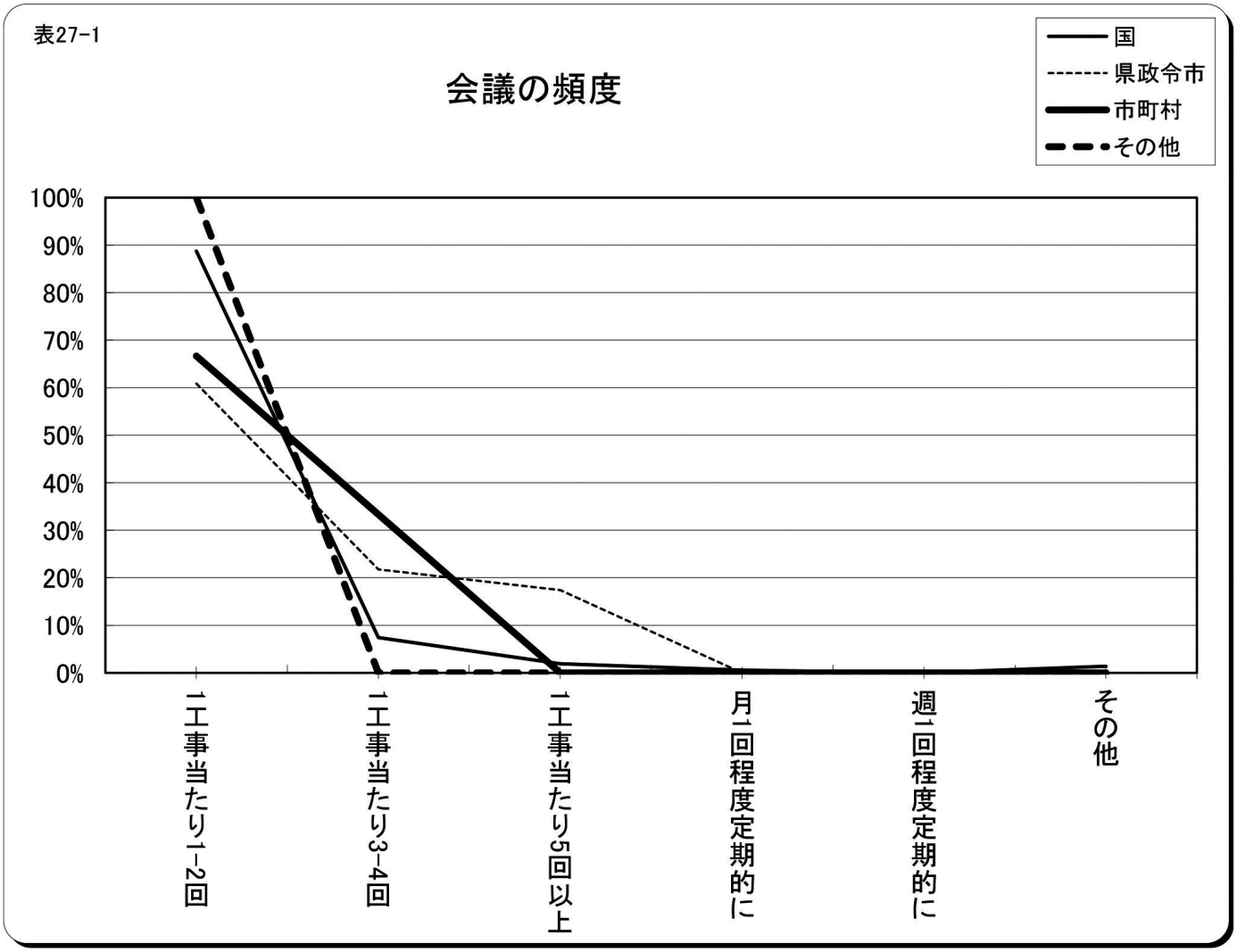
活用しているうちの国の割合	2012年	2015年	2018年
知っていて、活用している	293	345	391
そのうち国の工事	250	306	336
国の割合	85.32%	88.70%	85.93%

問27で以下に回答された方の「設計変更審査会を開く頻度」に関する発注主体別統計

1．知っていて、活用している

会議の頻度	国		県政令市		市町村		その他	
1工事当たり1-2回	323	88.7%	14	60.9%	2	66.7%	1	100.0%
1工事当たり3-4回	27	7.4%	5	21.7%	1	33.3%	0	0.0%
1工事当たり5回以上	7	1.9%	4	17.4%	0	0.0%	0	0.0%
月1回程度定期的に	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
週1回程度定期的に	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	5	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	364	100.0%	23	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

表27-1

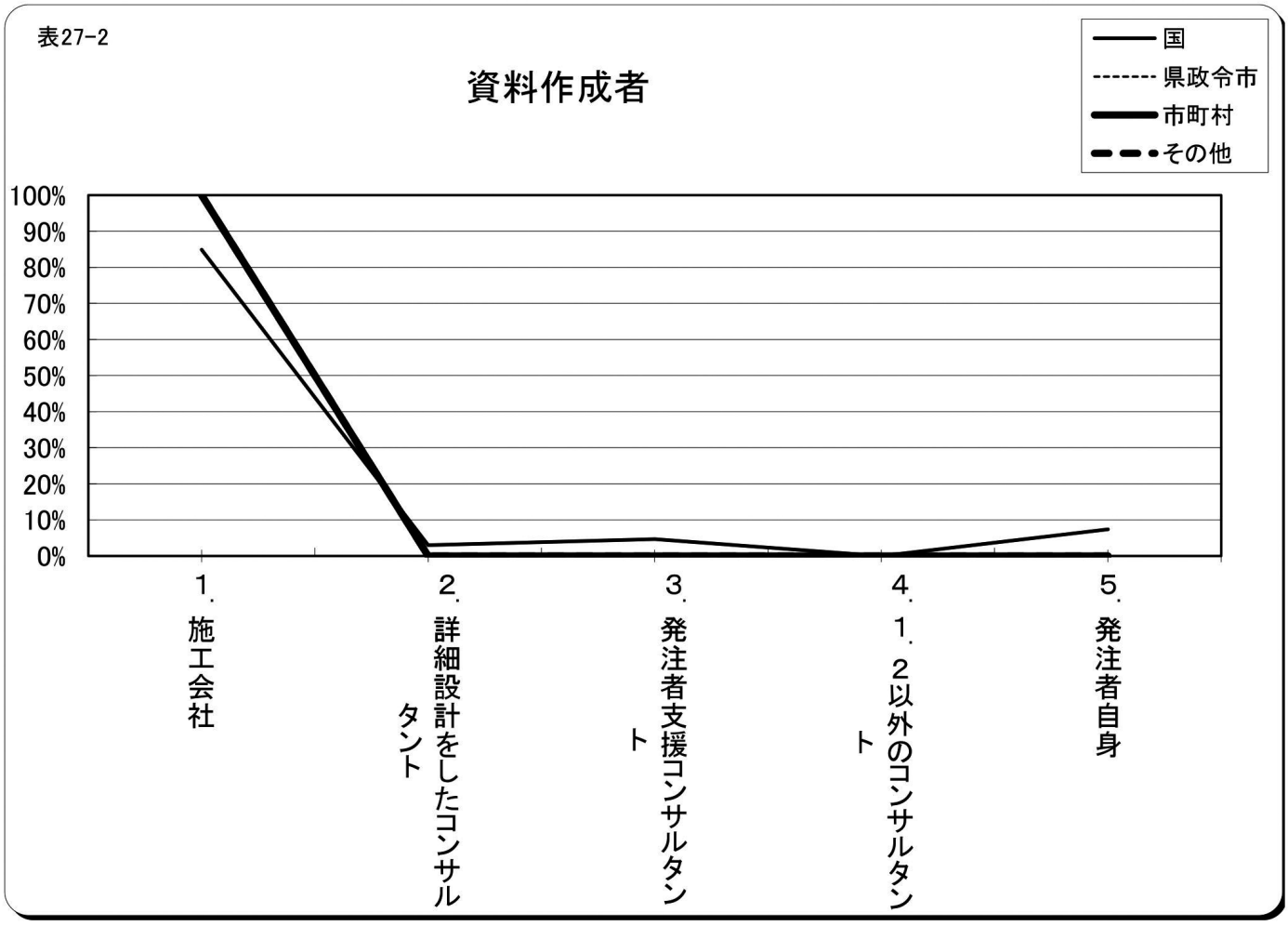


問27で以下に回答された方の「資料作成者」に関する発注主体別統計

1．知っていて、活用している

資料作成者	国		県政令市		市町村		その他	
1．施工会社	309	84.9%	23	100.0%	3	100.0%	1	100.0%
2．詳細設計をしたコンサルタント	11	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3．発注者支援コンサルタント	17	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4．1．2以外のコンサルタント	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5．発注者自身	27	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	364	100.0%	23	100.0%	3	100.0%	1	100.0%

表27-2

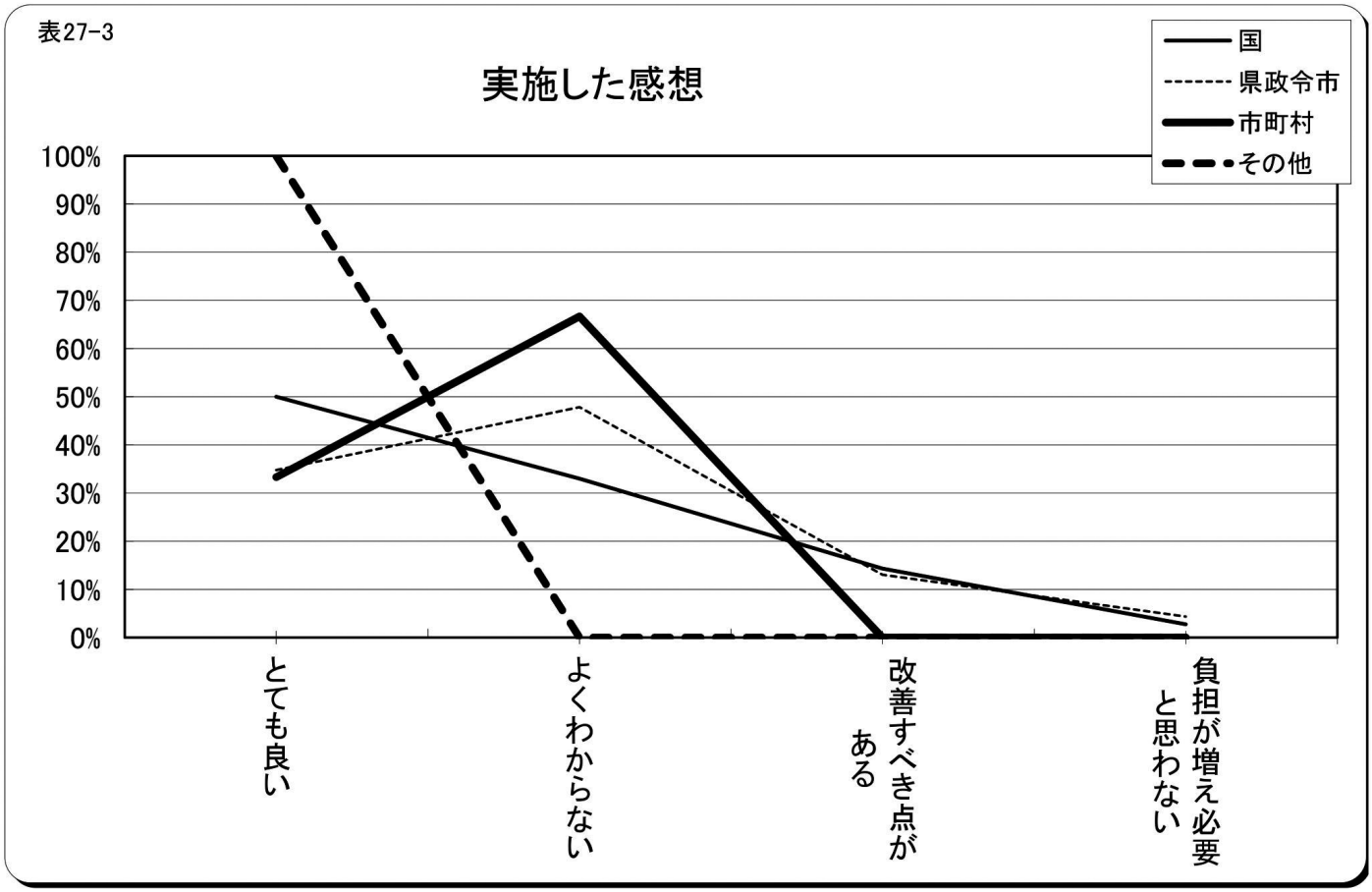


問27で以下に回答された方の「実施してみてどう思ったか」に関する発注主体別統計

1．知っていて、活用している

実施した感想	国		県政令市		市町村		その他	
とても良い	182	50.0%	8	34.8%	1	33.3%	1	100.0%
よくわからない	120	33.0%	11	47.8%	2	66.7%	0	0.0%
改善すべき点がある	52	14.3%	3	13.0%	0	0.0%	0	0.0%
負担が増え必要と思わない	10	2.7%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**364**	**100.0%**	**23**	**100.0%**	**3**	**100.0%**	**1**	**100.0%**

表27-3



問27-3 その他の回答

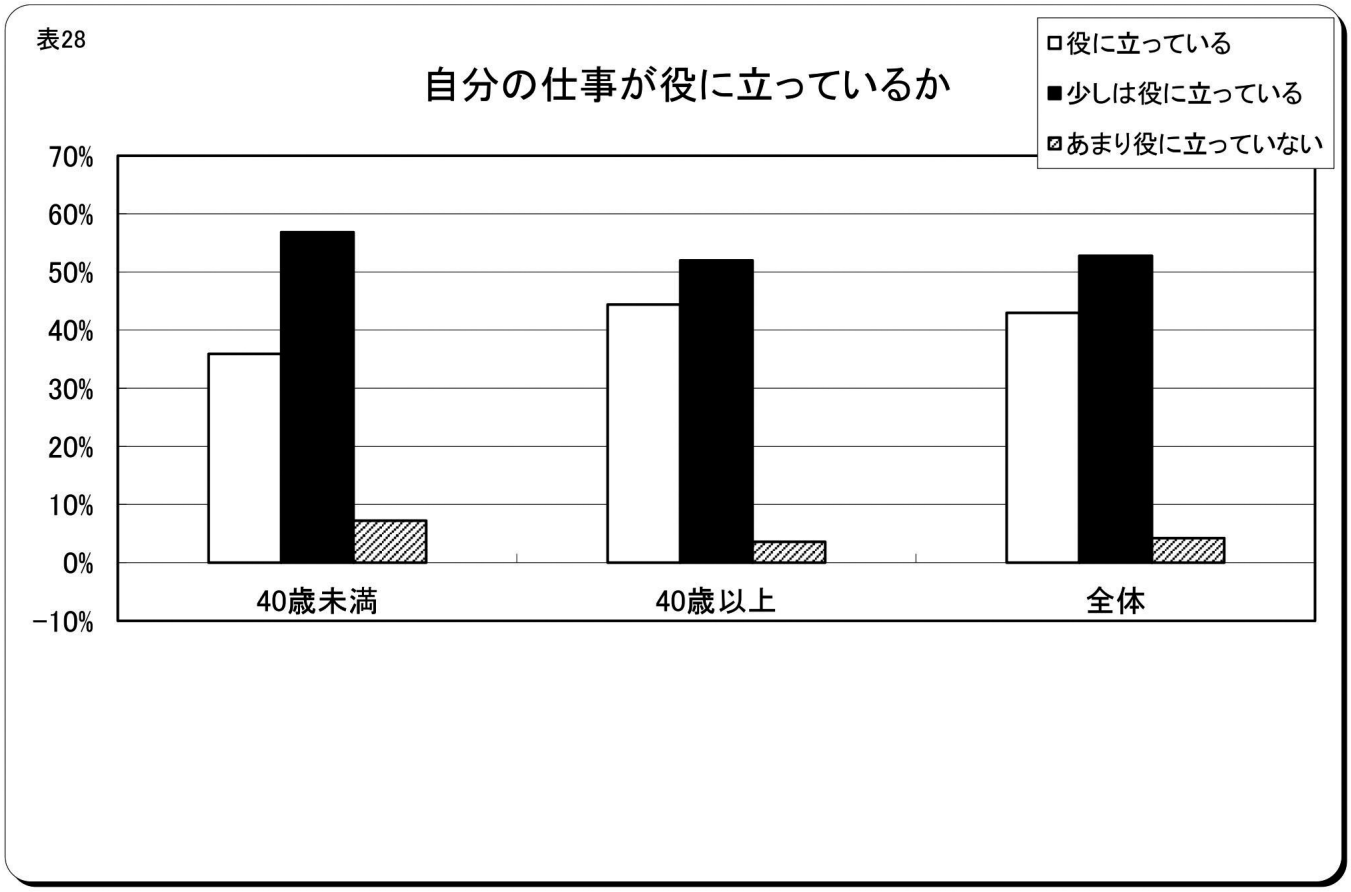
1. 知っていて、活用しているを選択された方の回答

■国	・資料作成において、多大な時間と労力を費やした。	4
	・作成する書類が多い	2
	・設計変更で数量調書や図面訂正が多すぎて図面は書きたくない。	1
	・変更に関わる資料を大量に作らされることが多いので、変更に関する資料は通常かわされる協議資料のみとし、新たに作成をしないようにしてほしい。または、協議をもとに発注者側が資料を作成する。	1
	・受注者活用の図面製作の負担が大きすぎる。	1
	・現場施工中に変更図面や資料を作成するのが厳しい。	1
	・審査会の資料と言いつつ余分な資料提出まで求められ、当日は予想通り必要としない資料であった。	1
	・審査会資料は受注者が作成しているが負担が大きいので費用負担を考えてもいいのではないでしょうか。	1
	・審査会で使用する資料の作成は受注者が行っており負担は大きいが、設計者や発注者では現地の詳細を把握しきれていないため不適格である。最近、設計業務として追加変更されるケースが間々あるが、要求される内容が量・質ともに高度になり、協議が整うまでの時間がかかりすぎる。	1
	・審査会資料の作成に時間がかかりすぎる。不備が生じた場合、再度、書類の提出が求められるため、時間がかかる。外注しても時間がかかり、工期を圧迫しかねないため、時間外労働が減らない。	1
	・施工者が審査の際使用する資料を作成している。誰かが作成することになるが、3者が持ち寄る体制にしてほしい。	1
	・資料を作成しても設計変更対象となるかの基準が分からず、計上してもらえなかった事もあった。明確な基準やそのシミュレーションを明示してほしい。	1
	・個人的主観に差があるため、資料作りに多大な労力が必要。(無給)	1
	・変更図面の作成や作成資料が膨大である(おおむね50ページを20部程度)。	1
	・全ては変更図面が基となるが、図面作成、訂正が間に合っていない。	1
	・設計変更は獲得できたが、資料のボリュームが大きかったことと、監督員が「上長との折衝のため」と言いつつ何度も追加で資料を求めてくること。非常にストレスである。	1
	・審査会出席者以外(局の担当者)の意見で大きく変わる。 設計変更が後になって認められない。	1
	・その場で認められたことが、最終的に覆る場合があった。	1
	・設計変更審査会資料作成時、工法・施工方法選定及び金額の対比等施工業者が作成して提出しているのが現状です。設計業務うに慣れた、詳細設計をしたコンサルタントが支援してくれれば、施工業者の負担が少なくなるのではないかと思います。	1
	・変更図面・資料の作成が労力、時間的にも大変な作業です。設計コンサルタントの関与がもっとあればと思います。	1
	・コンサルの回答が遅く、工程に影響がでる。	1
	・設計コンサルタントの意見が明確でない。	1
	・設計コンサルタントの対応が悪い場合があったので、会議する前に調整が必要と思った。	1
	・発注図に誤りがあるため、技術員での図面修正はおかしい。設計コンサルタントに行わせるべき。	1
	・設計業務として発注した成果内容を発注者が理解していないと感じる。施工者が工事受注後に設計照査であげる項目が多数発見されるているのが現状である。	1
	・発注者支援コンサルタントも公平な視点で参画すべきと感じた。	1
	・回答が遅く、出てきた書類では施工できなかったため、施工業者が作成した	1
	・開催日が決まっておりその日に間に合わせるための労力の負担が大きかった。	1
	・形式だけになっているので、もっと意味のある会議になるとよい。	1
	・経済性を重視し、施工性は二の次である。受発注者対等の会議ではない。工事事務所幹部の意見で決定してしまう。時間の無駄。事務所幹部と監督員だけの会議でよい。	1
	・現場の条件が違っていることを、証明する資料を作成するのに時間がかかる。 発注者に納得してもらえず、再提出を求められる。	1
	・工事管理連絡会の回答が曖昧であり、設計変更審議会の意図が不透明である。	1
	・工程について日施工量を説明したが、納得してもらえなかった。机上の工程と実際の現場の施工量の違いが分からないのはしょうがないのでしょうが・・・・・	1

	・施工会社が要望しても、実施して頂けない。	1
	・施工上必要な費用が積算基準等にない等の理由で変更が認められない場合、実績に沿って設計に反映していただきたい。	1
	・事務所ﾚﾍﾞﾙでの審査のため、局の審査次第で判断が変わる可能性がある。事前に項目と概算金額について局・事務所で確認し、審査会では金額の確定まで行って欲しい。	1
	・実際に反映されない場合がある。	1
	・受注者側の判断（変更を受理するのか）する期間が短い為、金額の折衝が困難。	1
	・審査会開催までの発注担当課の対応速度。設計変更審査会にかけるべき案件があったとき、主任監督員と受注者は資料も用意し発注担当課に掛け合う(実質的には開催発議）が、発注担当課の判断・対応が遅いうえ資料の修正依頼が延々と続いていつまでたっても審査会が開かれない。運用方針でいう「速やかに開催」が全く守られていない。	1
	・審査会中に発注者側が納得できない事案に対して、後日説明資料を作らされるから。	1
	・制度としては大変すばらしいが、発注者が多忙な為、なかなかうまく運営できていない。（実際の体制構築）また、審査会で決まった方針は設計変更時に再整理しないこと。	1
	・設計変更1ヵ月前あたりに会議が開かれ、発注者の積算担当者はそこで初めて協議内容を確認するといったことが多い。近隣工事では変更対象としていない等、その場で変更対象外になることもある。	1
	・設計変更がスムーズにいくように、発注者の否定的な意見ではなくどうしたらより良いものができるか、金額にこだわらない審査会が必要	1
	・設計変更審査会は具体的金額が計上されないと話しつらい。一方、見積参考が出てきた時点で行うと発注者の処理が終わっている場合等があり遅い。結果的に違算等があっても手遅れなのが現状である。	1
	・設計変更審査会は発注者と施工業社が変更数量について確認する会議であるが、受発注者間での協議は終わっていることから、開催する必要はないのではないか。	1
	・設計変更審査会を実施しても、発注者の思いが優先される。標準積算にとらわれすぎで、現地にそぐわない積算をされる。	1
	・設計変更内容や今後の工事の進め方について話し合うが、その場で方向性が決まらない。また、決まったとしても増額が大きすぎるとの理由で後日覆され、計画の見直しが必要となり負担が増えるだけ。	1
	・大まかな方針が決まるが設計変更までの道のりが長い。	1
	・発注者内の事前調整がされていないなど、審査会での結論が不調に終わることもある。	1
	・発注前の調査設計をもう少し現地に即したものにしておく必要がある。	1
	・必要な変更はみていただく必要があり、皆があつまり審議する必要はない。	1
	・変更内容においては、積算上の観点から変更計上できないものもある。	1
	・明らかに変更する必要があるものについても、いちいち設計変更審査会を開催するので、設計変更内容次第で開催の有無を決定する等。	1
	・受注者の負担感のほとんどは、発注以前の詳細設計が現況と合わないことであり、工事発注以前に発注の可否を決める仕組が必要である。	1
	・設計変更の方向性が決まってから開催するケースが多く、形骸化している。施工中の早い段階で実施して、実態のあるものにすべき。	1
	・ただやってるだけで、中身は伴っていない。変更の対象にしてもらえない事が多い	1
	・発注者側に設計変更審議会を最低1回は、やらないといけないという義務的な雰囲気がある。	1
■県政令市	・コンサルタントも協議に参加すべき	1
	・審査会のための労力負担が大きいが、得られる対価が乏しい。	1
	・図面及び資料の整理が多くなるから	1
	・変更図面等、発注者側が早期に作成すべきである。	1

問28. 貴方は土木技術者として自分の仕事が役に立っていると感じていますか、次の中から1つ選択してください。

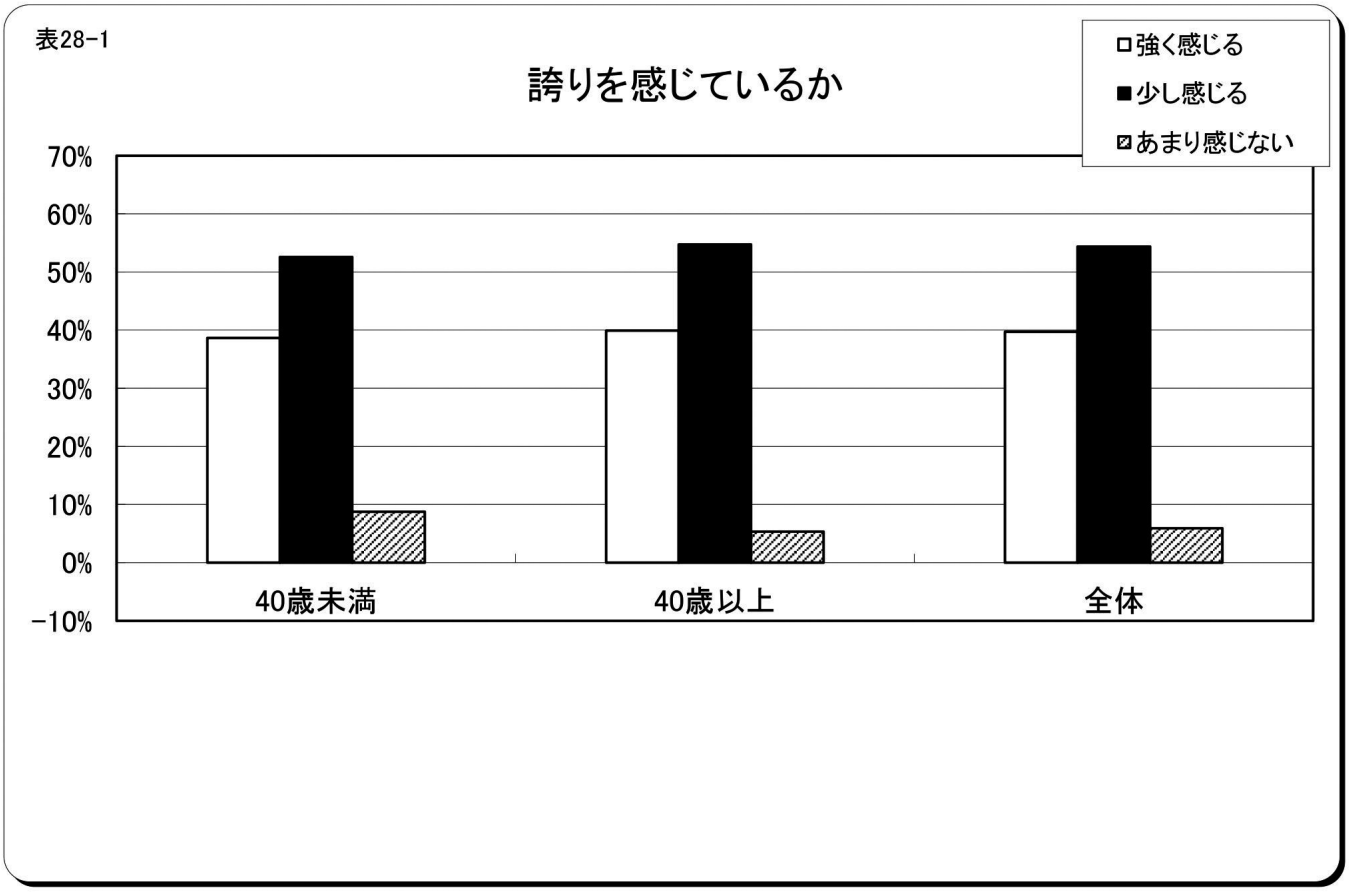
自分の仕事が役に立っているか	40歳未満		40歳以上		全体	
役に立っている	129	35.9%	787	44.4%	916	43.0%
少しは役に立っている	204	56.8%	921	52.0%	1125	52.8%
あまり役に立っていない	26	7.2%	64	3.6%	90	4.2%
合計	**359**	**100.0%**	**1772**	**100.0%**	**2131**	**100.0%**



問28で以下に回答された方にお聞きします。その仕事に誇りを感じていますか？
1. 役に立っている
2. 少しは役に立っている

誇りを感じているか	40歳未満		40歳以上		全体	
強く感じる	128	38.7%	680	39.9%	808	39.7%
少し感じる	174	52.6%	932	54.7%	1106	54.4%
あまり感じない	29	8.8%	91	5.3%	120	5.9%
合計	**331**	**100.0%**	**1703**	**100.0%**	**2034**	**100.0%**

表28-1

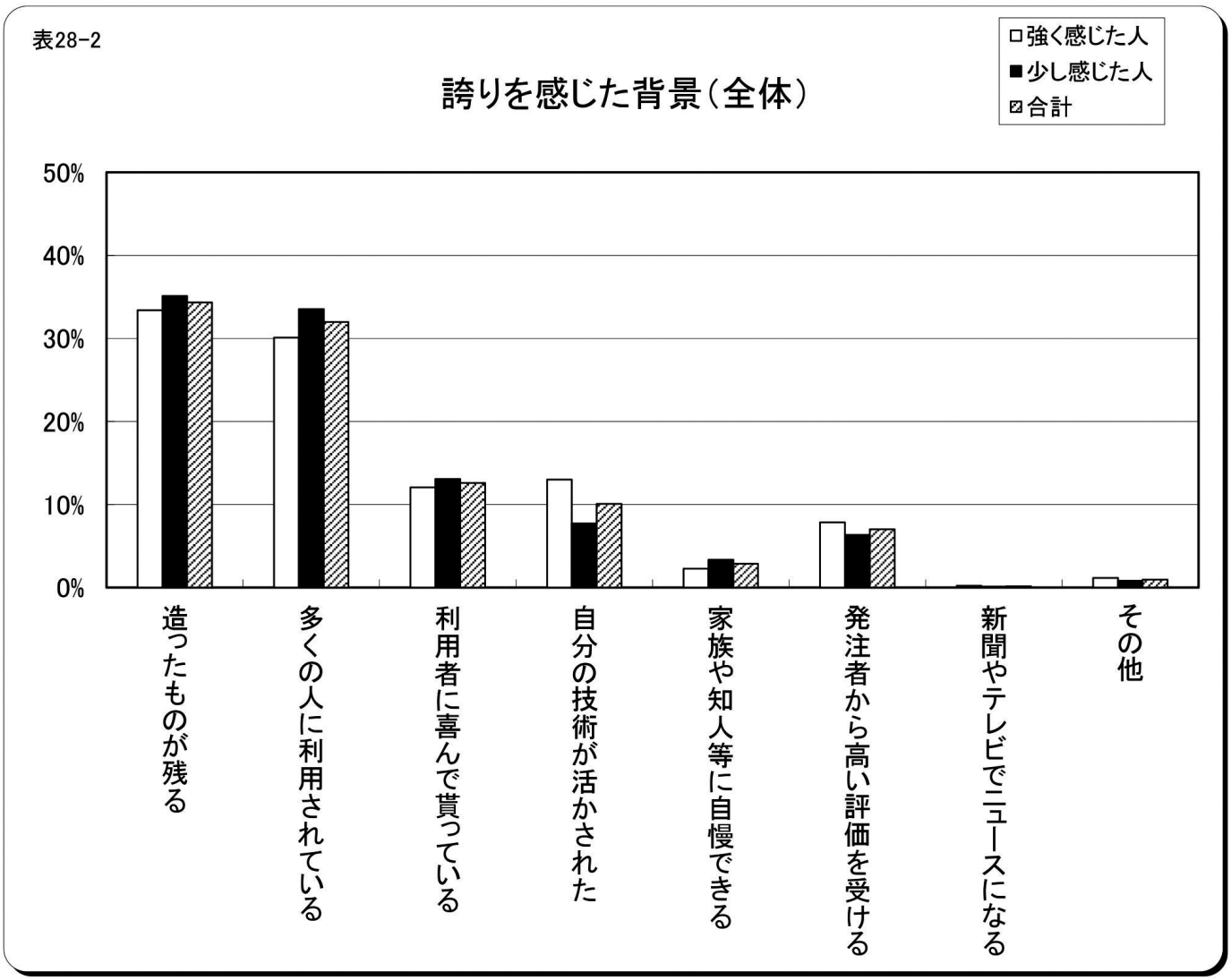


問28-1で以下に回答された方にお聞きします。誇りを感じた背景と思われるものを選んでください（2つ以内を選択）。
1．強く感じる
2．少し感じる

全体

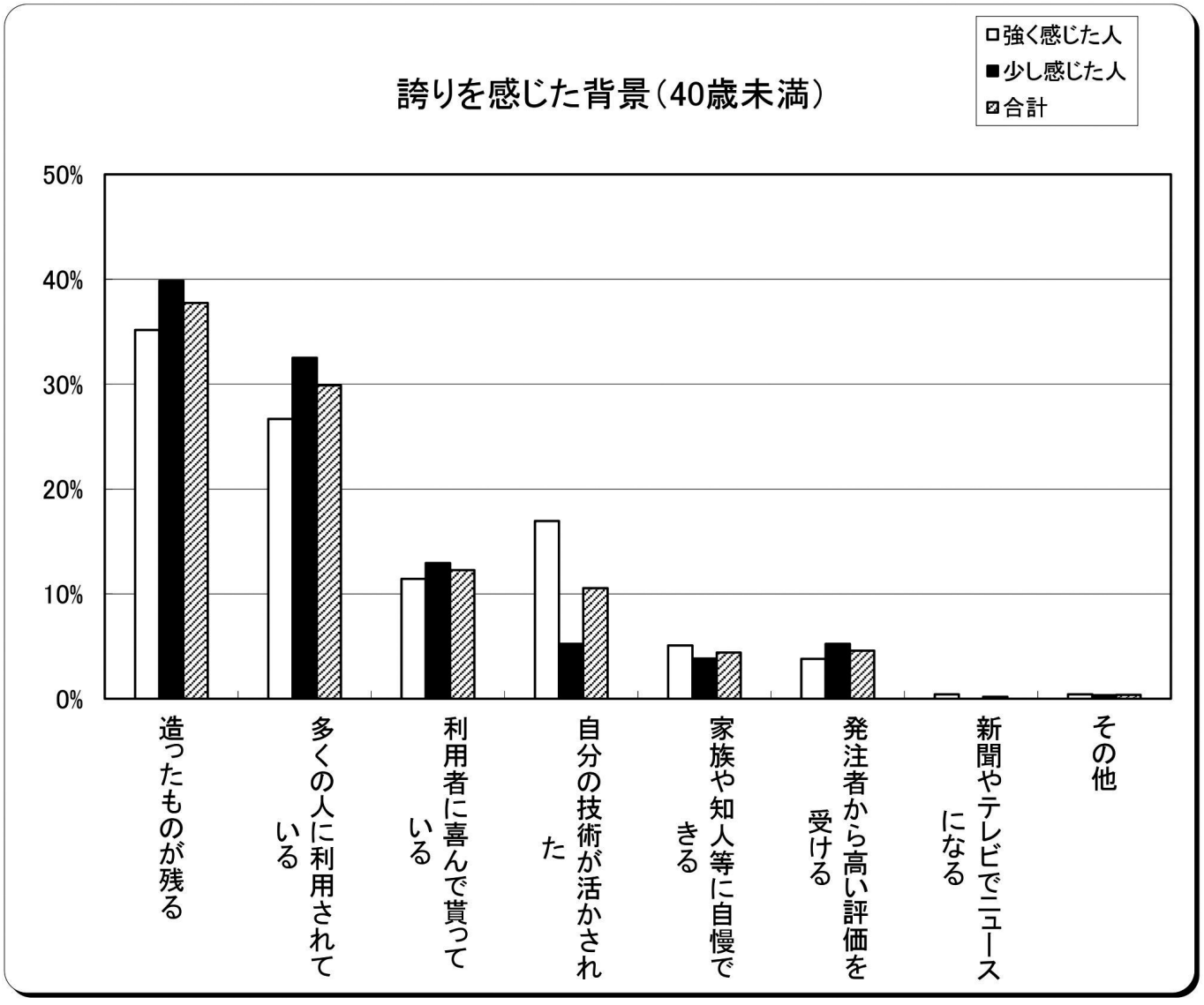
誇りを感じた背景	強く感じた人		少し感じた人		合計	
造ったものが残る（地図に残るなど）	498	33.4%	643	35.1%	1141	34.3%
多くの人に利用されている（感謝の有無に関係なく）	449	30.1%	614	33.5%	1063	32.0%
利用者に喜んで貰っている	180	12.1%	239	13.1%	419	12.6%
自分の技術が活かされた	194	13.0%	141	7.7%	335	10.1%
家族や知人等に自慢できる	34	2.3%	61	3.3%	95	2.9%
発注者から高い評価を受ける（高評点、表彰等）	117	7.8%	116	6.3%	233	7.0%
新聞やテレビでニュースになる	3	0.2%	2	0.1%	5	0.2%
その他（具体的に）	17	1.1%	15	0.8%	32	1.0%
合計	**1492**	**100.0%**	**1831**	**100.0%**	**3323**	**100.0%**

表28-2



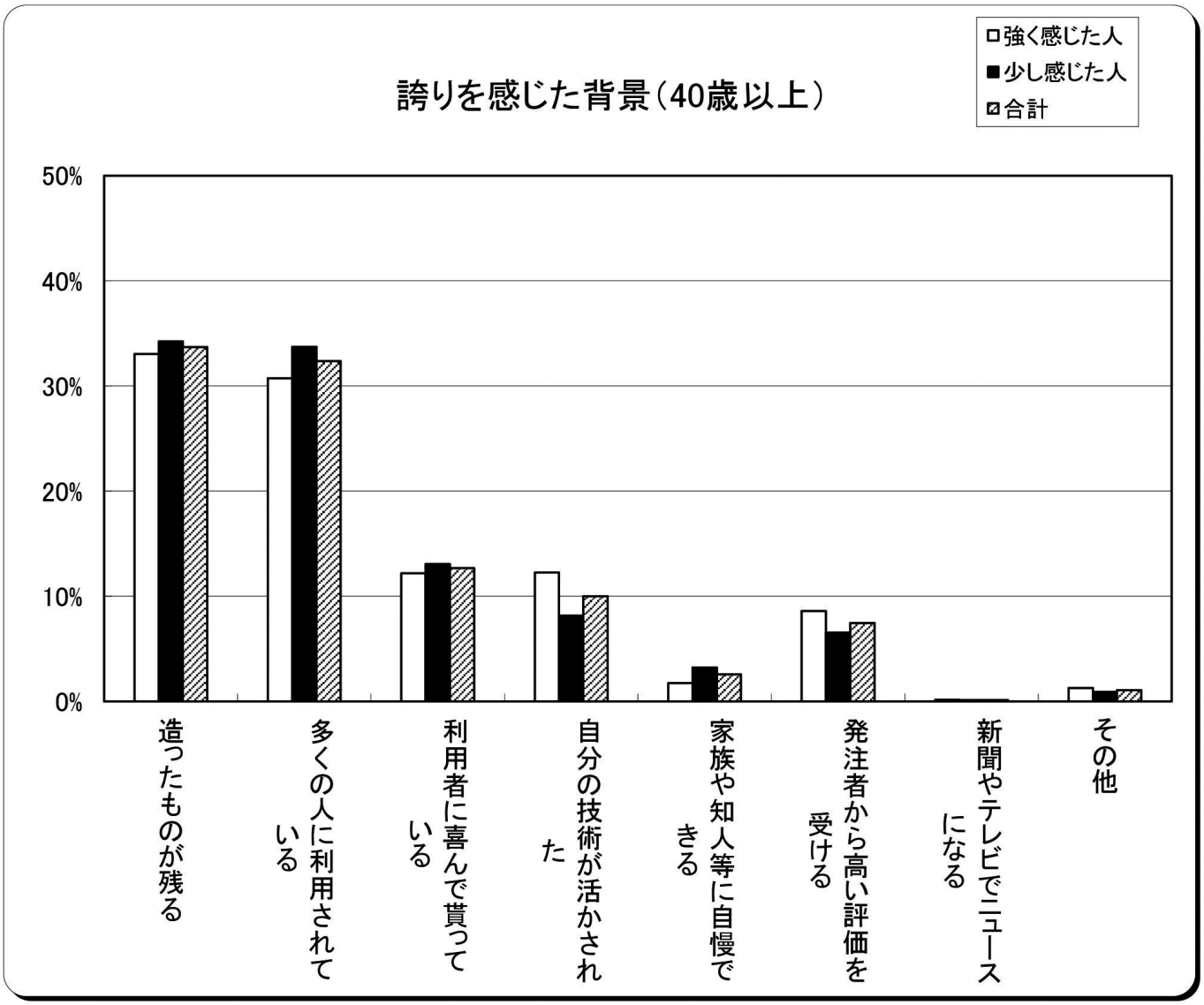
40歳未満

誇りを感じた背景	強く感じた人		少し感じた人		合計	
造ったものが残る（地図に残るなど）	83	35.2%	114	39.9%	197	37.7%
多くの人に利用されている（感謝の有無に関係なく）	63	26.7%	93	32.5%	156	29.9%
利用者に喜んで貰っている	27	11.4%	37	12.9%	64	12.3%
自分の技術が活かされた	40	16.9%	15	5.2%	55	10.5%
家族や知人等に自慢できる	12	5.1%	11	3.8%	23	4.4%
発注者から高い評価を受ける（高評点、表彰等）	9	3.8%	15	5.2%	24	4.6%
新聞やテレビでニュースになる	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
その他（具体的に）	1	0.4%	1	0.3%	2	0.4%
合計	**236**	**100.0%**	**286**	**100.0%**	**522**	**100.0%**



40歳以上

誇りを感じた背景	強く感じた人		少し感じた人		合計	
造ったものが残る（地図に残るなど）	415	33.0%	529	34.2%	944	33.7%
多くの人に利用されている（感謝の有無に関係なく）	386	30.7%	521	33.7%	907	32.4%
利用者に喜んで貰っている	153	12.2%	202	13.1%	355	12.7%
自分の技術が活かされた	154	12.3%	126	8.2%	280	10.0%
家族や知人等に自慢できる	22	1.8%	50	3.2%	72	2.6%
発注者から高い評価を受ける（高評点、表彰等）	108	8.6%	101	6.5%	209	7.5%
新聞やテレビでニュースになる	2	0.2%	2	0.1%	4	0.1%
その他（具体的に）	16	1.3%	14	0.9%	30	1.1%
合計	**1256**	**100.0%**	**1545**	**100.0%**	**2801**	**100.0%**



問28-2 その他の回答

1．強く感じるを選択された方の回答

・安全、安心な人々の生活を守り続けていることを誇りに思う。特に、災害時の道路啓開やその後の災害復旧や復興工事の意義を重く感じる。また、災害予防工事の重要性も最近特に感じている。	1
・会社に利益を生み、貢献している。	1
・現在の職種（鋼橋の架設）に就くのが子供のころからの夢だった。	1
・災害発生時・除雪等には貢献していると思う。	1
・災害復旧等、土木にしかできなく、また利便性の向上や生活が豊かになることに貢献できると感じるから	1
・自身の経験をもとに、工事受注者にアドバイスを行い喜んでもらえる	1
・社会インフラ整備に微力ながら貢献できる	1
・社会基盤として国土の安全、安心、快適な生活環境の構築に役立っている	1
・住民の生活や財産を守る	1
・人知れず、みんなの生活を守っているという自負	1
・地域住民の安全確保	1
・東日本大震災発災後の災害対応や降雪時の除融雪対応等、地域を守っているという誇りがある。	1
・与えられた条件の中で，精一杯のものをみんなで力を合わせてつくっている為。	1
・現在の技術者の多くは気が付いていない人が多いが本来山を削って道路を作ったり、川を切り替えたり橋を造るなど一般の職業の人では絶対できない事をやっている。建設業の本来の目的の一つにある社会資本整備への貢献とはものすごく尊いものに感じている。	1
・公共の財産を守る仕事であり、地域の基幹業種でありなくてはならないものでるから	1
・自分が経営しているから	1
・発注者の理解が得れて地域の安全・安心に寄与できていると思っているから。	1

2．少し感じるを選択された方の回答

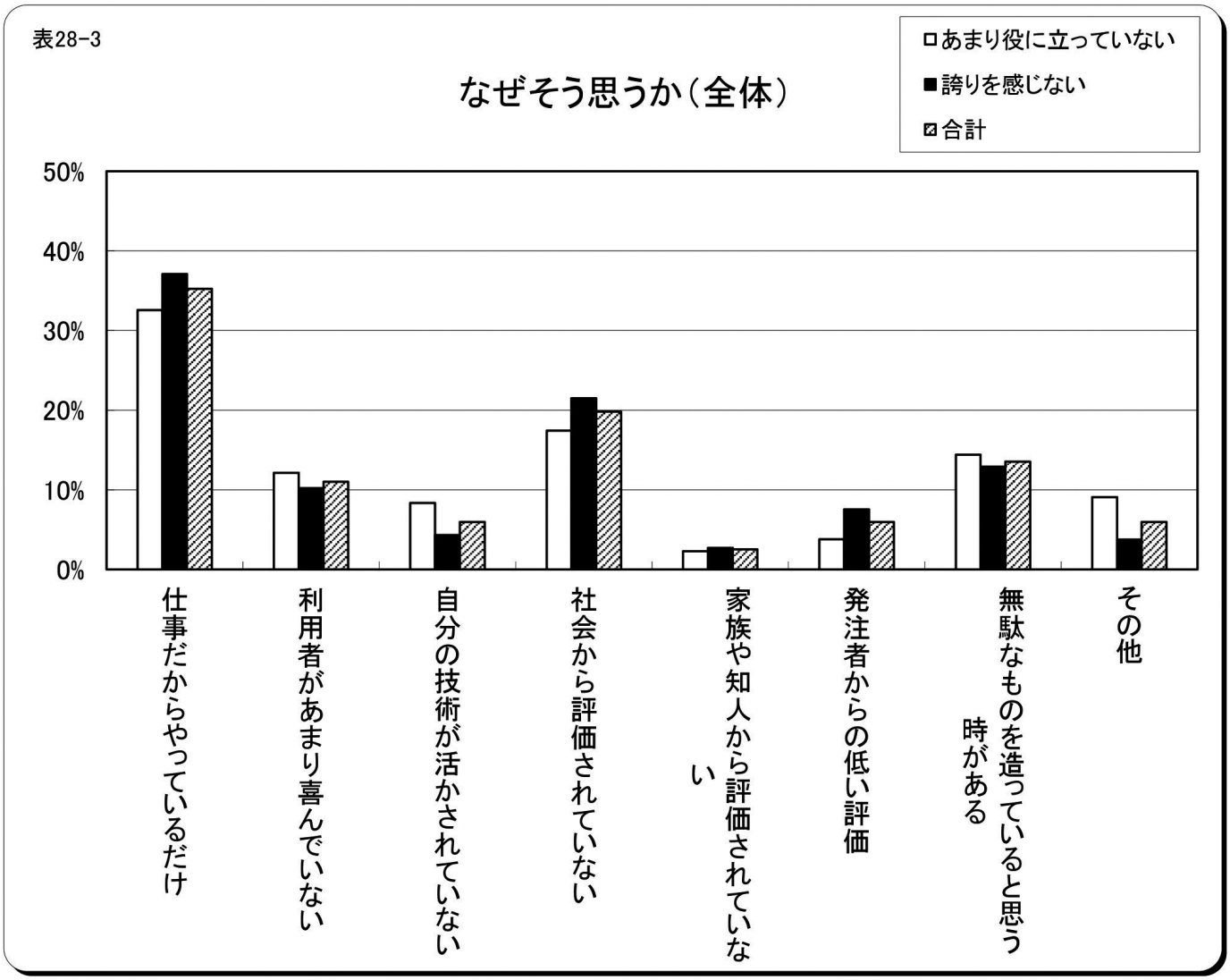
・たまたま現場付近で災害が起こり、発注者とともに速やかに対応でき、通行止めを最小限に抑えられた。	1
・減災に役に立っているので。	1
・減災に役立っている。地域の産業（農林水産業など）の発展のためになる。	1
・東日本大震災で弊社で施工した構造物が残っている	1
・何らかの形で、ふるさとを守っている感じがします。	1
・休日でも何があっても緊急時等に出動している。	1
・公共設備の構築の為、社会的に意義があると思われる。	1
・工事内容に変更が生じた場合、積算し変更予算が予想できる。	1
・自己満足	1
・社内で重宝される。	1
・主に河川工事に携わっており、災害防止に役立っていると思っている。	1
・多くの技術者や地元の方々を招き、現場見学会等を開催したとき。	1
・土木構造物の延命ができること	1
・発注時点において、工法・金額が決められており、予算の消化的な工事になっている。	1
・利用者が喜んでいるかは知る由もないが、造ったものが一般に供用され、利用されている。	1

問28、問28-1で以下に回答された方にお聞きします。なぜそう思いますか？（2つ以内を選択）。
問28 3. あまり役に立っていない
問28-1 3. あまり感じない

全体

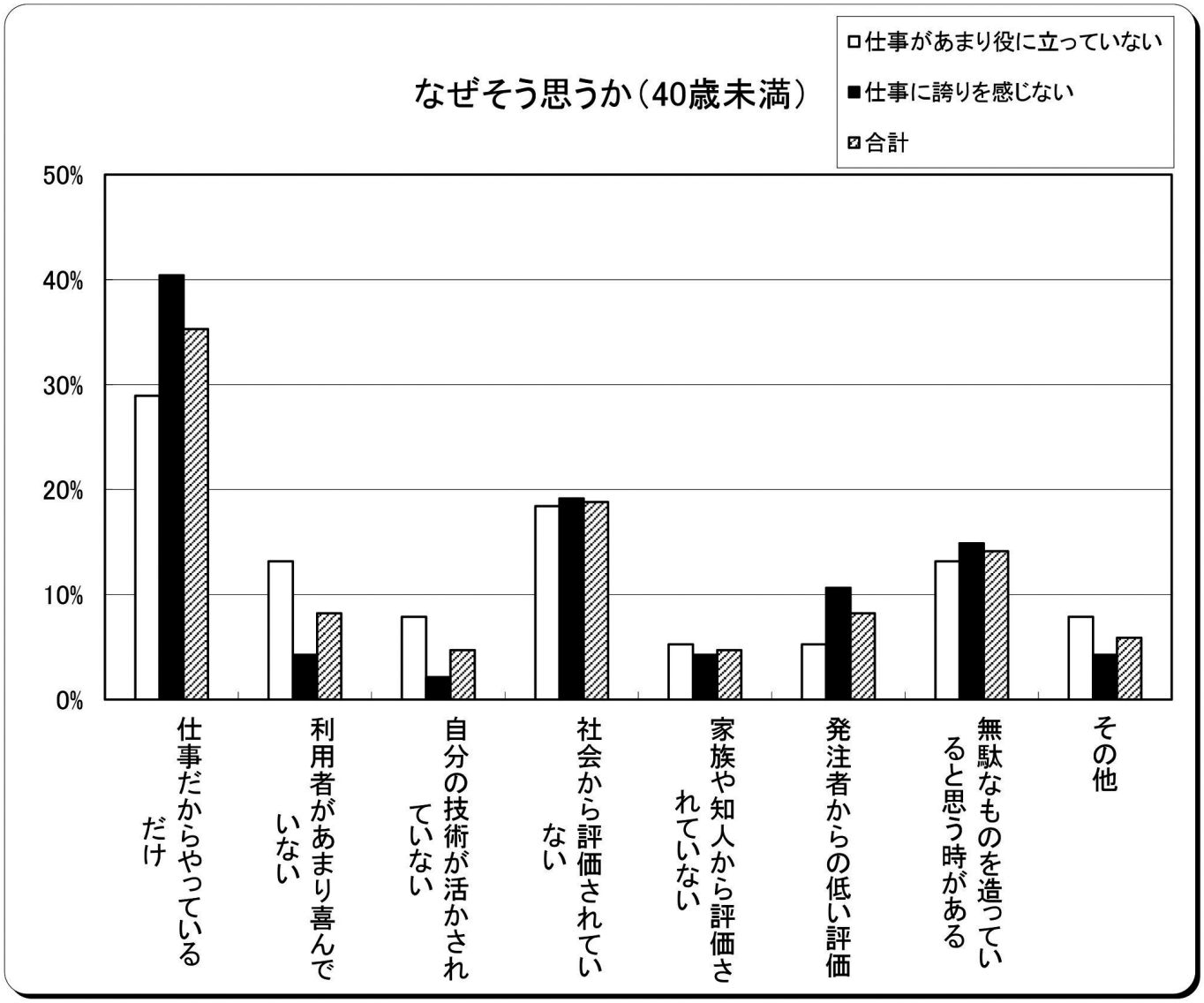
なぜそう思うか	あまり役に立っていない		誇りを感じない		合計	
仕事だからやっているだけ	43	32.6%	69	37.1%	112	35.2%
利用者があまり喜んでいない	16	12.1%	19	10.2%	35	11.0%
自分の技術が活かされていない	11	8.3%	8	4.3%	19	6.0%
社会から評価されていない（悪く言われることもある）	23	17.4%	40	21.5%	63	19.8%
家族や知人から評価されていない	3	2.3%	5	2.7%	8	2.5%
発注者からの低い評価	5	3.8%	14	7.5%	19	6.0%
無駄なものを造っていると思う時がある	19	14.4%	24	12.9%	43	13.5%
その他（具体的に）	12	9.1%	7	3.8%	19	6.0%
合計	**132**	**100.0%**	**186**	**100.0%**	**318**	**100.0%**

表28-3



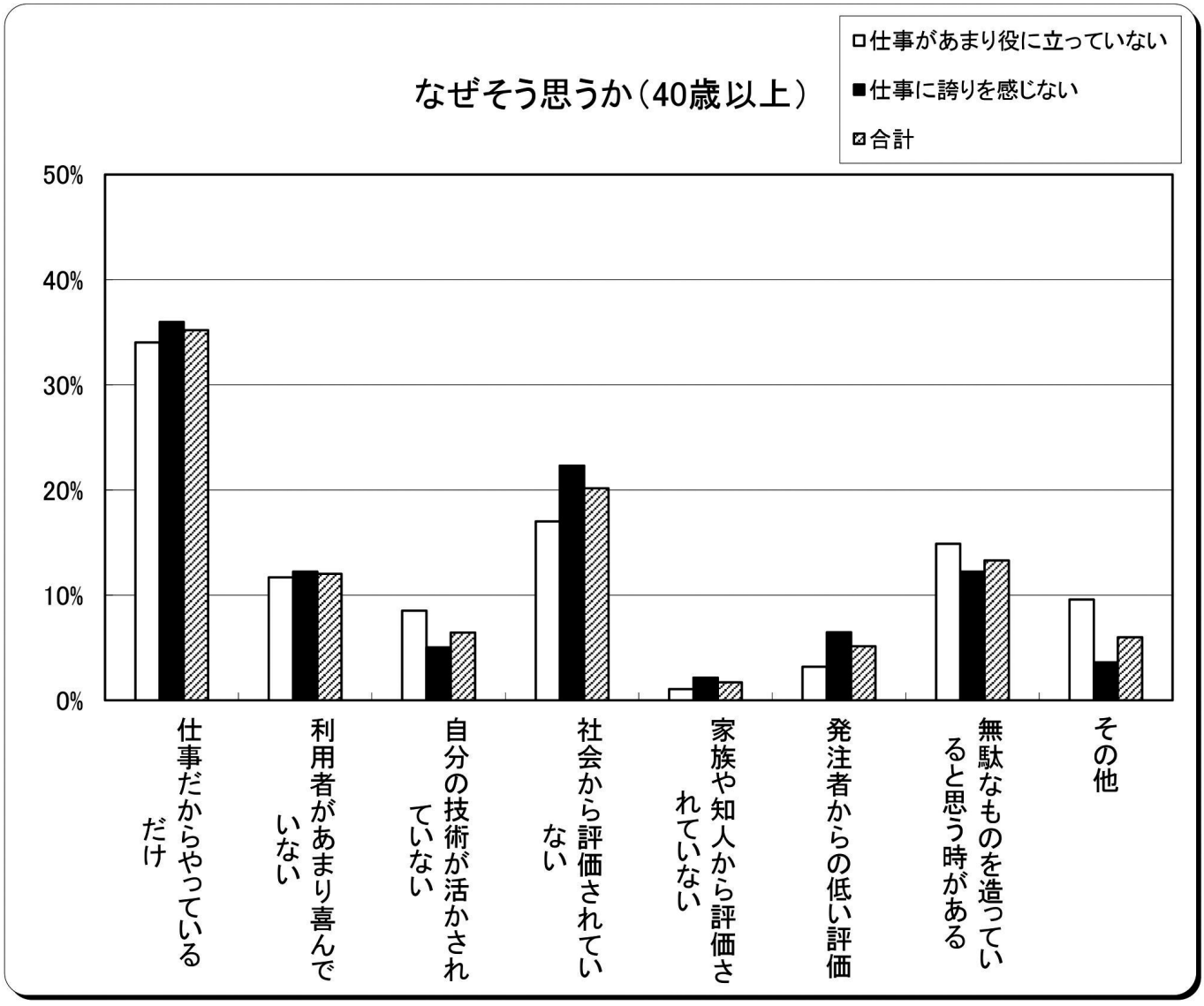
40歳未満

なぜそう思うか	仕事があまり役に立っていない		仕事に誇りを感じない		合計	
仕事だからやっているだけ	11	28.9%	19	40.4%	30	35.3%
利用者があまり喜んでいない	5	13.2%	2	4.3%	7	8.2%
自分の技術が活かされていない	3	7.9%	1	2.1%	4	4.7%
社会から評価されていない（悪く言われることもある）	7	18.4%	9	19.1%	16	18.8%
家族や知人から評価されていない	2	5.3%	2	4.3%	4	4.7%
発注者からの低い評価	2	5.3%	5	10.6%	7	8.2%
無駄なものを造っていると思う時がある	5	13.2%	7	14.9%	12	14.1%
その他（具体的に）	3	7.9%	2	4.3%	5	5.9%
合計	38	100.0%	47	100.0%	85	100.0%



40歳以上

なぜそう思うか	仕事があまり役に立っていない		仕事に誇りを感じない		合計	
仕事だからやっているだけ	32	34.0%	50	36.0%	82	35.2%
利用者があまり喜んでいない	11	11.7%	17	12.2%	28	12.0%
自分の技術が活かされていない	8	8.5%	7	5.0%	15	6.4%
社会から評価されていない（悪く言われることもある）	16	17.0%	31	22.3%	47	20.2%
家族や知人から評価されていない	1	1.1%	3	2.2%	4	1.7%
発注者からの低い評価	3	3.2%	9	6.5%	12	5.2%
無駄なものを造っていると思う時がある	14	14.9%	17	12.2%	31	13.3%
その他（具体的に）	9	9.6%	5	3.6%	14	6.0%
合計	**94**	**100.0%**	**139**	**100.0%**	**233**	**100.0%**



問28-3 その他の回答

問28 3. あまり役に立っていないを選択された方の回答

・まだ未熟すぎて	1
・監督としての経験が少なく仕事ができない。	1
・施工・工程・原価管理など興味はあるが経験が少ないため、自信につながらないです。	1
・年度末など予算の使い方に疑問を持つ。	1

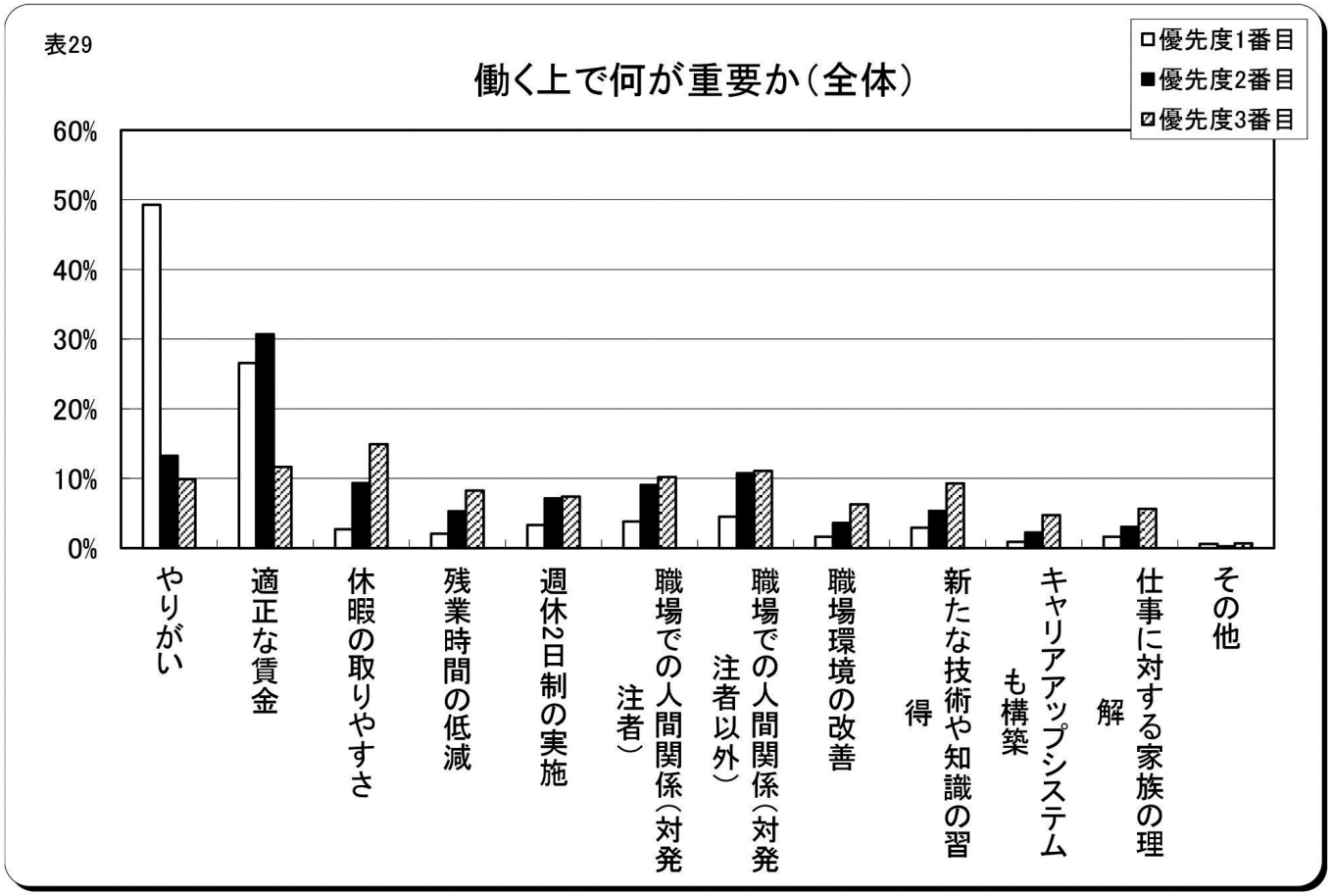
問28-1 3. あまり感じないを選択された方の回答

・目標として、公共工事を主に行っている自分の仕事を通じて、地域住民・発注者・自社の3方のメリットを追求している。誇り持つためにおこなっているのではなく、義務感(使命感)を強く感じる。	1
・会社から評価されていない。設計金額は上昇したり、利益率が良くても給与が一向に上昇しない。	1
・要求事項が多い	1
・一般の人からの評価を聞いたことがないから。	1
・誇りとは何をもって誇りというか分らない	1
・国民の安全や利便性の向上の為に現場一丸となって一生懸命仕事をしているが国民からは苦情を言われ発注者からは圧力をかけられ、また儲からない。	1
・夢が持てる仕事内容ではない。その割に、責任は重く、休日返上などで私生活も縛られることが多い。	1

問29. 貴方は土木技術者として、働く上で何が重要だと思いますか

全体

働く上で何が重要か	優先度1番目		優先度2番目		優先度3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	1052	49.3%	283	13.3%	211	9.9%
適正な賃金	567	26.6%	655	30.7%	249	11.7%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	58	2.7%	199	9.3%	318	14.9%
残業時間の低減	44	2.1%	113	5.3%	176	8.2%
週休2日制の実施	71	3.3%	152	7.1%	158	7.4%
職場での人間関係(対発注者)	82	3.8%	194	9.1%	217	10.2%
職場での人間関係(対発注者以外)	96	4.5%	229	10.7%	237	11.1%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	35	1.6%	77	3.6%	134	6.3%
新たな技術や知識の習得	62	2.9%	114	5.3%	198	9.3%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	19	0.9%	48	2.2%	101	4.7%
仕事に対する家族の理解	35	1.6%	65	3.0%	120	5.6%
その他(具体的に)	13	0.6%	5	0.2%	15	0.7%
合計	**2134**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



1番目を選択した人の2番目、3番目の選択

働く上で何が重要か	やりがい				適正な賃金			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	2	0.2%	3	0.3%	164	28.9%	97	17.1%
適正な賃金	507	48.2%	148	14.1%	6	1.1%	7	1.2%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	54	5.1%	200	19.0%	116	20.5%	75	13.2%
残業時間の低減	27	2.6%	64	6.1%	58	10.2%	70	12.3%
週休2日制の実施	34	3.2%	71	6.7%	90	15.9%	58	10.2%
職場での人間関係(対発注者)	109	10.4%	119	11.3%	31	5.5%	60	10.6%
職場での人間関係(対発注者以外)	124	11.8%	132	12.5%	53	9.3%	61	10.8%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	42	4.0%	71	6.7%	13	2.3%	38	6.7%
新たな技術や知識の習得	86	8.2%	119	11.3%	9	1.6%	44	7.8%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	26	2.5%	58	5.5%	14	2.5%	23	4.1%
仕事に対する家族の理解	39	3.7%	63	6.0%	13	2.3%	30	5.3%
その他(具体的に)	2	0.2%	4	0.4%	0	0.0%	4	0.7%
合計	1052	100.0%	1052	100.0%	567	100.0%	567	100.0%

働く上で何が重要か	休暇の取りやすさ				残業時間の低減			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	5	8.6%	14	24.1%	3	6.8%	10	22.7%
適正な賃金	25	43.1%	10	17.2%	14	31.8%	11	25.0%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	0	0.0%	0	0.0%	5	11.4%	5	11.4%
残業時間の低減	8	13.8%	9	15.5%	0	0.0%	0	0.0%
週休2日制の実施	3	5.2%	2	3.4%	11	25.0%	5	11.4%
職場での人間関係(対発注者)	5	8.6%	4	6.9%	2	4.5%	4	9.1%
職場での人間関係(対発注者以外)	4	6.9%	7	12.1%	4	9.1%	3	6.8%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	4	6.9%	4	6.9%	3	6.8%	1	2.3%
新たな技術や知識の習得	1	1.7%	1	1.7%	0	0.0%	1	2.3%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	1	1.7%	3	5.2%	0	0.0%	2	4.5%
仕事に対する家族の理解	2	3.4%	3	5.2%	2	4.5%	1	2.3%
その他(具体的に)	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	2.3%
合計	58	100.0%	58	100.0%	44	100.0%	44	100.0%

働く上で何が重要か	週休2日制の実施				職場での人間関係（対発注者）			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	10	14.1%	19	26.8%	20	24.4%	15	18.3%
適正な賃金	35	49.3%	9	12.7%	11	13.4%	19	23.2%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	8	11.3%	4	5.6%	3	3.7%	6	7.3%
残業時間の低減	9	12.7%	13	18.3%	5	6.1%	1	1.2%
週休2日制の実施	1	1.4%	1	1.4%	3	3.7%	6	7.3%
職場での人間関係（対発注者）	3	4.2%	9	12.7%	0	0.0%	0	0.0%
職場での人間関係（対発注者以外）	2	2.8%	8	11.3%	29	35.4%	6	7.3%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	1	1.4%	1	1.4%	4	4.9%	6	7.3%
新たな技術や知識の習得	2	2.8%	3	4.2%	4	4.9%	12	14.6%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.7%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	4	5.6%	3	3.7%	8	9.8%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**71**	**100.0%**	**71**	**100.0%**	**82**	**100.0%**	**82**	**100.0%**

働く上で何が重要か	職場での人間関係（対発注者以外）				職場環境の改善			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	27	28.1%	24	25.0%	8	22.9%	4	11.4%
適正な賃金	23	24.0%	15	15.6%	7	20.0%	5	14.3%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	3	3.1%	13	13.5%	3	8.6%	5	14.3%
残業時間の低減	6	6.3%	5	5.2%	0	0.0%	4	11.4%
週休2日制の実施	3	3.1%	6	6.3%	1	2.9%	1	2.9%
職場での人間関係（対発注者）	27	28.1%	3	3.1%	8	22.9%	2	5.7%
職場での人間関係（対発注者以外）	0	0.0%	0	0.0%	3	8.6%	5	14.3%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	3	3.1%	6	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
新たな技術や知識の習得	3	3.1%	13	13.5%	5	14.3%	4	11.4%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	0	0.0%	5	5.2%	0	0.0%	3	8.6%
仕事に対する家族の理解	1	1.0%	5	5.2%	0	0.0%	2	5.7%
その他（具体的に）	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**96**	**100.0%**	**96**	**100.0%**	**35**	**100.0%**	**35**	**100.0%**

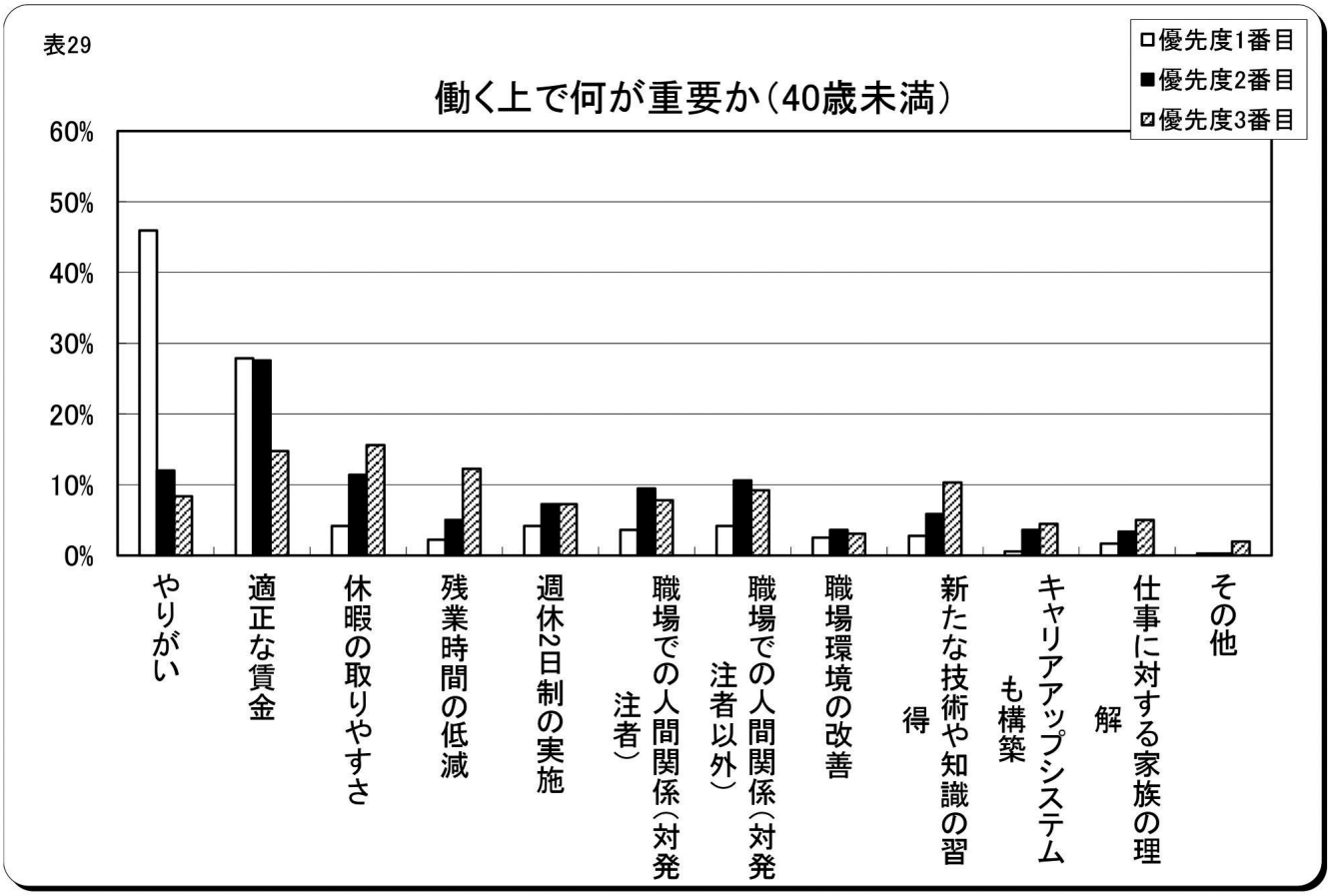
働く上で何が重要か	新たな技術や知識の習得				キャリアアップシステムの構築			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	23	37.1%	11	17.7%	8	42.1%	3	15.8%
適正な賃金	9	14.5%	11	17.7%	3	15.8%	6	31.6%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	3	4.8%	5	8.1%	1	5.3%	2	10.5%
残業時間の低減	0	0.0%	4	6.5%	0	0.0%	2	10.5%
週休2日制の実施	5	8.1%	3	4.8%	0	0.0%	2	10.5%
職場での人間関係(対発注者)	6	9.7%	10	16.1%	1	5.3%	1	5.3%
職場での人間関係(対発注者以外)	2	3.2%	7	11.3%	1	5.3%	1	5.3%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	6	9.7%	4	6.5%	1	5.3%	2	10.5%
新たな技術や知識の習得	1	1.6%	0	0.0%	2	10.5%	0	0.0%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	4	6.5%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
仕事に対する家族の理解	3	4.8%	4	6.5%	2	10.5%	0	0.0%
その他(具体的に)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**62**	**100.0%**	**62**	**100.0%**	**19**	**100.0%**	**19**	**100.0%**

働く上で何が重要か	仕事に対する家族の理解				その他			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	10	28.6%	11	31.4%	3	23.1%	0	0.0%
適正な賃金	10	28.6%	7	20.0%	5	38.5%	1	7.7%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	3	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	23.1%
残業時間の低減	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%	2	15.4%
週休2日制の実施	0	0.0%	3	8.6%	1	7.7%	0	0.0%
職場での人間関係(対発注者)	1	2.9%	5	14.3%	1	7.7%	0	0.0%
職場での人間関係(対発注者以外)	7	20.0%	6	17.1%	0	0.0%	1	7.7%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%
新たな技術や知識の習得	1	2.9%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	3	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他(具体的に)	0	0.0%	0	0.0%	3	23.1%	4	30.8%
合計	**35**	**100.0%**	**35**	**100.0%**	**13**	**100.0%**	**13**	**100.0%**

問29. 貴方は土木技術者として、働く上で何が重要だと思いますか

40歳未満

働く上で何が重要か	優先度1番目		優先度2番目		優先度3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	165	46.0%	43	12.0%	30	8.4%
適正な賃金	100	27.9%	99	27.6%	53	14.8%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	15	4.2%	41	11.4%	56	15.6%
残業時間の低減	8	2.2%	18	5.0%	44	12.3%
週休2日制の実施	15	4.2%	26	7.2%	26	7.2%
職場での人間関係（対発注者）	13	3.6%	34	9.5%	28	7.8%
職場での人間関係（対発注者以外）	15	4.2%	38	10.6%	33	9.2%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	9	2.5%	13	3.6%	11	3.1%
新たな技術や知識の習得	10	2.8%	21	5.8%	37	10.3%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	2	0.6%	13	3.6%	16	4.5%
仕事に対する家族の理解	6	1.7%	12	3.3%	18	5.0%
その他（具体的に）	1	0.3%	1	0.3%	7	1.9%
合計	**359**	**100.0%**	**359**	**100.0%**	**359**	**100.0%**



1番目を選択した人の2番目、3番目の選択

働く上で何が重要か	やりがい				適正な賃金			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	0	0.0%	0	0.0%	26	26.0%	12	12.0%
適正な賃金	70	42.4%	33	20.0%	3	3.0%	3	3.0%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	10	6.1%	37	22.4%	28	28.0%	11	11.0%
残業時間の低減	4	2.4%	16	9.7%	8	8.0%	18	18.0%
週休2日制の実施	7	4.2%	12	7.3%	12	12.0%	7	7.0%
職場での人間関係（対発注者）	17	10.3%	10	6.1%	5	5.0%	9	9.0%
職場での人間関係（対発注者以外）	17	10.3%	14	8.5%	9	9.0%	8	8.0%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	8	4.8%	3	1.8%	1	1.0%	6	6.0%
新たな技術や知識の習得	17	10.3%	23	13.9%	1	1.0%	9	9.0%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	9	5.5%	8	4.8%	3	3.0%	6	6.0%
仕事に対する家族の理解	6	3.6%	9	5.5%	4	4.0%	7	7.0%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100	100.0%	100	100.0%

働く上で何が重要か	休暇の取りやすさ				残業時間の低減			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	1	6.7%	2	13.3%	1	12.5%	1	12.5%
適正な賃金	4	26.7%	4	26.7%	3	37.5%	0	0.0%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%
残業時間の低減	3	20.0%	3	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
週休2日制の実施	2	13.3%	1	6.7%	2	25.0%	2	25.0%
職場での人間関係（対発注者）	2	13.3%	1	6.7%	0	0.0%	1	12.5%
職場での人間関係（対発注者以外）	3	20.0%	2	13.3%	1	12.5%	0	0.0%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	1	12.5%
新たな技術や知識の習得	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	1	12.5%
その他（具体的に）	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	1	12.5%
合計	15	100.0%	15	100.0%	8	100.0%	8	100.0%

働く上で何が重要か	週休2日制の実施				職場での人間関係（対発注者）			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	2	13.3%	4	26.7%	2	15.4%	2	15.4%
適正な賃金	12	80.0%	1	6.7%	1	7.7%	5	38.5%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	0	0.0%	2	13.3%	1	7.7%	2	15.4%
残業時間の低減	0	0.0%	4	26.7%	1	7.7%	0	0.0%
週休2日制の実施	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	1	7.7%
職場での人間関係（対発注者）	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
職場での人間関係（対発注者以外）	0	0.0%	3	20.0%	4	30.8%	0	0.0%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	0	0.0%	0	0.0%	2	15.4%	0	0.0%
新たな技術や知識の習得	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	2	15.4%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	1	7.7%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**15**	**100.0%**	**15**	**100.0%**	**13**	**100.0%**	**13**	**100.0%**

働く上で何が重要か	職場での人間関係（対発注者以外）				職場環境の改善			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	3	20.0%	6	40.0%	4	44.4%	1	11.1%
適正な賃金	3	20.0%	3	20.0%	0	0.0%	1	11.1%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	1	6.7%	1	6.7%	1	11.1%	1	11.1%
残業時間の低減	2	13.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	22.2%
週休2日制の実施	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
職場での人間関係（対発注者）	4	26.7%	2	13.3%	3	33.3%	1	11.1%
職場での人間関係（対発注者以外）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	33.3%
新たな技術や知識の習得	1	6.7%	1	6.7%	1	11.1%	0	0.0%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**15**	**100.0%**	**15**	**100.0%**	**9**	**100.0%**	**9**	**100.0%**

働く上で何が重要か	新たな技術や知識の習得				キャリアアップシステムの構築			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	2	20.0%	1	10.0%	1	50.0%	0	0.0%
適正な賃金	0	0.0%	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
残業時間の低減	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
週休2日制の実施	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%
職場での人間関係(対発注者)	2	20.0%	2	20.0%	0	0.0%	1	50.0%
職場での人間関係(対発注者以外)	1	10.0%	2	20.0%	1	50.0%	0	0.0%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
新たな技術や知識の習得	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	1	10.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他(具体的に)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**10**	**100.0%**	**10**	**100.0%**	**2**	**100.0%**	**2**	**100.0%**

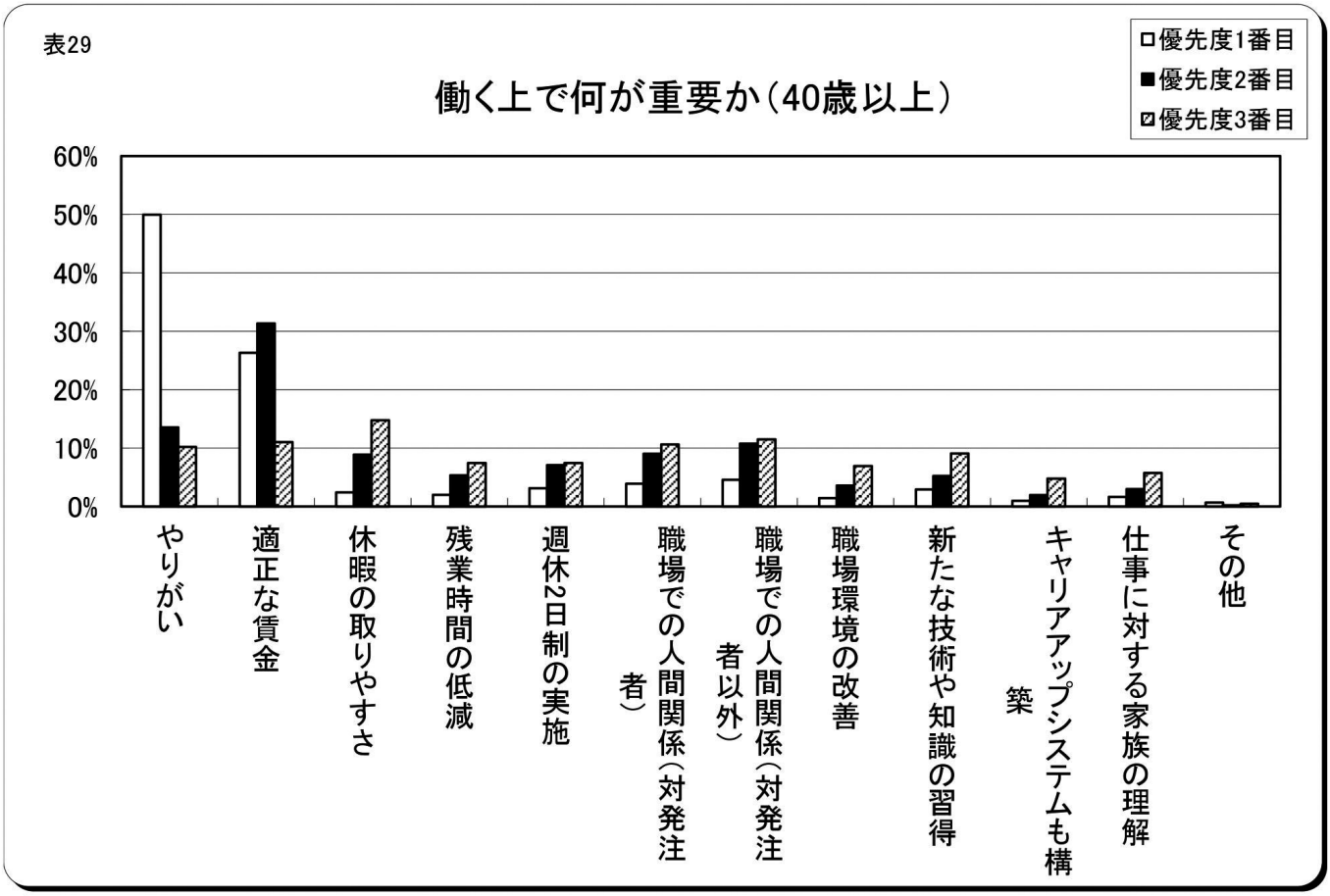
働く上で何が重要か	仕事に対する家族の理解				その他			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
適正な賃金	3	50.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
残業時間の低減	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
週休2日制の実施	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
職場での人間関係(対発注者)	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
職場での人間関係(対発注者以外)	2	33.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
新たな技術や知識の習得	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他(具体的に)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
合計	**6**	**100.0%**	**6**	**100.0%**	**1**	**100.0%**	**1**	**100.0%**

問29. 貴方は土木技術者として、働く上で何が重要だと思いますか

40歳以上

働く上で何が重要か	優先度1番目		優先度2番目		優先度3番目	
やりがい(仕事内容や技術力が活かせるなど)	887	50.0%	240	13.5%	181	10.2%
適正な賃金	467	26.3%	556	31.3%	196	11.0%
休暇の取りやすさ(週休2日にはこだわらない)	43	2.4%	158	8.9%	262	14.8%
残業時間の低減	36	2.0%	95	5.4%	132	7.4%
週休2日制の実施	56	3.2%	126	7.1%	132	7.4%
職場での人間関係(対発注者)	69	3.9%	160	9.0%	189	10.6%
職場での人間関係(対発注者以外)	81	4.6%	191	10.8%	204	11.5%
職場環境(安全対策　、清潔な職場など)の改善	26	1.5%	64	3.6%	123	6.9%
新たな技術や知識の習得	52	2.9%	93	5.2%	161	9.1%
キャリアアップシステム(将来設計)の構築	17	1.0%	35	2.0%	85	4.8%
仕事に対する家族の理解	29	1.6%	53	3.0%	102	5.7%
その他(具体的に)	12	0.7%	4	0.2%	8	0.5%
合計	**1775**	**100.0%**	**1775**	**100.0%**	**1775**	**100.0%**

表29



1番目を選択した人の2番目、3番目の選択

働く上で何が重要か	やりがい				適正な賃金			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	2	0.2%	3	0.3%	138	29.6%	85	18.2%
適正な賃金	437	49.3%	115	13.0%	3	0.6%	4	0.9%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	44	5.0%	163	18.4%	88	18.8%	64	13.7%
残業時間の低減	23	2.6%	48	5.4%	50	10.7%	52	11.1%
週休2日制の実施	27	3.0%	59	6.7%	78	16.7%	51	10.9%
職場での人間関係（対発注者）	92	10.4%	109	12.3%	26	5.6%	51	10.9%
職場での人間関係（対発注者以外）	107	12.1%	118	13.3%	44	9.4%	53	11.3%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	34	3.8%	68	7.7%	12	2.6%	32	6.9%
新たな技術や知識の習得	69	7.8%	96	10.8%	8	1.7%	35	7.5%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	17	1.9%	50	5.6%	11	2.4%	17	3.6%
仕事に対する家族の理解	33	3.7%	54	6.1%	9	1.9%	23	4.9%
その他（具体的に）	2	0.2%	4	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**887**	**100.0%**	**887**	**100.0%**	**467**	**100.0%**	**467**	**100.0%**

働く上で何が重要か	休暇の取りやすさ				残業時間の低減			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	4	9.3%	12	27.9%	2	5.6%	9	25.0%
適正な賃金	21	48.8%	6	14.0%	11	30.6%	11	30.6%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	0	0.0%	0	0.0%	5	13.9%	4	11.1%
残業時間の低減	5	11.6%	6	14.0%	0	0.0%	0	0.0%
週休2日制の実施	1	2.3%	1	2.3%	9	25.0%	3	8.3%
職場での人間関係（対発注者）	3	7.0%	3	7.0%	2	5.6%	3	8.3%
職場での人間関係（対発注者以外）	1	2.3%	5	11.6%	3	8.3%	3	8.3%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	4	9.3%	3	7.0%	3	8.3%	0	0.0%
新たな技術や知識の習得	1	2.3%	1	2.3%	0	0.0%	1	2.8%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	1	2.3%	3	7.0%	0	0.0%	2	5.6%
仕事に対する家族の理解	2	4.7%	3	7.0%	1	2.8%	0	0.0%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**43**	**100.0%**	**43**	**100.0%**	**36**	**100.0%**	**36**	**100.0%**

働く上で何が重要か	週休2日制の実施				職場での人間関係（対発注者）			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	8	14.3%	15	26.8%	18	26.1%	13	18.8%
適正な賃金	23	41.1%	8	14.3%	10	14.5%	14	20.3%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	8	14.3%	2	3.6%	2	2.9%	4	5.8%
残業時間の低減	9	16.1%	9	16.1%	4	5.8%	1	1.4%
週休2日制の実施	1	1.8%	1	1.8%	2	2.9%	5	7.2%
職場での人間関係（対発注者）	2	3.6%	9	16.1%	0	0.0%	0	0.0%
職場での人間関係（対発注者以外）	2	3.6%	5	8.9%	25	36.2%	6	8.7%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	1	1.8%	1	1.8%	2	2.9%	6	8.7%
新たな技術や知識の習得	2	3.6%	2	3.6%	4	5.8%	10	14.5%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.3%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	4	7.1%	2	2.9%	7	10.1%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**56**	**100.0%**	**56**	**100.0%**	**69**	**100.0%**	**69**	**100.0%**

働く上で何が重要か	職場での人間関係（対発注者以外）				職場環境の改善			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	24	29.6%	18	22.2%	4	15.4%	3	11.5%
適正な賃金	20	24.7%	12	14.8%	7	26.9%	4	15.4%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	2	2.5%	12	14.8%	2	7.7%	4	15.4%
残業時間の低減	4	4.9%	5	6.2%	0	0.0%	2	7.7%
週休2日制の実施	3	3.7%	5	6.2%	1	3.8%	1	3.8%
職場での人間関係（対発注者）	23	28.4%	1	1.2%	5	19.2%	1	3.8%
職場での人間関係（対発注者以外）	0	0.0%	0	0.0%	3	11.5%	2	7.7%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	2	2.5%	6	7.4%	0	0.0%	0	0.0%
新たな技術や知識の習得	2	2.5%	12	14.8%	4	15.4%	4	15.4%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	0	0.0%	4	4.9%	0	0.0%	3	11.5%
仕事に対する家族の理解	1	1.2%	5	6.2%	0	0.0%	2	7.7%
その他（具体的に）	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**81**	**100.0%**	**81**	**100.0%**	**26**	**100.0%**	**26**	**100.0%**

働く上で何が重要か	新たな技術や知識の習得				キャリアアップシステムの構築			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	21	40.4%	10	19.2%	7	41.2%	3	17.6%
適正な賃金	9	17.3%	9	17.3%	3	17.6%	6	35.3%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	3	5.8%	4	7.7%	1	5.9%	2	11.8%
残業時間の低減	0	0.0%	3	5.8%	0	0.0%	2	11.8%
週休2日制の実施	3	5.8%	3	5.8%	0	0.0%	1	5.9%
職場での人間関係（対発注者）	4	7.7%	8	15.4%	1	5.9%	0	0.0%
職場での人間関係（対発注者以外）	1	1.9%	5	9.6%	0	0.0%	1	5.9%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	5	9.6%	4	7.7%	1	5.9%	2	11.8%
新たな技術や知識の習得	0	0.0%	0	0.0%	2	11.8%	0	0.0%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	3	5.8%	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%
仕事に対する家族の理解	3	5.8%	4	7.7%	2	11.8%	0	0.0%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	**52**	**100.0%**	**52**	**100.0%**	**17**	**100.0%**	**17**	**100.0%**

働く上で何が重要か	仕事に対する家族の理解				その他			
	2番目		3番目		2番目		3番目	
やりがい（仕事内容や技術力が活かせるなど）	9	31.0%	10	34.5%	3	25.0%	0	0.0%
適正な賃金	7	24.1%	6	20.7%	5	41.7%	1	8.3%
休暇の取りやすさ（週休2日にはこだわらない）	3	10.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	25.0%
残業時間の低減	0	0.0%	2	6.9%	0	0.0%	2	16.7%
週休2日制の実施	0	0.0%	2	6.9%	1	8.3%	0	0.0%
職場での人間関係（対発注者）	1	3.4%	4	13.8%	1	8.3%	0	0.0%
職場での人間関係（対発注者以外）	5	17.2%	5	17.2%	0	0.0%	1	8.3%
職場環境（安全対策　、清潔な職場など）の改善	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
新たな技術や知識の習得	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップシステム（将来設計）の構築	3	10.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
仕事に対する家族の理解	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他（具体的に）	0	0.0%	0	0.0%	2	16.7%	3	25.0%
合計	**29**	**100.0%**	**29**	**100.0%**	**12**	**100.0%**	**12**	**100.0%**

問29 その他の回答

優先度1番目にその他を選択された方の回答

・ モチベーションと向上意欲	1
・ 企業の必要人材の確保	1
・ 勤務時間、勤務形態などの自由度	1
・ 建設業の知名度向上（例：災害時に消防・警察と共に活動しているとか。災害防止の予防をしていることをアピール）	1
・ 公共工事の増加	1
・ 国民、県民、発注者の方々に役立つものを提供すること。	1
・ 自負	1
・ 社会の理解	1
・ 責任の低減　現場技術者、特に現場代理人や現場所長の担う責任は、普通の職業と比べると異常に大きい。	1
・ 地元との調和、コミュニケーション	1
・ 土地（地域）を守るという心	1
・ 品質の良い構造物を提供すること。	1
・ 余裕のある工期設定（年度内完成にこだわらない）	1

優先度2番目にその他を選択された方の回答

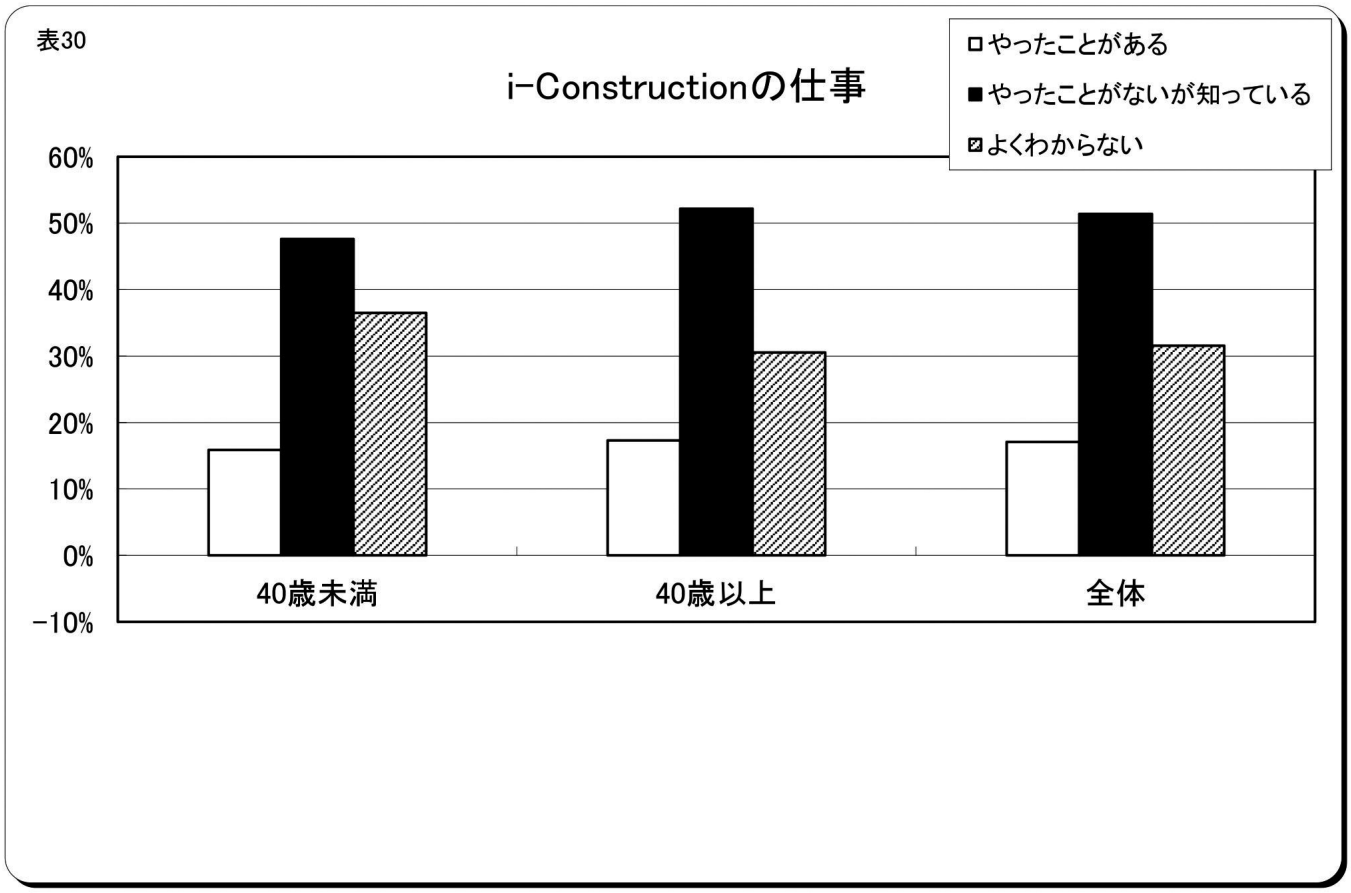
・ 6と7は働く(業務履行の)うえでどちらも重要。どこかが悪くなればうまく回らなくなる。	1
・ 会社を運営するための資金の確保（手戻りなどでのロスを減らす）	1
・ 勤続年数	1
・ 自分も含めて社員の生活を守こと。	1
・ 社会貢献	1

優先度3番目にその他を選択された方の回答

・ 発注者の要望	1
・ これからの世代の技術者が育っていくこと。	1
・ 会社の就業規則の徹底化　就業規則がなくて困る	1
・ 経験	1
・ 建設業への雇用及び人材不足。	1
・ 後継ぎとして、やっていかなくてはならないから	1
・ 仕事に対する会社の理解	1
・ 仕事量の安定	1
・ 職場にて一人ひとりの仕事量の適正化(偏りがある)	1
・ 地域における技士としての立場やプライド	1
・ 地域活動や農業するとき休みがとりやすい等の会社のバックアップ	1
・ 土木技術者の仕事への社会全体の理解	1
・ 発注制度に監理技術者、又は現場代理人を2名体制を条件に発注して欲しい。兼務の現場は1人の為、休暇したくてもできない為。	1
・ 物作りの楽しさ	1
・ 遊びではないが、やりがいとは全く違う楽しさ	1

問30. 貴方はi-Constructionの推進等を通じた生産性向上に関係した仕事をやったことがありますか

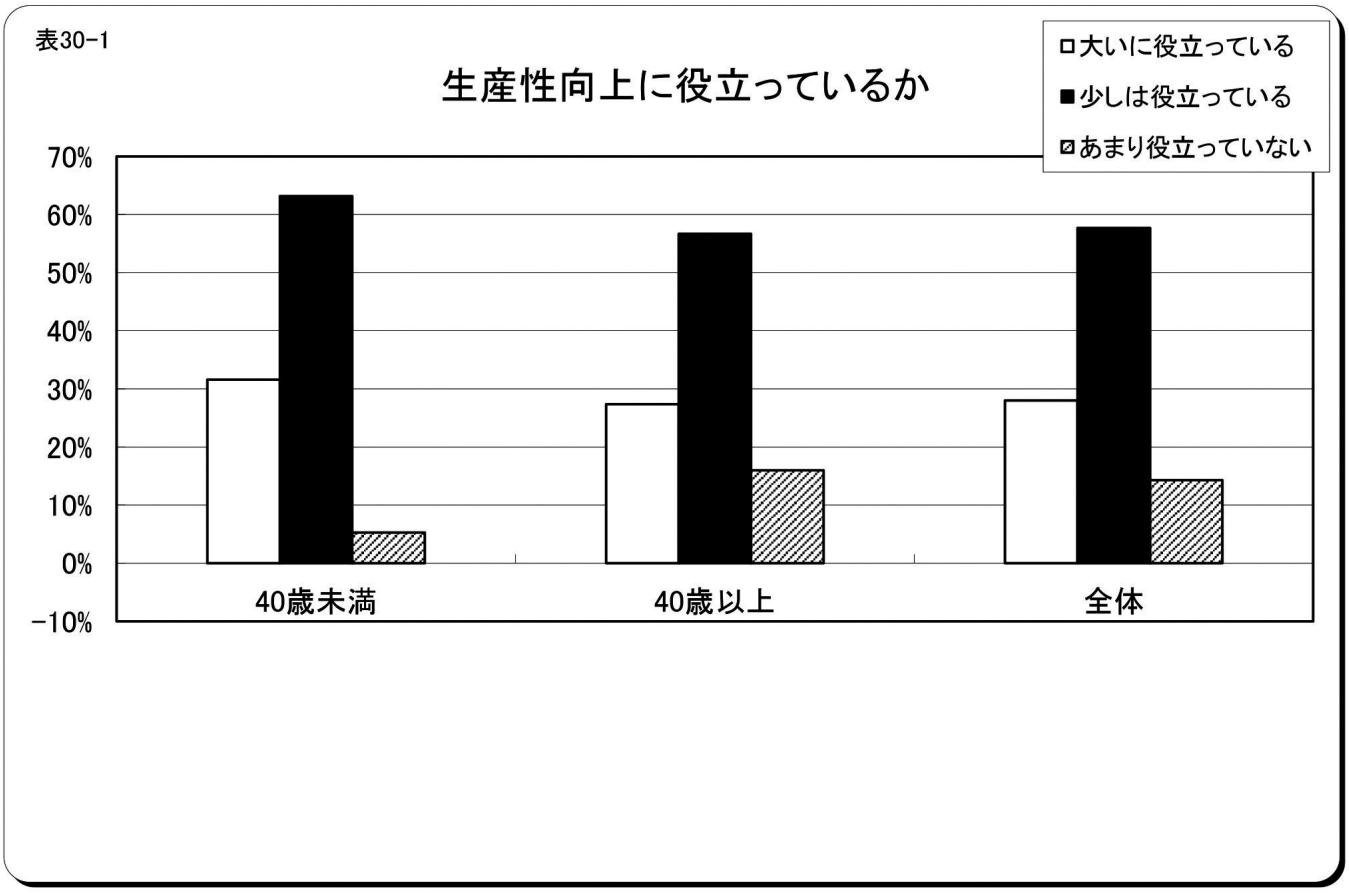
i-Constructionの仕事	40歳未満		40歳以上		全体	
やったことがある	57	15.9%	307	17.3%	364	17.1%
やったことがないが知っている	171	47.6%	926	52.2%	1097	51.4%
i-Constructionのことがよくわからない	131	36.5%	542	30.5%	673	31.5%
合計	**359**	**100.0%**	**1775**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



問30で以下に回答された方にお聞きします。建設現場の生産性向上に役立っていると思いますか
1．やったことがある

生産性向上に役立っているか	40歳未満		40歳以上		全体	
大いに役立っている	18	31.6%	84	27.4%	102	28.0%
少しは役立っている	36	63.2%	174	56.7%	210	57.7%
あまり役立っていない	3	5.3%	49	16.0%	52	14.3%
合計	**57**	**100.0%**	**307**	**100.0%**	**364**	**100.0%**

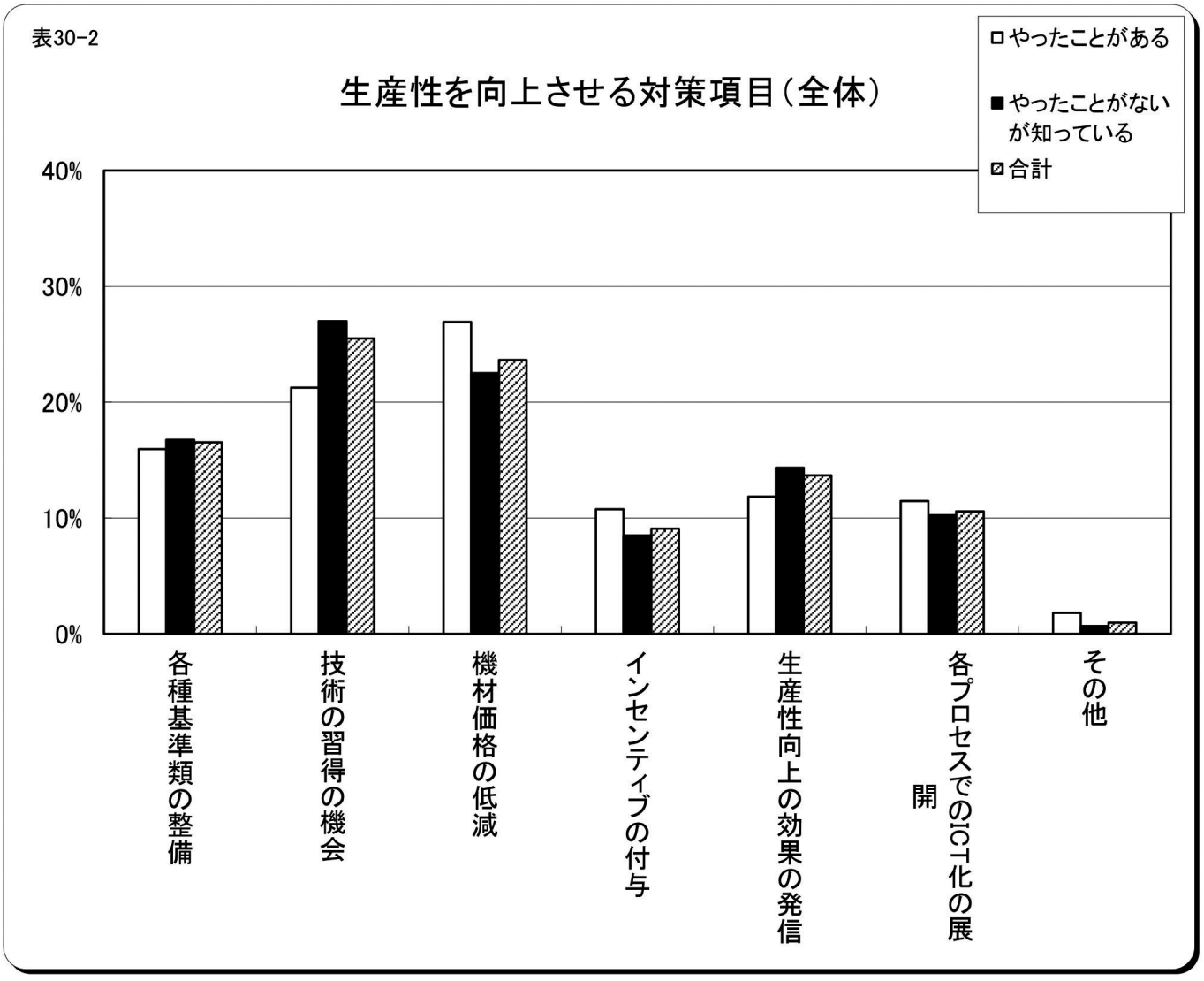
表30-1



問30で以下に回答された方にお聞きします。建設現場の生産性を向上させる対策項目として、次の中から選んで下さい
1. やったことがある
2. やったことがないが知っている

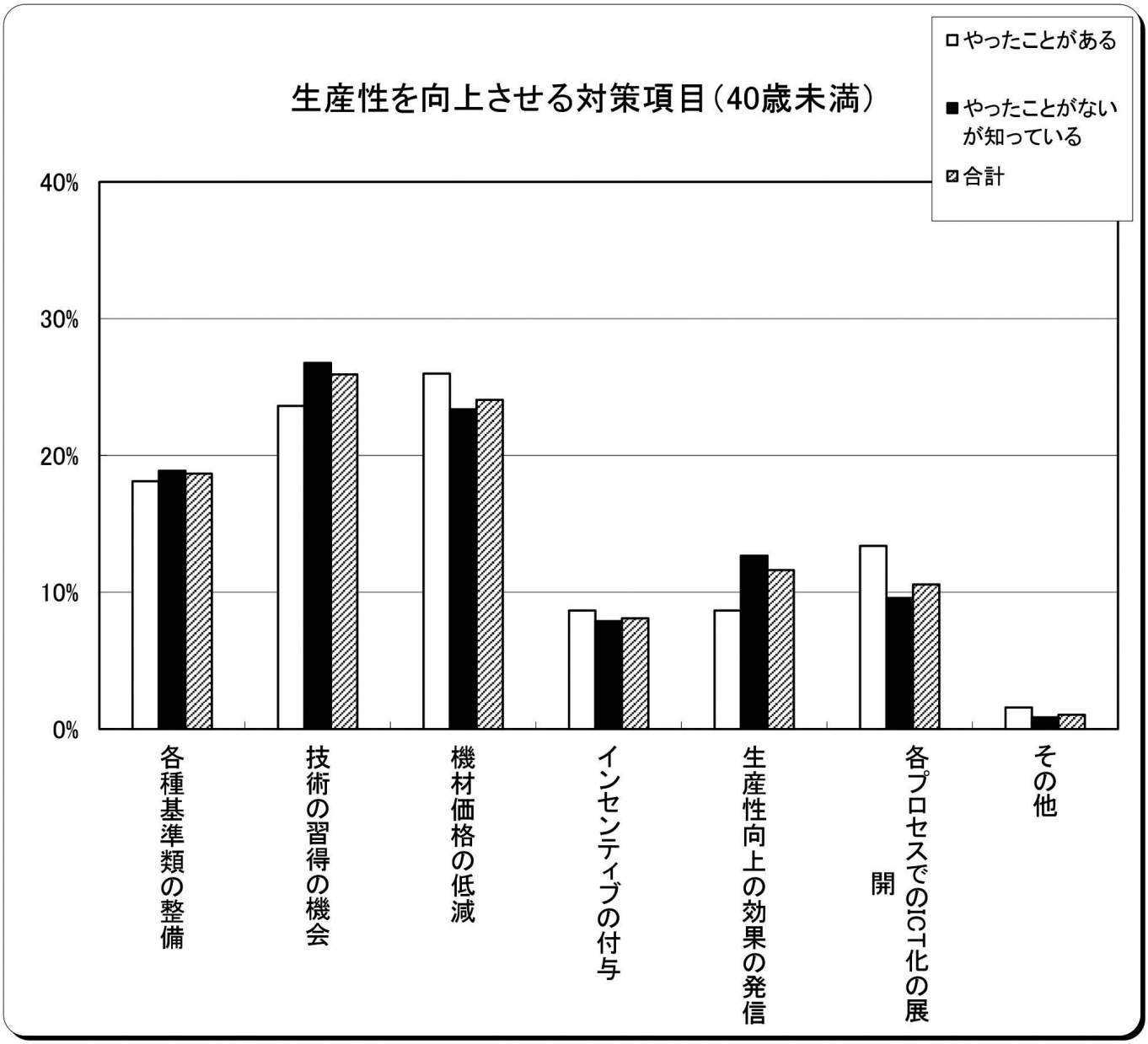
全体

生産性を向上させる対策項目	やったことがある		やったことがないが知っている		合計	
各種基準類の整備	132	15.9%	396	16.8%	528	16.5%
技術の習得の機会	176	21.3%	638	27.0%	814	25.5%
機材価格の低減（外注費を含め）	223	26.9%	532	22.5%	755	23.7%
インセンティブの付与（入札、評価点等）	89	10.7%	201	8.5%	290	9.1%
生産性向上（i-Construction）の効果の発信	98	11.8%	339	14.3%	437	13.7%
各プロセスでのICT化の展開	95	11.5%	242	10.2%	337	10.6%
その他（具体的に）	15	1.8%	16	0.7%	31	1.0%
合計	**828**	**100.0%**	**2364**	**100.0%**	**3192**	**100.0%**



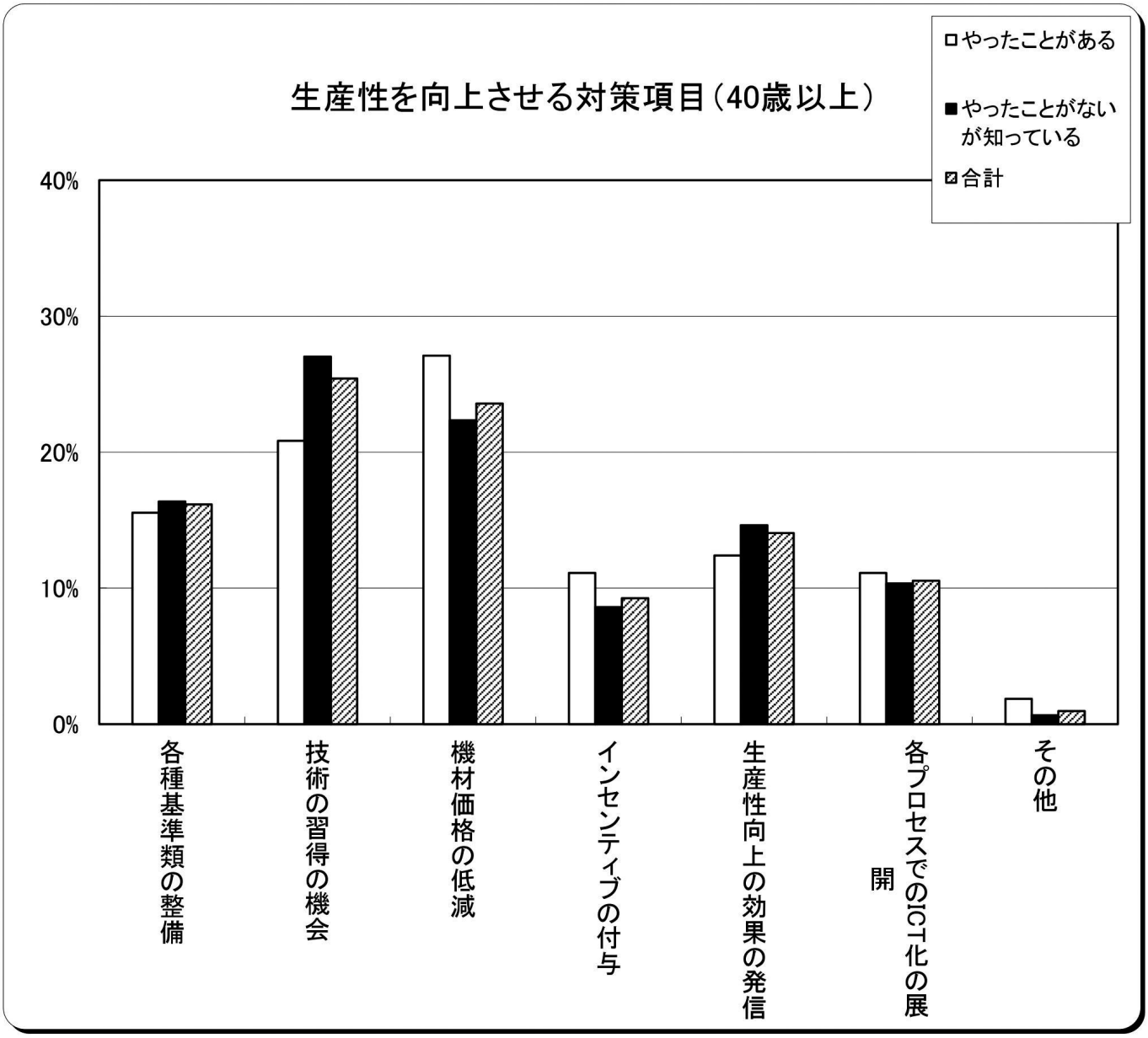
40歳未満

生産性を向上させる対策項目	やったことがある		やったことがないが知っている		合計	
各種基準類の整備	23	18.1%	67	18.9%	90	18.7%
技術の習得の機会	30	23.6%	95	26.8%	125	25.9%
機材価格の低減（外注費を含め）	33	26.0%	83	23.4%	116	24.1%
インセンティブの付与（入札、評価点等）	11	8.7%	28	7.9%	39	8.1%
生産性向上（i-Construction）の効果の発信	11	8.7%	45	12.7%	56	11.6%
各プロセスでのICT化の展開	17	13.4%	34	9.6%	51	10.6%
その他（具体的に）	2	1.6%	3	0.8%	5	1.0%
合計	**127**	**100.0%**	**355**	**100.0%**	**482**	**100.0%**



40歳以上

生産性を向上させる対策項目	やったことがある		やったことがないが知っている		合計	
各種基準類の整備	109	15.5%	329	16.4%	438	16.2%
技術の習得の機会	146	20.8%	543	27.0%	689	25.4%
機材価格の低減（外注費を含め）	190	27.1%	449	22.3%	639	23.6%
インセンティブの付与（入札、評価点等）	78	11.1%	173	8.6%	251	9.3%
生産性向上（i-Construction）の効果の発信	87	12.4%	294	14.6%	381	14.1%
各プロセスでのICT化の展開	78	11.1%	208	10.4%	286	10.6%
その他（具体的に）	13	1.9%	13	0.6%	26	1.0%
合計	**701**	**100.0%**	**2009**	**100.0%**	**2710**	**100.0%**



問30-2 その他の回答

1. やったことがあるを選択された方の回答

・ i- conの技術を生かせる現場の継続的な発注及び受注機会の創出。受注機会を増やすことによりi-conの普及及びコストの低減、i-con技術の発展に繋がる。	1
・ ICTばかり特化しており、施工時期の平準化が進んでいない。特に舗装工事は従前と何も変わっていない。	1
・ ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ化により生産性の向上とあるが、どこまで現場採用が可能か、燃料の高騰運送業の労働者減少など影響を受ける範囲が大きい	1
・ 一般的に導入され始めた過渡期であるため致し方ないとは思うが、導入にあたり必要以上にハードルを上げようとする発注者がいるが、この時期だからこそ、発注者が主導的に導入を後押しして欲しい。	1
・ 起工測量、発注図の3D化を今は施工業者が行っている。ここに大きな労力が発生する。設計変更で計上してもらえるが委託業務でICT対応の発注がされていない。また、全面ICTで施工する分は予算が足りないからと言って一部分とされるが、最初に起工測量をやっているのでやるなら全部変更してほしい。	1
・ 互換性の確保	1
・ 実際ICT(ブル・バックホウ)を使用してみて、施工期間が土工量のわりに長く、機械損料が多く掛かってしまったので、そこを見直さない限り(官工程で使用日数を積算計上すると実際の費用と乖離がある)、他の方へはICTを勧められない。確かに良い技術だとは思うが。	1
・ 書類の簡素化	1
・ 詳細な設計図面による発注。図面が現地に合わず、ICT用に修正を加えることが多く、時間と手間がかかりすぎる。	1
・ 生産性向上の可能性はあるが、それらを作成する手間を含めて総合的に考えた場合現時点ではそれほどの効果をないと考える。今後の運用しだいでは生産性向上よりも低下のおそれもある。	1
・ 責任分担を明確にし、責任回避のためとなっている書類や各種手続き等を簡素化する。	1
・ 設計変更方法の整備。	1
・ 発注、設計変更の生産性向上。	1
・ 目的構造物以外については管理を削除したりしてもっと効率化をはかるべき。	1
・ 労務費の標準単価の倍増	1

2. やったことがないが知っているを選択された方の回答

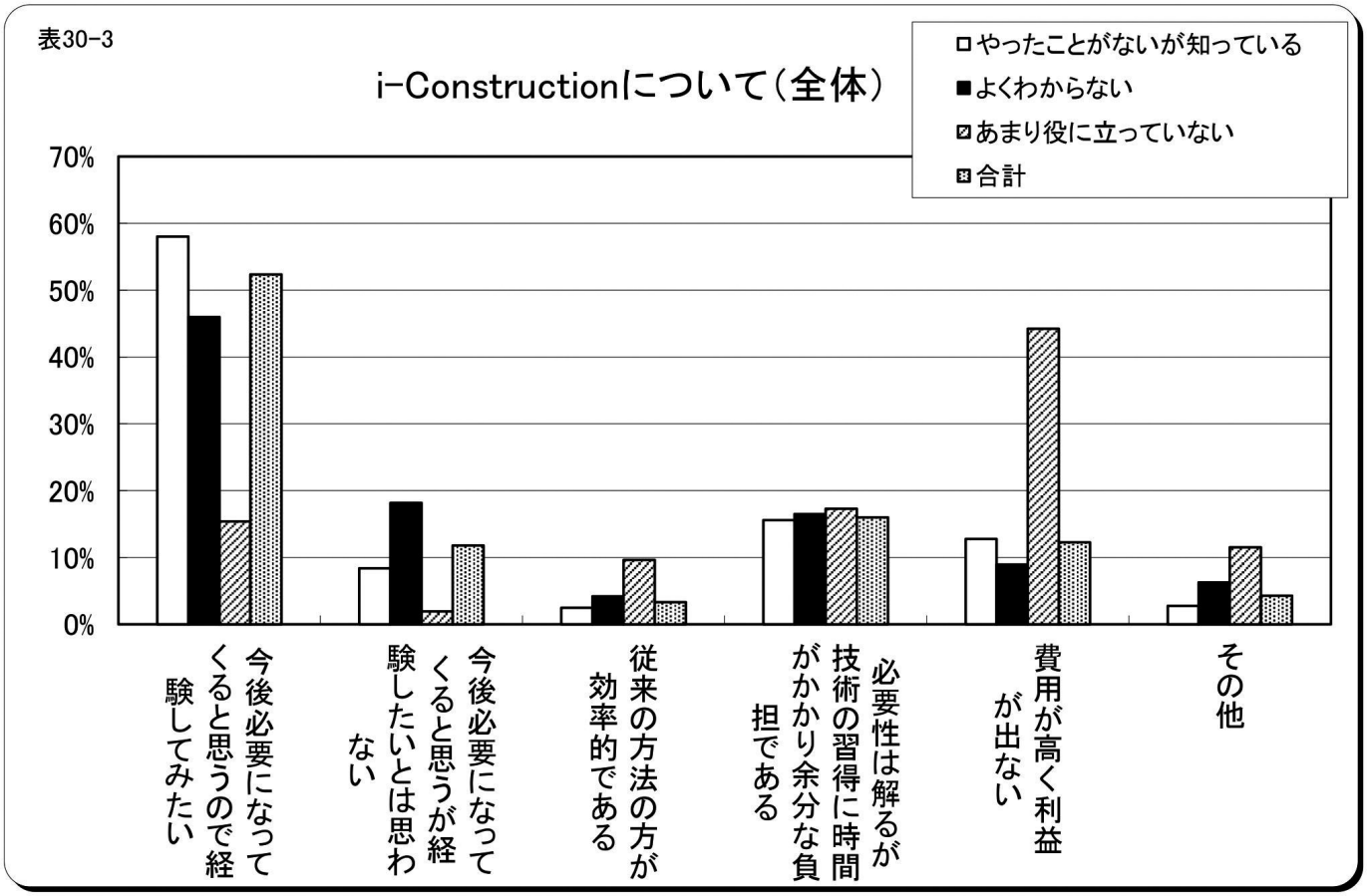
・ 私は所謂「昔の技術者」ですが現在の建設現場の状況は人手不足に尽きるのではないでしょうか？新規就労人口の若年層が1割程度ではITに頼っても付け焼刃に思えてなりません。業界全体の魅力アップについては、若者がやりたい、やってみたいと思う環境とはもっと建設業界、技術者、技能者のステータスを上げるしかないのではないでしょうか？ITや、快適トイレ、おしゃれな作業服だけで魅力があがると思っている今の施策については疑問しかありません。まずは従事者を高給取りにして社会的地位を上げる方向にしなければ生産性は先細る一方に思えます。最近の若者の資質に問題があるのではなく、様々な結果魅力のない建設業にした我々がまず自分を見つめ直してから初めて若い人達が向き合ってくれると感じてます。	1
・ もし、実施するのであれば業者主体ではなく発注者側（県）も協力的になってほしい。具体的には国交省みたいに積算基準を標準施工とは異なるようにする、実態調査による現状把握等。	1
・ 発注者側が対応・評価できる体制を整える	1
・ 気象（降雪、積雪）によりICTの施工ができない場合があり、対策を検討すべき。ICT工種を限定して、影響を受けない時期の工程になるように、発注時期を考慮するとか。	1
・ 技術者、作業従事者の確保と育成	1
・ 経費アップ	1
・ 限られた人員の中で、業務をあまり増やすことなく、ICT技術を導入しやすくすること。	1
・ 最終的には人の力が重要なので、働いて稼げるよう労基法の改正（週40時間）等の制約を緩めてほしい。建設業の末端は日給月給などの労務者が多いので、めいいっぱい働ける環境を作ってほしい。	1
・ 書類の簡素化、	1
・ 新技術の総合的な価格の低減	1
・ 設計図書が3Dになっていないため変換した設計図を作成する必要がある。上流から下流まですべて3Dデジタルとならなければ効果が薄く、施工会社が対応に苦慮する。	1
・ 中小規模な工事にも対応できる技術や価格設定が必要	1
・ 中小規模工事での活用効果	1
・ 発注者からの3次元測量データの提供	1
・ 発注者が機材価格を適正に支払ってください。（外注を含む）	1

問30、問30-1で以下に回答された方にお聞きします。i-Constructionについてどう思いますか
問30　2. やったことがないが知っている
問30　3. i-Constructionのことがよくわからない
問30-1　3. あまり役立っていない

全体

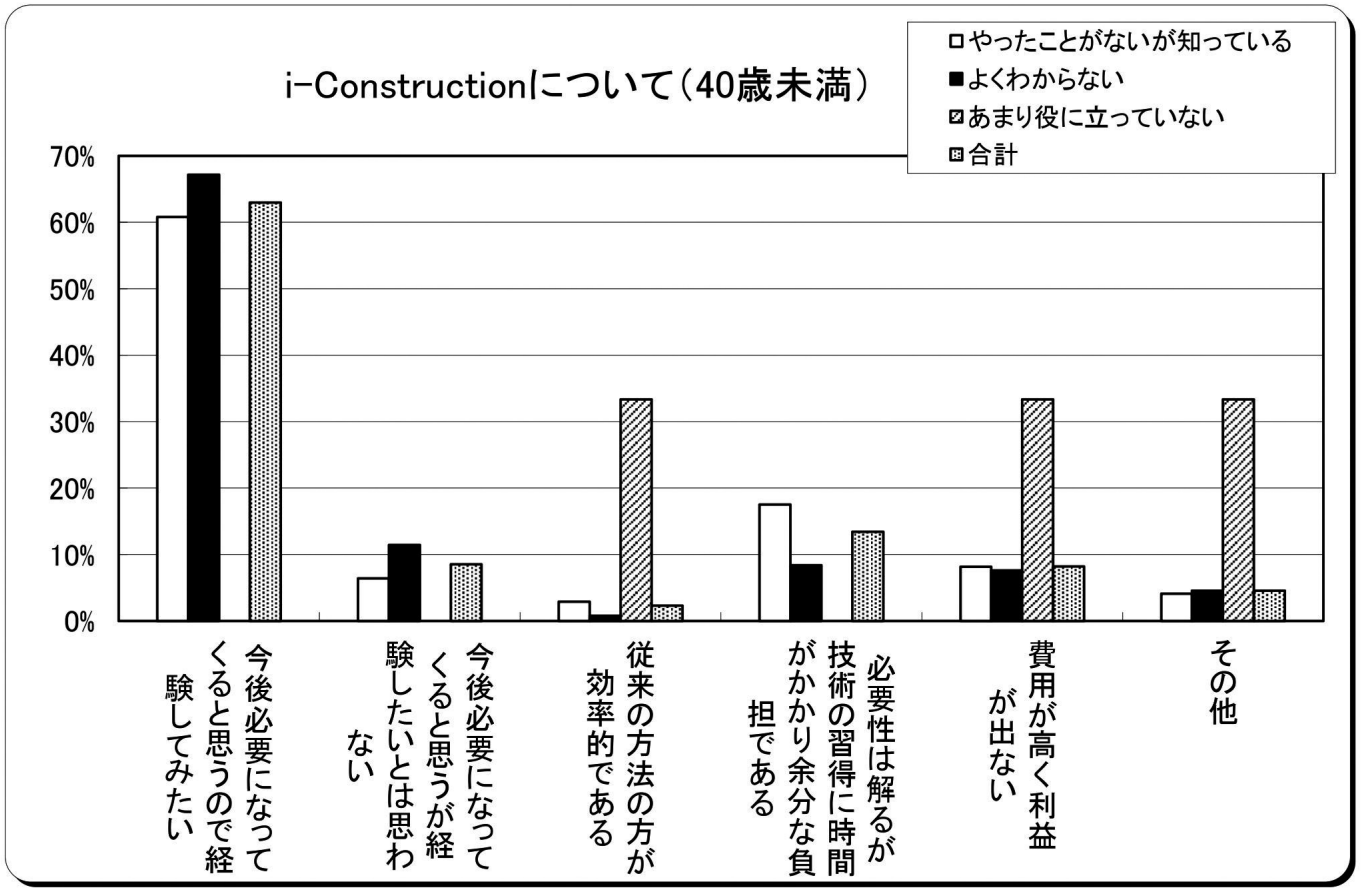
i-Constructionについて	やったことがないが知っている		i-Constructionのことがよくわからない		あまり役に立っていない		合計	
今後必要になってくると思うので経験してみたい	636	58.0%	309	46.0%	8	15.4%	953	52.4%
今後必要になってくると思うが経験したいとは思わない	92	8.4%	122	18.2%	1	1.9%	215	11.8%
従来の方法の方が効率的である	27	2.5%	28	4.2%	5	9.6%	60	3.3%
必要性は解るが技術の習得に時間がかかり余分な負担である	171	15.6%	111	16.5%	9	17.3%	291	16.0%
費用が高く利益が出ない	140	12.8%	60	8.9%	23	44.2%	223	12.3%
その他（具体的に）	30	2.7%	42	6.3%	6	11.5%	78	4.3%
合計	**1096**	**100.0%**	**672**	**100.0%**	**52**	**100.0%**	**1820**	**100.0%**

表30-3



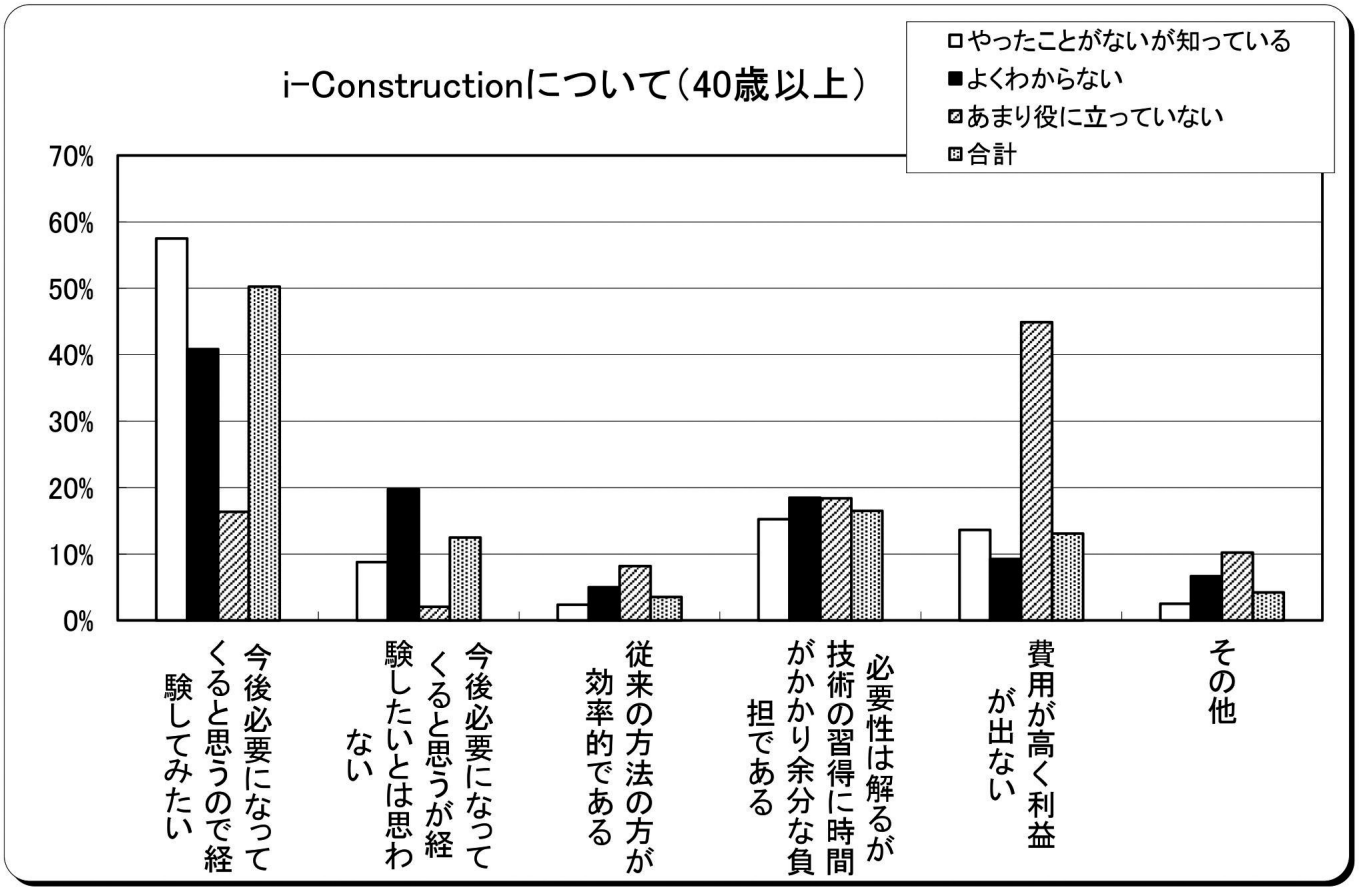
40歳未満

i-Constructionについて	やったことがないが知っている		Constructionのことがよくわからない		あまり役に立っていない		合計	
今後必要になってくると思うので経験してみたい	104	60.8%	88	67.2%	0	0.0%	192	63.0%
今後必要になってくると思うが経験したいとは思わない	11	6.4%	15	11.5%	0	0.0%	26	8.5%
従来の方法の方が効率的である	5	2.9%	1	0.8%	1	33.3%	7	2.3%
必要性は解るが技術の習得に時間がかかり余分な負担である	30	17.5%	11	8.4%	0	0.0%	41	13.4%
費用が高く利益が出ない	14	8.2%	10	7.6%	1	33.3%	25	8.2%
その他（具体的に）	7	4.1%	6	4.6%	1	33.3%	14	4.6%
合計	**171**	**100.0%**	**131**	**100.0%**	**3**	**100.0%**	**305**	**100.0%**



40歳以上

i-Constructionについて	やったことがないが知っている		Constructionのことがよくわからない		あまり役に立っていない		合計	
今後必要になってくると思うので経験してみたい	532	57.5%	221	40.9%	8	16.3%	761	50.2%
今後必要になってくると思うが経験したいとは思わない	81	8.8%	107	19.8%	1	2.0%	189	12.5%
従来の方法の方が効率的である	22	2.4%	27	5.0%	4	8.2%	53	3.5%
必要性は解るが技術の習得に時間がかかり余分な負担である	141	15.2%	100	18.5%	9	18.4%	250	16.5%
費用が高く利益が出ない	126	13.6%	50	9.2%	22	44.9%	198	13.1%
その他（具体的に）	23	2.5%	36	6.7%	5	10.2%	64	4.2%
合計	**925**	**100.0%**	**541**	**100.0%**	**49**	**100.0%**	**1515**	**100.0%**



問30-3 その他の回答

問30　2. やったことがないが知っているを選択された方の回答

・ICT施工の重要性は認識しているが大規模工事（国レベルの施工量）での活用が主体に進んでいる。建設工事の約8割は中小規模工事と考える。この層での活用ができなければ生産性が向上するとは考えにくい。	1
・工事規模等を考慮して、発注案件を決定したほうが良い。	1
・山間部地域では困難	1
・施工規模による。	1
・大規模工事では必要性を感じるが、狭隘箇所・通常の発注工事で必要性を感じない	1
・大規模工事には意味があると思うが、一般的な工事にはまだ適合していない。または、適合する工種が少ない。	1
・中小規模工事では費用が高すぎて工事金額に見合わないため経験しようと思ってもチャレンジできない。	1
・田舎の中小企業には負担が重い	1
・まだまだ小工事には適応していない部分があり。今後の展望は分からない。	1
・使用する場所、範囲によって変わる。発注者がそのへんを十分に理解すべき。入札時でやると言ったからやれ！みたいなのが多すぎる。柔軟に対応して欲しい。	1
・図面作成に時間と費用がかかるため改善が必要である。発注規模により生産性が左右されるため、アイコンで発注するのであれば発注規模を大きくしてほしい。	1
・概ね2億以下の工事数量では、実用性に欠ける。採算が合わない。	1
・実施可能な条件が限定的で汎用性に欠けるイメージがある。単純な施工の場合効率的だと思っている。	1
・まず、若手人材の確保を行わなければ先に進まない。アイコンを使いこなす人が入りやすい環境整備が必要。	1
・画一的には決められない。良いところも悪いところも同じくらい大きく知ってもらうことが良いと思う。	1
・会社で1工事ICT施工を実施したが、工事規模が小さくICT施工の期間が短いと機械費用が出ない、新設の工事が減っていく状況で今後ICT施工工事が増えていくか疑問である。	1
・機械任せの作業が多くなると緊急時での機械作業をするオペレーターの技術不足につながる恐れがある。	1
・実際に経験した人に聞くと、施工するまでの準備（変更協議、書類作成）にかなり手間が掛かり仕事量としては増えている様です、活用するメリットが本当の意味であるのか疑問に思う、メリットは工事評定で加点が必ずある事くらいしか無い様に感じます。	1
・従来の工法との比較による、技術面でのメリット・デメリットがまだよく精査されていないことや土木的知識以外に電子的な技術が必要なことなどどこまで浸透するのかと様子見のような感じ	1
・生産性も向上する可能性は秘めているのでいいと思うが、規模によっては必ずしも向上するとは限らない可能性もあるかと思う。また、こればかりに頼りすぎると、出来栄えで業者の差が出ない可能性もあるかと思う。設備投資は規模の小さい会社では苦しいと思う。	1
・必要性は感じるが、更なる技術進歩及び導入費用の低減が必要と考える。	1
・鋼構造物分野が主だけに、全国的に少量多品種で、なかなか手がまわらなく、難しいのでは	1
・受注工種が、橋梁補修や上部工のため正直活用できるかがわからない。	1
・使えそうな技術があれば活用を検討したい	1
・社内ではすでに実施しているので	1
・若手に任せる	1
・信用性にかけるかなぁ？？	1
・必要もないし、経験したくもない。	1

問30　3. i-Constructionのことがよくわからないを選択された方の回答

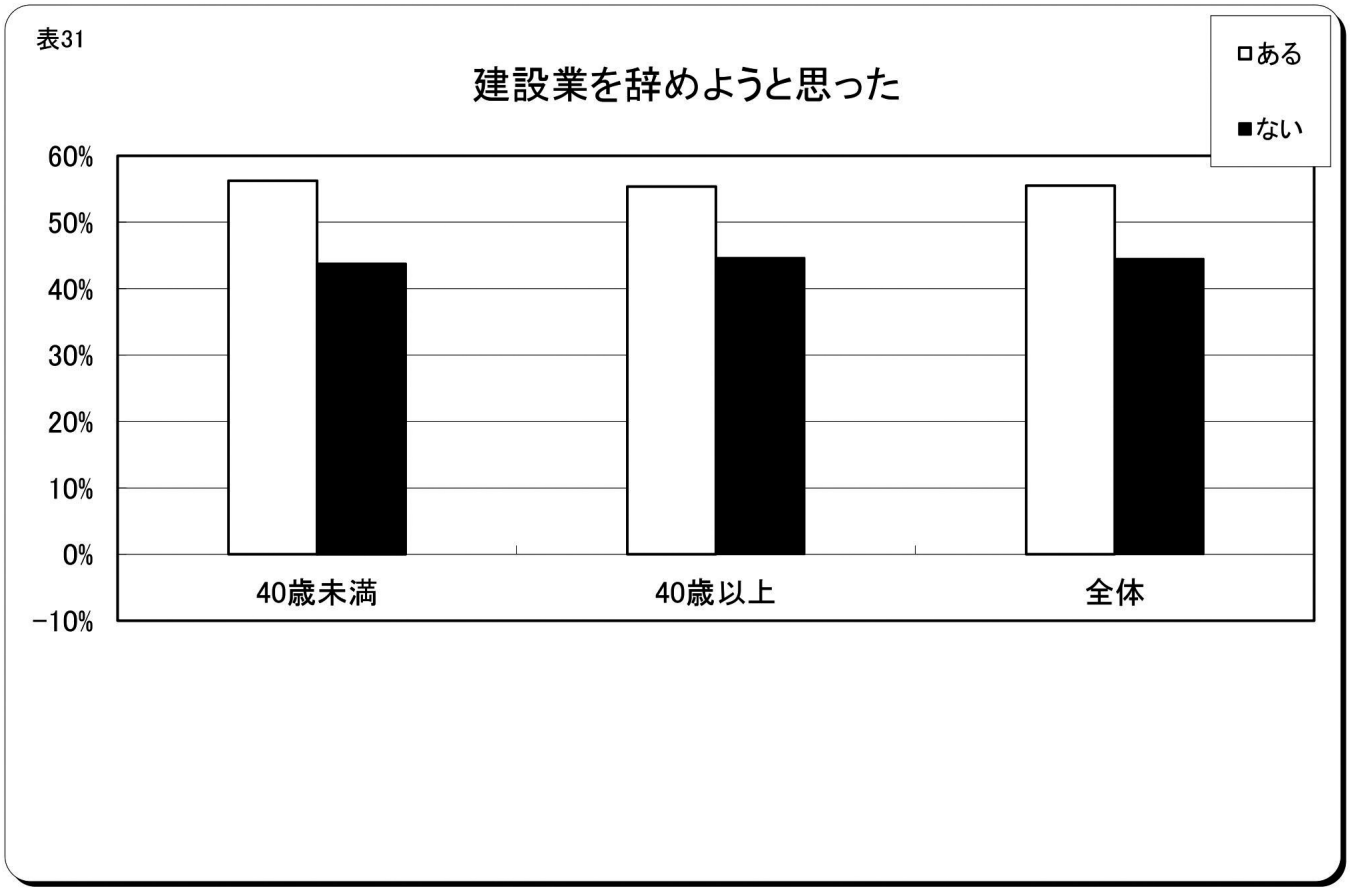
・ i-Constructionのことがよくわからない	10
・ i-Constructionの内容が理解できないので解答できない。	8
・ 知らない	5
・ i-Constructionのことが全くわからない	4
・ i-Construction　今はじめて知った言葉なので答えようがない。	2
・ 使った事が無い	1
・ 設置費用・内容等十分に理解していないため。	1
・ 当社の規模、現状においては必要と思われないため。	1
・ 日本語にして	1
・ 利用効果が期待できる該当工事がない。	1

問30-1　3. あまり役立っていないを選択された方の回答

・ i-Constructionは建設業界の救世主ではなく販促業者と結託して私腹をこやそうとしか見えない	1
・ i-Conは、素晴らしいと思うが、今後大規模な工事が、そんなにあるとは思えない。宝の持ち腐れ　パソコンを動かす人はいるが重機を動かす人がいない。	1
・ 工事内容及び施工数量により効率非効率が顕著に出る。	1
・ 道具の開発に金をかけるなら人材の育成に金をかけたほうが効率的。情報化施工も工事の効率化のみを追求するべき。	1
・ 品質管理や効率性から採用を選択するべき。	1
・ 目的が若手労働人口を増加させるためであるが、若手は賃金よりも休日であり、技術系の学科の減少生徒の減少により補うだけの魅力か疑問である。建設現場での生産性向上の言葉事態が疑問である。	1

問31. 貴方は今までこの建設業（会社ではなく）を辞めようと思ったことはありますか？

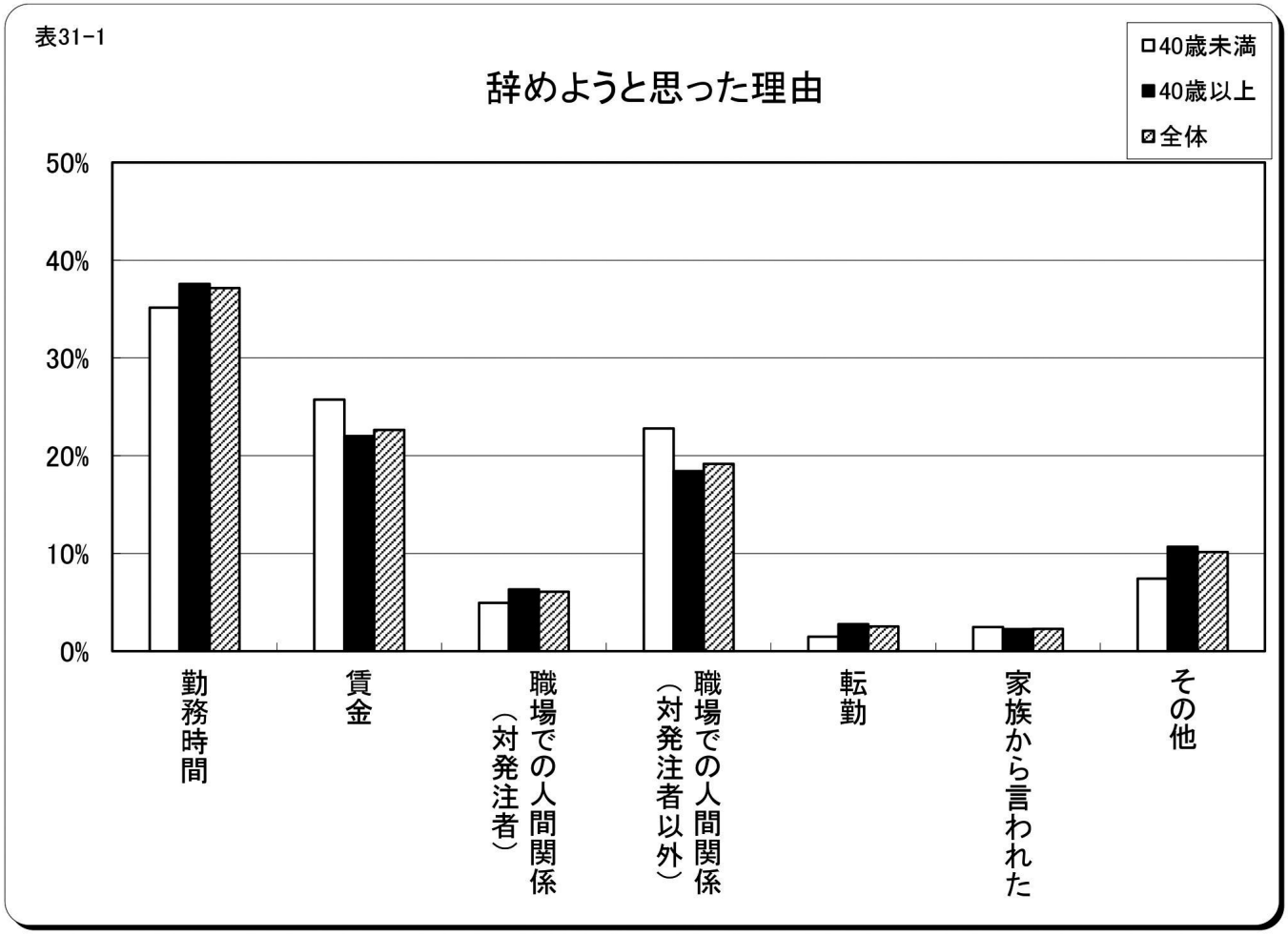
建設業を辞めようと思った	40歳未満		40歳以上		全体	
ある	202	56.3%	983	55.4%	1185	55.5%
ない	157	43.7%	792	44.6%	949	44.5%
合計	**359**	**100.0%**	**1775**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**



問31で以下に回答された方にお聞きします。辞めようと思った最も大きな理由は？
1. ある

辞めようと思った理由	40歳未満		40歳以上		全体	
勤務時間（休暇、残業等）	71	35.1%	369	37.6%	440	37.2%
賃金	52	25.7%	216	22.0%	268	22.6%
職場での人間関係（対発注者）	10	5.0%	62	6.3%	72	6.1%
職場での人間関係（対発注者以外）	46	22.8%	181	18.4%	227	19.2%
転勤	3	1.5%	27	2.7%	30	2.5%
家族から言われた	5	2.5%	22	2.2%	27	2.3%
その他（具体的に）	15	7.4%	105	10.7%	120	10.1%
合計	**202**	**100.0%**	**982**	**100.0%**	**1184**	**100.0%**

表31-1



問31-1 その他の回答

1. あるを選択された方の回答

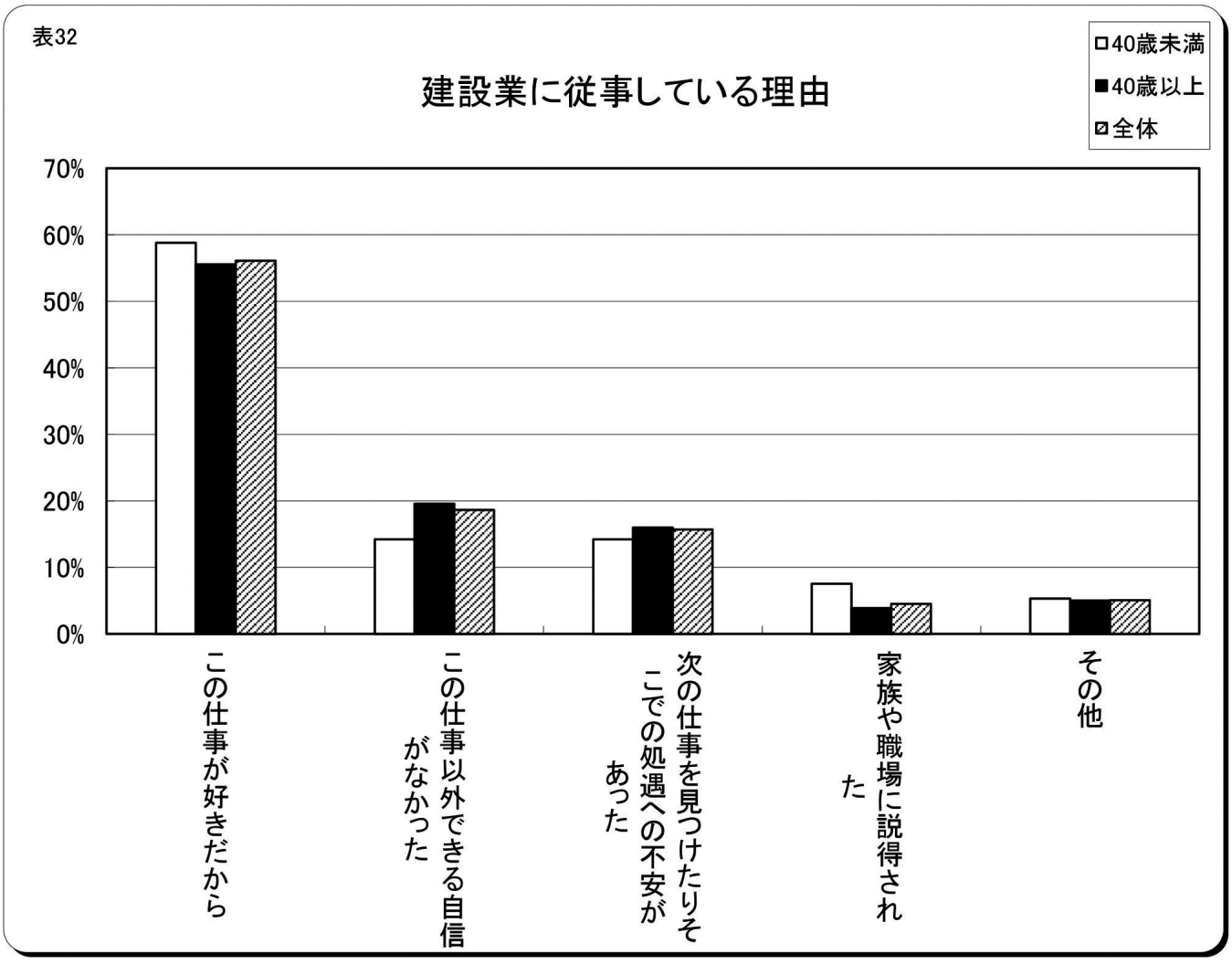
・将来性が不透明	11
・建設業の仕事が自分に向いていないと感じた為	4
・会社の倒産。会社の内情（経営状況）	4
・疾病による。肉体的に無理が効かなくなってきた。	3
・責任の重さ。若き頃「ただのサラリーマンなのに・・・」って思った時期があった	3
・やりがいを感じられなくなったとき	3
・苦労して工事を完成させても、それに見合った儲けを確保することが非常に難しくなったため。	3
・技術者として自分の技量に自信がなくなり、将来に希望を持てなくなった時期だった。	3
・お面白さを感じない	2
・技術力の無さ	2
・現場が工期内に終らなくて精神的肉体的に病んでしまってやめようと思った。	2
・仕事がつらかった	2
・仕事がマンネリ化で面白くない。 ワクワクする仕事がない。最低価格の制度のおかげで思い切った新技術などの採用に費用が使えない。	2
・現場代理人としてのプレッシャーと第3者からの苦情	2
・事業量が極端に少なくなった時代に、将来的な展望が持てなくなったから。	2
・自分が失敗して周りに迷惑をかけてしまったとき。続ける自信を失いかけた時。	2
・自分自身の能力不足	2
・会社経営が不安定	2
・春先、仕事がなく資金繰りの困る。年間コンスタントに仕事がない。	2
・責任の重圧とそれに見合わない賃金。周囲で辞めていく人と話をするが、殆どがこれだと感じる。	2
・他業種に興味があった時期がある。	2
・体力的な問題	2
・現場での責任者である重圧 なんでも代理人の責任になる会社からの圧力	2
・仕事に悩み、うつ病になる。（毎日がﾌﾟﾚｯｼｬｰ）	1
・近隣住民からの苦情で精神的に追い込まれた。	1
・現場を管理進めていく時に天候などにより現場に問題がおき、対策する上で工期等に遅れが生じ、精神的に耐えられなくなった時	1
・無理な期間設定（工期厳守）のプレッシャーや自然相手による気疲れ	1
・精神的なストレス及び業務内容と賃金を考えた時にバランスが取れていないと感じた。	1
・私自身が30才の頃、今から35年前ほどですが、仕事に追われ家庭の事、自分自身の疲労等が重なり体調不良になったため。	1
・近年発生が多い異常気象などにより緊急対応が増えてきている。その対応に疲れたときにふと思うことがある。	1
・医者に転職を勧められた。もしくは職場の部署変更等。	1
・以前落札率が低い為、現場でコスト削減の努力をしても利益を出せなかった。	1
・汚い、危険、賃金が安い、休みがない、イメージが悪い、汗をかきたくないと思ったとき。	1
・暑いときも、寒いときも関係なく外で働いて居る時。	1
・過去に公共事業が減り、不安定な時期があった時に思いました。	1
・過度な工事の受注競争のため	1
・適正価格から落としてとる入札自体が異常	1
・利益率が低いから。	1
・勤務時間が長い。一般職より休日が少ない上、取得が難しい。技術者でありながら賃金が安い。工事期間中は精神的拘束を受けやすい。	1
・以前現場にいた友人が他社の近隣の現場で事故で死亡し、その報告を会社に執拗に迫られたとき。	1
・死亡事故が多い。	1
・建設業が世の中の目の敵になった時代。	1
・建設業への風当たりが年々増しているように思えるから。	1
・建設業で喜ばれるには、災害の発生したときだけで、ｲﾝﾌﾗ整備施工では、苦情の嵐 生活水準が上がり一般市民の意識も変化し、よりいい水準を求め続ける意識になっている。	1
・建設業に関係ない仕事も経験してみたかった、	1
・建設業に魅力を感じなくなった時期があった。	1
・現在は、仕事も多く充実したいるが、一時期仕事も少なく経営的に圧迫していた為	1

・現場への通勤が遠い、現場近くに仮住まいを用意する必要があったり、家に帰れない。自宅から工事現場への距離が遠い。工事から工事へとたらい回しにされる。	1
・工事に対する考え方が、未熟だったため。	1
・工事件名板上部に「ご迷惑をおかけします」と記載するよう義務付けされた際に、公共土木工事が社会の迷惑であると世の中が判断するなら建設業を辞める事も考えた。その後、県土整備局に直談判し「御協力をお願いします」で良いとしてもらった。	1
・仕事がない時	1
・仕事のできる（やっている）人とできない（してない）人で賃金も含む会社の待遇が年功序列の古い考えでいる企業があること。	1
・仕事内容が現場状況や天候に左右され作業環境が不安定である。休みが少ない。公務員並みに休んでは工期に間に合わない。又、工事単価が安い。	1
・私は経営者であるが今の建設業はまず事業計画が立てられない（いつ受注できるかわからない）のでかなり不安定な状況にある。このままでは事業継続は困難となると思う。実際私と同世代の経営者のほとんどが後継者はいない状況である。工事を受注できない、工事を受注しても人手不足で苦労するような状況なので建設業に魅力を感じない。	1
・自分にできることはやったので、他の仕事をしたくなったから。	1
・辞めたいと思わなかった人がいるのだろうか？この業界で1度も辞めたいと思わない人と会話をしてみたい。基本3K業界なので	1
・実家の後継	1
・人口減や、予算減の時代に、建設業の将来性に疑問を感じた。年を取っていく中でいつまで今までのように立ち回れるか考えた。新規就労者の減少の中で、自分だけ偉くなっていっても部下がいなくなる状況で不安を感じる。	1
・成果を認めてもらえない。	1
・設計と実行予算の乖離　市町村県の設計には小規模舗装が必要ではないか　また、舗装工という労務単価の項目が必要ではないか	1
・他にやりたいことがあったから	1
・単身赴任	1
・地域の為ではなく、工事評定の為に仕事をしているようで嫌になった。若手の技術者がいない為、一人で会社や発注者の要望に応える辛さ。私はちなみに過去に4度県・市より表彰を受けているが工事評定があるが為に言えないことも多く理不尽に感じます。	1
・賃金に対し責任が重い、発注者、地権者等に、いつも頭を下げなければならない。	1
・土木技術者に対する著しいまでの社会的低評価。	1
・土木業界が嫌になった	1
・入社して2年か3年目に仕事の業務	1
・入社して数年後、将来自分一人で現場を完成させることができるか、また覚える事が多くプレッシャーを感じた時	1
・発注それに比例し受注が減少し、さらに受注価格が下がり会社経営がもとより社員に対して今後の雇用に不安を感じた。	1
・発注者の無理難題・傍若無人な対応にあきれる	1
・発注者側の不備による、現場進捗の滞り。	1
・不況時、マスメディア等に真っ先に叩かれ、他の業種では考えられない程予算が削減された。地域に貢献しているという誇りも、良いものを造って来たというプライドも全て意味が無い様なものに思えた為。	1
・別業種からの引き抜き。	1
・改ざん書類の作成に嫌気がする	1
・公務員を志望していたため	1
・目的を見失う業務内容	1

問32. 現在、貴方が建設業に従事している最も大きな理由は？

建設業に従事している理由	40歳未満		40歳以上		全体	
この仕事が好きだから（やりがい）	211	58.8%	986	55.5%	1197	56.1%
この仕事以外できる自信がなかった	51	14.2%	347	19.5%	398	18.7%
次の仕事を見つけたりそこでの処遇への不安があった	51	14.2%	284	16.0%	335	15.7%
家族や職場に説得された	27	7.5%	69	3.9%	96	4.5%
その他（具体的に）	19	5.3%	89	5.0%	108	5.1%
合計	**359**	**100.0%**	**1775**	**100.0%**	**2134**	**100.0%**

表32



問32 その他の回答

・家業だから	12
・後継者だから	12
・生活のため	7
・なんとなく	6
・専攻が土木工学であったため	6
・惰性	4
・従業員が1名でもいればやめられない	4
・現在勤務している会社が好きなので。	3
・適正な賃金が支払われているから。	3
・今まで従事してきたから	3
・なりゆき	2
・自分の技術能力をいかすため	2
・工場などの仕事より建設業の方が賃金が良い為	2
・土木工学科を卒業して、建設業に就職して今更、他業種へ転職するつもりはないので。	2
・現場に配属されれば、社会的責任が有り従事し続けている。	1
・転職後の不安も大きかったが、辞めることで、負けたと思われたくなかったから。	1
・これからの地域の経済インフラ整備業務を行う業者（海上作業・島嶼部等）を支えていく事業者が無くなってしまうため。	1
・まだまだ経験したことのない工種がたくさんある。若年層に技術や知識を引き継げていない。	1
・ストレスがあり、特に好きな職業ではないが、性にあっている。また経済的な安定を望むため。	1
・家族に建設業従事者がいたから	1
・過去は建設業が華やかだった	1
・希望職種に就けなかった	1
・機器販売会社から方針転換	1
・技術力の向上	1
・興味があるから	1
・金銭的な問題	1
・県外のIT系からの転職だったが、県内では業種の選択肢が乏しく、最終に残った企業への就職が決まった為。	1
・現場が好きで工夫の範囲が大きく楽しいから。	1
・好きではないが、やりがいはある。	1
・工業高校・専門学校を卒業後何となく就いたが、自分にはとても向いてる仕事だと思えるから続いている。	1
・拘束時間は長いが適度に休みが取れること。地方では他にこれといった仕事がないこと。地方では他の仕事と比較して稼げること。	1
・次こそ辞めてやる　今度こそ辞めてやる　何時かやめてやる　今更、やめれない　です。	1
・次の仕事を探す時間がない	1
・自然災害から国民の生命、財産、安全を護る仕事だから	1
・自宅から最も近い距離にある株式会社だから。	1
・社会の役に立つ仕事であると思っているから、また技術者を育てることが使命であるから。	1
・常にキャリアアップを考えている。転職というより起業したい。	1
・人間関係のしがらみ	1
・他にやりたい仕事がないため	1
・他業種に合う職種がなかった。	1
・他業種へ転職すると賃金が下がるから	1
・断ることができなかった	1
・長期で勤めているから（一人前になる前に辞めたくなかった）	1
・潰しが利かないから。	1
・定年が近いから	1
・当面これしか仕事が無かった。	1
・特にやめる理由がなかった	1
・入社当時、最初の担当現現場の所長から聞いた話「Civil engineersのスタンス(どうあるべきか)」をきいて大いに共感賛同した。	1
・入職した時代は景気が良かった。（昭和50年代） その後、転職する勇気がなかった。	1
・目標となる先輩・経営者がいて自分も同じようになりたい	1
・役員だから辞めれない。	1

３．５　まとめ

今回の調査もこれまで同様、技士会会員を対象者として会員数の約1/30を目途に３，０７０名を抽出し、依頼した結果、回答者数１，６３６名から回答を得ました。

また、技士会会員以外のＣＰＤＳ加入者で土木施工管理技士の有資格者にも同じアンケート調査を行った結果、４９８名から回答を得ました。

この結果、合計回答者数は２，１３４名となりました。

今回のアンケート集計結果から、国として各種施策等を行ってきてはいるが、現場技術者の声としては、改善は進んでいるものの大幅には進んでいないように見受けられる。

３．５．１　回答者の属性

回答者は４０歳～５０歳代が最も多く、ほとんどの方が１級施工管理技士資格を有し、経験年数は３０年以上の熟練技術者が多くなっている。

なお、全体回答者数のうち、４０歳未満の回答者数は３６９名であった。

また、女性技術者の回答者数は、全体回答者数の約３％（６３名）の結果となり、前回の約1%（３９名)よりは増加しているが、当会会員の地方業者においては、まだまだ少ない状況にある。

仕事の内容については、外業の現場が最も多く、仕事への満足度は約９０％程度が「普通もしくは満足している」との回答で、前回より若干良くなっている。また、月平均休日の取得については、男性が６日、女性が８日以上と多くなっている傾向がみられる。

３．５．２　技士会連合会活動に関して

技士会活動に関しては、今後盛んにすべき活動としてCPDS講習会やJCMセミナーの割合が多い。また、情報発信物としての「マンスリーレポート」「ホームページ」の利用状況については、横ばい傾向にある。

希望する講習会の科目としては、「新技術・新施工法」、「品質・出来形・工程管理」が毎回上位になっている。

３．５．３ 発注に関して

（１）提出書類の簡素化

提出書類については、見直しや改善はされてきているが、まだ改善はあまり進んでいないとする回答が多い。何に使う書類が多いかの質問に対し、国の場合、仕様書にあるか否かを問わず設計変更に伴う書類作成が、前回、前々回と変わらず上位を占めている。

提出書類の依頼者については、国の場合、監督官より監督補助員からの依頼が多いという結果になっている。また、提出書類の簡素化・省力化改善策として、最も望まれたのは「照査範囲を明確にして範囲以外の書類を提出しないようにする」でした。

（２）工事に関する改善

１）発注者側の不備等

発注者側の不備等に対し最も改善を望むのは、「設計変更等の適切な実施」と「事前地元説

明・折衝」が前回同様多くありました。

発注者の不備を感じた「設計変更の原因」について、最も多いのは「設計図書と実際の現場が一致しない」でした。また、「改善策」で望まれるのは、「変更図面を詳細設計コンサルタントが作成する」というものが多く、工事の設計変更は発注図面と密接に関係しているため、コンサルタントの施工への関与の検討や工事遅延による経済負担のあり方などの改善策が望まれている。

２）工事の事前地元説明・折衝

「地元住民への説明不足」が約３０～４０％が該当し、次に「支障物件に関する自治体などとの協議の不足」が約４０～５０％でした。

問題は、「説明不足による工事の遅れ」において、一ヶ月程度以上の遅れが５割以上発生していることでした。

３）その他の改善項目

監督職員の指示では、監督職員からの回答が遅いなどの回答が多くありました。

また、監督員の技術力向上では、資格取得よりも現場に来て、現場に関する知識・技術の習熟など現場経験を積んでほしいとの回答が多くありました。

（３）設計変更ガイドライン

ガイドラインについては、「知っていて活用している」の回答が約２０％で、「知っていて活用したことがない」「知らない」の回答が約８０％もあり、まだまだ、受・発注者共に周知徹底する必要がある。

（４）情報共有システム（ＡＳＰ）

共有システムについて、「知っていて活用している」の回答が前回の３０％から約４０％に増え、活用傾向が見られた。まだ「知っているが、活用したことがない」「知らない」の回答が約６０％もあり、今後、システムの操作性など周知する必要がある。

（５）設計変更審査会

審査会については、「知っていて活用している」の回答が約２０％に対し、「知っていて活用したことがない」「知らない」の回答が約８０％で、「活用している」のは、国の場合が約９０％と最も多く、国以外においては、あまり活用されていない状況である。

「実施してみてどう思ったか」に関する感想としては、「とても良い」が最も多いが「よくわからない」という意見も多かった。

（６）土木技術者として自分の仕事に対して

「役に立っている」「少しは役に立っている」と感じている回答が約９６％、また、その仕事に誇りを「強く感じる」「少し感じる」の回答が約９５％と、若手・熟年技術者の年齢に関係なく、自分の仕事に対して良いイメージを持っていることが解った。

誇りを感じた背景には、「造ったものが残る」「多くの人に利用されている」や「利用者に喜んで貰っている」など、社会インフラ整備への貢献できる仕事であるという意見が多かった。

（７）土木技術者として働く上で何が重要か

優先度１番目が「やりがい」、２番目が「適正な賃金」、３番目が「休暇のとりやすさ」の回答が上位３位までを占めている。（全体でみた場合）

ここで、１番目に「やりがい」を選択したひとの

→２番目が「適正な賃金」→３番目が「休暇のとりやすさ」

１番目に「適正な賃金」を選択したひとの

→２番目が「やりがい」→３番目が「休暇のとりやすさ」

１番目に「休暇のとりやすさ」を選択したひとの

→２番目が「適正な賃金」→３番目が「やりがい」

年齢４０歳未満でみた場合

１番目に「やりがい」を選択したひとの

→２番目が「適正な賃金」→３番目が「休暇のとりやすさ」

１番目に「適正な賃金」を選択したひとの

→２番目が「休暇のとりやすさ」→３番目が「残業時間の低減」

１番目に「休暇のとりやすさ」を選択したひとの

→２番目が「適正な賃金」→３番目も「適正な賃金」

年齢４０歳以上でみた場合

１番目に「やりがい」を選択したひとの

→２番目が「適正な賃金」→３番目が「休暇のとりやすさ」

１番目に「適正な賃金」を選択したひとの

→２番目が「やりがい」→３番目も「やりがい」

１番目に「休暇のとりやすさ」を選択したひとの

→２番目が「適正な賃金」→３番目が「やりがい」

この結果から、上位３位までの「やりがい」、「適正な賃金」、「休暇のとりやすさ」が若手・熟練技術者共年齢に関係なく、重要であると言える。

（８）i-Constructionの推進等生産性向上に関係した仕事

「やったことがある」は約２０％、「やったことがないが知っている」「よくわからない」と回答したひとが約８０％で、取り組みが始まったばかりであることが伺える。

「やったことがある」と回答した約２０％のひとに、建設現場の生産性向上に役立っていると思うかの問に対し、「役立っている」「少しは役立っている」の回答が約８５％である。また、

「やったことがないが知っている」「よくわからない」と回答した約８０％のひとに、i-Constructionについてどう思うかの問に対し、「今後必要になってくると思うので経験してみたい」との回答が多いことから、広く浸透してきていると感じられる。

（９）建設業を辞めようと思ったことがあるか

過去に、この仕事を「辞めようと思ったがあるか」の問に対し、約６０％の方が「ある」と回答されている。その理由は「勤務時間」「賃金」「職場での人間関係」などが上位を占めていた。

現在、「建設業に従事している最も大きい理由」の問に対し、「この仕事が好きだから（やりがい）」が約６０％と最も多く、**前述（７）**の優先度１位の「やりがい」に通じるものである。

平成30年度
土木施工管理技士に関するアンケート結果（現場技術者の声）

平成30年10月19日　発行

編集・発行　一般社団法人　全国土木施工管理技士会連合会

〒102－0076　東京都千代田区五番町６－２
ホーマットホライゾンビル１階
TEL 03－3262－7421
URL http：//www.ejcm.or.jp

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。　　印刷・製本 ㈱アドミック東洋